大正十三年三月十一日內閣認可橫濱都市計畫竝都市計畫事業及其ノ執行年割中第十六號路線・第十七號路線ヲ左ノ通變更スルノ件大正十五年九月八日內閣ノ認可ヲ得タリ

番號	路線（起終點及經過地）	延長（約）	幅員
一六	子安町海道通ヨリ子安町神ノ木ニ至ル	一、一五〇米	一六米
一七	車橋北詰ヨリ山元町ニ至ル	五七一米	一八米

（圖面省略）

內務省告示第百三十七號

（大正十五年九月十四日　內務大臣　濱口雄幸）

大正十四年八月內務省告示第一三七號橫濱都市計畫地域內ニ於ケル市街地建築物法第一條ノ規定ニ依ル地域中左ノ通改ム

第一商業地域之部ロ(二)第一六號ヲ左ノ通改ム

一六　都市計畫第一六號ノ內子安町字七島一三三番地イ一地先ヨリ同字神ノ木終點迄

都市計畫公告

（大正十五年十月十九日　內閣總理大臣若槻禮次郎）

大阪都市計畫事業中第一街路ノ新設及ヒ擴築ノ部二等大路第二類第一路線左ノ通リ變更ノ件認可ス

大阪都市計畫事業

第一街路ノ新設及擴築ノ部

一　二等大路第二類第一號線（北安治川通線）

大阪市區改正設計二等大路第二類第一號線中福島南一ノ五五番地ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ下福島二ノ六二番地先ニ至リ更ニ西折シ大野町二ノ九四番地ノ二ニ至リ更ニ西南ニ屈折シ東芦分橋ヲ經テ北安治川通二ノ八番地先ニ至ル路線及下福島二ノ六二番地先ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ同八二番地（新船津橋北詰）ニ至ル路線ニ幅員八間

內務省告示第百五十號

（大正十五年十月十三日　內務大臣　濱口雄幸）

堺都市計畫區域內左記町村ニ大正十五年十一月一日市街地建築物法ヲ適用ス

大阪府泉北郡神石村濱寺町

長岡都市計畫公告

（大正十五年十月　內務大臣濱口雄幸）

長岡都市計畫區域左ノ通リ決定ノ件認可ス

一　長岡市

一　古志郡　上組村ノ一部（大字左近・溝曲新町・宮內（太田川左岸ヲ除ク）・撫田屋（太田川左岸ヲ除ク）山通村ノ一部（大字長倉・大町）栖吉村ノ一部（大字中澤・長五衛門・戸左衛門）富曾龜村ノ一部（大字新保・堀金）黑條村ノ一部大字下條線長兵衛新田・鵜取島・長兵衛外島外新田・六三橫山

建築資金

復興建築助成株式會社

起業目論見書

一、本會社の資本金は金壹千萬圓として之を二十萬株に分ち第一回の拂込は一株に付金拾貳圓五十錢とし第二回以後の拂込時期及金額等は事業の狀況に依り臨時之を定む

二、本會社は事業資金として東京・橫濱兩市より合計金六千萬圓の低利且長期の貸下を受くべき確約を得たり尙此の外兩市は將來本會社事業資金に關し必要なる別途貸付又は相當の支援を與へらるべき旨の確約あり

三、本會社の事業は東京・橫濱兩市に於て大正十二年の大震火災に因る燒失地區內に於ける耐火建物の建築に關し(二)希望者の申込を受けて建物を建築し二十年以內の期限を以て割賦販賣することゝ二十年以內の返濟期限を以て建築資金の貸付を爲すことを主とするものにして何れも元利支拂に對し確實なる擔保を提供せしむるものとす

四、本會社が拂込資本金に對し年八分の利益配當を爲すこと能はざるときは東京、橫濱兩市より其の配當を爲すに必要なる不足額の補給を受け且本會社に損失を生じたるときは其の損失を塡補するに必要なる金額の補給を受くるものとす

五、本會社が拂込資本金に對し年八分の利益配當をなし剩餘あるときは其の剩餘金より從前の補給金を兩市に對して補償し尙剩餘金あるときは其の剩餘が拂込資本金額に對し年四分の割合に達する迄は兩市に其の剩餘額の半額を納付し殘り半額を本會社の利益とするものとす

六、前項の剩餘が拂込資本金に對し年四分の割合に當る金額を超過するときは其の超過額の三分の一を損失塡補及配當補充の爲め別に積立て殘り三分の一を本會社の利益とするものとす

七、本會社が解散したるときは前項の積立金現存額の半額を兩市に納付し殘り半額を本會社の收得とするものとす

復興建築助成株式會社

定款

第一章　總則

第一條　本會社ハ大正十二年ノ大震火災ニ因ル東京市及橫濱市ノ燒失地區內ニ於ケル建物ノ建築ニ關シテ左ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス

一、希望者ノ申込ヲ受ケ一定ノ規格ニ依ル建物ヲ建築シ二十年以內ノ返濟ニ依ル割賦販賣ノ方法ニ依リ之ヲ賣却スルコト

二、前號ノ建物ヲ建築スルモノニ對シ二十年以內ノ返濟ノ方法ニ依リ建築資金ヲ貸付スルコト

本會社ハ前項ニ規定スル業務ニ附帶スル事業ヲ經營シ又ハ投資スルコトヲ得

第二條　本會社ハ復興建築助成株式會社ト稱ス

第三條　本會社ノ資本總額ハ金壹千萬圓トス

第四條　本會社ハ本店ヲ東京市ニ置キ支店ヲ橫濱市ニ置ク

第五條　本會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス

第六條　本會社ノ公告ハ本店ノ所轄裁判所カ商業登記事項ノ公告ヲ揭載セシムル新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第二章　株式

第七條　本會社ノ株式ハ二十萬株トシ一株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第八條　株金ノ拂込ハ第一回ノ拂込金額ヲ一株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ第二回以後ノ拂込金額竝其ノ拂込ノ期日及方法ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　株金ノ拂込ヲ遲滯シタル者ハ其ノ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄金百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ延滯利息ヲ支拂ヒ且ツ遲滯ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スベシ

第十條　本會社ノ株券ハ記名式トシ壹株券、拾株券及百株券ノ三種トス

第十一條　株式ヲ讓受ケタル者ハ本會社所定ノ名義書換請求書ニ株券ヲ添ヘ之ヲ提出スヘシ

相續、遺贈其ノ他ノ事由ニ因リテ株式名義ノ書換ヲ要スルトキハ本會社ニ於テ必要ト認ムル證明書ヲ添ヘ前項ニ準シテ名義書換ヲ請求スヘシ

第十二條　株券ヲ喪失シタル者新株券ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ本會社所定ノ請求書ニ本會社ノ相當ト認ムル保證人二名以上連署ノ上之ヲ提出スヘシ

本會社前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタルトキハ請求者ノ費用ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ其ノ最後ノ公告ノ日ヨリ三十日内ニ故障ヲ申出テタル者ナキトキニ限リ新株券ヲ交付ス

第十三條　株券ノ毀損又ハ種類變更ノ爲新株券ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ本會社所定ノ請求書ニ舊株券ヲ添ヘ之ヲ提出スヘシ

第十四條　株式名義書換ノ手數料ハ株券一通ニ付金十錢トシ前二條ノ規定ニ依ル新株券交付ノ手數料ハ一通ニ付金五十錢トス

第十五條　株主及其ノ法定代理人ハ本會社所定ノ書式ニ依リ其ノ氏名、住所及印鑑ヲ届出ツヘシ之ニ變更アリタルトキ亦同シ

法定代理人前項ノ届出ヲ爲ストキハ其ノ資格ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第十六條　外國ニ住所ヲ有スル株主ハ帝國領土内ニ假住所ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ササル者ニ對スル通知又ハ催告ハ他ノ株主ニ對スルモノト同時ニ之ヲ發スルヲ以テ足ル

第十七條　本會社ハ定時株主總會終了ノ日迄三十日以内ノ期間株式名義ノ書換ヲ停止ス但シ豫メ其ノ旨ヲ公告ス

前項ノ場合ヲ除クノ外名義書換停止ノ必要アルトキハ豫メ之ヲ公告スヘシ

第三章　株主總會

第十八條　定時株主總會ハ毎年二月及八月之ヲ招集ス

第十九條　株主總會ノ議長ハ社長之ヲ伸長ス

ツ社長事故アルトキハ社長ノ指名シタル取締役事故アルトキハ出席株主中ヨリ議長ヲ選擧ス

第二十條　株主總會ノ決議ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十一條　株主又ハ法定代理人ハ他ノ株主ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ本會社所定ノ委任狀ヲ以テ其ノ代理權ヲ證スヘシ

第二十二條　株主總會ニ於テ決議シタル事項ハ之ヲ議事錄ニ記載シ議長及出席株主二名以上署名捺印スヘシ

第四章　取締役及監査役

第二十三條　本會社ニ取締役十名以内、監査役五名以内ヲ置ク

取締役及監査役ハ二百株以上ノ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選擧ス

第二十四條　取締役ノ任期ハ二年トシ監査役ノ任期ハ二年トス但シ補缺又ハ增員ニ因リテ就任シタル取締役又ハ監査役ノ任期ハ其ノ前任者又ハ從來ノ在任者ノ殘任期間トス

取締役又ハ監査役ノ任期カ任期中最終ノ決算期ニ關スル定時株主總會ノ期日前ニ滿了スルトキハ其ノ總會ノ終結ニ至ル迄之ヲ伸長ス

第二十五條　取締役ハ其ノ互選ヲ以テ社長一名ヲ定ム社長ハ本會社ノ業務ヲ統理シ本會社ノ代表ス

第二十六條　取締役ハ在任中其ノ所有ノ本會社株券二百株ヲ監査役ニ供託スヘシ

第五章　計　算

第二十七條　本會社ノ營業年度ハ每年一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄トス

第二十八條　本會社ハ會社財産ノ減價額ヲ控除スルニ代ヘ每營業年度ニ於テ生シタル收入利息ノ百分ノ七ヲ經費中ヨリ支出シ減損塡補金ニシテ之ヲ積立ツ

前項ノ減損塡補金ハ滯貸塡取立不能其他會社財産ノ毀損ニ因リテ現ニ生シタル損害ヲ塡補スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

本會社カ解散シタルトキハ第一項ノ減損塡補金ヲ支出シテ會社財産ノ減價額ヲ塡補シ其ノ剩餘額ノ十二分ノ五ヲ東京市ニ、十二分ノ一ヲ横濱市ニ納付ス

第二十九條　本會社カ每營業年度ニ於テ年八分ノ割合ニ依ル利益ノ配當ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ配當ヲ爲スニ必要ナル不足金額ノ六分ノ五ヲ東京市ニ、六分ノ一ヲ横濱市ニ請求シテ之カ補給ヲ受ク會社ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ損失ヲ塡補スルニ必要ナル金額ニ付亦同シ但シ先ツ法定準備金ヲ支出シテ其ノ塡補ニ充當スルコトヲ要ス

第三十條　本會社カ每營業年度ニ於テ年八分ノ割合ニ依ル利益ノ配當ヲ爲シ剩餘アルトキハ其ノ剩餘額中ヨリ前條ノ規定ニ依ル從前ノ補給金ヲ東京市及横濱市ニ對シ按分シテ補償尙剩餘アルトキハ其ノ剩餘カ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ニ當ル金額ニ達スル迄ハ其ノ剩餘額ノ十二分ノ五ヲ東京市ニ、十二分ノ一ヲ横濱市ニ納付ス

剩餘カ前項ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ一ヲ別ニ積立ツ十八分ノ五ヲ東京市ニ、十八分ノ一ヲ横濱市ニ納付ス

第三十一條　前條第二項ノ規定ニ依リ積立金ハ損失ヲ塡補シ且ツ本會社カ年八分ノ割合ニ依ル利益ノ配當ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ其ノ配當ヲ爲スニ必要ナル不足金額ヲ支出スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

本會社カ解散シタルトキハ其ノ殘餘財産ヲ東京市及横濱市ニ、一二分ノ五ヲ東京市ニ、一二分ノ一ヲ横濱市ニ納付ス

第三十二條　本會社ノ利益配當金ハ本會社ノ店又ハ本會社指定ノ場所ニ於テ之ヲ支拂フ

株主利益配當金ノ支拂ヲ請求セシテ二ケ年ヲ經過シタルトキハ其ノ配當金ハ本會社ニ歸屬ス

第六章　雜　則

第三十三條　左ニ揭クル事項ハ東京市長及横濱市長ノ承認ヲ受クルモノトス

一、定款及其ノ變更　二、事業計畫及其ノ變更　三、株金ノ拂込　四、社債ノ募集　五、拂込資本金ノ十分ノ一ヲ超エテ借入金ヲ爲スコト　六、建物其ノ他重要ナル財産ヲ擔保ニ供シ之ニ關スル其ノ他ノ處分ヲ爲シ擔保物權ヲ處分スルコト　七、第一條第一項ニ規定スル業務ニ附帶スル事業ヲ經營シ又ハ之ニ投資スルコト　八、利益金ノ處分　九、合併及任意解散

三　復興建築助成株式會社の營業

右により創立せられし復興建築助成株式會社は大正一五年一月頃より次の如き營業方針を以て開業する筈である

營業の範圍

【營業地域】營業區域は東京、横濱兩市の燒失地區に限るのであつて其地區内に於ては次に述ぶる如き建築なれば申込者が罹災者であると否と、個人であると、法人であるとを問はないのである。

【助成建築】助成すべき建築物は市街地建築物法及其施行に關する規定に適合する耐火的建築たることが必要である右規定に適合したるものにても建築費の單價著しく高き高級建物、廣大なる建物、其他特殊なる建物は取扱はず。

右の目的を達する爲め次の二方法を設く。

一家屋を建築して之れを割賦販賣する方法

第一條第一項第一號ノ規定ニ依リ會社ノ建築スル建物ノ割賦販賣其ノ他會社ノ營業ニ屬スル處分行爲ニ付テハ第一項第六號ノ規定ヲ適用セス

第三十四條　本會社ハ左ノ事項ニ付內務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受クルモノトス

一、定款及其ノ變更　二、事業計畫及其ノ變更　三、社債ノ募集　四、利益金ノ處分　五合併及任意解散

（割賦販賣）

二　建築せんとする建物に對する必要資金の貸付（資金貸付）

割賦販賣

【申込】　割賦販賣は一定の規格に依る建物希望者の申込に依り會社に於て建築し落成の上は其建物を使用に供し其代金を最長二十箇年以内の割賦返濟の方法を以て拂込を受ける販賣方法であり最初申込の節希望の間取り、坪數、建築費豫算、償還計畫、其他必要なる事項を以て申込に應じ希望者に於て設計書、圖面等を提出するか然らざれば希望に依り會社より適當の設計業者を紹介す

【手附金】　契約締結の際建築費見込額の一割を手附とす。

【割賦販賣金】　建物の割賦販賣金額は建築及之に伴ふ費費であつて建築實費中には左の費用を含む。

設計費、現場監督費、材料費、工費、請負金其他一切の工事費、借地料、登記料、工事中の火災保險料、其他一切の附帶費用及此等の費用に對する建物引渡の時に至る迄の利息。防火地區建築補助規則に依り會社が政府より受くる補助金及前記手附金は右實費中より之を控除す。

【利息】　割賦販賣金に對する利息及前記建築實費中の利息は年九分。

【割賦販賣建物の所有權】　割賦販賣の契約に基づき建築したる建物の所有權は割賦販賣金の皆濟に至るまで會社に於て所有權を保留し會社に於て相當と認むる現金又は確實なる擔保（當該建物を含む）を提供せらるゝが如き場合には買主に所有權を移すこともある。

【敷地の借地權】　前記割賦販賣の契約に於ては建物に要する敷地の地上權又は賃借權は契約成立と共に無償會社へ提供するものにして割賦販賣金の皆濟其の他の理由に依り買主に建物所有權の移轉する際は無條件にて之れを返付す。

【擔保】　資金貸付契約には二名以上の保證人を要す。

【保證人】　割賦販賣契約には二名以上の保證人を要す。

元金一萬圓に對する割賦販賣金額（利率年九分）

償還期限	年賦金	半年賦金	四ヶ月賦金	三ヶ月賦金	月賦金
	円	円	円	円	円
十一ヶ年	一〇、二〇〇、〇〇	五、三六、九八	三、五五、三〇	二、六四一、九	八四、五一
二ヶ年	五六四、六九	二、九七、四四	一、八四五、九八	一、三九八、八五	四六、八五
三ヶ年	三七五、五五	一、九八六、三四	一、二三〇、六五	九二〇、七一	三一、〇五
四ヶ年	二八一、九二	一、四九〇、六四	九二七、八二	六九〇、五三	二三、六八
五ヶ年	二二五、六二	一、一九二、五二	七四二、〇六	五五二、四二	一八、九四
六ヶ年	一八七、七一	九九三、七一	六一八、三九	四六〇、三五	一五、七八
七ヶ年	一六〇、九八	八五一、九二	五二九、九一	三九四、五八	一三、五二
八ヶ年	一四〇、六四	七四四、九二	四六三、六七	三四五、四四	一一、八二
九ヶ年	一二四、五六	六六一、〇四	四一一、七四	三〇六、六二	一〇、五二
十ヶ年	一一二、五〇	五九五、九四	三七〇、五六	二七五、九五	九、四七
十一ヶ年	一〇二、二七	五四一、八四	三三六、四九	二五〇、四一	八、六一
十二ヶ年	九三、七五	四九六、五二	三〇八、七二	二二九、三九	七、八八
十三ヶ年	八六、四二	四五九、〇二	二八四、九二	二一一、八四	七、二四
十四ヶ年	八〇、二五	四二六、〇二	二六四、〇二	一九六、〇四	六、七二
十五ヶ年	七四、九二	三九六、四二	二四五、八二	一八二、一二	六、二五
十六ヶ年	七〇、〇二	三七〇、〇二	二二九、〇二	一七〇、〇二	五、八四
十七ヶ年	六五、八二	三四六、八二	二一四、九二	一五九、〇二	五、四六
十八ヶ年	六二、一二	三二五、一二	二〇一、一二	一四九、一二	五、一二
十九ヶ年	五八、九二	三〇五、九二	一八九、二二	一四〇、九二	四、八二
二十ヶ年	五五、九二	二八八、九二	一七八、九二	一三二、九二	四、五二

（二十ヶ年　五五、二五　一、四六九、四七　七三五、四六）

耐火的復興建築に對し建築助成株式會社の現在融通を決定したものは左の通りである。

（昭和二年三月三十一日現在）

區分	件數	建築坪數	建築費概算額	融通見込金額
横濱 割賦販賣	三一	一、六七九、九六	五九、一八〇〇	四三、三〇〇
資金貸付	四	一、九四一、一〇	五五、六八〇	三五、四〇〇
計	一六	三、六五二、六八	一、二七四八〇	八〇、七〇〇
東京 割賦販賣	四	四、九二七	一四二、三〇〇	一〇二、一〇〇
資金貸付	四	一、八六五、六五	六八、五五〇	四五、三〇〇
計	八	六、七九二、六五	二一〇、八五〇	一四七、四〇〇
合計	二九	一〇、四四五、三三	三四一、七三〇	二二八、一〇〇

右の外決定にはいたらないが、商議中に屬するもの百四十九件、融通見込金額約八百萬圓あつて、これを合計すれば件數二百六十八件融通

區分	件數	建築坪數	建築費概算額	融通見込金額
横濱 割賦販賣	一	一三	三、五〇〇	二、四〇〇
資金貸付	一	一一	三、〇〇〇	二、〇〇〇
計	二	二四	六、五〇〇	四、四〇〇
東京 割賦販賣	一	一八	五、四〇〇	三、六〇〇
資金貸付	一〇	三七	一〇、九〇〇	七、三〇〇
計	一一	五五	一六、三〇〇	一〇、九〇〇
合計	一三	七九	二二、八〇〇	一五、三〇〇

備考

一、最高建築費は參拾壹萬圓にして最低六千八百圓平均六萬四百八拾圓

二、一戸當り平均建築坪數は百八拾貳坪

三、一坪當り建築費最高五百圓最低貳百五拾圓平均參百貳拾貳圓

一戸當り貸付豫定額

東京市

貸付種類	壹萬圓以上	五萬圓以上拾萬圓未滿	拾萬圓以上貳萬圓未滿	貳拾萬圓以上	計
資金貸付	一〇	三七	九	一一	六八
割賦販賣	一	一八	一一	一一	二二
横濱市					
資金貸付	一	一	一	一	三
割賦販賣	一	六	一	一	八
計	二	二四	二一	二一	一八

備考

一、建築費概算額に對し貸付割合は平均七割參分八厘

二、最高貸付額は貳拾萬圓最少貸付高は四千八百圓平均四萬四千六百五十圓

申込人正味資産狀態調査表

貸付種類	壹萬圓未滿	五萬圓未滿	拾萬圓未滿	拾萬圓以上	計
資金貸付	四	二九	九	二九	七一
割賦販賣	二	十五	六	六	二九
計	六	四四	十五	三五	一〇〇

備考

一、申込人會社の場合には假りに拂込資本金額を以て資産と見做す。

産業建築資金

特殊銀行

我國の工業金融機關としての特殊銀行は、日本勸業銀行、農工銀行、日本興業銀行等があるが、建築の如き中小工業に於ては、此等の金融機關を利用するのは至つて少ない。「僅かに一部の需要を滿たしつゝある有樣である。然して其利息は普通九分乃至一割前後である。

一日本勸業銀行　日本勸業銀行法は明治二九年の制定に係り、爾後一〇數回の改正を經た株式會社であるが、商法の一般規定の適用を受けず種々の制限に服して政府の特別監督の下に立つてゐる。創立後十年間は株式配當金年五分まで國庫から補給の保證を與へられた。現行法に於ける主なる營業科目及之に對する制限は次のやうなものである。

(一)五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲナスコト。(二)拂込資本及積立金總高ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト。(三)工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額ハ拂込資本金額及勸業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得サルコト。

(四)府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ抵當ヲ徵セサルヲ得ルコト。(五)耕地整理組合産業組合漁業組合森林組合畜産組合住宅組合又ハ聯合會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ年賦貸付ヲ爲スコトヲ得ルコト。(六)抵當ハ總テ第一抵當ニ限ルコト。(七)抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ルコト(八)抵當トシテ徵スル建物ハ原則トシテ保險付ノモノニ限ルコト。(九)不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ査定價格ノ三分ノ二以内トスルコト。(一〇)農工債券ノ引受ヲナスヲ得ルコト。(一一)預リ金又ハ地金銀若ハ有價證券ノ保證預リヲナスコ　ヲ得ルコト。

同銀行は營業資本として拂込株金額の一五倍を限度として勸業債券を發行する權能を與へられて居る。債券は券面金額十圓以上として無記名利札附としてゐる。毎年二回以上抽籤を以て償還することを要し其際豫め大藏大臣の許可を受けた方法及金額に依り割增金を附與することを得る。

二農工銀行　農工銀行法は明治二九年の制定に係り、爾後二〇餘回の改正を經た。同銀行は資本金二〇萬圓以上の株式會社で各府縣に一箇を設ける。之が設立の手續は府縣知事が政府の認可を經て、設立委員を置き、發起事務を處理せしめて定款を作り政府の認可を經た後株主を募集し、株式申込書を政府に差出し設立の免許を受けるものである。政府は同銀行の設立を容易ならしめ且つ其營業を補助する目的を以て農工銀行補助法の規定に依り、豫算の定むる所に依り銀行の營業區域を管轄する府縣に對し其株式引受資金を交付する。其金額は當該府縣の宅地鑛泉池池沼を除き、有租地段別百町に付七〇圓以内として居る。但し如何なる場合に於ても、一府縣に對して三〇萬圓を超えず且つ拂込資本金の三分の一を超ゆることを得ざるものとして居る。而して此資金に依り府縣の引受けた株式に對しては創立の初期から一五箇年間に利益配當を爲すことを要せない。

同銀行設立の趣意は長期低利の資本を融通して農工業の發達を助長せんとするに在ることは日本勸業銀行と同一であるが、勸業銀行は大規模な企業に對し多額の資本を融通するを主眼とし、農工銀行は小規模な地方的産業に對して少額の資本を融通するのを本領とする。農工銀行の主なる營業科目並に營業上の制限は次のやうなものである。

(一)五〇箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲナスコト。(二)拂込資本金及積立金總高ニ相當スル金額ニ限リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲナスコト。(三)右二項ノ貸付ハ郡市町村産業漁業森林畜産住宅ノ諸組合又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ無抵當ニテ之ヲ行フコトヲ得ルコト。(四)連帶責任ヲ有スル一〇人以上ノ農業漁業者ニシテ信用ノ確實ナルモノニ對シ五箇年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲナスコト。(五)其他抵當物ニ關スル諸制限ハ勸業銀行ノ規定ト同樣ナリトス。(六)勸業銀行ノ代理店タルヲ得ルコト。

農工銀行は資本金四分の一以上の拂込があつた時は、拂込金額の十倍を限り農工債券を發行することを得。同債券は券面金額十圓以上とし無記名利札附とする。其償還は毎年二回抽籤を以て之を行ふ。

日本興業銀行　勸業農工の兩銀行は不動産擔保の貸付をした爲め自然農業偏重に傾いたのを以て、新に動産を擔保として工業資本の融通を主眼とする別種の銀行を設ける必要を認められ明治三五年日本興業銀行の設立を見るに至つた。

日本興業銀行法は明治三三年に制定され爾後六回の改正を經た。其營業科目は當初、普通銀行との差別を明かにする爲、手形の割引爲替及株式の買入等を禁止されたが、其後漸次營業の範圍を擴張せられ、現今は次の如く定められた

(一)國債地方債社債ノ諸證券及株券ヲ質トスル貸付。(二)國債地方債社債ノ應募又ハ引受。(三)預リ金及保護預リ。(四)信託ノ業務。(五)手形ノ割引。(六)爲替及荷爲替。(七)法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付。(八)一五年以内ニ於ケル年賦償還又ハ五年以内ニ於ケル定期償還ノ方法ニ依リ船舶又ハ製造中ノ船舶ヲ抵當トスル貸付。(九)造船材料又ハ船舶附屬具ヲ擔保トスル貸付。(十)政府ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ株式ノ應募又ハ引受。(十一)營業上餘裕金アル場合ニ於テ國債地方債社債株券及金銀ノ買入。(十二)工場ニ屬スル敷地又ハ建物並ニ市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ擔保トスル當座貸又ハ定期貸。但此貸付金總高ハ拂込資本金額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス。

同銀行は拂込資本金額の十倍を限り債券を發行することを得、又外國に於ける公益事業に對して資金の需要ある場合に限り、政府の認可を受け右の制限に依らす、債券を發行する事が出來る。債券は券面金額二〇圓以上として無記名利札附を原則とする。債券の利子は毎年二回以上之を支拂ひ元金は發行後三〇箇年以内に抽籤を以て償還する。

同銀行は創立當時から五箇年間毎營業年度の配當金が年百分の五に達しない時は、其不足額を國庫から補給する保證を與へられてゐる。而して其營業に就いては政府は特別監督の下にあること勸業銀行と同一である。

普通銀行　元來普通銀行は其性質上不動産に投資するを好まず、即ち資金の固定に依る不利益と、火急に資金の回收を欲する場合を考慮して出來得る限り此方面への投資を差控へる傾向がある。故に普通銀行を利用する金融に於ては、期待し得る好結果を齎らさないものと豫め覺悟するを要する。

保險會社　前記の普通銀行に比し保險會社殊に生命保險に於ては、借出し得る可能率が比較的高い。即ち保險會社は被保險人の拂込む保險料を蓄積し突發的事項に備へる性質のものであるから、當然の歸結として其蓄積方法に安全且利息收入の多いのを求めるのである。然して火災保險と生命保險とを比較するに、前者は若し大都市が一朝大火災に遭遇した場合。急速に巨額の保險金を支拂ふ關係上、多額の金高を不動産に固着せしめるのは萬一の際に不安を釀す。玆

期に勢ひ源利なるも公債社債の融通可能の證券に投資する事となる。之に反し生命保險は其安全率に於て遙に前者をしのぐ故、收入保險料の一定率を不動産抵當に投資するも敢て危險を伴はないと。さりながら之も一割乃至一割二分の利率であると覺悟せねばならぬ。

工場抵當法　工業經營中其運轉又は擴張の資金に不足を生じ之を他人より借入れんとするに當りその擔保として工場の敷地建物機械裝置又は工場所有權等を提供せねばならぬ場合がある。然るに工場は是等の諸財産が綜合關聯して系統的組織の下に協働することに依つて、其能力を發揮するものであるから、之を個々に切離す時は著しく現存の價値を減じ、擔保價格は甚だしく低落するを免かれない。故に是等の諸財産を一括し現存の作業能力を其儘維持せしむる形態に於て、之を擔保に供する制度を設ける時は、工業資本の融通力は大に增加するに至る。之工場抵當法の制定を見た所以である。然るに我建築にあつては、移動工業なる故、斯くの如き工場抵當法の恩典に浴することが甚だ尠い。同工場（抵當法の細則を細す。

住宅資金　我國では銀行や個人の住宅資金を有利に融通する施設が甚だ少い。僅かに住宅協會（住宅組合、建築會社等を算へるのみである。其の他の機關としては、政府の低利資金利用、地方公共團體の準備金利用、銀行及保險會社の利用或は個人資産家よりの借入である。

一住宅組合　住宅組合を簡單に云へば七人以上が團結して組合を作り、各自の住むべき家を購入又は新築することを目的とする一つの、非營利的の社團法人であつて、其組織の手續きに要する書類は次の通りである。

住宅組合許可申請書

今般住宅組合法ニ依リ有限責任（營友）住宅組合設立致度候ニ付御許可相成度別紙定款組合員ニ關スル調書、事業方法書添へ此段及申請候也

年　月　日　有限責任（營友）住宅組合
代表者　姓　名　印

東京府知事　殿

（貳錢印紙）　委任狀

何某外六名　ヲ以ヲ總代ト相定メ左ノ權限ヲ委任ス

一、有限責任（營友）住宅組合設立認可申請書提出ニ關スル一切ノ件

二、右提出書類ノ不備、誤謬ノ訂正、文句ノ挿入削除ニ關スル一切ノ件

三、其他有限責任（營友）住宅組合ヲ代表スベキ一切ノ件

右委任狀依而如件

年　月　日　住所氏名　聯名各印

組合員ニ關スル調書

勤務所名	職業	住所	氏名	生年月日

出資口數	出資金額	供給ヲ受クベキ住宅延坪數	同上ノ建築費	本人ノ資産	本人ノ月給	家族人員	備考

宅滅失ノ場合ニ於ケル處理方法。（三）出資口數增減ノ場合ニ於ケル爾後ノ拂込金計算方法。

初年度收支豫算表　（自昭和　年　月　至昭和　年　月）

種別	收入 金額	收入 備考	種別	支出 金額	支出 備考
收支差引殘					

各人別建築費表

出資口數	出資金額	延建坪	單價	建築費	附屬設備費	合計	氏名

借入金年賦償還表（借入先東京府　利率年　分　厘）

年度別	償還期日	元金償還	利子支拂額	元利合計	未償還額

借入金償還財源表

收入 年度	借入元利償還金	地代	豫備費	諸稅	保險料	組合費	計	收支差額

支出 年度	出資拂込額	地代	預金利子	諸稅	保險料	組合費	計

東京府內務部長　氏　名　殿

住宅組合設立者總代殿

豫テ御提出相成候住宅組合設立許可申請ノ件調査候處、低利資金借入希望額トハ其ノ需給ノ徑庭甚ダシク全部ノ組合ニ融通難致事情有之候ニ付、抽籤ヲ以テ其ノ審査順位ヲ決定致ス事ト相成候間左記御心得ノ上當日　時マデニ會場ヘ御參集相成度候

記

一、抽籤開始日時　月日（曜日）時

一、會　場

一、本狀封筒トモ御持參ノ方ヲ以テ組合總代ト認メ候ニ付、必ス御持參相成度コト

一、出席セラルル方ハ認メ印御持參相成度コト

一、當日定刻ニ出席セラレサルトキハ適宜本府ニ於テ其ノ代理者ヲ選定シ抽籤セシムルコト

東京市社會局長事務取扱
東京市　助役　氏　名　印

金

住宅建設資金貸付ニ關スル件

豫而御申請相成候住宅組合設立ニ關シ今般東京府住宅建築資金ヨリ頭書金額貸付方內定相成候旨通牒有之候ニ付テハ左記事項御了知ノ上、至急相當手續御取運相成度候也。

記

一、本文貸付金ヲ借入ルルヤ否ヤ本月十日迄

ニ東京府ニ到達スル様書面ヲ以テ回報スルコト

但シ該書面ハ當局ヲ經由スルコト

二、前項期日迄ニ回報ナキトキハ借入ルル意思ナキモノト認メ處理セラルルモノトス

三、本文貸付資金ガ組合ノ借入希望額以下ニ減額査定セラレタル組合ニ在リテハ事業方法書其他變更ヲ要スベキヲ以テ至急組合設立許可申請書ノ訂正ヲナスコト

四、本文貸付資金ニ依ル全部ノ住宅建設ヲ了セザル間ニ於テ生ジタル組合員ノ異動（死亡、脫退、讓渡、區域外ニ轉任等）ハ其補充ヲ認メラレズ

但シ缺員ヲ生ジタル結果組合設立要索ヲ缺如スル場合ニ限リ東京府ノ承認ヲ受ケ之ガ補充ヲ爲スコトヲ得

五、願書提出後ノ組合員ノ異動（死亡、讓渡、區域外轉任等）ハ其ノ部度東京府ニ報告スルコト

六、本文貸付資金ハ住宅建設費ニ充ツルノ外、住宅ノ購入ハ之ヲ認メラレズ尙燒跡地ニ建設スルモノ及業務所ノ建築費ニ充當スベカラズ

七、一戸當建設費貸付額ハ平均三千圓以下トス但シ特別ノ事情アルモノハ組合ニ對スル貸付總額ノ範圍内ニ於テ四千圓迄之ヲ認メラルルコトアルベシ

八、一戸當建坪ハ二五坪以下タルコト

九、前項ノ制限ハ自己ノ資金ヲ以テ補充スル場合ト雖モ之ヲ認メラレズ

一〇、本文貸付資金借入願書ハ組合設立許可ヲ受ケタル後、速ニ提出スルコト

一一、本文貸付資金貸出シハ左ノ方法ニ依ルI住宅建設ヲ了シ、東京府評價員ノ評價ヲ經タル上資金ノ貸付ヲ受クルヲ原則トス、2前項ノ貸付ニ依リ難キ特別ノ事情アルモノハ左ノ方法ヲ以テ建設終了前貸付ヲ受クルコトヲ得、イ、不動産、國債證券、公債證書、其ノ他東京府ニ於テ適當ト認メラレタル有價證券ヲ擔保トシテ提供シタル場合、ロ、東京府ニ於テ承認ヲ受ケタル保證人二名以上ヲ立テタル場合、2擔保物件ノ評價額ガ貸付金額ニ相當セザル場合ハ別ニ擔保ヲ提供シ、又ハ保證人ヲ立ツルコト、4貸借契約書ハ公正證書ト爲スコト、5公正證書作成ニ要スル關係書類全部ヲ提出スルニアラザレバ第一回現金ノ交付ヲ爲サズ、現金第二回ノ交付ハ公正證書作成後トス、6現金ハ數回ニ區分シ交付セラルベシ

一二、本文貸付資金第一回ノ交付ヲ受ケタル後三ケ月以内ニ工事ニ着手セザル場合ハ當該資金ノ返還ヲ命ゼラルルコトアルベシ

一三、本文貸付資金ニ依ル住宅ハ遲クモ本年十二月二十日迄ニ完成スルコト、万一右期日迄ニ全部ノ完成ヲ爲サザル場合ハ貸付ヲ打切ルコトアルベシ

一四、本文貸付資金ニ依リ住宅ノ建設ヲ爲シタルトキハ速ニ火災保險ニ附シ東京府ニ對シ第一順位ノ抵當權設定ノ登記ヲ爲スコト

社發第七四號

東京府市區町番地
有限責任住宅組合
設立者總代　氏　名

昭和十三年一月二十五日付申請有限責任營友住宅組合設立ノ件許可ス

昭和　年　月　日

東京府知事　氏　名

社發第七四號

昭和　年　月　日

内務部長

東京府書記官

有限責任營友住宅組合長殿

住宅組合設立許可ニ關スル件

貴組合設立許可ノ件今般別紙ノ通リ指令相成候處第一回出資拂込ヲ了シ候ハバ其届書ト同時ニ別記御心得ノ上資金借入申請書ヲ御提出相成度追テ別記事項（資金貸付並保證人ニ關スル件）及公正證書ト爲スベキ資金貸付契約書樣式ハ別記ノ通ニ候條承知相成度

記

一、資金貸付ニ關スル件

（イ）資金借入申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコト

一、事業計畫書（本府印刷住宅組合關係法規附錄五九頁參照）

二、保證人又ハ擔保物件承認願

（ロ）第一回資金ノ交付ハ公正證書作成ニ要スル書類（組合登記簿抄本、組合長及保證人、委任狀、並印鑑證明書）ヲ提出シタル後トス、但シ組合長ノ印鑑證明書ハ二通ヲ要ス

（ハ）第二回資金ノ交付ハ公正證書作成ノ後トス

（ニ）第二回以後資金ノ交付ハ一時ニ全部ニ對シ工事ニ着手セザル場合ハ漸次着手セル住宅ニ關スル土地貸借契約書寫、請負契約書寫及之ニ伴フ仕樣書、見積書寫住宅平面圖ヲ提出シタルモノニ限リ之ヲ交付スルモノトス

二、保證人ニ關スル件

保證人ハ二名以上トス

保證人ハ全員ニテ本府貸付金額二倍以上ノ資産（不動産）ヲ有シ信用確實ナルモノヲ立ツルコト

但シ左記ノ者ニ對シテハ特ニ保證人タルノ適格ヲ認ムルコトアルベシ

（各省ノ局長、課長、（市役所）助役、局長、（其ノ他）之ニ準ス、（銀行會社）重役、（新聞社）社長、社主、（知名ノ士）

保證人ノ資産ニ付テハ市區町村長、稅務署其ノ他ノ證明書ヲ添付スルコト

第五條　貸付金ノ利率ハ一ケ年　分　厘トシ貸付又ハ第七條ニ依ル中途辨濟ノ場合ニ於ケル　ケ月ニ滿タザル利息ノ計算ハ貸付ノ際ニアリテハ資金交付ノ翌日ヨリ第七條ニ依ル中途辨濟ノ場合ニアリテハ辨濟ノ當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第六條　乙ハ第一條ノ借受金ヲ住宅ノ建設及其ノ附屬設備費以外ニ使用セザルモノトス

第七條　左ノ場合ニ於テ乙ハ甲ノ請求アリタルトキハ借受金ノ全部又ハ一部ニ利息ヲ添ヘ甲ノ指定スル期限内ニ辨濟ス

一、乙ガ法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二、乙ガ甲ノ命令ニ從ハザルトキ又ハ本契約ニ基ク義務ヲ怠リタルトキ

三、乙ガ借受金ヲ第六條ノ目的以外ニ消費シタルトキ

四、乙ガ資金ノ交付ヲ受ケ三ケ月以内ニ工事ニ着手セザルトキ

五、乙ガ本契約ニ基ク甲ノ債權ヲ侵害スベキ行爲アリタルトキ

六、乙ノ事業ノ不能、困難等ノ爲甲ニ於テ回收ノ必要ヲ認メタルトキ

七、甲ガ將來債權ノ執行ニ付困難アリト認メタルトキ

八、其ノ他甲ニ於テ回收ノ必要ヲ認メタルトキ

第四條　乙ハ借受金ノ據置期間中每年　月　日　月　日ノ期ニ於テ各其ノ以前　月ニ屬スル利息ヲ支拂フ

第三條　乙ハ借受金ヲ昭和　年　月　日ヨリ昭和　年　月　日迄據置トシ昭和　年　月　日迄　年間ニ　年賦償還ノ方法ニヨリ每年　月　日ノ期ニ於テ元利金　圓　錢也宛ヲ償還スルコトアルモ乙ハ異議ヲ申立ツルコトナシ

第二條　甲ハ前條貸付金ノ內金　圓也ヲ交付シタリ殘額金　圓也ハ乙ノ請求ニ依リ甲ガ適當ト認メタルトキ之ヲ交付ス、但シ第七條各號ノ場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ交付セザルコトアルベシ

第一條　甲ハ乙ニ對シ住宅建設費トシ金　圓也ヲ貸付ス

丙ハ左ノ契約ヲ締結ス

住宅建設資金貸借契約書

昭和　年　月　日東京府ヲ甲トシ有限責任營友住宅ヲ乙トシ保證人何某及何某ヲ丙トシ甲、乙

第八條　乙ハ第三條及第四條ノ期日ニ其ノ辨濟ヲ怠リ又ハ前條ノ場合ニ於テ甲ノ指定スル期限内ニ辨濟ヲ爲サザルトキハ其ノ翌日ヨリ辨濟額ニ對シ百圓ニ付一日二錢三厘ノ割合ヲ以テ延滯利子ヲ支拂フ

第九條　乙ガ借入金ヲ以テ住宅ノ建築又ハ購入ヲナシタルトキハ甲ハ其ノ住宅ノ上ニ何等ノ意思表示ヲ要セズシテ直ニ第一順位抵當權ヲ取得ス但シ乙ハ遲滯ナク當該住宅ヲ火災保險ニ付スルモノトス

第十條　擔保物ノ滅失毀損其ノ他ノ事由ニ依リ甲ガ追徵ノ必要ヲ認メタルトキハ乙ハ甲ノ請求ニ依リ直ニ相當ノ擔保ヲ提供ス

第十一條　第九條ノ住宅ガ火災ノ爲滅失シ直ニ再建築ニ着手セザル場合ハ乙ハ甲ノ請求ニ從ヒ其ノ受領保險金ノ全部又ハ一部ヲ甲ノ指定スル銀行ニ預入ス

第十二條　丙ハ各自本契約ニ基ク乙ノ一切ノ債務ノ辨濟ニ付連帶ノ責ニ任ズ

第十三條　丙ガ民法第四百五十條第一項各號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキ又ハ甲ノ請求アリタルトキハ乙ハ遲滯ナク前條及第十五條ノ義務ヲ負擔スル保證人ヲ立ツルモノトス

第十四條　乙ハ何時タリトモ甲ノ請求アリタルトキハ保證人ヲ變更ス

第十五條　乙及丙ハ本契約ニ基ク債務ノ辨濟ヲ爲サザルニ付直ニ强制執行ヲ受クルモ何等ノ異議ヲ申立ツルコトナシ

出資第一回拂込濟届　圓也本日完了候ニ付監事ノ證明書ヲ添ヘ此段及御届候也

昭和　年　月　日

有限責任住宅組合
組合長　理事　氏　名印

一、昭和　年　月　日組合事務所ニ於テ臨時總會ヲ開ク總組合員何名出席ス

一、午後一時開會組合長　議長席ニ着キ左ノ議案ヲ附議シ提案ノ理由ヲ說明ス

議案第一號當組合ノ事業施行資金トシテ東京府住宅建設資金中ヨリ金　圓ヲ昭和　年　月　日迄据置、爾後　年間半年賦均等償還利率　年　分　厘ヲ以テ借入ノ件

議案第二號事業計算書

一、滿場異議ナク右第一號及第二號原案ニ決ス

一、午後　時閉會

右決議錄ノ正確ヲ證スル爲メ左ニ署名捺印ス

昭和　年　月　日

有限責任住宅組合
組合長理事　氏　名印
組合員　何　某印
同　何　某印

住宅建設資金借入申請書

一、借入金額
二、資金ノ用途
三、償還方法
四、完濟期限

右借入致度總會決議錄寫相添ヘ此段申請候也

付記　資金所要ノ時期大正　年　月　日迄

昭和　年　月　日

有限責任住宅組合
組合長理事　氏　名印
東京府知事
殿

第一號議案

借入金ニ關スル件

一、借入金額
二、資金ノ用途
三、償還方法
四、利率
五、償還方法
六、完濟期限

右事項ノ通リ資金借入方ヲ東京府知事ヘ申請スルモノトス

第二號議案

事業計畫書

一、借入金　圓也
二、建設敷地

住宅番號	所在地	地番	地所坪數	購入借入區別	貸借料	取得年月日	備考
					同上坪當價格		

三、建設家屋

住宅番號	家屋種類	建坪	室數	着手 年月	竣成 年月	建築費	同上坪當價格

四、付屬設備

住宅番號	種類	數量	着手 年月	竣成 年月	金額	單價	摘要

貳錢收入印紙

委任狀

拙者儀都合ニヨリ何某ヲ代理ト定メ左ノ權限内ノ事ヲ委任ス

一、有限責任住宅組合ガ東京府ヨリ金　圓也借入ニ對シ其ノ契約各種ノ條項ヲ承諾シ連帶保證人タルコトヲ承諾シ强制執行ヲ認諾シ公正證書作成ヲ嘱託スル一切ノ件

昭和　年　月　日

住所
氏名印

請求書

一金　圓也

但住宅建設資金　圓也ノ内第一回交付金

右請求候也

昭和　年　月　日

住所
有限責任住宅組合
理事　氏名

東京府知事
殿

保證人承認願

住所
何職　何某

右ハ御府ヨリ借入可申住宅資金ニ關スル保證人ニ相立申度候間御承認相成度候也

昭和　年　月　日

有限責任住宅組合
組合長　理事　氏名

東京府知事
殿

何職　何某
住所

丑社發第一九四號

昭和　年　月　日

內務部長
東京府書記官

有限責任營友住宅組合長　殿

右ハ御府ヨリ借入可申住宅資金ニ關スル保證人

住宅建設資金貸付ニ關スル件

豫而貴組合ヨリ申請ニ係ル住宅建設資金貸付ノ件左記ノ通リ決定相成候條御承知相成度此段及通牒候也

記

一、貸付資金總額金　圓也

二、第一回交付金　圓也トス

殘額ハ事業ノ進捗ノ狀況ニ依リ後日之ヲ交付ス

三、月　日伺出ニ係ル何某及何某ハ保證人トシテ支障ナシ

四、本通牒ヲ領シタルトキ速ニ第一回資金ノ交付願ヲ差出スベシ

五、第一回資金ノ交付願ニハ　月　日丑社發第七四號通牒ニ依リ公正證書作製ニ要スル書類ヲ添付スルコト

六、第一回資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ公正證書ヲ作成スルコト、但其ノ費用一切ハ組合ノ負擔トス

七、第二回資金ノ交付願ニハ土地貸借契約書寫請負契約書寫、之ニ伴フ仕樣書、見積書寫、及住宅ノ平面圖ヲ添付スルコト

八、住宅建設ヲ了シタルトキハ直チニ本府ニ對シ、第一順位ノ抵當權設定ノ登記ヲナスベシ但シ抵當權設定ニ要スル一切ノ費用ハ組合ノ負擔トス

第二回借入金交付申請

有限責任住宅組合

一金　圓也

右御交付相成度別紙工程書添付此段申請候也

昭和　年　月　日

住　所

有限責任住宅組合

組合長　理事　氏　名印

東京府知事　殿

有限責任(營友)住宅組合事業進行工程表　(昭和　年　月　日現在)

住宅番號	所在地	建坪數	進捗行程

土地賃貸借契約書

工事請負契約書

住宅建築費見積書

住宅建築工事仕樣書

を附す

住　所

住　所　氏　名印

氏　名印

參錢印紙

有限責任(營友)住宅組合定款

第一章　總　則

第一條　本組合ハ住宅ノ建設又ハ購入ヲ爲シ之ヲ組合員ノ使用ニ供シ又ハ其所有權ヲ讓渡スルヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ有限責任(營友)住宅組合ト稱ス

第三條　本組合ノ組織ハ有限責任トス

第四條　本組合ノ區域ハ東京府トス

第五條　本組合ノ事務所ハ東京帝國大學營繕課內ニ置ク

第六條　本組合ノ公告ハ事務所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス

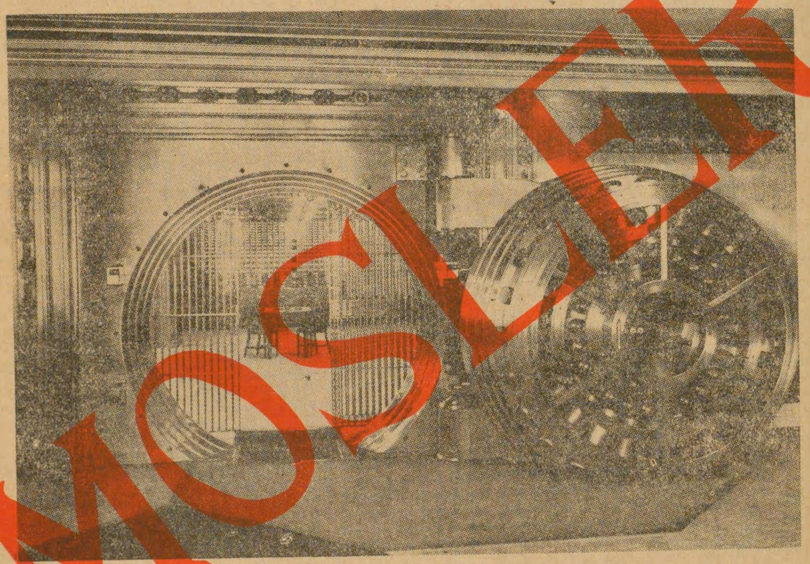
第七條　本組合ノ存立時期ハ滿十九ケ年トス

第八條　本組合ノ財產ニ付組合員ノ有スル持分ハ其ノ拂込濟出資金額ニ應ジ之ヲ算定ス

第二章　組合員

最高權威

米國 モスラー 金庫會社



一手販賣代理店

三井物產株式會社

機械部

本支店

高級ベニヤ專賣特許

アサノ板
アサノ製圖板
アサノドアー

斯界之最高權威

見本型錄
無代進呈

發賣元
東京神田鎌倉河岸
合名會社 淺野木工場東京支店
電話神田 一六二五三 四三六番

品質の優良なる事絶對に他の追隨を許さず

羽車印文化ワニスの性質特徴

本品はテレス油其他揮發油、酸液、アルカリ液、石鹼水、熱湯等に耐久性であります

依て本品を御塗りになりました器物を、後日汚物除去の爲め石鹼水溫水等にて洗滌致しましても變化がありません。風雨に晒しましても異狀を來しません。又本品を塗りました上に更に上塗をなさる際にも戻る憂ひは絶對にありません

本品は刷毛捌き流展性被覆性共良好でドナタが御塗りになりましても平坦な表面を形成致します

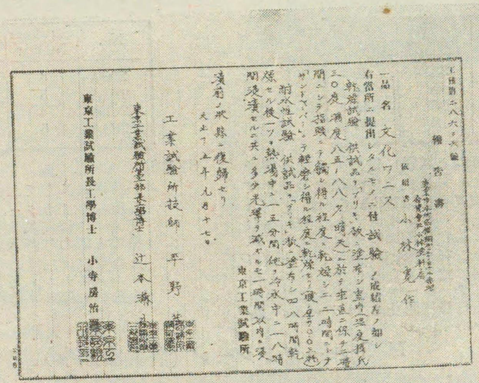
本品は嫌氣のない奥ゆかしい光澤と感じのよい肉付に仕上ります乾燥も良好で乾燥後戻る憂ひはありません

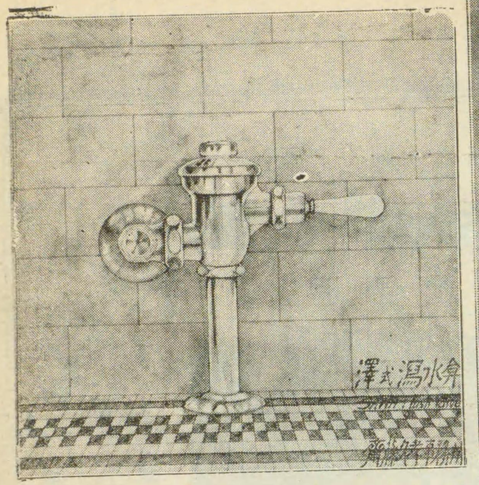
本品は病院、學校、臺所家具、玩具、諸機械、船舶用具、汽車電車、自動車、馬車各種車輛其他建築物の外部用として好評を得て居ります

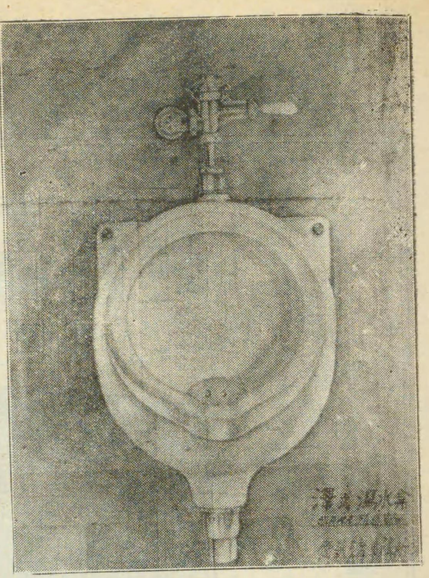
本品は値段も安く英壹哦入金七圓也1/4哦入金貳圓也で壹哦にて一回塗參拾坪位を塗る事が出來ます文化ワニスの姉妹品として文化コンクリートペイント文化エナメルの二種があります。

●御申越次第説明書御送り申上ます

羽車印塗料製造發賣元
合資會社 小林塗料店
店舗 東京市本所區横網町二丁目十二番地
工場 市外寺島町須崎三百一番地
電話 墨田四五七三番
振替 東京二八二三五番







サワフラッシュバルブ（特許出願中）

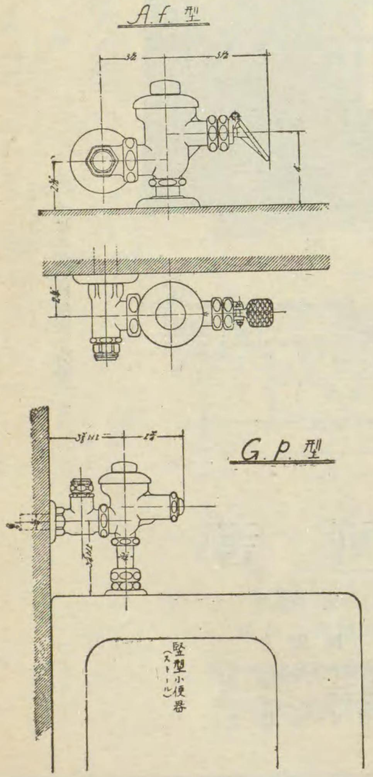
サワフラッシュバルブの主弁構造作用は從來のものと全然異つてゐます。弊所が內外五十餘種の瀉水弁に就てその長短を精査した結果に成るもので、主弁作用の完全はもとより附屬品の微細なる點に到るまで充分の注意を拂つて製作されてゐます。外面のニッケルメッキには特に留意苦心し舶來品に劣らぬ光澤を有してゐます。

作用水壓　毎平方吋五ポンド內外より

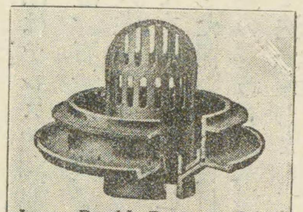
大便器用、小便器用の二種別あり。大便器用は給水瀉水管共、1 1/4 小便器用は同じく 3/4 の徑にしてあります。

兩種別共便器の大さ、形狀、位置等によりそれに適合する樣各々五つの型があつて體裁よく弁を取付け得る樣になつてゐます。又始動裝置もレバーハンドル、プッシュボタン、足踏、の三樣式を有し何れも始動裝置部のみの取替で容易に變更することが出來る構造にしてあります。足踏式は和風大便器用として特に弊所の考案になるもので、足踏板はニッケルを合金した硬質の砲金で鑄びずまた容易に磨滅しません。

詳細御問合せ及御注文は弊所販賣部、中外衛生器具商會へ願ひます。



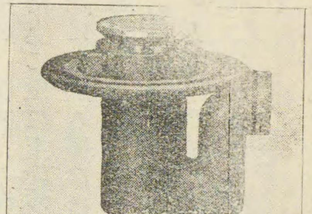
Josam Floor and Roof Drains



Josam Double Drainage Roof Drain
With Removable Sediment Cup
Series 400—Specifications and Prices

No.	Outlet Inches	Weight Pounds
400	23. 4.	29
401	5	35
402	6	45
404	8	85

SERiES. 400 は混凝土屋根に使用する爲め設計したるものにして最良なる鑄鐵製なり之は二重排水（DOUBLE DRAINGE）となるが故に混凝土と「ドレイン」と肌別れをなしたる場合に其の隙間よりの漏水は下の皿にて受け排水し天井を汚す憂なし塵埃除けの金網は一個の鑄物となり自由に取外と得べく是によりて「タール」砂利其他屋上よりの流れ來る物體は阻止して「ドレイン」を閉塞する事を防ぐ。

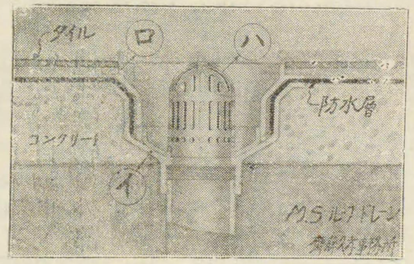


Josam Double Drainage Trap and Drain for Showers, Urinals and Floors
Series 200A—Specifications and Prices

No.	Strainer Inches	Outlet Inches	Weight lbs.
200A	4	1 1/2	18
201A	5	1 1/2	19
202A	4	2	18 1/2
203A	5	2	19 1/2

SERiES. 200A. 此「ドレイン」の主體は最良なる鑄鐵製にして上部は床厚により調節なし得べき「カラー」及「ストレーナー」を備ふ。これは眞鍮磨き仕上及「ニッケル」鍍金のものあり。「ストレーナー」は四形凸形及金平形の三種あり。「ドレイン」は「ストールユリナル」及「シャクー」「バス」の排水及其の他の床排水等に適す。此「ドレイン」は「ドレイン」と「タイル」等の際間より漏水し天井等を損傷することなし。

M. S. ルーフドレーン（特許出願中）



此「ルーフドレーン」は最良の鑄鐵製にして（イ）（ロ）（ハ）の三個より成り最初「コンクリート」施工中に（イ）なる外枠を据付け、防水層を此外枠の內側迄貼付け其の際（ロ）なる內枠を入れて防水層と密着せしめ。絶對に「ルーフドレーン」と防水層との間の漏水を防ぐ若し「ロ」なる內枠が防水層と密着せざる場合にありても其空間より（イ）なる外枠內に滴下し排水するが故に決して「ドレーン」周圍より漏水して天井等を汚す憂無し（ハ）は取外しの出來る除塵網にして此のまゝに推積したる塵埃を容易に取り去ることを。

上記の他數種あり　　カタログ進呈

齋藤久孝事務所

東京市麹町區有樂町日本興業銀行七階自二七〇二至四二七號
電話丸ノ內(23)一〇九六番・二七一番

中外衛生器具商會　販賣部

東京市神田區神田代町六
電話下谷一二六七番

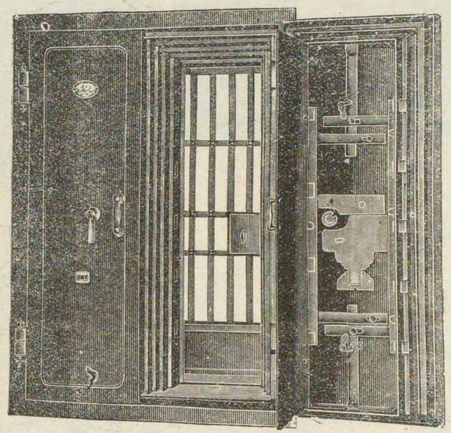
安全第一

金庫式防火扉

金庫室專用

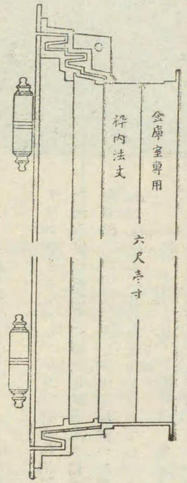
吉川特製品其二

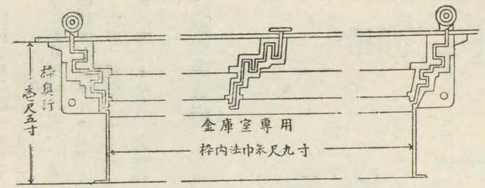
在庫品澤山有リマス
寸法ハ新規ニ製作シマス



平斷面

側斷面





値段表は本紙の時價表を御覧下さい

吉川商店

營業所　東京市日本橋區大門通り小傳馬町
倉庫　同市　同區通油町六番地
電話　浪花　特長六三四五　七二五六番
振替東京二九二一七番
工場　本所中ノ郷鐵川・電話　墨田一四二〇番

ろノ四

安全第一

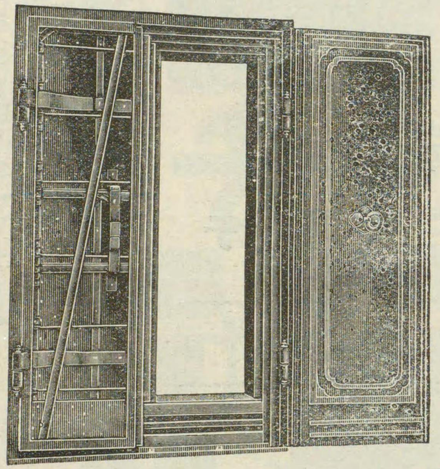
鍊鐵特製防火扉

倉庫戸前用

吉川特製品其三

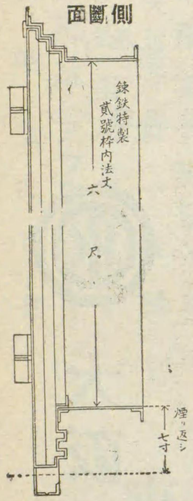
在庫品澤山アリマス故御高覽下サイ
寸法違ノ場合ハ新規ニ造リマス

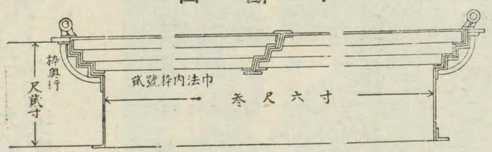
値段表ハ本紙ノ時價表ヲ御覧下サイ



平斷面

側斷面

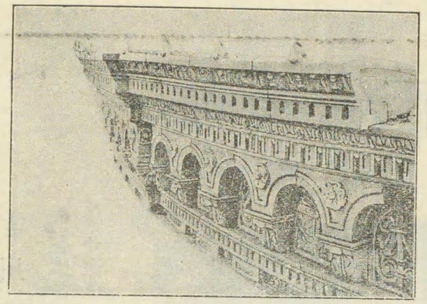




吉川商店

營業所　東京市日本橋區大門通り小傳馬町
倉庫　同市　同區通油町六番地
電話　浪花　特長六三四五　七二五六番
振替東京二九二一七番
工場　本所中ノ郷鐵川・電話　墨田一四二〇番

ろノ五



主ナル納入先

大阪ビルデイング
住友ビルデイング
神戸税關
勸業銀行大阪支店
萬年社
大阪ビル東京分館
日佛銀行
日本綿花横濱支店
正金銀行大阪支店
阿波商業銀行

大陶

テラコツタ

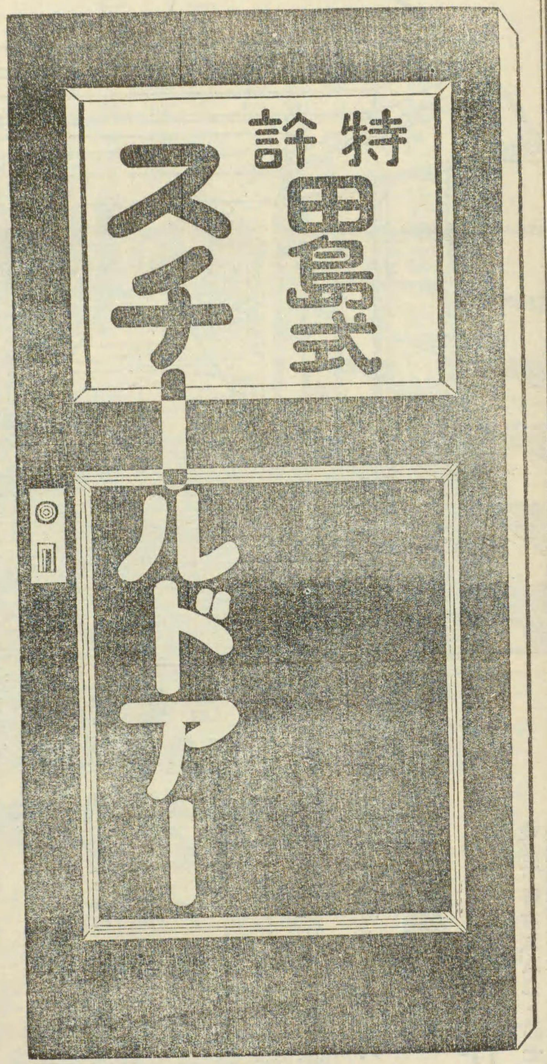
國産品

品質優良　價格低廉
技術優秀　納期正確

大阪陶業株式會社

營業所
大阪市北區宗是町一番地
（大阪ビルデイング五階五四七號）
電話土佐堀長 五三五五 五三五六 五三五七

工場 大阪府泉南郡佐野町
電話佐野五九番


特許
田島式
スチールドアー

營業課目

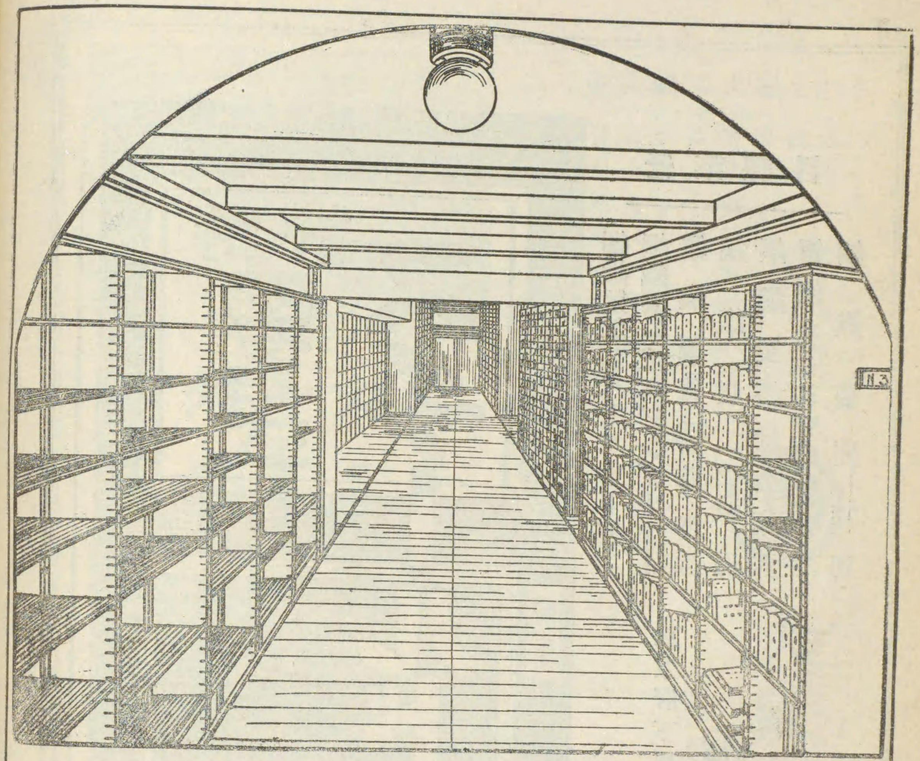
鋼鐵製エレベータードアー
鋼鐵製レポルピングドアー
鋼鐵製特種防火扉
鋼鐵製一般扉
鋼鐵製輕量金庫扉
鋼鐵製シヨウウヰンドー
鋼鐵製間仕切

東京府下尾久町上尾久一千番地

東京鋼板工業社

社長 田島壹號

電話下谷(83)四七三九番 六五八二



耐火…耐久…簡易…經濟

特許鋼鐵製書架

圖書館や書庫は申すまでも無く銀行會社等の書架や書棚の製作に最も古き歷史を有する弊所は常に書籍の保管法に關する研究に基きて簡易輕便に且つ場所的經濟に使ひよく廉價に設計製作致します。

營業品目

鋼鐵製机椅子ノ類
鋼鐵製書架ノ類
鋼鐵製抽斗ノ類
鋼鐵製戸棚ノ類
鋼鐵製エレベーター客室類
鋼鐵製メールシユート類
鋼鐵製衣桁箱ノ類

東京市外尾久町上尾久七六三

東京鋼鐵家具製作所

電話下谷六五八二・四七三九番
電信略號受信ムサシワウジ（トカセ）
振替口座東京 六六七七一番

營業種類

一、煖房裝置用放熱器、鑄鐵製蒸汽罐、鑄鐵製温水罐、銅鈑製汽罐、銅板製煙筒各種製作販賣並裝置工事

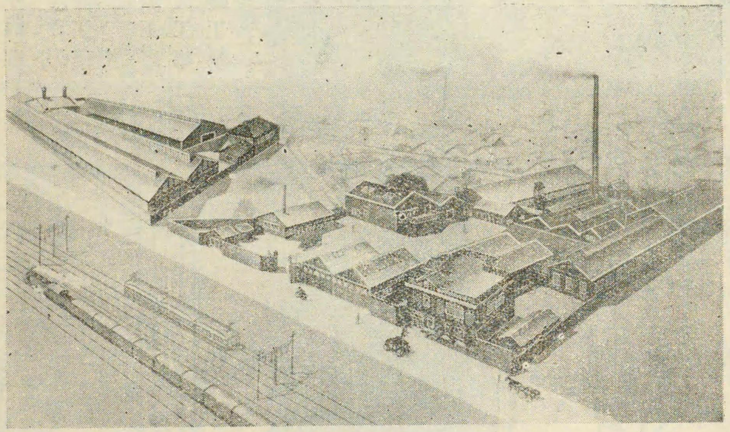
二、煖房裝置用機械器具一切製作販賣

三、病院用消毒器消毒水製造器治療器具各種、寢臺藥局設備機械器具製作販賣並裝置工事

四、炊事場機械器具一切製造販賣並裝置工事

五、洗濯場機械類並乾燥裝置之製作及其裝置工事

六、建築用金物類之製作



高砂鐵工株式會社

東京府下大崎驛前

電話高輪 特長 六一〇番 四六五三番

大阪出張所

大阪市東區高麗橋一丁目
愛國生命保險株式會社 大阪支店內
電話本局長 二九八六番

純國産理想的壁天井間仕切用材

登録商標 ダイガーボード

専賣特許

タイガーボード

長六尺、幅三尺、厚二分　一枚重量二貫二百目

特長

龜裂……地震に逢ふても龜裂崩壊の虞なし
伸縮……仲縮や反りかへりの憂ひなし
保温……冬は寒氣を防ぎ夏は暑熱を防ぎます
遮音……室内の反響を防ぎ隣室の音響を防ぎます
防濕……濕氣を防ぎ氣候の變化により絶對に伸縮せず
耐火……石膏を原料としたものですから火に安全です
衛生……華氏百度の熱度にて乾燥してありますから極めて衛生的です

施工

切斷……小刀で兩面の紙を切つて折ると容易に切斷せられ誰でも張付けられます
仕上……日本室なれば砂摺、西洋室なればペンキ塗、壁紙張等何んでも普通壁以上に仕上ります
釘……張付するには亞鉛鍍金釘を用ひます
工事……張付から仕上まで實費で御引受いたします

◎近來粗惡なる類似品や紙製摸造品が多數あり升特に弊所製造品**タイガーボード**の名稱及び虎首商標に御注意を乞ふ◎

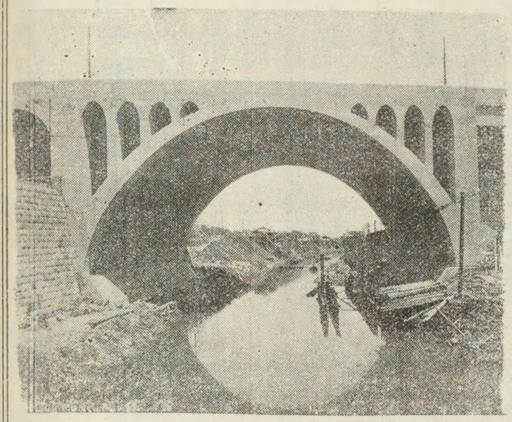
見本カタログ進呈

東洋建材工業所改稱
タイガーボード製造發賣元
東京市麹町區麹町四ノ十二
三工社
東京市京橋區瀧山町八
鈴海商店
東京市丸ノ内仲通り十四號館
華陽貿易商會
橫濱市本町一ノ二十
サムライ商會
大阪市北區堂島ビル四一四號
合名會社 **大阪支店**
北海道札幌市
今井金物店
北海道函館市末廣町九
渡邊合名會社

特約販賣店

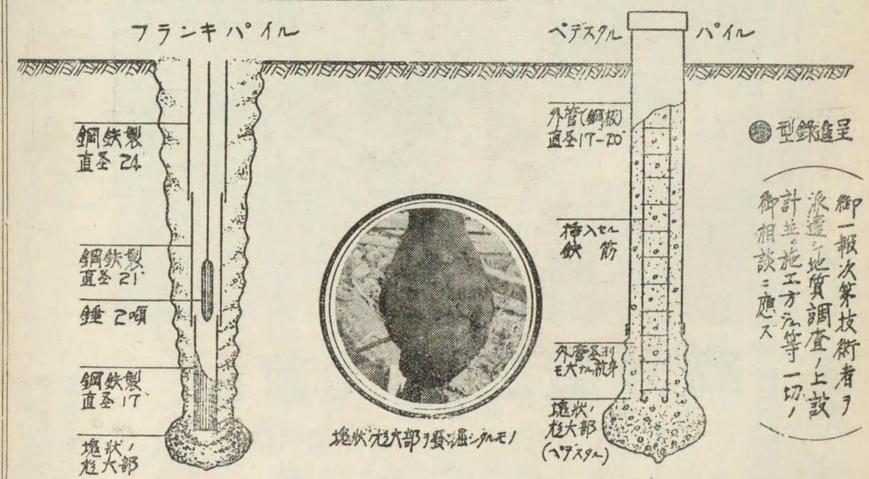
東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
日本タイガーボード製造合資會社
本社　東京市丸ノ内仲通十二號館六號
電話丸ノ内(23)一六三六番
工場　東京府荏原郡平塚町字戸越
電話高輪三一四九番

聖橋



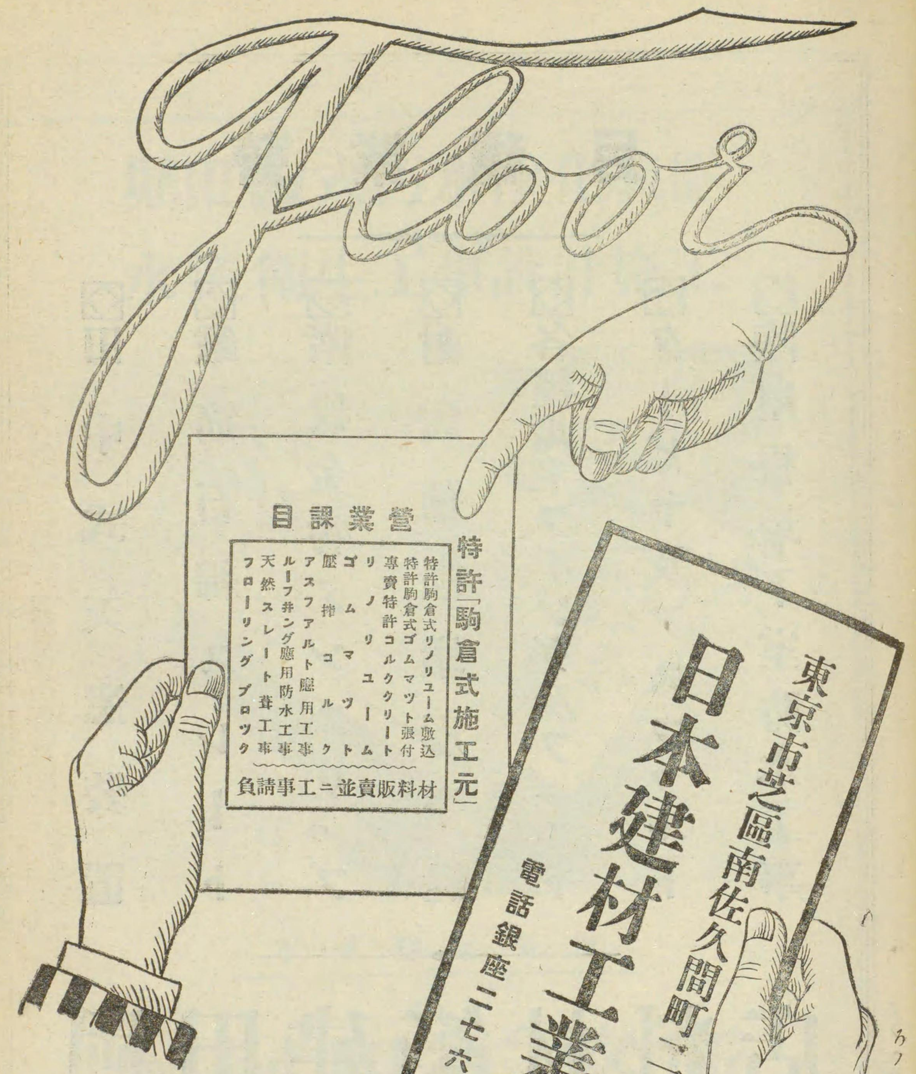
營業種目

一　特許特殊コンプレツソル式基礎工事
二　特許ペデスタル式基礎工事
三　特許フランキ式基礎工事
四　特許ウェバー式煙突工事
五　鐵筋コンクリート一般工事
六　和洋各種建築工事
七　ボーリング地質調査工事
八　ミキサー製造販賣
九　バーベンター製造販賣
十　バーカツター製造販賣



東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
東洋コンプレッソル株式會社
電話丸ノ内(23)1147.1148.1149
出張所：橫濱・名古屋・大阪・神戸・門司・札幌・京城・大連

Floor



特許「駒倉式施工元」

特許駒倉式リノリューム敷込
特許駒倉式ゴムマット張付
專賣特許コルククリート
リノリューム
ゴムマット
壓搾コルク
材料販賣並ニ工事請負
アスファルト應用工事
ルーフ井ングス應用防水工事
天然スレート葺工事
フローリングブロック

營業課目

東京市芝區南佐久間町二ノ十四

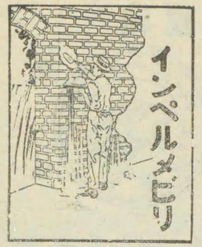
日本建材工業所

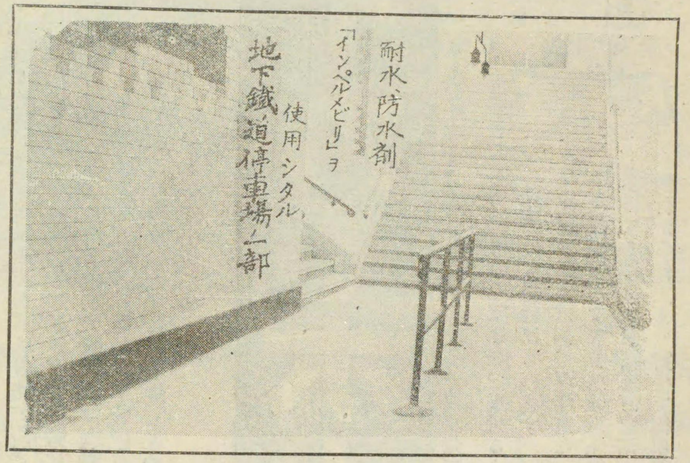
電話銀座二七六三番

店理代
八一町口橋多博市岡福
船津三平商店
目丁三ノ通園公市呉
淺生宗八商店

インペルメビリ

セメント耐水防水劑





土木建築專門家各位!!!

新らしき格し 土木建築には、インペルメビリ
●説明書及使用者ノ說明書ハ御一報次第郵送ス

◎完全ナル混凝土建築造物ヲ得ンニハ必ズ世界的耐水劑「インペルメビリ」ヲ使用セザルベカラズ

◎防水効力絶大ニシテ永久不變、用法頗ル簡便廉價ナリ、本劑ノ發賣ハ實ニ土木建築界ノ一大福音ニシテ陸屋根、路面工事平易耐久力偉大ナリ

「インペルメビリ」

●インペルメビリハ特種ノ液體ニシテ之ヲ使用スルニ何等特別ノ準備ヲ要セズ直ニ「セメント」ト混和シテ用ユルトキハ絶對的耐水性ヲ帶ビ如何ニ強大ナル水壓ヲ加フルモ水氣ノ滲透スルコトナシ

重ナル効用

①「セメント」塗ノ表面ニ龜裂ヲ生ズルコトナク、且免レ難キ白キ粉(エフロレツセンス)ノ噴出ヲ絶對ニ防止ス
②古キ煉瓦又ハ塗壁等ノ表面ニモ完全ニ「セメント」塗ノ密着スルノ特効アリ
③極寒(零點下二二度)ノ時ニデモ「セメント」塗ヲ行フコトヲ得(普通ノ「セメント」塗ハ零度ニ於テ作業ヲ爲シ難シ)
④泥ク然湯ノ溫度ニ耐ユルコトヲ得、且海水及酸性ノ水ニ抵抗スルノ効力アリ
⑤塗立タル後少時間ヲ經テ「ペンキ」塗ヲナスコトヲ得ベシ

重ナル用途

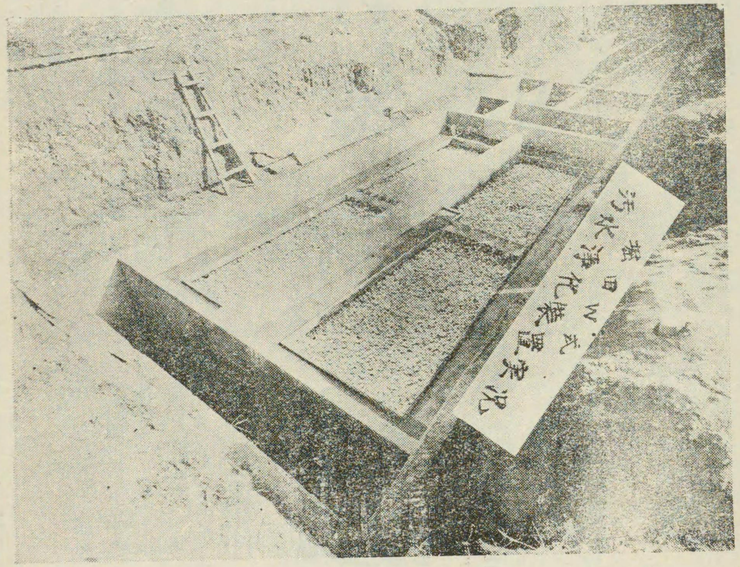
①濕潤ナル場所又ハ浸水セル場所ノ乾燥セル壁面石積等ノ上塗工事
②濕氣アル壁ノ上塗又濕潤ナル空氣ニ面セル壁面石積等ノ上塗工事
③水力、海水及水道工事、堤防、運河、波堤等ノ上塗工事
④地下鐵道ノ上塗、岸壁、ドック、瓦斯タンク水中基礎工事トンネル水塔、瓦斯水池、醸造業工場ニ於ケル溜桝、屠畜場織物、染物工場等ノ經濟的ナル上塗及床叩キノ上塗工事、衞生的建築ノ設備等

輸入發賣元
東洋總代理店

落合商會

東京市京橋區西紺屋町廿四番地
(スキヤ橋公園側)
電話京橋(56)六八一九番

堀田W式汚水浄化裝置
水道衛生工事設計施工



水道器具製作

堀田工務所 ㊣

名古屋市東區東新町十六番地
（東新町停留所北）
電話東 四壹七番 / 六二四七番

營業種目

- ◇田中式天窓裝置
- ◇鐵筋石綿スレート
- ◇階段金物ノンスリップ
- ◇耐震補強蟻形平鋲
- ◇各種ルーフイング及フェルト
- ◇タービヤ及アスファルト
- ◇陸屋根地下室防水工事

岡田建築材料店

名古屋市西區西菊井二丁目三番地
電話西局一二一番 一〇八七番
振替名古屋五五九六番

洋風家具
室内装飾
乾燥木材
名古屋市中區西川端町
誠工社
電話名古屋南局一二三六番
ろノ一六

第九條　本組合ノ組合員ハ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ル

一、出資金完納ノ資力アリ又ハ出資金ノ完納ニ付適當ナル保證人アルコト

二、他ノ住宅組合ノ組合員ニ非ザルコト

三、本組合ノ區域内ニ於テ居住ニ適スル住宅ヲ有セザルコト

第十條　新ニ組合ニ加入セムトスル者ニ對スル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル

第十一條　組合長ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル加入ノ場合ヲ除ク外加入者ヲシテ遲滯ナク第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

第十二條　持分ノ相續ヲ爲シタル者ハ遲滯ナク其旨ヲ組合長ニ届出ヅベシ

第十三條　組合員持分ヲ讓渡セントスル場合ニ於ケル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル

但シ讓渡ヲ受ケントスルモノガ組合員デルトキハ組合長之ヲ爲スコトヲ得

第十四條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得スル前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ除名ス

一、二月以上出資拂込ノ義務ヲ怠リ組合ノ戒告ヲ受ケタル後一ケ月内ニ其ノ義務ヲ履行セザルトキ

二、第三十二條ニ規定スル住宅使用條件ニ違反シ組合ノ戒告ヲ受クルモ尚之ニ從ハサルトキ組合員前項ノ規定ニ依リ除名セラレタルトキハ速ニ住宅ノ引渡ヲ爲スヘシ

第十五條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間前條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ組合長ハ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スベシ

組合員前項ノ規定ニ依リ住宅ノ所有權讓渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ所有權ヲ組合ニ讓渡シ且ツ住宅ノ引渡ヲナスベシ

第十六條　組合員除名又ハ住宅組合法第八條ノ事由ニ由リ組合ヲ脫退シタル場合ニ於テモ其脫退ニ至ル迄ノ出資拂込其他組合ニ對シ負擔シタル義務ハ之ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條　出資拂込ノ完了前脫退シタル組合員ハ脫退後其住宅ノ引渡迄ノ間ニ於ケル住宅使用料ヲ本組合ニ支拂フベシ前項使用料ノ額ハ組合員トシテ當該期間ニ拂込ムベカリシ金額ト同額トス

第十八條　持分ノ讓渡ニ因リ脫退シタル場合ノ外住宅ノ所有權ヲ取得セズ又ハ取得後組合ニ之ヲ讓渡シテ脫退シタル組合員ニ對シテハ其住宅ノ供給ヲ受ケタル以前ニ於ケル拂込濟出資金ノ一〇ノ八ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ爲スベシ但シ脫退ノ事情ニ依リ總會ノ決議ヲ以テ拂戻金額ヲ增減スルコトヲ得

第四章　事　業

第二十條　組合員ハ出資二十口以上五十口以下ヲ有スベシ

第二十一條　出資第一回拂込金額ハ一口ニ付金五圓トス

第二十二條　出資第弐回以後ノ拂込ハ左ノ區別ニ因リ每月二十八日限リ之ヲ爲スベシ

一、住宅供給ヲ受クル前ニ在リテハ每月第一回拂込金額ノ十分ノ一ニ相當スル金額

二、住宅ノ供給ヲ受ケタル後ニ在リテハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヨリ住宅ノ供給ヲ受クル前ニ於ケル拂込金額ヲ控除シタル殘額ヲ組合存立期間滿了迄ノ月數ニ依リ均等ニ分割シタル金額

前項第二號ニ規定スル利子相當額ノ算定方法ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十三條　前條ニ規定スル拂込ヲ怠リタルトキハ期限後一日ニ付其ノ拂込ム可キ金額ノ千分ノ一ノ過怠金ヲ徵收ス

第二十四條　組合ハ組合長ノ承諾ヲ受クルニ非ザレバ出資口數ノ減少又ハ增加ヲ爲スコトヲ得ズ

第四章　事　業

第二十五條　本組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲住宅用地ノ借受ヲ爲シ之ヲ當該住宅ノ供給ヲ受クル組合員ニ貸付クルコトヲ得

第三章　出　資

第十九條　出資一口ノ金額ハ金一百圓トス

以外ノ土地ニ於テ住宅ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ組合長ノ承諾ヲ受ク可シ

第二十七條　住宅ノ設計ハ出資金額ニ應シ當該組合員ノ希望ヲ參酌シテ理事之ヲ定ム

第二十八條　住宅供給ノ順位ハ組合員ノ協議ニ依リ之ヲ定ム其協議調ハザルトキハ抽籤ニ依ル

第二十九條　住宅ノ所有權ハ出資金額貳分ノ一以上ヲ拂込ミタルトキ又ハ相當資力アル保證人貳名以上ノ連帶保證アルモノニ對シテハ之ヲ當該組合員ニ讓渡スルコトアルベシ

但シ組合員ノ協議ニ依リ出資拂込ノ完了ニ至ル迄之ヲ延期スルコトヲ得

第三十條　出資拂込ノ完了セザル組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ於テハ組合長ハ其組合員ヲシテ未拂込出資額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシメ所有權移轉登記ト同時ニ其ノ登記ヲ爲サシムベシ

第三十一條　組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第三十二條　住宅ノ供給ヲ受ケタル組合員ハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間其ノ住宅ノ使用ニ關シ左ノ各號ノ條件ヲ遵守スベシ

一、相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外他人ヲシテ其ノ住宅ヲ使用セシメザルコト

二、修繕其ノ他住宅ノ保存上必要ナル管理ヲ爲スコト

三、理事ノ承諾ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外住宅ノ模樣替ヲ爲サザルコト

前項各號ノ外特ニ必要ナル條件ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第三十三條　本組合ノ貸付ニ係ル住宅用地ノ借賃毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムベシ

第三十四條　組合員ニ對スル住宅用地ノ讓渡ハ月賦賣却ノ方法ニ依リ其ノ月賦代金ハ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムベシ、但シ組合員ノ希望ニヨリ月賦賣却ノ方法ニ依ラザルコトアルベシ

第三十五條　本組合ノ供給スル住宅ハ本組合ニ於テ之ヲ火災保險ニ付ス其ノ保險金額ハ保險價格ニ依ル保險料ハ當該組合員ノ負擔トシ月割ヲ以テ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムベシ

第三十六條　本組合ノ經費ハ出資金額ニ應ジ組合員之ヲ分擔シ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムベシ

第五章　機關

第三十七條　本組合ニ理事參名監事貳名ヲ置ク

第三十八條　理事中壹名ヲ組合長トシ理事互選ニ依リ之ヲ定ム

組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス

第三十九條　理事ノ任期ハ參年監事ハ貳年トス但シ再選ヲ妨ゲズ、補缺ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者就任期間在任ス、理事及監事ハ任期滿了後ト雄後任者ノ就任スル迄尙其職務ヲ行フ

第四十條　理事又ハ監事ハ通常總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ猶豫スル能ハザル場合ニ限リ臨時總會ニ於テ理事又ハ監事ノ解任ヲ決議スル時ハ同時ニ其ノ補缺選任ヲ行フ

第四十一條　通常總會ハ毎年一回一月中ニ之ヲ開ク

第四十二條　總會ノ招集ハ書面ヲ以テ之ヲ組合員ニ通知ス

第四十三條　總會ハ組合員ノ半數以上出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ

但シ同一ノ事件ニ就キ招集再回ニ至ルモ尙半數ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ非ズ

第四十四條　總會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス監事ノ招集シタル總會ハ招集シタル監事中ノ年長者ヲ以テ議長トス

第四十五條　組合員ハ參人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ズ

第四十六條　總會ニ於テハ決議錄ヲ作リ會議ノ顚末及出席者員數ヲ記載スベシ

決議錄ニハ議長及議長ノ指名シタル出席者二名以上署名スベシ

第六章　解散

第四十七條　解散ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シタル總會ニ於テ出席者四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲナスコトヲ得ズ

第四十八條　本組合解散ノ場合ニ於ケル殘餘財產ノ處分方法ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第七章　補則

第四十九條　本定款施行ノ爲必要ナル細則ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第五十條　本組合設立當時ノ理事及監事ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ第一回ノ通常總會ニ於テ改選ス

理事　何　某
同　何　某
同　何　某
監事　何　某
同　何　某

昭和　年　月　日

設立者住所氏名

住所　氏　名印

住所　氏　名印

復興建築助成株式會社

本項に關しては第二編復興建築助成株式會社の創立を參照せられたし。

建築協會

其他の金融機關としては建築協會を擧げる事が出來るが之は地方的なもので、一般普及の目的には緣遠い。

東京府知事を會長として、主として政府の役人が理事となり、府の保護の下に組織してゐる會員は極めて僅少な準備金即ち入會金と極めて簡便な年賦又は月賦償却で住宅を所有し得るやうな組織である。但し元來が社會政策的施設である故に會員を中產者以下に限定してある。會則の要領を示せば、即ち資本金は府より交付せる五萬圓を基にし、會員は協會に於て中產階級以下と認めた者に限る。會員を分ちて甲乙丙の三種とし、乙と丙とは家屋を借用するだけのもので、會費として家賃を仕拂ふ譯である。甲種會員は入會金及月又は年額會費を拂つて定屋を使用し、契約年月に達して之を自己の所有となす。甲種會員の住宅は一戶建で三室四室五室六室七室の五種で住宅所有權の移轉期限は五、七十、十五箇年の四種である、會員は住宅を他に轉貸することを得ず。甲種會員の會費年額は所有權移轉期限に依て差があるが十箇年の場合には建築費一千圓につき年額百二十八圓程に當る其入會金は一千圓につき約二十圓である。協會の仕組は以上の如く申込みに依り住宅を建てるのであるが、不便な點を擧げれば、建築位置の選定範圍が狹い事、自己の權利の讓渡は矢張り會員たる資格ある者に限る事、土地の所有が出來ない事、家を見てから申込む譯にいかぬ事等である。

參考法規

住宅組合法
（大正十年四月十一日法律第六十六號）

住宅組合法施行規則
（大正十年七月六日內務省令第二十一號）

住宅組合施行細則
（大正十二年九月一日東京府令第五十七號）

住宅組合法施行細則取扱手續
（大正十二年九月一日東京府令第二十三號）

住宅組合關係書類並帳簿樣式
（大正十二年九月一日東京府告示第三百八〇一號）

東京府住宅建設費貸付規則
（大正九年三月十六日東京府令第三十三號）

第三編　建築材料

時我建築材料界は大正十五年度に於て表面沈靜にして内的充實の喜ぶ可き曙光を認めたりと言ふ事が出來る。則ち財界の不況に依りて經濟的には不振たりしは免れ得ざる各自其研究は極めて着實に行はれ、根底薄きものは或は去り、玆に自然淘汰が行はれて一般的に批評する場合材料界の確實さは慥かに前年の比にあらず、特に國産品にして優秀なるもの多く出現するに至り輸入品を或程度迄壓迫するの感がある。只依然として製造工場の規模の小なるは大量製産の域に達せず、爲めに大建築物に採用されがたきものもあるは遺憾にたえない。

但し今後建築界の發展に伴つて愈々堅實なる發展を材料界に見られる事は慥かである。統一せる諸會合が現はれて各種材料の發展に便し、黒版物又多く材料に關するものあり、只未だ其多くが建築界に行渡らざるは惜むべき事である。特にポートランド、セメントの如きは正に世界的の進歩發展を示し其研究製造上の改良共に先進の國々を凌駕せんとして居る。粘土製品に至つて煉瓦は事情止むなく舊態の傾あるも其に代つてテラコツタは今や長足の進歩を來たし特に關西に於て其用途大である。我帝國議事堂建築は今や工事進捗し國産奨勵を基として建築材料を選ばれる結果、今後我材界に一大變革を與える事となり爲めに其發展を促進する事になるであろふ。但し材料の海外輸出は未だ極めて微々たるもので、滿洲並に民國にすら其勢力極めて薄弱なるは依然として其商業的發展の小規模にして國家的見地の無視されたるは甚だ他の諸工商に比して遜色あるを知るのである。年を追ふて必ず我材料の海外發展を希望してやまない。

新材料製造企業は今年も相當に見受けた。但し最近の經濟狀況は此方面にも資本の缺乏を來たし又堅實なる投資者少なく又有りとしても直ちに其利益を算するの人多く、當事者の眞面目なる人にして意を得ずして日を過すの人亦尠なからず。

但し之れ過去の好況に際して根底なき投資に失敗せる人多き結果と言はなければならぬ。倘當時者も眞の科學的基礎の出發にあらずして只の思附きに過ぎぬ新材料は社會を亂す事大なるを自覺しなければならぬ。既に今日の社會に知られたる材料に達する以前の原始的材料の偶然の發明を新材料として取扱ふ如きの人亦尠なくない。秘密主義の製造によく此例を見るが資金と時日の浪費極めて多い。今年度は寧ろ經濟狀況から此種材料の出現をさまたげたる感あるは一面不幸中の幸とも言ふ事が出來る。製造者の相異せるが爲めに同種異名の品の多きは統一上甚だ遺憾である、尚今後望む所は材料の標準的仕樣書確定である。カタログも出來た規格の統一も進んだ今日如何にしても材料の標準仕樣を定めなければならぬと思ふ塗料の如き正に其一つである。

未だ將來に待つべき事多々あるとするも我建築材料界の進歩は過去數年間に驚く可きものがある。反つて建築家の新材料に關する智識は遲れ易いのは東西同じである。材料の智識は只に建築家に限らず社會一般に普偏せしむる事は極めて必要の事であり、意義ある廣告は材料商の進んでなすべきで又一般の注意すべき事であり今日以上に廣告を輕視せられない樣にしたいものである。新材料の常識を有せずして如何にして新しい建築が現はれよふか。

□材料に關する社會的事項

一、東京商工奨勵館の援助、今年度に於ても材

料界の中心となつて展覽會其他講演會等開催せられ、材料知識の社會的普偏に便せられたのみでなく材料商の發展に資せられたるは大に謝すべきである。

二、建築資料協會　主なる材料商より成る協會にして今年は關西に支部を設置するに至り會員數二百餘名、土木建築其他の權威を特別會員とし、内田嘉吉氏を會長に佐野利器博士兒玉孝顯氏を副會長に早崎龜壽氏を顧問とす。第二回建築資料共同型錄を發行して之れを社會一般に分付する事約四千冊に達す、發行所は東京市麴町區有樂町二丁目一番地東京商工奬勵館内建築資料協會

尙復興局内に陳列室を設け觀覽に供し居る。

三、化學工業博覽會　上野にて春季開催せられしに際して建築材料の陳列せるもの尠なくなかつた。

四、第二回土木建築資料總覽　第一回のもの既に最初の試みとして完成せるものであつたが第二回に至つては其員數を增加して材料說明に詳細を極め其包含するもの極めて大である。發行所は赤阪田町七丁目三番地建築資料研究會、

五、日本ポートランド、セメント技術會　我國唯一の同業技術者の會で笠井眞三博士を會長として既に數多研究報告あり今年も屢々研究報告發刊された。發行所は大阪市東區京橋三丁目六十五番地の二である。特に年來努力されたるセメント規格變更は商工省に上申し其成功を見た。

六、コンクリート試驗に關する會合　東京帝國大學工學部に於て佐野永山兩教授主催となり建築土木の各大學專門學校試驗場諸官省の斯界の權威を集め會合する事數次最後に全國の關係者を集合して今後コンクリート試驗に關する申合せをなし其確定せるもの左の如くの様である。

七、試驗場、東西工業試驗所、商工奬勵館、各大學實驗室、復興局技術試驗所、林業試驗所、諸官省に屬する試驗室等にして特に本年度に於て復興局技術試驗所の發表になるもの多く其内にも耐火試驗は第一回報告を發表した良資料たる事は言をまたぬ。大阪工業試驗所には開放實驗室を設け廣く一般の實驗研究の爲め室を貸す事となつた。東京工業試驗所に於ても目下其建物を大藏省に於て設計中である。

八、商工省　規格統一（其項に記載）は進捗し、前述のセメント規格の變更の發表は昭和二年四月發表となる筈である。

コンクリート應壓強度試驗に關する標準

第一項　應壓強度試驗體の製作、養生及試驗方

一、填充方

コンクリートを三層又は四層に分ちて型に入れ、每層鐵棒を以て、約參十回之を突くこと。鐵棒の突入れは、其前層に漸く達する程度に止むること。

鐵棒は直徑一・五糎長さ約四十糎とし、一端を長さ約三糎の間、鈍く尖らすこと。

二、養生方

填充後は覆を施して蒸發を防ぎ、適當の時機に於て、鈍セメントを以て上面を均し、厚さ半糎以上の金屬板又は硝子板を以て之を壓し材齡一日乃至二日に到りて板及び型を去ること。

其後は水中又は濕砂中に之を置くか、或は濕布にて之を覆ふこと。養生中の濕度は攝氏十度を下らざること。

三、應壓強度試驗方

應壓強度試驗は試驗體の濕潤狀態にて之を行ふこと。

材齡は一週・四週・十三週を以て標準とすること。

第三項　骨材の篩分析方

一、用量

骨材の篩分析には乾燥材を用ひ、且つ左の量によること。

砂　約五百瓦

砂利　約二千瓦

但し砂と砂利との區別は次號に於ける四番篩を以てすること。

二、篩

篩は左記米國標準によること。

篩番號	角孔の大さ（粍）
100	0.149
50	0·297
30	0.59
16	1.19
8	2.38
3/8″	4.76
3/4″	9.5
1″	19.0
1 1/2″	25.4
2″	38.0
3″	50.8
	76.0

三、篩分析方

一分間に各篩を通過する量が何れも、全重量し一パーセント以内となる迄篩ふこと。

四、表示方

分析の結果は各篩を通過する量を、全量に對する重量百分率にて示すこと。

第四項　配合及單位容積の重量測定方

一、配合は重量による。但し容積比を以て之を表はすこと。

二、ポルトランドセメントは一・五五瓩を以て一立とすること。

三、骨材の單位容積の重量を定むるには次の方法によること。

イ、用器

桝――左記の大さを有する圓筒形の桝を用ふること。

砂に對しては、內徑十四糎、內高十三・〇糎、容積二立

砂利に對しては、內徑二十四糎、內高二十糎、容積十立

但し特に大なる徑の砂利に對しては此限りにあらず。

砂と砂利との區別は第三項に記載する四番篩を以てすること。

棒――應壓強度試驗體製作に用ふるものによる。

ロ、測定方

乾燥材を三層に分ちて桝に入れ、應壓強度試驗體製作の場合に準じて每層之を突き、靜かに上面の餘分を除きて秤量すること。

第五項　水量及軟さの表し方

一、コンクリートは使用水量と共に其の軟さを表示すること。

二、水量はセメントに對する重量百分率にて之を示すこと。

三、軟さはフローテスト、又はスランプテストによること。

イ、フローテストによる軟さ測定方

適當なる構造により平面板を上下に運動しうるものとし、板の中央に上徑十七糎、下徑二十五・五糎、高さ十三糎の截頭圓錐型を置きコンクリートを二層に填充す、その突方は應壓強度試驗體製作の場合に準ず。

次に靜かに型を取除き、板を一・三糎丈け引上げ約十秒間に十五回反覆落下せしむ、かくして擴りたるコンクリートの下徑が原の下徑に對する百分率を以て「フロー」とす。

ロ、スランプテストによる軟さ測定方

上徑十糎、下徑二十糎、高さ、三十糎の截頭圓錐型を平面板上に置きコンクリートを四層に填充す。その突方は應壓強度試驗體製作の場合に準ず。

次に靜かに型を引き上げコンクリート頂の「下り」を糎にて計り之を「スランプ」とす。

第六項　其　他

前各項の外、強度に影響すべき事項は、なるべく、詳細に之を表示し置くこと。

建築請負（自大正十四年八月二十六日至大正十五年八月末迄）

本調査は建築工事費金一萬圓以下の分は凡て掲載せず、又建築工事費十萬圓以下の分は各等二位以下に屬する入札金額を悉く省略せり。

入札結果

東京市役所（工事指名八月二十九日開札）
臨時收容移動住宅並物置新築丙號　二四、一三〇圓（超過）　荒川組
同再入札　二三、八五〇圓（超過）　荒川組
臨時收容移動住宅並物置新築丁號　六二、〇〇〇圓（落札）　清水組
東京市役所（工事指名九月一日開札）
街路四一五號路線自江戸川橋際至早稲田電車通　三九、四〇〇圓（超過）　日本石油會社
臨時收容移動住宅並物置新築丙號　二二、五七〇圓（落札）　荒川組
大藏省營繕管財局
貴衆兩院廳舍修繕工事　一〇三、六〇〇圓（落札）　錢高組　一〇四、九〇〇圓安藤組　一一三、三〇〇圓井上組　一一三、〇〇〇圓鴻池組　一一八、七八〇圓大倉土木會社　一二八、六〇〇圓松村組　一五七、〇〇〇圓清水組

支部省
濱松高等工業學校實驗室火災復舊　一〇一、〇〇〇圓（落札）　井上組合資會社
街路第二九六號下谷區坂本町三之輪郡市界鋪道車道歩道工事　二七、〇〇〇圓（落札）　山野組
駒込病院看護婦附添人食堂外二廉　一〇、二四〇圓（落札）　久保田組
工事指名九月三日開札
街路第一三八號本郷看町富士前町間鋪道車道歩道工事八六、八五〇圓（落札）　橋本店
街路第二七四號材木町至六本木間鋪道車道歩道工事　六四、九〇〇圓（落札）　若林工業事務所
東京市役所（工事公入札九月三日開札）
本郷眞砂町公衆食堂新築工事　一二、三〇〇圓（豫定制限未滿無効）　大岩組
（落札）芝江組
東京市（指名九月五日開札）
街路第二六八號路線看町天神町間鋪道車道歩道工事　二七、九四〇圓（超過）　大野銓吉
陸軍造兵廠火工廠
十條兵器製造所分工場第三三號家第一火具工作室修繕工事外九廉工事　一二、五〇〇圓（超過）　鈴木岩松
陸軍造兵廠東京工廠（公入札九月八日開札）
本部事務所新築外一廉工事　二二、三〇〇圓（落札）　杉山組
警視總監官房會計課（指名九月十日開札）
築地警察署建築工事　一二七、〇〇〇圓（落札）　松村組　一二八、八〇〇圓藤本組　一三四、八五〇圓清水組　一四三、三三五圓大倉土木株式會社　一四六、〇〇〇圓大林組　一五八、〇〇〇圓竹中工務店
第二消防署建築工事　六二、八〇〇圓（落札）　淺野同族株式會社
海軍省經理局（指名九月十五日開札）
技術研究所霞ケ浦設備ノ內宿舍外三廉工事　二八、八〇〇圓（落札）　有馬組
大横川筋深川區東亥ノ堀河岸自三一號至三〇號地先外混凝土護岸築造　二八、八九〇圓（落札）　都市工業合資會社
本所相生警察署附屬建築工事　二三、四〇〇圓（超過）　東組
同再入札　二二、五〇〇圓（超過）　仁杉定吉
街路第二五〇第二五一號路線自白山上至巢鴨郡市界鋪道車道歩道工事　六六、九四〇圓（落札）　日本石油株式會社
第一師團經理部（工事指名九月十六日開札）
歩兵第三聯隊假下士集會所及酒保增築其他工事　一二、八〇〇圓（落札）　石川重吉
東京市役廳
街路第一三四第二六三第二六四第二六五第三六六號路線自小石川高坂下至大塚辻町郡市界鋪道車道歩道工事　一一六、四〇〇圓（落札）　日本石油株式會社　一二三、八〇〇圓安藤組　一三二、三〇〇圓（落札）　北野組
南洋廳（工事公入札九月二十四日開札）
南洋廳サイパン醫院增築外二廉工事　一三一、〇〇〇圓（落札）　荒川組　一五三、八〇〇圓嬉野組
路清水組　一五八、〇〇〇圓　小泉岩吉　一六一、八〇〇圓　小泉金二　一八〇、〇〇〇圓　高梨治助
街路第三一三號路線麻布櫻田町ヨリ廣尾町至ル鋪道車道歩道工事　四二、七二二圓（落札）　北村組
警視總監官房會計課
京橋北紺屋警察署建築工事　一〇一、二〇〇圓（落札）　松村組　一〇九、九八〇圓大倉土木株式會社　一一二、〇〇〇圓　清水組　一四三、〇〇〇圓　藤本組　一六二、六〇〇圓大林組
近衛師團經理部（指名九月二十四日開札）
陸軍糧秣本廠流山秣倉庫排水溝其他追加工事及作業場ピット其他修繕　二五、七〇〇圓（落札）　林德松
東京市役所（指名九月二十四日開札）
街路第三〇七號路線自麴町五丁目至市ケ谷見附鋪道車道歩道工事　五九、七〇〇圓落札三ツ引商事株式會社　一一六、四〇〇圓（落札）　日本石油株式會社　一二三、八〇〇圓安藤組　一三二、三〇〇圓大倉土木株式會社　一三七、八〇〇圓鐵道工業株式會社　一三九、〇〇〇圓橋本店　一五二、〇〇〇圓　清水組
公入札九月十七日開札　魚市場店舗及組合事務所新築等並排水工事　二一、五〇〇圓（落札）　藤澤孝一郎
東京市役所（指名九月十九日開札）
江戸川橋改築工事　三九、七〇〇圓（落札）　三ツ引商事株式會社

○圓竹中工務店
同再入札　一一一、七〇〇圓（超過）　水野組
一一二、四〇〇圓藤本組
東京市役所（公入札十月三日開札）
下水課砂町工區事務室其他新築工事　一一二、三四六圓（落札）　逸見欽平
東京市役所（工事公入札十月八日開札）
玉川新水路第四號橋外九橋架換其他工事　二三四〇〇圓（豫定未滿無効）　久保田組　一一二、八〇〇圓（落札）　石井丑之助
指名十月八日開札　街路第一三五號路線自傳通院前至白鳥橋鋪道車道歩道工事　三二、八〇〇圓（超過）　都市工業會社
同再入札　三二、八〇〇圓（落札）都市工業會社
海軍省經理局（指名十月八日開札）
海軍火藥廠舍附屬圖書庫新築工事　一九、四八〇圓（超過）　清水組
警視總監官房會計課（指名十月十二日開札）
本所向島警察署建築工事　一〇二、八〇〇圓（落札）戸田組　一一一、四五〇圓水野組　一一二、九〇〇圓藤本組　一一二、三〇〇圓橋本組　一一三、〇〇〇圓　松村組　一一六、〇〇〇圓　大林組　一一七、〇〇〇圓清水組　一一七、八四五圓　大倉土木株式會社　一一八、五〇〇圓安藤組　一一一、八〇〇圓錢高組　一二七、五〇〇圓竹中工務店
療養所慰安室其他工事　九五、七〇〇圓（超過）　清水組
警視總監官房會計課（指名十月十二日開札）
本所向島警察署建築工事　一〇二、八〇〇圓（落札）戸田組　一一一、四五〇圓水野組　一一二、九〇〇圓藤本組　一一二、三〇〇圓橋本組　一一三、〇〇〇圓　松村組　一一六、〇〇〇圓　大林組　一一七、〇〇〇圓清水組　一一七、八四五圓　大倉土木株式會社　一一八、五〇〇圓安藤組　一二一、八〇〇圓錢高組　一二七、五〇〇圓竹中工務店
療養所慰安室其他工事　九五、七〇〇圓（超過）　清水組
警視總監官房會計課（指名十月十二日開札）
本所向島警察署建築工事　一〇二、八〇〇圓（落札）戸田組　一一一、四五〇圓水野組　一一二、九〇〇圓藤本組　一一二、三〇〇圓橋本組　一一三、〇〇〇圓　松村組　一一六、〇〇〇圓　大林組　一一七、〇〇〇圓清水組　一一七、八四五圓　大倉土木株式會社　一一八、五〇〇圓安藤組　一二一、八〇〇圓錢高組　一二七、五〇〇圓竹中工務店
海軍火藥廠舍附屬圖書庫新築工事　一九、四八〇圓（超過）　清水組
警視總監官房會計課（指名十月十二日開札）
本所向島警察署建築工事　一〇二、八〇〇圓（落札）戸田組　一一一、四五〇圓水野組　一一二、九〇〇圓藤本組　一一二、三〇〇圓橋本組　一一三、〇〇〇圓　松村組　一一六、〇〇〇圓　大林組　一一七、〇〇〇圓清水組　一一七、八四五圓　大倉土木株式會社　一一八、五〇〇圓安藤組　一二一、八〇〇圓錢高組　一二七、五〇〇圓竹中工務店
療養所慰安室其他工事　九五、七〇

事及同隊第十等兵舍震害復舊工事　二四一、一〇〇圓（落札）　藤田組
定吉　二四六、〇〇〇圓清水組　二七二、七〇〇圓松村組　二七九、五〇〇圓林　德松　二八四、六〇〇圓松本組　二八四、八〇〇圓安藤組　二八八、〇〇〇圓錢高組　二九五、〇〇〇圓戶田組　三七八、一一九圓大倉土木株式會社
東京市役所（指名十一月十日開札）
明石橋改築工事　四九、一〇〇圓（超過）　鈴木由三郎
東京市役所（公入札十一月二十一日開札）
大橫川筋本所區西橫川河岸一等地先外七ケ所堅閧知護岸修繕工事金一一、二八〇圓（落札）　田淵組
警視總監官房會計課（指名十一月二十日開札）
下谷坂本警察署建築工事　一〇九、七〇〇圓（落札）　松村組　一一六、〇〇〇圓錢高組　一一九〇〇〇圓戶田組　一一九、九〇〇圓安藤組　一一二、八〇〇圓淺野同族株式會社　一一二六、八〇〇圓東組　一一七二三〇圓竹中工務店　一二八、〇〇〇圓清水組　一二九、二〇〇圓藤田組　一三九、八〇〇圓藤本組　一三三、〇〇〇圓鹿島組　一三五、九八五圓大倉土木株式會社　一三六、〇〇〇圓大林組　一三八、〇〇〇圓大阪橋本組　山田組　一四一、〇〇〇圓高梨定吉　一四六、〇〇〇圓清水組　一四七、六〇〇圓松村組　一四八、三〇〇圓松本組　一四八、〇〇〇圓錢高組　一四九、七〇〇圓（落札）　久保田種吉
東京市役所（指名十二月一日開札）
下水課錢瓶町ポンプ場上家新築工事　一五一、六〇〇圓（落札）　清水組　一六二、四五六圓大倉土木株式會社　一六二、二〇〇圓安藤組　一七九、六〇〇圓淺野同族株式會社　一八六、三〇〇圓大林組　一八八、八〇〇圓藤呂組　一九五、〇〇〇圓竹田組　二一八、〇〇〇圓竹中工務店　二一八、〇〇〇圓錢高組　二二五、〇〇〇圓大塚盛一　二四六、四〇〇圓東洋コンプレツソル會社
公入札十二月一日開札
麻布區飯倉町五ノ五五地先古川筋北赤羽河岸道路局及水道局各出張所構內鐵筋混凝土護岸築造工事　一五、一〇〇圓（落札）　江口忠一
東京市役所（指名入札十二月三日開札）
中之橋改築工事　三七、二〇〇圓（落札）　安藤熊吉
三崎橋復舊工事　三五、〇〇〇圓（超過）　小曾根久八
東京市役所（指名入札十二月十五日開札）
牛込區神樂河岸塵芥取扱場改築工事　一九、五〇〇圓（超過）　小田末吉
東京市役所（公入札十一月二十六日開札）
第三區三ノ橋排水區枝線內號工事　四五、五五〇圓（超過）　竹田組
東京市役所（公入札十二月二十八日開札）
東京市區劃整理局第一出張所廳舍共他新築工事　三九、七〇〇圓（落札）　久保田種吉
東京市役所（指名入札十二月一日開札）
二之橋改築工事　二二、二〇〇圓（超過）　大野銓吉
府下南葛飾郡大島町役場（公入札十二月十一日開札）
第二大島尋常高等小學校建築工事　一二六、一七〇圓（落札）　大岩組　一三一、七〇〇圓田島重吉　一三七、八〇〇圓白倉久吉　一四四、八六〇圓青木常太郎　一四七、〇〇〇圓玉野治助　一四七、五〇〇圓遠藤君藏　一五六、〇〇〇圓辻紋次郎　一五八、九〇〇圓日本土木建築會社　一五九、〇〇〇圓藪田幸太郎　一六七、八〇〇圓森野政平　一六八、〇〇〇圓木曾周太郎　一六九、〇〇〇圓田村桑三郎　一七二、八三二圓大倉土木株式會社
第三大島尋常小學校新築工事　三五、二〇〇圓（超過）　小曾根久八
東京市役所（指名入札十二月十五日開札）
築地排水區枝線工事　七六、三〇〇圓（落札）　田島組
芝新堀河岸フンニウ溜新設工事　二四、六〇〇圓（落札）　井野久太郎
第一師團經理部
陸軍砲兵學校本部及演習砲臺床其他破損復舊工事　一二、六〇〇圓（落札）　石井猪吉
二之橋改築工事　二二、二〇〇圓（超過）　大野銓吉
府下南葛飾郡大島町役場（公入札十二月十一日開札）
第二大島尋常高等小學校建築工事　一二六、一七〇圓（落札）　大岩組　一三一、七〇〇圓田島重吉　一三七、八〇〇圓白倉久吉　一四四、八六〇圓青木常太郎　一四七、〇〇〇圓玉野治助　一四七、五〇〇圓遠藤君藏　一五六、〇〇〇圓辻紋次郎　一五八、九〇〇圓日本土木建築會社　一五九、〇〇〇圓藪田幸太郎　一六七、八〇〇圓森野政平　一六八、〇〇〇圓木曾周太郎　一六九、〇〇〇圓田村桑三郎　一七二、八三二圓大倉土木株式會社
第三大島尋常小學校新築工事　三五、二〇〇圓（超過）　小曾根久八
東京市役所（指名入札十二月十五日開札）
牛込區神樂河岸塵芥取扱場改築工事　一九、五〇〇圓（超過）　小田末吉

同再入札　一八、三五〇圓（超過）　大塚盛一
陸軍造兵廠工事（指名十二月十七日開札）
一號板橋火藥製造所補修工事　四三、三五〇圓（超過）　大阪橋本組
二號十條兵器製造所補修工事　五八、三〇〇圓（落札）　大岩組
三號王子火藥製造所補修工事　八三、四〇〇圓（超過）　大岩組
同再入札　八一、〇〇〇圓（落札）　鹿島組
東京市役所（工事公入札十二月十九日開札）
第一區高輪自芝區白金三光町至麻布區田島町枝線工事　一四、三〇〇圓（落札）　大丸組
（工事指名十二月十九日開札）第一區中段自板橋至石神井川幹線工事　一〇七、〇〇〇圓（落札）　三ッ引商事株式會社　二一一、〇〇〇圓大林組　二一六、五〇〇圓有馬組　二三一、〇〇〇圓鹿島組　二三二、〇〇〇圓鐵道工業合資會社
街路第三十三號路線大手町吳服橋間鋪道車道步道工事　七九、九七〇圓（落札）　日本石油株式會社
東京遞信局（工事指名入札十二月二十一日開札）
保谷日野間市外電話地下線工事　二〇、八一三圓七〇錢（超過）　宮長平作
同再入札　一九、四八五圓（落札）　宮長平作
工事指名十二月二十二日開札　療養所新築一棟並慰安室暖房及消毒給湯用給蒸汽工事　五六、九九五圓（落札）　內田商事株式會社
（工事公入札十二月二十二日開札）猿江公衆食堂新築工事　一〇、五〇〇圓（超過）　淺野同族株式會社
第一師團經理部
士官學校飛行機庫新築工事　九二、七〇〇圓（超過）　橋本組工業合資會社　九四、八〇〇圓馬淵組　九八、五〇〇圓竹田組　一〇三、二〇〇圓安藤組　一〇九、三〇〇圓錢高組　一一一、二〇〇圓大倉土木株式會社　一一二、七〇〇圓大林組　一一五、〇〇〇圓清水組　一一五、〇〇〇圓松本組　一一九、八〇〇圓淺野同族株式會社　一四七、六〇〇圓竹中工務店　一五〇、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社
同再入札　九一、五〇〇圓（落札）　橋本組工業合資會社
鐵道省經理局鐵道第二改良工事
田端客車駐留線建圖其一建物工事　四一、八〇〇圓（落札）　竹田組
神田區役所
神田淡路町小學校建築工事　二五三、〇〇〇圓（超過）　木田組　二六七、二〇〇圓安藤組　二六八、三〇〇圓錢高組　二七八、〇〇〇圓石井楮藏　二七八、二〇〇圓松村組　二七九、四〇〇圓竹田組　二八二、〇〇〇圓大林組　二八六、〇〇〇圓長谷川組　二八八、〇〇〇圓藤本組

近衛師團經理部（工事指名十二月二十八日開札）
下志津飛行學校兵舍新築其他工事　二八四、八〇〇圓（超過）　高梨定吉　三一〇、二〇〇圓橋本組工業合資會社　三一一、九〇〇圓錢高組　三一二、〇〇〇圓藤田組　三一三、九三〇圓清水組　三一八、五〇〇圓安藤組　三二〇、〇〇〇圓戸田組　二七五、〇〇〇圓（隨意契約）　東組高梨定吉

工事指名十二月二十八日開札　陸軍獸醫學校蹄鐵工場火災復舊工事　一三、二四〇圓（超過）　米澤助五郎

同再入札　一二、六〇〇圓（超過）　關口友之進

第一師團經理部（指名二月二日開札）

陸軍重砲兵學校五十四號厩舍ヲ講堂ニ模樣替其他工事　一六、四〇〇圓（超過）　北田工務所

東京市役所（工事公入札一月十二日開札）

深川區東平井町地內補助街路第五號線一部地上工事一四、一四〇圓（落札）　大野銓吉

東京市役所（一月九日開札）

玉川上水路千川分水上流混凝土護岸築造並附帶工事　二七、九八〇圓（超過）　井野久太郎

下水課砂町工區事務室其他新築工事（一月九日開札）一四、三七〇圓（落札）　北野明吉

東京市役所（一月二十三日開札）

一ノ橋改築工事　三四、八〇〇圓（落札）　平島市太郎

丸ノ內排水區其一、二幾枝線工事　二七、九八〇圓（落札）　神谷多一郎

濠池筋牛込區市ケ谷田町二丁目先自新見附下至市ケ谷見附下間濠內浚渫工事　一三、三二〇圓（落札）　前澤元之助

東京市役所（一月二十六日開札）

東京市療養所看護婦食堂兼圖體參觀者控室及同上附屬廊下昇降口炊事室新築工事　一六、三〇〇圓（落札）　鈴木太平

遞信局（指名一月二十七日開札）

馬入川電信電話地下管線新設工事　三一、四九〇圓九五錢（落札）　久原工事部宮永平作

日比谷公園音樂堂改築工事九、七八〇圓（超過）　高野金太郎

東京市役所（一月二十八日開札）

錢瓶町喞筒場工作場及物置新設工事　一二、七〇〇圓（超過）　清水組

第一師團經理部（十二日開札）

陸軍自動車學校其他水道新設工事　三一、五六三圓（落札）　東洋工業社

東京市役所（指名入札二月十三日開札）

廣尾市立病院特別病舍建築工事　一二三、〇〇〇圓（落札）　五二六、七五〇圓清水組　五四〇圓（超過）　大塚盛一

馬入川電信電話地下管線新設工事　三一、四九〇圓九五錢（落札）　久原工事部宮永平作

日比谷公園音樂堂改築工事九、七八〇圓（超過）　高野金太郎

東京市役所（一月二十八日開札）

錢瓶町喞筒場工作場及物置新設工事　一二、七〇〇圓（超過）　清水組

第一師團經理部（十二日開札）

陸軍自動車學校其他水道新設工事　三一、五六三圓（落札）　東洋工業社

東京市役所（指名入札二月十三日開札）

廣尾市立病院特別病舍建築工事　一二三、〇〇〇圓（落札）　五二六、七五〇圓清水組　五四〇圓（超過）　大塚盛一

九二、〇〇〇圓竹田組　五九三、二八四圓森田福一　六三二、〇〇〇圓竹中工務店

近衛師團經理部（指名二月十九日開札）

陸軍科學研究所本部其他新築工事　五〇八、八〇〇圓（落札）　橋本組工業合資會社　五四六、〇〇〇圓藤田組　五六二、〇〇〇圓高梨定吉

五六八、九〇〇圓大倉土木株式會社　五七八、五〇〇圓錢高組　五八二、〇〇〇圓安藤組　五八四、〇〇〇圓松本組　五八五、三〇〇圓戸田組　五八九、〇〇〇圓清水組

警視廳營繕課（指名入札二月二十三日開札）

月島警察署相生橋外四ケ所巡査派出所建築工事一〇、五〇〇圓外山繁太郎

第一師團經理部（指名二月二十三日開札）

陸軍自動車學校修理及組立工場增築模樣替其他工事　三三、七〇〇圓（落札）　馬場德司

淺草區千束堀區劃整理街路築造工事　八九、五〇〇圓（落札）　勝呂組

海軍省經理局（指名三月二日入札）

霞浦航空隊水上偵察機格納庫新營外二廉工事九二、二〇〇圓（落札）　清水組　一一四、五〇〇圓中島組　一二三、〇〇〇圓竹田組　一三二、五〇〇圓有馬組　一三五、〇〇〇圓大阪橋本組

指名入札三月二日開札　業平排水區北割下水取付枝線工事　二五、八七〇圓（落札）　齋藤助六

京橋區築地二丁目新架橋十八A新築工事　七

五、三〇〇圓（落札）　清水組

和田堀新宿間排水管一部敷設工事　四八、七八〇圓（超過）　齋藤助六

同再入札　四七、九八〇圓（超過）　齋藤助六

蒲田町役場

蒲田第二尋常小學校々舍新築外三廉工事　三六一五〇圓（落札）　月村組

小石川區水道橋芥取扱所新築工事　一九、四五〇圓　大塚盛一

近衛師團經理部

所澤飛行場各修繕外三廉工事　一二、三八〇圓（落札）　關口友之進

東京市役所（指名入札三月十六日開札）

愛宕排水自芝區新錢座町至芝離宮側雨水吐工事三一、九〇〇圓（落札）　下田助次郎

東京府營繕課

第三中學校々舍新築工事　四〇五、六〇〇圓（落札）　水田末吉　四〇六、九八五圓建築與業株式會社　四二五、〇〇〇圓戶田組　四三二、〇〇〇圓安藤組　四三四、〇〇〇圓飛島組　四三八、七〇〇圓大林組　四四五、〇〇〇圓竹田組　四四七、〇〇〇圓松村組　四四八、六〇〇圓錢高組　四四九、〇〇〇圓服部竹次郎　四六五、五〇〇圓三ツ引商事株式會社　四七五、〇〇〇圓古島定次郎　四七〇、〇〇〇圓松本組　四九二、〇〇〇圓木內組

東京市役所（指名二月二十三日開札）

萬年小學校新校舍新築工事　一一三、〇〇〇圓（超過）　松村組　一一六、〇〇〇圓藤本組　一一九、〇〇〇圓建築與業株式會社　一二〇、五〇〇圓（落札）　建築與業同再入札　一二〇、五〇〇圓藤本組　一二一、七〇〇圓錢高組　一二二、七二〇圓（落札）　木會周太郎

野方町第五尋常小學校々舍並附屬建物新築工事六七、八八二圓（落札）　鹽坂淺次郎　六八、〇〇〇圓（無効）南雲善作

東京市役所（四月十五日開札）

補助街路第六號路線一部街路築造並ニ下水改良工事　一〇、七五〇圓（落札）　南出豐作

東京市役所指名入札開札（四月十九日）

區劃整理局用臨時收容移動式住宅二百棟移動式物置百棟供給　一二四、四〇〇圓荒川常吉　一四四、〇〇〇圓竹田組　一四五、〇〇〇圓神谷太一郎　一四五、四八、六〇〇圓勝村幾之助　一四八、五〇〇圓勝呂組　一五六、八〇〇圓（落札）　清水組　一五九、四五〇圓清水組　一六二、六七、八〇〇圓橋本店　一六九、八〇〇圓日本工業合資會社　一七三、八〇〇圓錢高組　一九五、七六〇圓大倉土木株式會社　二一三、六〇〇圓大林組

深川產院復舊工事指名入札（四月二十四日開札）

同再入札　三八、二〇〇圓（隨意契約）　庄司保之助

東京市役所

大久保市立病院特別病舍新設工事指名入札（五月四日開札）三四三、〇〇〇圓（落札）　錢高組　三五四、〇〇〇圓安藤組　三五五、五〇〇圓

櫻田機械製作所

第三區工區三之橋排水區齋藤堀枝線工事　四一八〇〇圓（超過）　大塚盛一

同再入札　四一、四〇〇圓（超過）　大塚盛一

東京市役所指名入札（四月二十日開札）

本鄉區湯島三丁目御茶ノ水橋際土留工事　二三四八〇圓（落札）

本鄉區御茶ノ水橋際ヨリ水道橋ニ至ル土留工事一一、三五〇圓（落札）　齋藤文藏

東京市役所指名入札（四月二十二日開札）

四之橋改築工事　一四三、八〇〇圓（落札）　勝呂組　一四六、七〇〇圓宮永平作　一五七、四〇〇圓鐵道工業株式合資會社　一五八、五〇〇圓安藤組　一五九、四五〇圓清水組　一六二、〇〇〇圓飛島組　一六六、五〇〇圓竹田組　一六七、八〇〇圓橋本店　一六九、八〇〇圓日本工業合資會社　一七三、八〇〇圓錢高組　一九五、七六〇圓大倉土木株式會社　二一三、六〇〇圓大林組

深川產院復舊工事指名入札（四月二十四日開札）

同再入札　三八、二〇〇圓（隨意契約）　庄司保之助

東京市役所

大久保市立病院特別病舍新設工事指名入札（五月四日開札）三四三、〇〇〇圓（落札）　錢高組　三五四、〇〇〇圓安藤組　三五五、五〇〇圓

永繩　三五四、八〇〇圓石井權藏　三八六、〇〇〇圓大林組　四〇九、七八〇圓大倉土木株式會社　四二二、〇〇〇圓竹田組　四二四、五〇〇圓竹中工務店　四四五、三五〇圓森田福市

東京市役所

都市計劃事業街路二等大路第一類第七號路線改築工事　四三、五五〇圓（超過）大丸組

同再入札　四二、二三〇圓（落札）　大丸組

赤坂溜池六本木間鋪道工事　八二、三六一圓（超過）日本石油株式會社

東京市役所指名入札

濱町排水區其他枝線工事　七七、二八〇圓（落札）齋藤助六

警視廳監房會計課

代々幡警察署建築工事　五五、九〇〇圓（落札）

高橋鍾一郎

埃芥處理工場新築工事（指名入札）　一七八、七〇〇圓（落札）　清水組　一七八、七八〇圓森田福一　一七九、四八〇圓安藤組　一八二、七〇〇圓大林組　一八六、八〇〇圓錢高組　一八九、八四〇圓　大倉土木　一九二、三〇〇圓戸田組　一九五、〇〇〇圓石井權藏　一九八、五五〇圓竹田組　二〇五、九六〇圓大阪橋本組　二〇八、五五〇圓竹中工務店　二一八、〇〇〇圓藤本清次郎

芝區愛宕公園崖地方面復舊工事第一工區（公入札）　一一九、八〇〇圓入見組

東京市立廣尾病院普通病舍本館特別病舍電氣新設工事　三三、四九〇圓（超過）　弘電社

長野縣更級郡青木島村役場工事入札

大塚小學校々舍增築工事　一三、九六五圓（落札）越野高治郎

札幌鐵道局工事指名入札

溜棚線第一工區工事　一四二、二〇〇圓（落札）

竹內組

羽幌線第三工區工事　二六一、〇〇〇圓（落札）

栗原組

神奈川縣廳工事入札

鎌倉師範學校工事　一三四、七〇〇圓（落札）

久良木組　一三六、〇〇〇圓建築興業株式會社　一四一、九〇〇圓宇津木組　一四八、〇〇〇圓日本工事株式會社　一六二、〇〇〇圓丸山貞吉　一六四、二四四圓大倉土木株式會社

橫濱市役所工事指名入札

浦島小學校新築工事　三〇一、〇〇〇圓（超過）

安藤組

神奈川縣廳工事指名入札

第二衞生試驗所新築工事　一一九、九〇〇圓（超過）日本工事株式會社

神奈川縣廳工事指名入札

第二衞生試驗所新築工事再入札　一一八、九〇〇圓（超過）日本工事株式會社　一一

札）三三、九〇〇圓（落札）岩崎良之助代高花一郎

芝區愛宕公園崖地方面復舊工事第四工區　二九五〇〇圓（落札）　戸澤八五郎

東京市役所指名入札

丸ノ內排水區其八枝線工事　六六、七〇〇圓（落札）戸澤八五郎

本所區役所假廳舍新築其他工事　一〇、六八〇圓（落札）　金井語一

東京市役所指名入札

辨慶橋改善工事　五一、三〇〇圓（落札）　中野喜三郎

熊吉

街路二七六號路線自高樹町至青山六丁目補道工事　三八、九八〇圓（落札）　齋藤助六

大橫川筋本所區菊河岸自七號至二十八號地先混凝土塊護岸改築並護岸修築工事（公入札）　一五八八〇圓（落札）　田澤源次郎

大塚病院構內倉庫新設並在來建物取毀工事（公入札）　一六、六〇〇圓（落札）　三神爲吉

濠池赤坂區傳馬町一丁目自一番地至二十番地先護岸石垣改築工事　一四、七八〇圓（落札）

神谷太一郎

臨時收容移動式住宅百棟　四九、〇〇〇圓（落札）　末田保藏

東京府深川區役所

深川區市立明治及明治第二小學校新設工事（指名）　四四四、〇〇〇圓（落札）　荒川組　四五四、三二九圓近藤文太郎　四六七、〇〇〇圓大林組

東京市役所

中央卸賣市場江東分場新築工事（指名）　三二四、〇〇〇圓（落札）　錢高組　三三六、〇〇〇圓

竹田組

中段線路自昌平橋至淡路町幹線工事　一四、〇〇〇圓（隨契）　武井與四郎

東京市役所指名入札（六月一日開札）

廣尾市立病院特別病室衞生及淨水裝工事　四〇〇圓安藤組　七二三、〇〇〇圓大林組　七四六、六〇〇圓荒川組　七六五、〇〇〇圓近藤文太郎　七七四、四五〇圓大倉土木　七八六、〇〇〇圓清水組　八六五、〇〇〇圓鹿島組

同再入札　六九一、七〇〇圓（超過）大林組　七〇一、二〇〇圓戸田組　七〇一、五〇〇圓安藤組

東京市役所

青山葬儀場新築並移築工事（公入札）　四一、二〇〇圓（落札）　中野喜三郎

街路二四五號線路自牛込區揚場町至同サカナ町補道工事（指名入札）　三三、六三三圓（落札）

日本石油株式會社

中段線路自昌平橋至淡路町幹線工事（指名入札）　一四、七五〇圓（豫定超過）　武井與四郎

東京市役所

市立元加賀尋常小學校新設工事（指名）　四四四七〇〇圓（落札）　荒川組　四五四、三二九圓近藤文太郎　四六七、〇〇〇圓大林組

東京市役所

青山葬儀場新築並移築工事（公入札）　四一、二〇〇圓（落札）　中野喜三郎

街路二四五號線路自牛込區揚場町至同サカナ町補道工事（指名入札）　三三、六三三圓（落札）

日本石油株式會社

中段線路自昌平橋至淡路町幹線工事（指名入札）　一四、七五〇圓（豫定超過）　武井與四郎

東京市役所指名入札（六月一日開札）

廣尾市立病院特別病室衞生及淨水裝工事　四〇

九、七五〇圓久良木組　一一九、八〇〇圓入見組

文部省工事指名入札

千葉醫科大學精神病室附屬舍新營工事　一五一〇〇〇圓（落札）　井上合資會社

東京市役所指名入札（三日開札）

街路第九三號路線自三宅坂至舊赤坂村第一鋪道車步道工事　二五、四九五圓（落札）都市工業株式會社

復興局第二出張所工事指名入札

堀留橋補護岸工事　二一、九六九圓七〇錢（特命）田組

復興局第一出張所

起生橋新設工事內上部殘部工事　二八、五九〇圓（特命）　山路時也

東京府內務部土木課指名入札

二等大路第一類第十號線ノ一部自豐多摩郡澁谷町下澁谷字鎗ケ崎一一六九番地至荏原郡目黑町字別所六二番地水路橋及鐵筋混凝土擁壁築立工事　四一二、六〇〇圓（再入札の分）（超過）野口組

東京市役所

本鄉區自御茶ノ水至水道橋一部第六工區土留工事　一一、六〇〇圓（落札）　南出豐作

警視廳監房會計課

日暮里警察署建築工事　五七、七〇〇圓（超過）　東組

同再入札　五六、六〇〇圓（超過）　東京市役所

青山葬儀場新築並移築工事（公入札）　二八、四八圓（豫定超過）　小泉岩吉

月島二號地市營浴場新築工事（指名）　二六、七〇〇圓（落札）　荒川組荒川常吉　二六、八三〇圓安藤熊吉

淺草區田中町婦人授產場新築工事（指名）　三七九八〇圓（落札）　大塚盛一　三八、九五〇圓古久根組

麴町區役所廳舍建設工事（指名）　二〇六、七〇〇圓（落札）　大林組　二一九、〇〇〇圓戸田組　二二一、二〇〇圓安藤組

廣尾病院看護婦寄宿舍及屍室建設工事　六三、八〇〇圓（豫定超過）　戸田組

猿江市營浴場新築工事　一三、八五〇圓（落札）藤田平十郎

東京府廳營繕課

化學工業學校々舍新築工事指名入札（六月十日開札）　四八〇、〇〇〇圓（落札）　芝江組　四九六、九〇〇圓松村組　四九八、〇〇〇圓清水組　五一二、〇〇〇圓安藤組　五二三、九〇〇圓大倉土木　五二六、〇〇〇圓戸田組　五四九、三〇〇圓竹田組　五五三、〇〇〇圓錢高組　五六二、〇〇〇圓服部竹次郎　五九四、七〇〇圓神谷太一郎　六〇三、七〇〇圓大林組　六一八、〇〇〇圓飛島組　六三〇、〇〇〇圓松本組

東京市役所

青山葬儀場新築並移築工事（公入札）　二八、四八圓（豫定超過）　小泉岩吉

警視廳營繕課
警察教習所建築工事（指名）　二〇六、〇〇〇圓（超過）　淺野同族コンクリート部　二一一、三〇〇圓鐵筋組　二一五、〇〇〇圓清水組　二一六、〇〇〇戸田組　二一九、八三〇圓大倉土木　二二八、〇〇〇圓竹中工務店

海軍省工事指名入札
霞ヶ浦歐洲航空船格納庫風害箇所復舊工事　二九、五〇〇圓（落札）　清水組

東京市本所區役所工事指名入札
二葉小學校新築工事　三六四、五一〇圓（超過）　鴻池組　三六六、七二〇圓大阪橋本組　三七三　三二五圓安藤組　三七〇、〇六〇圓淺野同族株式會社　三九一、九〇〇圓戸田組　三九八、七〇〇圓大林組　四〇二、二五〇圓大倉土木株式會社　四〇八、五〇〇圓富樫組　四一四、五〇〇圓藤本清次郎　四一九、八〇〇圓清水組　四二〇、〇三〇圓竹田組

文部省司計課工事指名入札
横濱高商周圍境界其他工事　二二一、七二二圓（落札）　周參見昌隆

卿筒式浚渫船一隻建造工事　一六三、〇〇〇圓（落札）　大阪鐵工所　一六九、四〇〇圓神戸製工所

ホテル蓬萊閣株式會社工事指名入札
蓬萊閣新築工事　二〇九、三〇〇圓（落札）　廣島藤田組

文部省工事指名入札
第五金澤醫科大學病理學標本庫外七廉工事　三二、六五〇圓（落札）　高岡仁作

街路第三五〇號路線自土州橋至水天宮鋪道車步道工事（指名）　二九、六八〇圓（豫定超過）　日本石油株式會社

小石川區日初音町至水道橋幹線ノ內自餌差町至富坂下工事　三二、九八〇圓（落札）　平島市太郎

芝區役所假廳舍新築工事　一三、三〇〇圓（落札）　長郷組

東京市埠頭事務所其他新築工事　二一、七四〇圓（落札）　無淵廣一郎

海軍省
東京無線電信船橋送信所修繕工事（指名）　五三七〇〇圓（落札）　石綿金太郎

復興局第四出張所工事指名入札
小名木川筋改修第一工區の護岸壁工事　一九、四九〇圓（落札）　宮永平作

東京市役所
本郷區自御茶水道橋至水道橋際間一部（第四工區）土留工事　二一、〇三五圓（超過）　神谷太一郎

大平町復興局盛土工事　一三、七三四圓（落札）　大倉土木株式會社

東京市役所指名入札（二十六日開札）
新架橋四四B下部構造新築工事　二一一、八〇〇圓（不調）　橋本組工業合資會社

再入札　九三、八〇〇圓（不調）　橋本組工業合

〇〇圓（落札）　鐵道工業株式合資會社　一一一、〇〇〇圓大林組　一一八、六七四圓大倉土木株式會社　一二四、六〇〇圓橋本店　一二四、八〇〇圓鐵高組　一二七、七〇〇圓安藤組　一二九、九六〇圓久原鑛業株式會社　一三二、〇〇〇圓栗原源造　一三五、三〇〇圓竹田組　一四五、〇〇〇圓日本工業合資會社　一四九、〇〇〇圓清水組

東京市役所指名入札（二日開札）
自市ケ谷河田町至市ケ谷谷町枝線甲號工事　六一、八〇〇圓（超過）　鴻池組

文部省工事指名入札
新潟醫科大學附屬病院小兒科病室新營工事　六二、六〇〇圓（落札）　鈴木太平

東京府內務部土木課指名入札（三日開札）
一等大路第三類第九號荏原郡目黒町大字上目黒地內割栗石外四點　五五、九六〇〇四二錢（落札）　大澤正雄

第一師團經理部
東京灣要塞司令部走水事務所新增築工事（指名）　一〇、七三五圓（落札）　石井猶吉

第一師團經理部
陸軍士官學校震災復舊工事ノ內隔離厩復舊其他工事（指名）　九五、八〇〇圓（超過）　橋本組工業合資會社

養會社
復興局第一出張所工事指名入札
幹線十八號線自櫻田本郷町至虎ノ門間鋪裝工事　二七、二八〇圓（落札）　東海工業合資會社

東京府內務部土木課指名入札（五日開札）
第一號東京青梅線（市界）豐多摩郡淀橋町大字角筈道路工事長百六十三間三分幅十二間一箇所　四〇、九〇〇圓（超過）　日本石油株式會社

遞信省營繕課工事指名入札
札幌郵便局電話分局新築工事　二九七、六〇〇圓（落札）　伊藤龜太郎　三二二、〇〇〇圓田中銀次郎　三四五、二〇〇圓安藤組　三四九、〇〇〇圓木田保造　三五一、四四八圓大越讓平　三五六、六六四圓新開新太郎　三五八、九八四圓加藤忠三　三七八、一六〇圓瀨崎初五郎　四〇七、九九二圓大林組　四〇八、九二〇圓橋本組　四三四、六五六圓清水組

埼玉縣々廳及警察廳舍增築工事　四一、五〇〇圓（超過）　鴨志田新太郎

神奈川縣廳工事指名入札
商工實習學校附屬家並實習工場其他新築工事　一四五、〇〇〇圓（超過）　日本工事株式會社　一四六、七〇〇圓宇津木馬造　一四六、九〇〇圓村上菊藏　一四七、五〇〇圓多田順三郎　一五四、一〇〇圓淺野同族株式會社　一六七、〇〇〇圓橋本組　一七〇、〇〇〇圓橋本組　一七二、〇〇〇圓大倉土木株式會社　一七六、八〇〇圓建築興業株式會社　一八五、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　二四二、〇〇〇圓安藤組　二六〇、〇〇〇圓大倉土木株式會社　二六二、五四三圓大倉土木株式會社　二七四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　二九七、八五〇圓芝江初五郎　二〇〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　二一八、五〇〇圓三木多助　二三一、〇〇〇圓清水組　二三三、七〇〇圓大林組　二三九、八〇〇圓建築興業株式會社　二四二、〇〇〇圓安藤組　二六〇、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　二六二、五四三圓大倉土木株式會社　二七四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　二九七、八五〇圓芝江初五郎　三〇〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　三一八、五〇〇圓三木多助　三三一、〇〇〇圓清水組　三三九、八〇〇圓建築興業株式會社　三四二、〇〇〇圓安藤組　三四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　三四二、五四三圓大倉土木株式會社　三四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　三四七、八五〇圓芝江初五郎　三五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　三五一、〇〇〇圓清水組　三五三、七〇〇圓大林組　三五九、八〇〇圓建築興業株式會社　三六二、〇〇〇圓安藤組　三六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　三六二、五四三圓大倉土木株式會社　三六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　三六七、八五〇圓芝江初五郎　三七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　三七一、〇〇〇圓清水組　三七三、七〇〇圓大林組　三七九、八〇〇圓建築興業株式會社　三八二、〇〇〇圓安藤組　三八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　三八二、五四三圓大倉土木株式會社　三八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　三八七、八五〇圓芝江初五郎　三九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　三九一、〇〇〇圓清水組　三九三、七〇〇圓大林組　三九九、八〇〇圓建築興業株式會社　四〇二、〇〇〇圓安藤組　四〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　四〇二、五四三圓大倉土木株式會社　四〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　四〇七、八五〇圓芝江初五郎　四一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　四一一、〇〇〇圓清水組　四一三、七〇〇圓大林組　四一九、八〇〇圓建築興業株式會社　四二二、〇〇〇圓安藤組　四二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　四二二、五四三圓大倉土木株式會社　四二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　四二七、八五〇圓芝江初五郎　四三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　四三一、〇〇〇圓清水組　四三三、七〇〇圓大林組　四三九、八〇〇圓建築興業株式會社　四四二、〇〇〇圓安藤組　四四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　四四二、五四三圓大倉土木株式會社　四四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　四四七、八五〇圓芝江初五郎　四五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　四五一、〇〇〇圓清水組　四五三、七〇〇圓大林組　四五九、八〇〇圓建築興業株式會社　四六二、〇〇〇圓安藤組　四六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　四六二、五四三圓大倉土木株式會社　四六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　四六七、八五〇圓芝江初五郎　四七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　四七一、〇〇〇圓清水組　四七三、七〇〇圓大林組　四七九、八〇〇圓建築興業株式會社　四八二、〇〇〇圓安藤組　四八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　四八二、五四三圓大倉土木株式會社　四八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　四八七、八五〇圓芝江初五郎　四九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　四九一、〇〇〇圓清水組　四九三、七〇〇圓大林組　四九九、八〇〇圓建築興業株式會社　五〇二、〇〇〇圓安藤組　五〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　五〇二、五四三圓大倉土木株式會社　五〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　五〇七、八五〇圓芝江初五郎　五一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　五一一、〇〇〇圓清水組　五一三、七〇〇圓大林組　五一九、八〇〇圓建築興業株式會社　五二二、〇〇〇圓安藤組　五二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　五二二、五四三圓大倉土木株式會社　五二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　五二七、八五〇圓芝江初五郎　五三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　五三一、〇〇〇圓清水組　五三三、七〇〇圓大林組　五三九、八〇〇圓建築興業株式會社　五四二、〇〇〇圓安藤組　五四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　五四二、五四三圓大倉土木株式會社　五四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　五四七、八五〇圓芝江初五郎　五五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　五五一、〇〇〇圓清水組　五五三、七〇〇圓大林組　五五九、八〇〇圓建築興業株式會社　五六二、〇〇〇圓安藤組　五六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　五六二、五四三圓大倉土木株式會社　五六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　五六七、八五〇圓芝江初五郎　五七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　五七一、〇〇〇圓清水組　五七三、七〇〇圓大林組　五七九、八〇〇圓建築興業株式會社　五八二、〇〇〇圓安藤組　五八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　五八二、五四三圓大倉土木株式會社　五八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　五八七、八五〇圓芝江初五郎　五九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　五九一、〇〇〇圓清水組　五九三、七〇〇圓大林組　五九九、八〇〇圓建築興業株式會社　六〇二、〇〇〇圓安藤組　六〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　六〇二、五四三圓大倉土木株式會社　六〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　六〇七、八五〇圓芝江初五郎　六一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　六一一、〇〇〇圓清水組　六一三、七〇〇圓大林組　六一九、八〇〇圓建築興業株式會社　六二二、〇〇〇圓安藤組　六二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　六二二、五四三圓大倉土木株式會社　六二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　六二七、八五〇圓芝江初五郎　六三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　六三一、〇〇〇圓清水組　六三三、七〇〇圓大林組　六三九、八〇〇圓建築興業株式會社　六四二、〇〇〇圓安藤組　六四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　六四二、五四三圓大倉土木株式會社　六四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　六四七、八五〇圓芝江初五郎　六五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　六五一、〇〇〇圓清水組　六五三、七〇〇圓大林組　六五九、八〇〇圓建築興業株式會社　六六二、〇〇〇圓安藤組　六六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　六六二、五四三圓大倉土木株式會社　六六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　六六七、八五〇圓芝江初五郎　六七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　六七一、〇〇〇圓清水組　六七三、七〇〇圓大林組　六七九、八〇〇圓建築興業株式會社　六八二、〇〇〇圓安藤組　六八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　六八二、五四三圓大倉土木株式會社　六八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　六八七、八五〇圓芝江初五郎　六九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　六九一、〇〇〇圓清水組　六九三、七〇〇圓大林組　六九九、八〇〇圓建築興業株式會社　七〇二、〇〇〇圓安藤組　七〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　七〇二、五四三圓大倉土木株式會社　七〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　七〇七、八五〇圓芝江初五郎　七一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　七一一、〇〇〇圓清水組　七一三、七〇〇圓大林組　七一九、八〇〇圓建築興業株式會社　七二二、〇〇〇圓安藤組　七二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　七二二、五四三圓大倉土木株式會社　七二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　七二七、八五〇圓芝江初五郎　七三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　七三一、〇〇〇圓清水組　七三三、七〇〇圓大林組　七三九、八〇〇圓建築興業株式會社　七四二、〇〇〇圓安藤組　七四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　七四二、五四三圓大倉土木株式會社　七四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　七四七、八五〇圓芝江初五郎　七五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　七五一、〇〇〇圓清水組　七五三、七〇〇圓大林組　七五九、八〇〇圓建築興業株式會社　七六二、〇〇〇圓安藤組　七六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　七六二、五四三圓大倉土木株式會社　七六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　七六七、八五〇圓芝江初五郎　七七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　七七一、〇〇〇圓清水組　七七三、七〇〇圓大林組　七七九、八〇〇圓建築興業株式會社　七八二、〇〇〇圓安藤組　七八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　七八二、五四三圓大倉土木株式會社　七八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　七八七、八五〇圓芝江初五郎　七九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　七九一、〇〇〇圓清水組　七九三、七〇〇圓大林組　七九九、八〇〇圓建築興業株式會社　八〇二、〇〇〇圓安藤組　八〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　八〇二、五四三圓大倉土木株式會社　八〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　八〇七、八五〇圓芝江初五郎　八一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　八一一、〇〇〇圓清水組　八一三、七〇〇圓大林組　八一九、八〇〇圓建築興業株式會社　八二二、〇〇〇圓安藤組　八二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　八二二、五四三圓大倉土木株式會社　八二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　八二七、八五〇圓芝江初五郎　八三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　八三一、〇〇〇圓清水組　八三三、七〇〇圓大林組　八三九、八〇〇圓建築興業株式會社　八四二、〇〇〇圓安藤組　八四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　八四二、五四三圓大倉土木株式會社　八四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　八四七、八五〇圓芝江初五郎　八五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　八五一、〇〇〇圓清水組　八五三、七〇〇圓大林組　八五九、八〇〇圓建築興業株式會社　八六二、〇〇〇圓安藤組　八六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　八六二、五四三圓大倉土木株式會社　八六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　八六七、八五〇圓芝江初五郎　八七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　八七一、〇〇〇圓清水組　八七三、七〇〇圓大林組　八七九、八〇〇圓建築興業株式會社　八八二、〇〇〇圓安藤組　八八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　八八二、五四三圓大倉土木株式會社　八八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　八八七、八五〇圓芝江初五郎　八九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　八九一、〇〇〇圓清水組　八九三、七〇〇圓大林組　八九九、八〇〇圓建築興業株式會社　九〇二、〇〇〇圓安藤組　九〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　九〇二、五四三圓大倉土木株式會社　九〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　九〇七、八五〇圓芝江初五郎　九一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　九一一、〇〇〇圓清水組　九一三、七〇〇圓大林組　九一九、八〇〇圓建築興業株式會社　九二二、〇〇〇圓安藤組　九二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　九二二、五四三圓大倉土木株式會社　九二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　九二七、八五〇圓芝江初五郎　九三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　九三一、〇〇〇圓清水組　九三三、七〇〇圓大林組　九三九、八〇〇圓建築興業株式會社　九四二、〇〇〇圓安藤組　九四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　九四二、五四三圓大倉土木株式會社　九四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　九四七、八五〇圓芝江初五郎　九五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　九五一、〇〇〇圓清水組　九五三、七〇〇圓大林組　九五九、八〇〇圓建築興業株式會社　九六二、〇〇〇圓安藤組　九六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　九六二、五四三圓大倉土木株式會社　九六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　九六七、八五〇圓芝江初五郎　九七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　九七一、〇〇〇圓清水組　九七三、七〇〇圓大林組　九七九、八〇〇圓建築興業株式會社　九八二、〇〇〇圓安藤組　九八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　九八二、五四三圓大倉土木株式會社　九八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　九八七、八五〇圓芝江初五郎　九九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　九九一、〇〇〇圓清水組　九九三、七〇〇圓大林組　九九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一〇〇二、〇〇〇圓安藤組　一〇〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一〇〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一〇〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一〇〇七、八五〇圓芝江初五郎　一〇一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一〇一一、〇〇〇圓清水組　一〇一三、七〇〇圓大林組　一〇一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一〇二二、〇〇〇圓安藤組　一〇二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一〇二二、五四三圓大倉土木株式會社　一〇二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一〇二七、八五〇圓芝江初五郎　一〇三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一〇三一、〇〇〇圓清水組　一〇三三、七〇〇圓大林組　一〇三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一〇四二、〇〇〇圓安藤組　一〇四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一〇四二、五四三圓大倉土木株式會社　一〇四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一〇四七、八五〇圓芝江初五郎　一〇五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一〇五一、〇〇〇圓清水組　一〇五三、七〇〇圓大林組　一〇五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一〇六二、〇〇〇圓安藤組　一〇六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一〇六二、五四三圓大倉土木株式會社　一〇六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一〇六七、八五〇圓芝江初五郎　一〇七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一〇七一、〇〇〇圓清水組　一〇七三、七〇〇圓大林組　一〇七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一〇八二、〇〇〇圓安藤組　一〇八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一〇八二、五四三圓大倉土木株式會社　一〇八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一〇八七、八五〇圓芝江初五郎　一〇九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一〇九一、〇〇〇圓清水組　一〇九三、七〇〇圓大林組　一〇九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一一〇二、〇〇〇圓安藤組　一一〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一一〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一一〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一一〇七、八五〇圓芝江初五郎　一一一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一一一一、〇〇〇圓清水組　一一一三、七〇〇圓大林組　一一一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一一二二、〇〇〇圓安藤組　一一二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一一二二、五四三圓大倉土木株式會社　一一二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一一二七、八五〇圓芝江初五郎　一一三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一一三一、〇〇〇圓清水組　一一三三、七〇〇圓大林組　一一三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一一四二、〇〇〇圓安藤組　一一四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一一四二、五四三圓大倉土木株式會社　一一四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一一四七、八五〇圓芝江初五郎　一一五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一一五一、〇〇〇圓清水組　一一五三、七〇〇圓大林組　一一五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一一六二、〇〇〇圓安藤組　一一六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一一六二、五四三圓大倉土木株式會社　一一六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一一六七、八五〇圓芝江初五郎　一一七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一一七一、〇〇〇圓清水組　一一七三、七〇〇圓大林組　一一七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一一八二、〇〇〇圓安藤組　一一八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一一八二、五四三圓大倉土木株式會社　一一八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一一八七、八五〇圓芝江初五郎　一一九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一一九一、〇〇〇圓清水組　一一九三、七〇〇圓大林組　一一九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一二〇二、〇〇〇圓安藤組　一二〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一二〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一二〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一二〇七、八五〇圓芝江初五郎　一二一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一二一一、〇〇〇圓清水組　一二一三、七〇〇圓大林組　一二一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一二二二、〇〇〇圓安藤組　一二二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一二二二、五四三圓大倉土木株式會社　一二二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一二二七、八五〇圓芝江初五郎　一二三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一二三一、〇〇〇圓清水組　一二三三、七〇〇圓大林組　一二三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一二四二、〇〇〇圓安藤組　一二四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一二四二、五四三圓大倉土木株式會社　一二四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一二四七、八五〇圓芝江初五郎　一二五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一二五一、〇〇〇圓清水組　一二五三、七〇〇圓大林組　一二五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一二六二、〇〇〇圓安藤組　一二六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一二六二、五四三圓大倉土木株式會社　一二六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一二六七、八五〇圓芝江初五郎　一二七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一二七一、〇〇〇圓清水組　一二七三、七〇〇圓大林組　一二七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一二八二、〇〇〇圓安藤組　一二八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一二八二、五四三圓大倉土木株式會社　一二八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一二八七、八五〇圓芝江初五郎　一二九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一二九一、〇〇〇圓清水組　一二九三、七〇〇圓大林組　一二九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一三〇二、〇〇〇圓安藤組　一三〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一三〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一三〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一三〇七、八五〇圓芝江初五郎　一三一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一三一一、〇〇〇圓清水組　一三一三、七〇〇圓大林組　一三一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一三二二、〇〇〇圓安藤組　一三二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一三二二、五四三圓大倉土木株式會社　一三二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一三二七、八五〇圓芝江初五郎　一三三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一三三一、〇〇〇圓清水組　一三三三、七〇〇圓大林組　一三三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一三四二、〇〇〇圓安藤組　一三四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一三四二、五四三圓大倉土木株式會社　一三四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一三四七、八五〇圓芝江初五郎　一三五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一三五一、〇〇〇圓清水組　一三五三、七〇〇圓大林組　一三五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一三六二、〇〇〇圓安藤組　一三六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一三六二、五四三圓大倉土木株式會社　一三六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一三六七、八五〇圓芝江初五郎　一三七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一三七一、〇〇〇圓清水組　一三七三、七〇〇圓大林組　一三七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一三八二、〇〇〇圓安藤組　一三八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一三八二、五四三圓大倉土木株式會社　一三八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一三八七、八五〇圓芝江初五郎　一三九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一三九一、〇〇〇圓清水組　一三九三、七〇〇圓大林組　一三九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一四〇二、〇〇〇圓安藤組　一四〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一四〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一四〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一四〇七、八五〇圓芝江初五郎　一四一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一四一一、〇〇〇圓清水組　一四一三、七〇〇圓大林組　一四一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一四二二、〇〇〇圓安藤組　一四二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一四二二、五四三圓大倉土木株式會社　一四二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一四二七、八五〇圓芝江初五郎　一四三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一四三一、〇〇〇圓清水組　一四三三、七〇〇圓大林組　一四三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一四四二、〇〇〇圓安藤組　一四四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一四四二、五四三圓大倉土木株式會社　一四四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一四四七、八五〇圓芝江初五郎　一四五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一四五一、〇〇〇圓清水組　一四五三、七〇〇圓大林組　一四五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一四六二、〇〇〇圓安藤組　一四六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一四六二、五四三圓大倉土木株式會社　一四六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一四六七、八五〇圓芝江初五郎　一四七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一四七一、〇〇〇圓清水組　一四七三、七〇〇圓大林組　一四七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一四八二、〇〇〇圓安藤組　一四八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一四八二、五四三圓大倉土木株式會社　一四八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一四八七、八五〇圓芝江初五郎　一四九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一四九一、〇〇〇圓清水組　一四九三、七〇〇圓大林組　一四九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一五〇二、〇〇〇圓安藤組　一五〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一五〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一五〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一五〇七、八五〇圓芝江初五郎　一五一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一五一一、〇〇〇圓清水組　一五一三、七〇〇圓大林組　一五一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一五二二、〇〇〇圓安藤組　一五二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一五二二、五四三圓大倉土木株式會社　一五二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一五二七、八五〇圓芝江初五郎　一五三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一五三一、〇〇〇圓清水組　一五三三、七〇〇圓大林組　一五三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一五四二、〇〇〇圓安藤組　一五四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一五四二、五四三圓大倉土木株式會社　一五四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一五四七、八五〇圓芝江初五郎　一五五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一五五一、〇〇〇圓清水組　一五五三、七〇〇圓大林組　一五五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一五六二、〇〇〇圓安藤組　一五六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一五六二、五四三圓大倉土木株式會社　一五六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一五六七、八五〇圓芝江初五郎　一五七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一五七一、〇〇〇圓清水組　一五七三、七〇〇圓大林組　一五七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一五八二、〇〇〇圓安藤組　一五八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一五八二、五四三圓大倉土木株式會社　一五八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一五八七、八五〇圓芝江初五郎　一五九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一五九一、〇〇〇圓清水組　一五九三、七〇〇圓大林組　一五九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一六〇二、〇〇〇圓安藤組　一六〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一六〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一六〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一六〇七、八五〇圓芝江初五郎　一六一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一六一一、〇〇〇圓清水組　一六一三、七〇〇圓大林組　一六一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一六二二、〇〇〇圓安藤組　一六二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一六二二、五四三圓大倉土木株式會社　一六二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一六二七、八五〇圓芝江初五郎　一六三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一六三一、〇〇〇圓清水組　一六三三、七〇〇圓大林組　一六三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一六四二、〇〇〇圓安藤組　一六四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一六四二、五四三圓大倉土木株式會社　一六四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一六四七、八五〇圓芝江初五郎　一六五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一六五一、〇〇〇圓清水組　一六五三、七〇〇圓大林組　一六五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一六六二、〇〇〇圓安藤組　一六六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一六六二、五四三圓大倉土木株式會社　一六六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一六六七、八五〇圓芝江初五郎　一六七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一六七一、〇〇〇圓清水組　一六七三、七〇〇圓大林組　一六七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一六八二、〇〇〇圓安藤組　一六八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一六八二、五四三圓大倉土木株式會社　一六八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一六八七、八五〇圓芝江初五郎　一六九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一六九一、〇〇〇圓清水組　一六九三、七〇〇圓大林組　一六九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一七〇二、〇〇〇圓安藤組　一七〇二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一七〇二、五四三圓大倉土木株式會社　一七〇四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一七〇七、八五〇圓芝江初五郎　一七一〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一七一一、〇〇〇圓清水組　一七一三、七〇〇圓大林組　一七一九、八〇〇圓建築興業株式會社　一七二二、〇〇〇圓安藤組　一七二二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一七二二、五四三圓大倉土木株式會社　一七二四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一七二七、八五〇圓芝江初五郎　一七三〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一七三一、〇〇〇圓清水組　一七三三、七〇〇圓大林組　一七三九、八〇〇圓建築興業株式會社　一七四二、〇〇〇圓安藤組　一七四二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一七四二、五四三圓大倉土木株式會社　一七四四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一七四七、八五〇圓芝江初五郎　一七五〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一七五一、〇〇〇圓清水組　一七五三、七〇〇圓大林組　一七五九、八〇〇圓建築興業株式會社　一七六二、〇〇〇圓安藤組　一七六二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一七六二、五四三圓大倉土木株式會社　一七六四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一七六七、八五〇圓芝江初五郎　一七七〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一七七一、〇〇〇圓清水組　一七七三、七〇〇圓大林組　一七七九、八〇〇圓建築興業株式會社　一七八二、〇〇〇圓安藤組　一七八二、〇〇〇圓三ッ引商事株式會社　一七八二、五四三圓大倉土木株式會社　一七八四、五〇〇圓（超過）　飯田國榮　一七八七、八五〇圓芝江初五郎　一七九〇、〇〇〇圓岩崎金太郎　一七九一、〇〇〇圓清水組　一七九三、七〇〇圓大林組　一七九九、八〇〇圓建築興業株式會社　一八〇二、〇〇〇圓安藤組　一八〇二、〇〇〇圓三ッ引商事

根室郵便局電話分局新築（竣工期限本年十月三十日）一四二、九三一、九二錢　籔越增太郎
宗蘭郵便局電話分局新築（竣工期限昭和二年二月十八日）五四、八一九、一〇錢　橋本組
網走郵便局分局新築（竣工期限昭和二年三月十日）七九、六八四圓　畑江工業合資會社
落石無線電信所送信所新築（竣工期限昭和二年三月三十日）四九、〇〇一、三六錢　籔越增太郎
復興局土木課工事指名入札
楓川筋改修工事第一工區（其の二）日本橋區本材木河岸自兜橋至新場橋間岸壁共同物揚其他工事　六二、九五〇圓（落札）　下田助次郎
櫻川筋改修工事（第二區）其一京橋區自南櫻河岸第三十二…六十二北櫻河岸三十八…六三號地先（自稻荷橋至中橋間兩岸）岸壁根固其他工事　八五、七〇〇圓（落札）　中野喜三郎
埼玉縣川口町役場工事入札
川口尋常高等小學校建築工事　三四、七〇〇圓（落札）　小田倉作
北海道廳工事入札
廳立旭川師範學校講堂其他新築工事　一四、八〇〇圓（落札）　宇佐美常次郎
海軍省工事指名入札
霞ヶ浦航空隊病舍附屬研究場新營外二十一廉工事　三四、五〇〇圓（超過）　有馬組
復興局土木部工事指名入札

大島川筋改修工事第二工區其四深川區平富町當局材料置場地先岸壁工事　二六、八〇〇圓（落札）　株式會社原木組
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道厚木御殿場線足柄上郡松田町地內道路擴張工事　二五、五〇〇圓（超過）　吉田宗五郎
二五、〇九〇、四〇錢（超過）　吉田宗五郎
四、九〇〇圓（落札）　吉田宗五郎
橫濱市役所工事指名入札
花咲小學校新築工事　一二四、〇〇〇圓（落札）　松村組
一二四、二〇〇圓安藤組　一二六、八〇〇圓錢高組　一三九、〇〇〇圓原木組　一二四一、〇〇〇圓大阪橋本組　一二四八、五〇〇圓三木多助　二四九、七八八圓大倉土木株式會社　二五七、〇〇〇圓大林組　二五七、四三三、〇〇〇圓小田末吉　三六一、〇〇〇圓清水組　三六二、〇〇〇圓島田藤吉　三六二、七〇〇圓錢高組　三七六、〇〇〇圓藤田組
財團法人同潤會指名入札
深川區猿江裏町アパートメント新築工事　二九一、〇〇〇圓（超過）　清水組　三四三、〇〇〇圓松竹組　三五二、〇〇〇圓錢高組　三五八、〇〇〇圓大林組　三七九、二〇〇圓安藤組　三八九、〇〇〇圓石井權藏　四一七、五〇〇圓竹中工務店
三味線堀小賣市場改築工事（指名）　三〇、五〇〇圓（豫定超過）　清水組　三〇、五〇〇圓（同）　木田保藏
第一師團經理部
陸軍士官學校震災復舊工事ノ內隔離厩復舊工事　八五、〇〇〇圓（決定）　橋本組工業合資會社
高田町會館新築工事　一二、八〇〇圓（落札）　南雲善作
高田町役場
南千住町第四瑞光小學校新築工事（七月十九日開札）　五九、〇〇〇圓（落札）　藤田平藏
市立上野小學校暖房据付工事（指名）　一二、九一三、五〇錢（落札）　大倉商事株式會社

三三三、〇〇〇圓縣村藏之助　三三六、〇〇〇圓古島宮次郎　三四〇、〇〇〇圓戶田組　三四二、〇〇〇圓小田末吉　三六一、〇〇〇圓清水組　三六二、〇〇〇圓島田藤吉　三六二、七〇〇圓錢高組　三七六、〇〇〇圓藤田組
財團法人同潤會指名入札
深川區猿江裏町アパートメント新築工事　二九一、〇〇〇圓（超過）　清水組　三四三、〇〇〇圓松竹組　三五二、〇〇〇圓錢高組　三五八、〇〇〇圓大林組　三七九、二〇〇圓安藤組　三八九、〇〇〇圓石井權藏　四一七、五〇〇圓竹中工務店
三味線堀小賣市場改築工事（指名）　三〇、五〇〇圓（豫定超過）　清水組　三〇、五〇〇圓（同）　木田保藏
第一師團經理部
陸軍士官學校震災復舊工事ノ內隔離厩復舊工事　八五、〇〇〇圓（決定）　橋本組工業合資會社
高田町會館新築工事　一二、八〇〇圓（落札）　南雲善作
高田町役場
南千住町第四瑞光小學校新築工事（七月十九日開札）　五九、〇〇〇圓（落札）　藤田平藏
市立上野小學校暖房据付工事（指名）　一二、九一三、五〇錢（落札）　大倉商事株式會社

橫濱市役所工事指名入札
浦島小學校新築工事　二八二、七〇〇圓（超過）　庄司組　二八三、〇〇〇圓飯田國榮　二八三、五〇〇圓三木多助　二九六、五〇〇圓竹中工務店　二九七、三〇〇圓安藤組　三〇〇、〇〇〇圓松村組　三〇〇、三〇〇圓錢高組
神奈川縣廳工事指名入札
農業學校本館其他新築工事　六三、八〇〇圓（落札）　長正志
東京府荏原郡大森町役場
大森第三小學校增築工事　二六、五〇〇圓（落札）　高橋喜三郎
文部省工事指名入札
第二藥學專門學校書庫外一廉工事　一二、八〇〇圓（落札）　大倉土木株式會社
南足立郡花畑村大字內匠新田綾瀨村大字五兵衛新田綾瀨川改修工事延長一里七丁三十間八分ノ內再入札ノ分　四九、七〇〇圓（超過）　大塚盛一
大藏省營財局工事指名入札
廣島地方專賣局鹽倉庫新築工事　一二、八〇〇圓（落札）　藤田一郎
遞信省營繕課工事指名入札
經理局橫濱倉庫內貯線池新設其他工事　六一、六八一圓（落札）　株式會社安藤組
芝區役所工事指名入札
櫻川小學校新築工事　三四〇、〇〇〇圓（落札）

上遠喜三郎　三六八、〇〇〇圓錢高組　三七一、〇〇〇圓鴻池組　三七二、〇〇〇圓戶田組　三八三、七二四圓大倉土木株式會社　三九九、八〇〇圓森田福市　四一一、〇〇〇圓大林組　四一三、八〇〇圓橋本店　一一八、〇〇〇圓東海工業株式會社　一二八、七〇〇圓齋藤助六　一二四、三〇〇圓日本工業合資會社　一二五、六〇〇圓若林亮助
三味線堀公衆食堂新築工事　一三〇、八五〇圓（落札）　大澤　孚
東京鐵道局教習所附屬倉庫新築其他工事　一二九五〇圓（落札）　宮田廣雄
品川驛構內中繼貨物上家震災復舊工事　一四、〇〇〇圓（不調）　山口忠五郎
鈴木太平
新潟縣廳工事入札
縣廳舍增築工事一四、九〇〇圓（落札）　木戶新平
鐵道省第一改良工務所
赤羽驛擴張其三木工事其他工事　八一三、〇〇〇圓（落札）　東海工業合資會社　八三四、〇〇〇圓間組　八五三、五〇〇圓鹿島組　八五六、四〇〇圓大林組　八六三、〇〇〇圓錢高組
宮城縣
宮城縣志田郡高倉村小學校新築工事　一一、五〇〇圓（落札）　昆　精一
宮城縣小野田村役場
宮城縣加美郡小野田村小學校增築工事　一四、八五〇圓（隨契）　柏原幸助
財團法人同潤會工事指名入札
橫濱高等工業學校暖房設備工事　三九、五五〇圓（最低）　齊藤省三
宮城縣小野田村役場工事入札
加美郡小野田村東小野田小學校增築外二棟工事　一四、八五〇圓（落札）　桐原幸助
新橋保線工務所工事指名入札
品川驛構內第一第二貨物上家震災復舊工事　一七、〇〇〇圓（落札）　大澤　孚
東京鐵道局教習所附屬倉庫新築其他工事　一二九五〇圓（落札）　宮田廣雄
品川驛構內中繼貨物上家震災復舊工事　一八、四〇〇圓（不調）　山口忠五郎
鈴木太平
新潟縣廳工事入札
再入札　一七、五四三圓四五錢（落札）　山口忠

五郎
廣島郵便局電話分局新築工事　三四八、〇〇〇圓（落札）　含資會社清水組
九州八幡郵便局電話分局新築工事　一六二、七〇一圓四四錢（落札）　合名會社岩崎組　一六三、〇〇〇圓合資會社清水組　一六四、六八〇圓
大林組　最高一七七、〇三四圓日本混凝土工業株式會社
同潤會工事指名入札
横濱山下同潤會アパートメント新設工事　四二六、〇〇〇圓（落札）　大林組　四三八、〇〇〇圓合資會社錢高組　四六四、三〇〇圓安藤組　四七三、〇〇〇圓鴻池組　四七四、三〇〇圓竹中工務店　四七五、〇〇〇圓大阪橋本組　四八八、五四八圓大倉土木株式會社　四九七、三〇〇圓合資會社清水組　五〇七、〇〇〇圓戸田組
警視廳監房會計課
品川警察署建築工事　一二五、七〇〇圓（落札）
藤本清次郎　一二五、八五〇圓石井權藏　一二八、七〇〇圓清水組　一三二、八〇〇圓森田工務所　一三四、〇〇〇圓井上合資會社　一三八
六〇〇圓竹中工務店　一三九、二八五圓大倉組
東京市役所
槇町及銀座枝線排水區工事（指名）　五三、三〇〇圓（落札）　神谷太一郎
業平橋排水區柳島一部工事（指名）　一五、三〇〇圓（落札）　藤田平藏
業平橋喞筒場況砂地土場工事（指名）　三七、六〇〇圓（落札）　淺野同族株式會社　四五二、〇〇〇圓（落札）　大阪鐵工場
大阪工業試驗所
中ノ島工業試驗工場及開放研究所其他新築工事　二六三、〇〇〇圓（落札）　松村組大阪支店
復興局工事指名入札
木村橋新設工事ノ內上部工事　二二、四〇〇圓（落札）　五月女倉藏
聖橋新設工事ノ內下部殘部上部工事　一三二、一〇〇圓（特命）　東洋コンプレッソル株式會社
東京府內務部土木課指名入札
第百七十八號大森停車場線荏原郡入新井町道路舖裝工事長五二四間七分幅四間　四七、九二〇圓（落札）　增田磯吉
大藏省營繕管理局工事指名入札
司法省及裁判所門衞所外溝新營其他工事　一九、七五〇圓（落札）　竹田秀次郎
近衞師團經理部工事指名入札
袋村小銃射擊場射門新設其他工事並ニ袋村小銃射擊場標的庫及番舍其他震害復舊工事　二九、二〇〇圓（落札）　多田順三郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道湯本元箱根線是柄下郡湯本地內三枚橋水害復舊工事　一四、九九八圓（落札）　朝日兼治
東京市本所區役所指名入札
東京市本橫尋常小學校新築工事　三九六、七〇〇圓（落札）　淺野同族株式會社　四五二、〇〇〇圓（落札）　大阪鐵工場
大阪工業試驗所
中ノ島工業試驗工場及開放研究所其他新築工事　二六三、〇〇〇圓（落札）　松村組大阪支店
復興局工事指名入札
木村橋新設工事ノ內上部工事　二二、四〇〇圓（落札）　五月女倉藏
聖橋新設工事ノ內下部殘部上部工事　一三二、一〇〇圓（特命）　東洋コンプレッソル株式會社
東京府內務部土木課指名入札
第百七十八號大森停車場線荏原郡入新井町道路舖裝工事長五二四間七分幅四間　四七、九二〇圓（落札）　增田磯吉
大藏省營繕管理局工事指名入札
司法省及裁判所門衞所外溝新營其他工事　一九、七五〇圓（落札）　竹田秀次郎
近衞師團經理部工事指名入札
袋村小銃射擊場射門新設其他工事並ニ袋村小銃射擊場標的庫及番舍其他震害復舊工事　二九、二〇〇圓（落札）　多田順三郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道湯本元箱根線是柄下郡湯本地內三枚橋水害復舊工事　一四、九九八圓（落札）　朝日兼治
東京市本所區役所指名入札
東京市本橫尋常小學校新築工事　三九六、七〇〇圓（落札）　淺野同族株式會社　四五二、〇〇〇圓（落札）　大阪鐵工場
大阪工業試驗所
中ノ島工業試驗工場及開放研究所其他新築工事　二六三、〇〇〇圓（落札）　松村組大阪支店
復興局工事指名入札
木村橋新設工事ノ內上部工事　二二、四〇〇圓（落札）　五月女倉藏
聖橋新設工事ノ內下部殘部上部工事　一三二、一〇〇圓（特命）　東洋コンプレッソル株式會社
東京府內務部土木課指名入札
第百七十八號大森停車場線荏原郡入新井町道路舖裝工事長五二四間七分幅四間　四七、九二〇圓（落札）　增田磯吉
大藏省營繕管理局工事指名入札
司法省及裁判所門衞所外溝新營其他工事　一九、七五〇圓（落札）　竹田秀次郎
近衞師團經理部工事指名入札
袋村小銃射擊場射門新設其他工事並ニ袋村小銃射擊場標的庫及番舍其他震害復舊工事　二九、二〇〇圓（落札）　多田順三郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道湯本元箱根線是柄下郡湯本地內三枚橋水害復舊工事　一四、九九八圓（落札）　朝日兼治
東京市本所區役所指名入札

東京市本橫尋常小學校新築工事　三九六、七〇〇圓（落札）　淺野同族株式會社　四五二、〇〇〇圓（落札）　大阪鐵工場
大阪工業試驗所
中ノ島工業試驗工場及開放研究所其他新築工事　二六三、〇〇〇圓（落札）　松村組大阪支店
復興局工事指名入札
木村橋新設工事ノ內上部工事　二二、四〇〇圓（落札）　五月女倉藏
聖橋新設工事ノ內下部殘部上部工事　一三二、一〇〇圓（特命）　東洋コンプレッソル株式會社
東京府內務部土木課指名入札
第百七十八號大森停車場線荏原郡入新井町道路舖裝工事長五二四間七分幅四間　四七、九二〇圓（落札）　增田磯吉
大藏省營繕管理局工事指名入札
司法省及裁判所門衞所外溝新營其他工事　一九、七五〇圓（落札）　竹田秀次郎
近衞師團經理部工事指名入札
袋村小銃射擊場射門新設其他工事並ニ袋村小銃射擊場標的庫及番舍其他震害復舊工事　二九、二〇〇圓（落札）　多田順三郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道湯本元箱根線是柄下郡湯本地內三枚橋水害復舊工事　一四、九九八圓（落札）　朝日兼治
東京市本所區役所指名入札

○圓　清水組
再見積　七四、四五〇圓（不調）　鐵道工業株式會社
東京市役所指名入札
深川區平久町ヨリ同區古石場ニ架ス平久橋改築工事　七四、九〇〇圓（超過）　鐵道工業株式會社
第一師團經理部工事指名入札
陸軍通信學校其他新築工事　九三、〇〇〇圓（不調）　松本組
南洋廳工事入札
南洋廳パラオ島官舍外五廠新營工事　六一、八〇〇圓（超過）　市場庄太郎　五七、九〇〇圓（超過）　市場庄太郎
復興局第三出張所工事指名入札
淺草區新谷町自動車庫新築其他工事　一三、八〇〇圓（落札）　武井與四郎
小名木川筋改修（第一工區ノ七）岸壁工事　一三、九五〇圓（落札）　宮永平作
復興局第四出張所
汐見橋新設其他工事ノ內下部殘部並上部工事（竣功期日十五年八月十六日）　二八、二〇〇圓
日本橋梁株式會社
江東橋新設工事ノ內上部工事（竣功期日十五年十月二十五日）　二九、〇〇〇圓　近藤土木合資會社
菊川橋新設工事ノ內上部其他工事（竣功期日本年八月十一日）　四〇、〇〇〇圓　鹿島組
芝園橋新設其他工事ノ內下部其他工事（竣功期日昭和二年二月五日）　一〇二圓二〇錢　高田町役場工事指名入札（三日開札）
高田第一尋常高等小學校移轉及機械替工事　一〇、八〇〇圓（落札）　南雲善作
神奈川縣廳工事指名入札
商工實習學校附屬實習工事其他新築工事　一三八、〇〇〇圓（超過）　日本工事株式會社　一四〇、五〇〇圓鹽澤金太郎　一四四、三〇〇圓宇津木馬造　一四四、四〇〇圓人見組　一四六、〇〇〇圓多田組　一五七、八〇〇圓原木組　一四九、六〇〇圓橋本組工業合資會社　一五八、〇〇〇圓清水組　一六一、〇〇〇圓建築興業株式會社　一六五、〇〇〇圓大林組　一七二、八〇〇圓錢高組
群馬縣廳工事指名入札
縣廳舍新築工事　四六一、二〇〇圓（落札）　清水組
鐵道省第二改良事務所工事指名入札
鐵道病院再築其他工事　七八八、七〇〇圓（落札）　大倉土木株式會社　小石川橋鐵部製作工事　一二、〇四〇圓（落札）　櫻田機械
平久橋鐵部製作工事　二〇、七八七圓（落札）　櫻田機械
橫濱市役所工事指名入札
川北小學校敷地々均工事　四八、九〇四圓（落札）　小島太三郎
小石川橋改築工事　三八、六〇〇圓（落札）　安藤熊吉
高田町役場工事指名入札（三日開札）
高田第一尋常高等小學校移轉及機械替工事　一〇、八〇〇圓（落札）　南雲善作
神奈川縣廳工事指名入札
商工實習學校附屬實習工事其他新築工事　一三八、〇〇〇圓（超過）　日本工事株式會社　一四〇、五〇〇圓鹽澤金太郎　一四四、三〇〇圓宇津木馬造　一四四、四〇〇圓人見組　一四六、〇〇〇圓多田組　一五七、八〇〇圓原木組　一四九、六〇〇圓橋本組工業合資會社　一五八、〇〇〇圓清水組　一六一、〇〇〇圓建築興業株式會社　一六五、〇〇〇圓大林組　一七二、八〇〇圓錢高組
群馬縣廳工事指名入札
縣廳舍新築工事　四六一、二〇〇圓（落札）　清水組
鐵道省第二改良事務所工事指名入札
鐵道病院再築其他工事　七八八、七〇〇圓（落札）　大倉土木株式會社　小石川橋鐵部製作工事　一二、〇四〇圓（落札）　櫻田機械
平久橋鐵部製作工事　二〇、七八七圓（落札）　櫻田機械
橫濱市役所工事指名入札
川北小學校敷地々均工事　四八、九〇四圓（落札）　小島太三郎

宇都宮地方專賣局工事入札
宇都宮地方專賣局倉庫新築工事　一七、二〇〇圓(落札)　中山仁也
京城府工事入札
營口小學校改築工事　三九、〇〇〇圓(落札)
草場組
神奈川縣廳工事指名入札
商工實習學校實習工場其他工事　一三〇、〇〇〇圓(隨契)　日本工事株式會社
東京市役所指名入札(七日開札)
臨時收容移動式住宅二〇〇棟物置八〇棟　一一四、六〇〇圓(落札)　清水組　一二二、三〇〇圓　勝村幾之助　一二五、六〇〇圓　木田保造　一二九、七三〇圓　荒川常吉　一三四、五〇〇圓　安藤組　一三五、五〇〇圓　松村組　一四二、四〇〇圓　錢高組　一四二、四〇〇圓　竹田組　一四七、〇〇八圓　有井權藏　一五三、八〇〇圓　戶田利兵衛　一五八、〇〇〇圓　高梨定吉　一六八、〇〇〇圓　藤本清次郎
東京市立廣尾病院普通病舍暖房給排消火栓工事　二六、八五〇圓(落札)　東亞鐵工所
經理局橫濱倉庫新設其他工事　一八、六八二圓(落札)　株式會社安藤組
復興局土木課工事指名入札
橫川洗砂採集第四號工事人夫供給　一七、九二九圓四〇錢(落札)　東武砂利株式會社
東京鐵道局工事指名入札
飯田町變電所新設工事　一五七、九〇〇圓(落札)　錢高組
東京府營繕課指名入札(十日開札)
府立實科工業學校新築工事　四三五、〇〇〇圓(落札)　古島宮次郎　四三六、〇〇〇圓　竹田組　四三八、七〇〇圓　藤田組　四三九、〇〇〇圓　野村專太郎　四四一、三〇〇圓　服部竹次郎　四四二、八〇〇圓　戶田組　四四四、八〇〇圓　錢高組　四五七、二〇〇圓　飯島組　四六九、九〇〇圓　森田彥隆　四七八、九〇〇圓　松村組　四八三、〇〇〇圓　大林組　四九四、六七三圓　大倉土木株式會社　五二〇、〇〇〇圓　島田組　五二一、〇〇〇圓　建築興業株式會社
指名入札　平久橋改築工事　七三、五〇〇圓(隨契)　鐵道工業株式會社
橫須賀市役所工事入札
橫須賀市立鶴久尋常高等小學校雨天體操場及附屬家新築工事　一七、八〇〇圓(落札)　上條組
橫須賀市立豐島尋常高等小學校二階建校舍及附屬家新築並バラック取毀其他工事　五八、一四〇圓(超過)　小泉岩吉
大藏省營繕管財局工事指名入札
福岡地方專賣局工場新築其他工事　四六八、二六〇圓(落札)　北野工務店
深川區役所工事指名入札
〇圓株式會社松村組　五七三、〇〇〇圓　株式會社岩崎組　六一三、七三八圓　大倉土木株式會社安藤組　六七一、〇六四五、〇〇〇圓　合資會社安藤組　六七七、〇〇〇圓　藤田一郎　七三一、三〇〇圓　合資會社清水組　七六五、三二〇圓　竹中工務店
北海道廳工事入札
壯瞥尋常高等小學校々舍改築工事　一〇、九〇〇圓(落札)　長谷川榮次郎
東京市役所指名入札(十二日開札)
東京市立第一中學校新築工事麴町區富士見町六七八ノ五〇ニ建設　五二六、九〇〇圓(超過)　安藤組　五六二、八〇〇圓　大林組　五六八、三〇〇圓　錢高組　五七七、〇〇〇圓　戶田組　五七八、七四八圓　大倉土木株式會社　五九五、五〇〇圓　大阪橋本組　六三五、三〇〇圓　清水組　六八三、〇〇〇圓　竹中工務店
再入札　五二五、〇〇〇圓(超過)　安藤組
大塚市立病院附屬看護婦寄宿舍新築工事　小石川區大塚辻町元養育院跡　八四、五八〇圓(超過)　大倉土木株式會社
長野縣諏訪郡上富士町役場指名入札
上富士尋常高等小學校新築工事　七七、〇〇〇圓(落札)　北野工務店
深川區役所工事指名入札

東京市立臨海小學校新設工事　三九六、三〇〇圓(落札)　錢高組　四三三、五〇〇圓　合資會社清水組　四六七、八〇〇圓(落札)　安藤組　四八九、六〇〇圓　戶田利兵衛
大藏省營繕管財局工事指名入札
司法省官舍新築工事　一三七、七八〇圓(入落札)　三上爲吉　一四六、〇〇〇圓　清水組　一五六、〇〇〇圓　大林組　一五七、八〇〇圓　秋山組　一七五、〇〇〇圓　戶田組　森田福市
東京市役所指名入札(十四日開札)
街路第一八七號自赤羽橋至芝田町札ノ辻鋪道車步道工事　六三、五〇〇圓(落札)　上田佐助
朝鮮入札
筋十七工區乾白雲山間土工工事　五六九、七〇〇(落札)　寺尾組
近衛師團經理部工事指名入札
陸軍通信學校研究部其他新設工事　七五、七七五圓(落札)　東海工業合資會社　一〇六、四八〇圓　松村組
東京府內務部土木課指名入札(十七日開札)
一等大路第三類第十號線一部改修自豐多摩郡千駄ヶ谷字新屋敷至同郡同町字厩通道路改修工事　延長三四七間一分幅員十二間　再入札ノ分　五一、八〇〇圓(超過)　栗原源藏
五二、八〇〇圓　野村專太郎　五二、九〇〇圓　大塚盛二　五二、九〇〇圓　中野喜三郎
二等大路第二類第二十號線自豐多摩郡自澁谷大字下澁谷字廣尾耕地一八九一番地至同郡同町大字同町一五三三番地道路改修工事　四八四間七分幅八間　再入札ノ分　六七、二〇〇圓　石井丑之助
日本橋區箔崎町自土州橋東詰至湊橋北詰補助街路第二號線一部築造並下水渠改良工事　一四、八四〇圓　鯉淵廣一郎
小名木川筋改修第一工區(其八岸壁工事)　一一、九〇〇圓　三上秀雄
東京府下荏原郡沼部玉川高等女學校工事(入札)
玉川高等女學校新築工事　二六、三五〇圓　鈴木米次郎
同附屬教室及外堤其他工事　一二、六〇〇圓　三田喜太郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道愛甲郡高崎村高坐郡田名村入會高田橋復舊工事　四九、八〇〇圓　池田孫七
(豫定超過)　竹田組代理深井安藏外五名
同再見積　二一、四五〇圓(豫定超過)　深井安藏
遞信省經理局
東京中央電話局模樣替其他工事　一二、一〇七圓三〇錢(落札)　多田順三郎
東京市役所
駒込病院洗濯場其他復舊工事　二〇、〇〇〇圓
石井丑之助
日本橋區箔崎町自土州橋東詰至湊橋北詰補助街路第二號線一部築造並下水渠改良工事　一四、八四〇圓　鯉淵廣一郎
小名木川筋改修第一工區(其八岸壁工事)　一一、九〇〇圓　三上秀雄
東京府下荏原郡沼部玉川高等女學校工事(入札)
玉川高等女學校新築工事　二六、三五〇圓　鈴木米次郎
同附屬教室及外堤其他工事　一二、六〇〇圓
三田喜太郎
神奈川縣廳工事指名入札
府縣道愛甲郡高崎村高坐郡田名村入會高田橋復舊工事　四九、八〇〇圓　池田孫七
第四號師範學校寄宿舍增築其他工事　一七、六〇〇圓(落札)　杉浦兼太郎
宇南井戶十町道路改修一二〇間工事　一三、四〇〇圓(落札)　鴨志田新太郎
駒込病院洗濯場其他復舊工事　二一、九五〇圓

建築請負（但シ五萬圓以上）

——（大正十五年度迄持越のもの）——

□滿　鐵

△大連埠頭事務所增築第三期工事
金十七萬四千〇八十九圓　長谷川組

△滿鐵本社書類倉庫
金七萬九千百五十三圓　望月至誠

△營口小學校々舍改築其他附屬
金五萬九千四百七十三圓　石光幸之助

△鞍山醫院煖房排給水其他裝置第二期工事
金七萬五千四百六十八圓　松澤萬三人

△滿洲教育專門學校增築（奉天）
金九萬二千九百九十圓　大倉土木

△奉天滿鐵乙種集合社宅新築
金六萬四千七百三十二圓　吉川康

△奉天醫院診療所及研究室新築第一期
金二十七萬八千八百九十九圓　大倉土木

△安東公會堂新築
金五萬九百〇二圓　長谷川組

□滿　鐵

大連驛改築工事（五月十五日開札）
金五萬二千八百四十圓（落札）　吉川組

□撫順炭鑛

第三發電所增築（五月）
金五萬一千九百五十圓（特命）　高岡又一郎

□滿　鐵

四平街丙種社宅新築（六月二十一日開札）
金六萬三千八百圓（落札）　大倉土木

奉天驛第三ホーム上家新築工事（六月二十一日開札）
金五萬九千六百圓（落札）　福井高梨組

□滿　鐵

奉天丙種社宅新築工事（六月二十二日開札）
金六萬九千九百圓（落札）　長谷川組

□滿　鐵

大連衛生研究所第二期工事（六月二十四日開札）
金九萬四千九百五十圓（落札）　吉川康

□滿　鐵

鞍山醫院第三期新築工事（七月七日開札）
金十萬三千八百圓（落札）　高岡又一郎

□關東軍經理部

周水子兵舍其他新築（七月九日開札）
金七萬一千一百八十六圓五十三錢（落札）　福井高梨組

□關東軍經理部

周水子倉庫移築工事（七月十九日再入札開札）
金五萬一千三百圓（落札）　川見久松

□洮昂鐵路局

洮昂鐵路洮昂局廳舍新築工事（七月廿二日開札）
金二十四萬七千三百圓（落札）　大倉土木

□大連市役所

譚家屯市營住宅新築（七月二十三日開札）
金十六萬四千五百圓（落札）　不動產信託

□大連市役所

桂町市營住宅新築（七月二十三日開札）
金八萬九千八百圓（落札）　高倉助太郎

□滿　鐵

元撫順驛機關庫等の移轉改築（七月）
金七萬二千圓（落札）　高岡又一郎

□滿　鐵

安東驛構內ホーム擴張其他（八月二日開札）
金六萬七千八百二十圓（落札）　細川組

□滿　鐵

奉天醫科大學診療所及集會室新築工事（九月八日開札）
金四十四萬三千七百圓（落札）　大倉土木

□滿　鐵

大連滿鐵社員倶樂部增築及紀念館新築工事（九月十三日開札）
金七萬三千四百圓（落札）　高岡又一郎

□滿　鐵

小崗子野積場豆粕大豆保管倉庫新築（九月十八日開札）
金七萬七千三百圓（落札）　高岡又一郎

奉天ヤマトホテル新築工事（十一月六日）
金六十七萬四千一百圓（特命）　清水組

大正十五年度滿洲請負界

滿鐵、關東廳、陸軍經理部、其他の本年度に請負決定せる工事の概算

滿鐵　約九百萬圓、關東廳　約八十萬圓、陸軍關係　約三十萬圓、市中工事　約五十萬圓、金福鐵道工事　一百五十萬圓、吉敦鐵道工事　二百五十萬圓、洮昂鐵道工事其他約四十萬圓

總計約二千萬圓

是を大正十四年度に比較すれば、約二三百萬圓の減少を來してゐる。

東京大阪主要材料價格並指數表

東京主要建築材料價格並指數表

大正十五年三月末現在（東京市中居拂）

名稱	單位	價格	指數
割栗石（六ヶ村）川岸旗立立坪		四〇、〇〇	三一五
砂利　玉川一寸）	同	四一、〇〇	三二五
砂利（玉川六分）	同	四四、〇〇	二九一
砂（玉川）	同	一七、〇〇	四六二
セメント（大樽）	一樽	六、〇〇	一八八
生石灰（鼠）	十貫俵	、六七	二八〇
煉瓦（燒過一等）	萬本	三五〇、〇〇	二五〇
同（燒過四等）	同	二八〇、〇〇	二六七
同（並燒一等）	同	三三〇、〇〇	二七九
煉瓦（並燒三等）	萬本	二七〇、〇〇	二八六
花崗石稻田（五切以下）	一切	二、一五	三五〇
横根澤（五切以下）	同	二、三〇	四〇二
須賀川（三切以下）	同	一、六〇	三二〇
大谷（三尺角）	同	、五〇	二七五
丸鐵（六分丸）	十貫目	三、八〇	一三八
角鐵（六分角）	同	四、一〇	一四三
平鐵（巾二寸厚二分）	同	四、二〇	一六四
アングル（二吋半二分）	同	四、〇〇	一三八
ジョイスト（十吋二分）	同	四、一〇	一二四
チャンネル（七吋三分）	同	四、四〇	一三九
鐵板（4×8三分）	同	四、三〇	一四二
亞鉛引平板（三十番）	一枚	一、一〇	一四六
同生子板（三十番六尺）	同	、九四	一五六
銅板（完尺七十目付）	一貫目	四、五〇	一五二
丸釘（二寸十二番十六貫）	二樽	九、八〇	一六三
生松丸太（二間末口五寸）	一本	二、五〇	三六六
杉二間（押四寸）	同	一、八五	二八五
檜二間（同）	同	三、六〇	三二七
椹二間（山挽四寸並）	同	四、三二	三三三
栂二間（山挽四寸眞去二寸無節）	同	一九、〇〇	三五七
松二間（挽材並）	立方尺	二、二〇	三七〇
米松角材（マーチャンタブル）	同	、九八	一四五
欅九尺巾尺二一寸五分（挽材中等品）	同	一八、〇〇	四五〇
杉丸太（二間尺二秋田三寸物）	尺締	三三、〇〇	四七二
檜丸太（二間尺二尾州三寸物）	同	六〇、〇〇	四〇〇
杉二間板割（極摺八寸厚六分五厘）	一枚	一、二〇	二七〇
杉一間四分板（巾尺〇小節）	同	六〇	三五〇
北海松三間板割（極八寸厚六分）	同	五七	一八〇
杉二間大貫二番	一丁	三六	二二九
松一間四寸敷居（並）	同	三五	三〇〇
松二間二寸角（同）	一本	三六	三一七
三州瓦並兩面磨（六四番引掛）	百枚	一一、〇〇	二八九
同地燒片面磨（切込棧）	同	七、〇〇	三一九
スレート（一等品並厚12×6）	同	七、〇〇	三一九
石綿盤（灰白色一六吋）	同	二二、〇〇	一七一
硝子四等品（並板三丁八入）一箱		一一、〇〇	一六二
同三等品（正一分七丁九入）	同	二九、〇〇	二五〇
砂（玉川）	同	平均	二五六

大正一五年六月末現在

名稱	單位	價格	指數
割栗石（六ヶ村）川岸旗立立坪		三七、〇〇	二七四
砂利（玉川一寸）	同	三七、〇〇	二七四
砂利（玉川六分）	同	四〇、〇〇	二四二
砂（玉川）	同	一六、〇〇	三四七

セメント(大樽)	一樽	六、〇〇	一八二	一本	一九、〇〇
生石灰(最)	十貫俵	六七	二六八	松二間(掻材並)	立方尺 二、二〇
煉瓦(焼過一等)	萬本	三五〇、〇〇	二七五	米松角材(マーチヤンタブル)同	九二
同(焼過四等)	同	二八〇、〇〇	二六七	樽九尺巾尺二寸五分(掻材中等品)	一、二一
同(並焼一等)	同	三三〇、〇〇	二七五	同	一八、〇〇
同(並焼三等)	同	二七〇、〇〇	二八六	杉丸太(二間尺二秋田三寸物)	百締 二八、〇〇
花崗石稲田(五切以下)一切			二〇四	檜丸太(二間尺二尾州三寸物)	同 三〇、〇〇
横根澤(五切以下)	同	二、三〇	二八四		四〇〇
須賀川(三切以下)	同	一、五〇	三〇〇	石灰土佐産	樽 五、五〇
大谷(三尺尺角)	同	五〇	二五〇	生石灰	俵 七〇
丸鐵(六分丸)	十貫目	三、六〇	二一九		十貫 八〇
角鐵(六分角)	同	三、八五	二一八	煉瓦並燒一等(市内河岸渡)千個	二三、五〇
平鐵(巾二寸厚二分)同		三、九〇	二三五	同二等品(同)	二二、〇〇
アングル(二吋半二分)同		三、九〇	二三五	同燒過二等品(同)	二四、五〇
ジョイスト(十吋三分)同		三、九〇	二一二	煉瓦燒過二等品(同)同	二二、五〇
チヤンネル(七吋三分)同		四、二〇	二一七	窯洞煉瓦三枚掛甲 同	一一五、〇〇
鐵板(4×8尺)	同	四、一五	二三八	花崗石(北米産荒石五戈以下)	切 二、〇〇
亞鉛引平板(三〇番)一枚			九五		二、九〇
同生子板(三〇番六尺)同			八三	龍山石(青本四五)	間 一、九〇
銅板(定尺七〇目付)一貫目		四、二〇	一四〇	間知石(掻二尺)	面坪 二三、〇〇
丸釘(二寸一二番一六貫)一樽		九、五〇	一四八	三尺板石(中切)	坪 二三、〇〇
生松丸太(二間末口五寸)一本		二、四〇	三一九	九鐵(徑四分ヨリ八分マデ平均)	十貫 四、一〇
杉二間(押四寸)	同	一、八五	二八五	角鐵(四分ヨリ八分マデ平均)	同 四、二〇
檜二間(同)	同	三、六〇	三二七	平鐵(二吋ヨリ二吋半厚一分ヨリ二分)	同 四、五〇
樅二間(山掟四寸並)同		二七、〇〇	二一五	同三等品(正一分ヨリ二分)	同 四、五〇
栂二間(山掟四寸眞去二方無節)		四、三二	二八八	平均	

大阪主要建築材料價格並指數表

大正一五年三月末現在

名稱	單位	價格	指數
栗石(市内河岸渡)	立坪	二七、五〇	三四四
砂利(同)	同	三〇、〇〇	三三四
川砂(同)	同	一四、五〇	六三〇
セメント(同)	樽	五、五〇	二二〇
石灰土佐産	俵	七〇	二六九
生石灰	十貫	八〇	三七〇
煉瓦並燒一等(市内河岸渡)千個		二三、五〇	二六一
同二等品(同)	同	二二、〇〇	二七五
同燒過一等品(同)	同	二四、五〇	二五八
煉瓦燒過二等品(同)同		二二、五〇	二六五
窯洞煉瓦三枚掛甲 同		一一五、〇〇	〇二四
花崗石(北米産荒石五戈以下)	切	二、〇〇	三三三
龍山石(青本四五)	間	一、九〇	二七一
間知石(掻二尺)	面坪	二三、〇〇	三一九
三尺板石(中切)	坪	二三、〇〇	三一九
九鐵(徑四分ヨリ八分マデ平均)	十貫	四、一〇	一〇三
角鐵(四分ヨリ八分マデ平均)	同	四、二〇	一〇八
平鐵(二吋ヨリ二吋半厚一分ヨリ二分)	同	四、五〇	〇八七

アングル(二吋ヨリ五吋マデ等邊)	十貫	四、五〇	一〇七	ペンキ三回塗	面坪 二、五〇 三五七
ジョイスト(四吋ヨリ一二吋マデ平均)	同	四、七〇	〇九〇	ワニス四回塗	同 三、五〇 二六九
チヤンネルプレート(同)同		四、八五	一一三		平均
厚一分ヨリ三分マデ平均	同	四、六〇	〇八八		
亞鉛引平板三十番	枚	一、二〇	二二〇		一五年六月末
同浪板六尺	同	一、〇〇	二二〇	栗石(市内河岸渡)	立坪 二七、五〇 三四四
銅板十ォンス(磨板定尺モノ)				砂利(同)	同 三〇、〇〇 三三四
	百片	七二、〇〇	一三八	川砂(同)	同 一四、五〇 六三〇
洋釘(二吋半)		一六貫 一〇、〇〇	一四三	セメント(同)	樽 五、五〇 二二〇
生松丸太(二間末口五寸)本		一二、四〇	二四〇	石灰土佐産	俵 七〇 二六九
杉二間四寸角(二等品)戈			三〇〇	生石灰	十貫 八〇 三七〇
松二間掟立材(大サ八寸以下)				煉瓦並燒一等	千個 二三、五〇 二六一
	尺締	二四、五〇	三二〇	同二等品(同)	同 二二、〇〇 二七五
檜二間同(眞持小節八寸以下)				同燒過一等品(同)	同 二四、五〇 二五八
	同	五二、〇〇	三四〇	同二等品(同)	同 二二、五〇 二六五
臺灣檜同(眞去無節尺以下)	同	九五、〇〇	一一八	窯洞煉瓦三枚掛甲	同 一一五、〇〇 〇二四
	同	四二、〇〇	二二八	花崗石(北米産荒石五才以下)	切 二、〇〇 三三三
杉窓枠材(眞去小節)同	同	二〇〇、〇〇	三五四		一、九〇 二七一
機造作材(同無節)	同	九五、〇〇	三九五	間知石(掻二尺)	面坪 二三、〇〇 三一九
樅山角(同)				三尺板石(中切)	坪 二三、〇〇 三一九
米利堅松角材(並通品一等材)				丸鐵(徑四分ヨリ八分マデ平均)	
	立方尺	一、〇五	一五一		十貫 四、〇〇 一〇〇
同平材(同)	同	一、四五	一四五	角鐵(四分ヨリ八分マデ平均)	同 四、一五 一〇六
同床板(巾六吋厚一吋一等材)				平鐵(二吋ヨリ二吋半厚一分ヨリ二分)	
					同 四、四〇 〇八四

アングル(二吋ヨリ五吋マデ等邊)	十貫	四、四〇	一〇四
ジョイスト(四吋ヨリ一二吋マデ平均)	同	四、五五	〇九〇
チャンネル(同)	同	四、七〇	一一〇
プレート(厚一分ヨリ三分マデ平均)	同	四、五〇	〇八六
亞鉛引平板三十番	枚	一、一〇	一一〇
同浪板六尺	同	九五	一一四
銅板十オンス(磨板定尺モノ)	百斤	七二、〇〇	一三八
洋釘(二吋半)	一六貫	九、五〇	一三六
生松丸太(二間末口五寸)本		二四〇	二四〇
杉二間四寸角(二等品)戈		一五	三〇〇
松二間挽立材(大サ八寸以下)	尺締	二四、五〇	三二〇
檜二間同(眞去小節八寸以下)	同	五〇、〇〇	三二七
臺灣檜同(眞去無節尺以下)	同	九五、〇〇	一一八
杉窓枠材(眞去小節)同		四二、〇〇	二二八
槻造作材(同無節)同		二〇〇、〇〇	三五四
栂山角(同)	同	九五、〇〇	三九五
米利堅松角材(並通品一等材)	立方尺	九五	一三八
同平材(同)	同	一、三五	一三五
同床板(巾六吋厚一吋一等材)	百呎	七、四〇	一六一
チーリ角材(同)	立方尺	六、五〇	二四八
同板子材(同)	同	七、五〇	三一八
杉六分板(小節巾七吋以下)坪		三、五〇	三一八
杉板割(並材巾六吋)同		三、六〇	二五一
北海道松同(同)	同	一、七〇	二二〇
杉木摺小舞	坪	一、一〇	一六九
松四一貫(並)	丁	三八	二一〇
瓦淡路(兩面磨六面棧瓦)屋根坪		八、二〇	四〇七
瓦谷川(同)	同	一三、二〇	三五六
瓦中和泉(同)	同	一〇、六〇	三一八
土居葺(杉機械扮一等品二吋五分)	同	一、一五	二三〇
石綿盤葺手間共(一六吋角二吋半重ネ下葺一號フエルト)	同	七、五〇	一一五
天然スレート一等黑色(葺足四寸以下葺一號フエルト)	同	一四、〇〇	一八〇
板硝子並一分(ハメ込ニテ手間共)	平方尺	一六	一三三
同正一分(同)	同	二三	一二一
同磨二分(長二尺巾六尺以內)	同	二、〇〇	二二二
同縞二分(長五尺巾三尺)枚		五、三〇	一八九
ペンキ三回塗	面坪	二、五〇	三五七
ワニス四回塗	同	三、五〇	二六九
		平均	

商業組合

東京土木建築業組合　大正五年十月設立、區域東京市及市外五郡、所在京橋區八丁堀二ノ二、組長中野喜三郎、副石井權藏、同下田助次郎

東京壁材料商同業組合　區域東京市、豊多摩郡南葛飾郡、北豊島郡、南足立郡、荏原郡、大正七年七月設立、所在地京橋區銀座一丁目二〇、組長皆川勘一郎、副小川勘助、同矢崎庄兵衛

東京土商組合　區域東京市及南葛飾郡、所在地芝區芝口一丁目一二、組長木村治郎吉、副加藤孫太郎

東京石材問屋組合　區域東京市、荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南葛飾郡、南足立郡、所在地神田區今川小路一ノ六鍋島方、組長鍋島彥七郎副松本芳之助

東京煉瓦石販賣業組合　大正十年六月設立、區域東京府、所在地神田區花房町一、組長光川秀孝

東京瓦營業組合　明治二十五年五月設立、區域東京市及市外六郡、所在地京橋區南八丁堀三ノ六、一本文藏方、組長一本文藏、副淀川竹松

東京煉瓦石建築職業組合　明治二十六年二月設立、區域十五區六郡、所在下谷區上野櫻木町二小林方、頭取小林榮吉

東京金物組合　所在地日本橋區小傳馬上町一六會長秋田直吉

東京金物同業組合　大正五年一月設立、區域東京府、所在神田區東紺屋町四九、組長吉川百太夫、副阿部彥四郎、同井原作太郎

東京伸線同志會　所在地深川區東森下町二六、會長野村伊三郎

東京銅鐵問屋組合　所在日本橋區蠣殼町三ノ一〇、頭取森岡平右衛門、副水橋義之助

江東銅鐵商組合　大正九年三月十三日設立、區域本所區、深川區、南葛飾郡、所在本所區綠町一ノ一、組長笠原泰藏、副疋田龍之助、同西村寅吉

東京鎭鍮地銅問屋組合　區域東京市、所在日本橋區小傳馬上町一六秋田方、頭取山崎惣吉、副海寶龜太郎

東京機械金物商同業組合　大正八年十二月六日設立、區域東京府、所在京橋區元數寄屋町一ノ二、組長野田正一、副岡原義二

東京鐵工機械同業組合　大正八年五月六日設立區域東京府、所在芝三田豊岡町二〇、組長大塚榮吉、副喜多武夫

東京金物問屋組合　明治二十年十月設立、區域東京市、所在日本橋區小傳馬上町一六秋田方、頭取秋田直吉、副小西政敬

東京伸銅業組合　大正六年八月設立、區域東京府、所在本所區表町三二松村方、組長松村安太郎、副田邊松太郎

京橋銅鐵商組合　大正十年三月設立、所在芝區日ノ出町八住田方、組長大村正治、副渡邊與助

東京砂利問屋組合　所在京橋區三十間堀三ノ一總務鈴木辰五郎外五名、常任幹事桐谷芳郎、江波戸善次郎

東京砂利商組合　所在四谷區東信濃町一一、組長木村清五郎

東京白土商同業組合　明治四十年十一月設立、區域東京市及隣接、所在深川區常盤町一ノ六寺山方、組長寺山鉢三郎、副山本茂吉

東京玻璃器同業組合　明治四十年十二月廿日設立、區域東京市所在神田區豊島町四七、組長齋藤熊三郎、副水谷銀次郎

東京硝子製造同業組合　明治三十一年八月廿一日設立、區域東京府、所在本所區綠町四ノ三六組長小出兼吉、副坪內鬼三郎

東京板硝子商組合　明治三十年三月設立、區域東京市及隣接町村、所在淺草區南元町六德島方組長德島久人、副酒井由太郎

東京タイル業組合　大正九年一月設立、區域東京市及近接郡部、所在神田鎌倉町六、理事下里貞次郎、菊池勝三郎、廣田米吉、河補修豊、前田權八

東京陶磁器同業組合　明治三十七年十二月設立區域東京府、我在日本橋區濱町三ノ一四、組長大屋初太郎、副本田義松、廣田米吉

東京コルク商組合　明治三十九年三月設立、區域東京市、横濱市、所在芝區露月町一四、組長平本淳一、副小野里七平

東京材木商同業組合　大正九年十月設立、區域東京市及府下郡部、所在淺草區須賀町九、組長稻葉錄次郎、副齋田悅太郎

東京材木問屋同業組合　區域東京市及荏原郡、南葛飾郡　豊多摩郡、所在深川區三好町、組長小林文之助、副本田富久松

東京桐材問屋組合　大正七年九月設立、區域東京市及府下一圓、所在淺草區花川戸町四二恩田龜太郎方、組長恩田龜太郎、副岩崎新六

東京藤商工同業組合　明治四十五年七月設立、區域東京市及市外一圓、所在市外寺島町一四六五加藤初次郎方、組長加藤初次郎、副山口喜市同坂口福太郎

東京染料工業藥問屋同業組合　大正四年十二月十五日設立、區域日本橋區、京橋區、神田區、麴町區、芝區、本所區、深川區、所在地日本橋區伊勢町二四、組長田澤又右衛門、副小西喜兵衛

東京漆商同業組合　明治三十二年六月設立、區域東京市、所在神田區松田町一六、組長山崎尙三郎、副中村和助

東京紙商同業組合　明治四十年四月設立、區域東京市、所在神田區錦町一ノ一〇番地博進社內　組長山本留次、副大倉邦彥、角田吉次郎

東京電氣業組合　明治四十三年四月設立、區域東京市、荏原郡、豐多摩郡、南葛飾郡、足立郡　所在京橋區南鍋町一ノ八、頭取守谷吾平、副松代松之助

東京木器建具製造販賣同業組合　明治三十三年一月設立、區域東京市及荏原郡、豐多摩郡、北豐島郡、南足立郡、所在京橋區松屋町三ノ二大澤永治方、組長代理副組長大澤常吉

東京西洋家具同業組合　大正十年十二月一日設立、區域東京市及荏原郡、北豐島郡、豐多摩郡　所在芝區烏森二藤田平三郎方、組長藤田平三郎　副岩本半三郎

東京電氣瓦斯器商組合　明治四十二年三月設立　區域東京市並郡部、所在本所區林町一ノ一一、組長小山傳太郎、副小林美十郎、野澤五三郎

東京疊製造同業組合　大正九年一月設立、區域東京市及荏原郡、豐多摩郡、北豐島郡、南足立郡、南葛飾郡、所在京橋區入船町三ノ二前原方　組長前原榮次郎、副上原和三郎、今井操、田中龜之助、木村善次郎

東京疊表問屋組合　明治十年四月設立、區域東京市、所在日本橋區堀江町一ノ一和田方、組長和田直兵衛

東京疊表花莚同業組合　大正六年十二月設立、區域東京市及荏原郡、豐多摩郡、北豐島郡、北足立郡、南葛飾郡、所在牛込區新小川町三ノ三三、組長常川佐吉、副三木六太郎

横濱建築請負業組合

建築請負業組合役員名

組合長白井庄三郎　住吉町三ノ三八電話3四六八五、副組長入倉勝三郎　松影町二ノ六七電話3五五〇一、同太田治助　尾上町四ノ五五電話3四八〇一、出納役原田淸七　福富町二ノ四八電話3二九三四、理事狩野庄太郎　平沼町一ノ八電話3四七七八、同稻吉善太郎　福富町二ノ五五電話3〇五四一、第一部評議員丸山初五郎　住吉町五ノ六二電話3一三二九、同齋藤時次　福富町一ノ二四、同市川藤吉　福富町三ノ一〇六、第二部評議員井出源之助　野毛町三ノ九八同澁谷新太郎　西戸部町宮ノ前六二一、同齊木伊三郎　戸部町二ノ四六、同片倉健太郎　平沼町二ノ二三、同渡邊吉右衛門　花咲町八ノ八五電話3三〇九三、第三部評議員栗原末藏　末吉町二ノ二二、評議員鈴木延次郎　吉岡町二ノ二四、電話3三一九四、同太田房吉　吉岡町三ノ二八、同大熊卯一　蒔田町四八三、同伊藤淸太郎　瀧頭町一九六、第四部評議員宮川三郎　三吉町三ノ二四電話3四一二四、同淺田垣次郎　眞金町一ノ四電話3五六〇二、同古屋定吉　翁町三ノ一三一、同增田幸作　南吉田町七〇七、第五部評議員柳島孫右衛門　本牧町上臺電話2三七九八、同古谷宅平　石川町一ノ一四、同相澤長吉　元町五ノ二一一、同飯田吉五郎　根岸町三九五八、同關喜三郎　本牧町大鳥谷戸二六七八、同小川八郎　中村町一二六七、相談役木野喜三郎　福富町一ノ一五、同太田春吉　南吉田町七五一電話3二五七〇、同金子勇藏　平沼町三ノ三四電話3二八一〇

大阪商業組合

大阪方面各組合

大阪府硝子製造同業組合　創立明治三一年四月　區域大阪府、所在地大阪北區梅ケ枝町八八、組長三好鹿藏、副組長吉田岩平、書記長楢崎勝茂

大阪硝子同業組合　創立明治三三年五月、範圍大阪府、所在地大阪市西區靱南通一ノ一四、組長村山金藏、副組長赤松榮吉、書記長佐々木紫朗

大阪疊商同業組合　創立明治四〇年五月、範圍大阪府、所在地大阪市西區京町堀上通四ノ二三　組長中村吉兵衛、副組長羽根田利雄、佐野甚之助、三宅鶴之助

大阪家具指物同業組合　創立大正五年二月一二日、範圍大阪市、所在地大阪市南區久右衛門町四三　組長田中文太郎、副組長三好彌治兵衛、宮本甚吉、書記長武田一鑑

大阪屛風建具表具商工同業組合　創立大正元年九月、範圍大阪市、所在地大阪市西區西長堀北通一ノ一五、組長樋口彥右衛門、副組長谷友二郎、書記長池幸吉

大阪鐵工業同業組合　創立大正七年一月一五日　範圍大阪市、所在地大阪市西區新町通一ノ一四　組長有光丑太郎、阪組長瀨戸文吾、書記長加藤輝吉

大阪鐵商同業組合　創立大正七年三月、配圍大阪市、所在地大阪市西區新町四ノ五、組長岸本吉右衛門、副組長多田藤吉、書記長世川納吉

大阪材木商同業組合　創立明治四二年二月　範圍大阪市、所在地大阪市西區西長堀北通三ノ一〇、組長安井萬吉、副組長濱恒次郎、藤本藤兵衛、書記長村上龍高

大阪陶磁器同業組合　創立明治四二年三月　範圍大阪市、所在地大阪市西區阿波座通一ノ六二　組長泉林藤七、副組長富永甚四郎、守居久太郎　書記長南平淸吉

大阪金物同業組合　創立明治三八年七月、配圍大阪市、所在地大阪市南區上本町三ノ一二ノ一　組長高尾完七、副組長小田仙太郎、板東陸藏、書記長宮崎良平

大阪市電氣商工組合　創立大正一一年五月、範圍大阪市、所在地大阪市北區堂島町中二丁目、組長熊野與太郎、副組長松本龜太郎、大野正五郎、書記長長谷川鎭男

大阪コルク商組合　創立大正一一年五月、配圍大阪府、所在地大阪市北區空心町二ノ七四、組長赤松一二、副組長宮崎義資、書記長三村長次

大阪桐材問屋組合　創立明治四四年六月、範圍大阪市、所在地大阪市西區靱上通二丁目、組長星野周元、副組長池田吉兵衛、書記長福原甚信

大阪塗料商工組合　創立大正四年一〇月、範圍大阪市、堺市、所在地大阪市西區北堀江通二番町二一、組長早瀨榮之助、副組長比山茂松、書記長三宅嘉太郎

大阪土木建築業組合　創立明治四一年二月一五日　範圍大阪府、所在地大阪市東區味原町九九ノ乙、組長森下新造、副組長野村實之助、福井芳太郎、書記長松井毅

大阪製材組合　創立大正一二年五月、範圍大阪市、所在地大阪市港區泉尾町四九、組長檜森謙藏、副組長石川常松、石山新太郎、書記長伊藤豐策

實業團體

大阪商業會議所　所在地大阪市北區堂島濱通二丁目、會頭稻畑勝太郎、副會頭森平兵衛、安宅彌吉

大阪府工藝協會　所在地大阪市西區江ノ子島府廳工務課內、會頭兒玉孝顯

大阪府工業懇話會　所在地大阪府工務課內、會頭知事

大阪木材協會　所在地大阪市港區大正通一ノ一二大正橋ビル、會頭森平藏

日本硝子同業組合聯合會　所在地大阪市北區梅ケ枝町八八、組長鉛市兵衛

大阪工業協會　所在地浪速區元町五ノ五二〇、會長中西平兵衛

大阪工業會　所在地大阪市西區土佐堀裏町大同ビル、會長片岡安

日本ボートランドセメント同業會　所在地東區京橋三ノ六五ノ二、會長淺野セメント株式會社

大阪石商工同盟會　所在地大阪市東區材木町七九、會頭熊ケ谷熊次郎

日本金物同業組合聯合會　所在地大阪市南區上東町三ノ一二ノ一、會長高尾定七

大阪ペイント塗料同盟會　所在地大阪市西區西長堀北通一ノ一五、會頭辰己吉之助

職工組合

關東製材若睦互助會　東京市深川區木場町二七所在、組長田中市五郎、副組長野上庄太郎大正十三年九月に設立

Sの友大工製産同業組合　東京市本所區松倉町二ノ二六クリスト教産業青年會內所在、理事田中源太郎、木立義道、顧問は賀川豊彦で大正十三年十一月に設立された。

八王子鳶職組合　八王子市本町七一所在組長山田淺吉嘉永年間に設立された。

日本大工職組合　東京市芝區宇田川町一六所在組長は水戸守重太郎で大正九年六月の設立。

東京大工職同業組合　東京市本所區綠町三ノ四に所在し會長荒木松五郎、副會長山本峯吉、大正九年一月設立。

東京大鋸職同業組合　東京府を區域とし事務所を東京市日本橋區蠣殻町三ノ六に置く、頭取浦山叶、副頭取後藤久治、明治十八年十二月の設立。

本所區大工職業組合　本所區及郡部、吾嬬、龜戸、寺島を區域とし事務所を本所區綠町二ノ二三に置く。組長小川幸吉、副組長荒井爲藏で明治二十九年三月に設立。

大阪電氣勞働組合　創立大正九年三月、所在地大阪市北區西野田玉川町四ノ五三、組合長木村孝二郎

大阪鐵工組合　創立大正八年五月、所在地大阪市東淀川區一三四ノ町二八、組合長阪本孝二郎

日本木材就働組合　創立大正一一年一一月、所在地大阪市北區上福島中四丁目、組合長堂前孫三郎

關西技工勞働組合　創立大正一三年七月、所在地大阪市港區中通四ノ三〇八、組合長大川利雄

製鋲工組合　創立大正一三年一一月　所在地大阪市此花區下福島五ノ一七〇、日野彌市

立憲働勞黨　創立大正一〇年九月、所在地西區西道頓堀五ノ一一、長後藤田正毅

勞聖會　創立大正八年一二月　所在地大阪市東區越中町六八〇、村井小之助

純向上會　創立大正一一年一一月、所在地大阪市北區東野田町一ノ四三四、會長八木信一

向上會　創立大正八年一一月

鐵心會　創立大正八年一〇月、鐵工機械工ノ組合ナリ

東京大鋸職工組合　東京市日本橋區蠣殻町三ノ六に所在し組長伊藤秀吉、副組長は田邊德次郎である。

東京左官工業組合交友會　東京市京橋區幸町一二に所在し會長森田國太郎、副會長上大正九年十月の設立。

東京ペンキ塗請負業組合　東京市京橋區新榮町二ノ一市川龜吉方、組長市川龜吉、副組長大澤源太郎及中村八十吉、大正八年八月に設立された。

東京石工組合　麹町區山元町一二六（二六）に事務所を置き組合長石川豊太郎、副組合長平川卯平次である。

東京籐商工同業組合　東京府下寺島町一四六五加藤初次郎方に事務所を置く、組長加藤初次郎

日本左官工組合　同　大正一三年二月、會長青井長太郎

日本土工組合　同　大正一二年一二月、會長後藤田正毅

日本硝子工勞働組合　創立大正一二年六月、所在地大阪市西區西野田上ノ町一四、組合長藤田捨次郎

大阪神鋼工組合　創立大正八年一〇月、所在地大阪市北區西野田一六町六六一、組合長村德三郎

大阪機械工勞働組合　創立大正一〇年六月、所在地大阪市西野田江成町二二、組合長藤岡文六

電線工組合　創立大正一〇年八月、所在地大阪市西區四貫島四八、組合長西尾未廣

大阪職工組合　東京市日本橋區蠣殻町三ノ六に所在し組長伊藤秀吉、副組長は田邊德次郎である。

東京左官工業組合交友會　東京市京橋區幸町一二に所在し會長森田國太郎、副組長上大正九年十月の設立。

東京ペンキ塗請負業組合　東京市京橋區新榮町二ノ一市川龜吉方、組長市川龜吉、副組長大澤源太郎及中村八十吉、大正八年八月に設立された。

東京石工組合　麹町區山元町一二六（二六）に事務所を置き組合長石川豊太郎、副組合長平川卯平次である。

東京籐商工同業組合　東京府下寺島町一四六五加藤初次郎方に事務所を置く、組長加藤初次郎

日本左官工組合　同大正一二年九月、會長清瀨常夫

日本大工勞働組合　同　大正一三年二月、會長青井長太郎

日本土工組合　同　大正一二年一二月、會長後藤田正毅

日東建築勞働組協會　創立大正三年十月、所在地西區道頓堀五ノ一一、會長後藤田正毅

日本鐵筋工組合　創立大正一二年六月、會長中村乙十郎

日本左官工組合　同大正一二年九月、會長清瀨常夫

日本大工勞働組合　同　大正一三年二月、會長青井長太郎

日本土工組合　同　大正一二年一二月、會長後藤田正毅

日本硝子工勞働組合　創立大正一二年六月、所在地大阪市西區西野田上ノ町一四、組合長藤田捨次郎

大阪神鋼工組合　創立大正八年一〇月、所在地大阪市北區西野田一六町六六一、組合長村德三郎

大阪機械工勞働組合　創立大正一〇年六月、所在地大阪市西野田江成町二二、組合長藤岡文六

電線工組合　創立大正一〇年八月、所在地大阪市西區四貫島四八、組合長西尾未廣

部に分ち各部に部長副部長を置き本部には組長副組長を以て統括し又別に評議員を設け諮問相談の機關となせり。組長前原榮次郎、副組長上原和三郎、今井操、田中總之助、木村善次郎

大阪職工組合

日東建築勞働組協會　創立大正三年十月、所在地西區道頓堀五ノ一一、會長後藤田正毅

日本鐵筋工組合　創立大正一二年六月、會長中村乙十郎

日本左官工組合　同大正一二年九月、會長清瀨常夫

日本大工勞働組合　同　大正一三年二月、會長青井長太郎

日本土工組合　同　大正一二年一二月、會長後藤田正毅

日本硝子工勞働組合　創立大正一二年六月、所在地大阪市西區西野田上ノ町一四、組合長藤田捨次郎

大阪神鋼工組合　創立大正八年一〇月、所在地大阪市北區西野田一六町六六一、組合長村德三郎

大阪機械工勞働組合　創立大正一〇年六月、所在地大阪市西野田江成町二二、組合長藤岡文六

電線工組合　創立大正一〇年八月、所在地大阪市西區四貫島四八、組合長西尾未廣

火災保險普通物件料率

建物ノ級別

第一級

煉瓦造壁厚十三吋（煉瓦一枚半積）以上ナルコトヲ要ス

鐵筋コンクリート造　外壁厚六吋以上、界壁厚八吋以上ナルコトヲ要ス

土藏造　壁厚四吋以上ナルコトヲ要ス

石造　壁厚八吋以上ナルコトヲ要ス

屋根ハ瓦葺「スレート」葺、亞鉛引鐵板葺、金屬瓦葺、鐵筋コンクリート（何レノ部分ニ於テモ三吋厚以上ナルコトヲ要ス）又ハ「アスベスト」其他不燃性鑛物質材料ヲ以テ葺キタルカ、若クハ「コンクリート」ヲ下塗トシ更ニ表面ヲ不燃質物ニテ仕上ケタルモノ

（注意）第一級構造ノ建物ニ限リ總テノ出入口及窓ニ防火戸又ハ防火扉（構造定義要點第四項參照）ヲ備フル時ハ一割ノ割引ヲ行フコト得

第二級

煉瓦造　壁厚八吋（煉瓦一枚積）以上ナルコトヲ要ス

鐵筋コンクリート造、土藏造、又ハ石造ニシテ必スシモ是等各種構造ノ定義ニハ適合セサルモノ

竹筋コンクリート造　壁厚七吋以上ナルコトヲ要ス

屋根ハ第一級記載ニ同シ

第三級

木骨煉瓦張（張付煉瓦造）

空筒式煉瓦造

木骨石張（張付石造）

木骨竪瓦セメント塗又ハ竪瓦漆喰塗（張付瓦造）

木骨鐵網コンクリート造　但張付瓦ノ有無ヲ問ハス壁厚ハ二吋以上ナルコトヲ要ス

「メタル、ラス、コンクリート造」建物（壁厚二吋以上）ハ「鐵網コンクリート造」建物ト同一

鐵骨金屬張　又ハ其他ノ不燃質物ヲ以テ周壁トシタル建物

屋根ハ第一級記載ニ同シ

第四級

前記各級以外ノ構造　屋根ハ第一級記載ニ同シ

（注意）以上建物ノ級別ヲ定ムルハ前揭「建物、界壁及防火戸防火扉（構造ノ定義」各項ヲ參照シ何レノ點ニ於テモ嚴ニ之レニ

準據スルコトヲ要ス

木骨石綿盤張建物　木骨ニシテ石綿盤針金締メ重ネ張構造建物ニ對シテハ第四級構造料率ヲ適用ス

大壁塗潰建物　木骨ニシテ其三方ハ厚サ四吋以上ノ塗壁屋根ハ第一級構造ノモノト同シキ建物ニシテ第十一區地方(但シ沖繩縣ヲ除ク)ニ所在シ「大壁塗造」ト稱スルモノニ對シテハ第三級構造料率ヲ適用ス

(一)　一般料率

一般ノ普通物件(建物及其收容動産)ニ對シテハ地域及建物構造ノ級別ニヨリテ左記料率ニ據ルモノトス

◎第一區ノ內東京市及接續五郡(荏原、北豐島、豐多摩、南足立、南葛飾)

保險料率(一ヶ年保險金百圓ニ付)

地域	構造	保險料率(一ヶ年保險金百圓ニ付)
甲號地	一等地	第一級　一、二〇
同	二等地	第二級　一、二五
同	三等地	第三級　一、三〇
同	四等地	第四級　一、四〇
同	五等地	一、五〇
同	六等地	一、六〇
同	新宿遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	一、〇〇
同	北千住遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	一、〇〇
乙號地	一等地	一、二七
同	二等地	一、四〇
同	三等地	一、五〇
同	四等地	一、六〇
同	五等地	一、七〇
同	六等地	一、八〇
同	吉原遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	一、〇〇
同	洲崎遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	一、五〇

東京市及接續五郡內乙號ニ對スル注意、上記乙號地域ニアリテハ一等地及二等地以外ニ對シ「單ニ住宅ノミニ使用スル建物及付屬倉庫ニ對スル特別料率」ヲ適用スヘカラサルモノトス

高架鐵道線路アーチ(煉瓦造並ニ鐵筋コンクリート造)內收容動産(東京市自芝區源助町至神田區柳原河岸所在)

右ニ對シテハ所在地域ニ於ケル第二級構造料率ヲ適用スヘキモノトス

注意　一、當該アーチノ周壁ガ完全ニ第一級構造ニ適合スルトキハ第一級構造料率ヲ適用スルコトヲ得

二、當特定料率ヲ適用スル場合ニハ工場物件料率書中「普通物件料率トノ關係」ナル規則ニ準據スルコトヲ要ス

◎第一區ノ內東京府及八縣(埼玉、山梨栃木、群馬、茨城、千葉、長野、新潟)

地域	構造	保險料率(一ヶ年保險金百圓ニ付)
東京府	第一級	一、〇〇
東京市及接續五郡(荏原、北豐島、豐多摩、南足立、南葛飾)(別表)	第二級	一、〇〇
	第三級	一、〇〇
	第四級	一、〇〇
其他	第一級	一、〇〇
	第二級	一、〇〇
	第三級	一、〇〇
	第四級	一、一〇
埼玉縣	秩父郡(秩父町ヲ除ク)	一、〇〇
其他		一、〇〇
山梨縣	甲府市、韮崎、鰍ヶ澤及石和	一、〇〇
其他		一、〇〇

同	四等地	一、〇〇	一、一五	一、二〇	一、二五
同	五等地	一、一〇	一、二〇	一、二五	一、三〇
同	六等地	一、一五	一、二五	一、三〇	一、三五
同	吉原遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇
同	洲崎遊廓(建物ノ用途如何ニ拘ラス)	一、五〇	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇

東京市及接續五郡內乙號ニ對スル注意、上記乙號地域ニアリテハ一等地及二等地以外ニ對シ「單ニ住宅ノミニ使用スル建物及付屬倉庫ニ對スル特別料率」ヲ適用スヘカラサルモノトス

高架鐵道線路アーチ(煉瓦造並ニ鐵筋コンクリート造)內收容動産(東京市自芝區源助町至神田區柳原河岸所在)

右ニ對シテハ所在地域ニ於ケル第二級構造料率ヲ適用スヘキモノトス

注意　一、當該アーチノ周壁ガ完全ニ第一級構造ニ適合スルトキハ第一級構造料率ヲ適用スルコトヲ得

二、當特定料率ヲ適用スル場合ニハ工場物件料率書中「普通物件料率トノ關係」ナル規則ニ準據スルコトヲ要ス

◎第一區ノ內東京府及八縣(埼玉、山梨栃木、群馬、茨城、千葉、長野、新潟)

地域	構造				
東京府	第一級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
東京市及接續五郡(荏原、北豐島、豐多摩、南足立、南葛飾)(別表)	第二級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
	第三級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
	第四級	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、四〇
其他	第一級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
	第二級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
	第三級	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
	第四級	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、四〇
埼玉縣	秩父郡(秩父町ヲ除ク)	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
山梨縣	甲府市、韮崎、鰍ヶ澤及石和	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇

栃木縣	宇都宮市、足利市、栃木及佐野	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
群馬縣	高崎市、前橋市、桐生市、館林及伊勢崎	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
茨城縣		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
千葉縣		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
長野縣	長野市、松本市、上田市、須坂、松代及小諸	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
新潟縣	新潟市　一等地	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇
同	二等地	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
同	三等地	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
長岡市		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
高田市及西頸城、中頸城、刈羽三島、西蒲原、佐渡ノ六郡		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五
其他		一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三五

◎第二區　東北六縣(宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田)

保險料率(一ヶ年保險金百圓ニ付)

地域	構造				
甲號地	橫濱市　一等地	一、一五	一、二〇	一、三〇	一、四〇
同	二等地	一、二五	一、三〇	一、四〇	一、五〇
同	三等地	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇
同	四等地	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇
同	五等地	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇
其他	橫濱市　一等地	一、一五	一、二〇	一、三〇	一、四〇
同	二等地	一、二五	一、三〇	一、四〇	一、五〇
同	三等地	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇
同	四等地	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇
同	五等地	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇
函館、小樽及札幌	一等地	一、五〇	一、八〇	一、一〇	一、一二〇
同	二等地	一、六〇	一、一〇	一、一二〇	一、一四〇
同	三等地	一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇
旭川		一、六〇	一、一〇	一、一二〇	一、一四〇
其他		一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇
樺太		一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇

◎第三區　北海道及樺太

函館、小樽及札幌	一等地	一、五〇	一、八〇	一、一〇	一、一二〇
同	二等地	一、六〇	一、一〇	一、一二〇	一、一四〇
同	三等地	一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇
旭川		一、六〇	一、一〇	一、一二〇	一、一四〇
其他		一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇
樺太		一、七〇	一、一二〇	一、一四〇	一、一六〇

◎第四區ノ內橫濱市及橫須賀市

甲號地	橫濱市　一等地	一、二〇	一、二五	一、三〇	一、四〇
同	二等地	一、二五	一、三〇	一、四〇	一、五〇
同	三等地	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、六〇
同	四等地	一、四〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇
同	五等地	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇

同　六等地　五〇　八〇　一、五〇　二、五〇
同　遊廓地（建物ノ用途如何ニ拘ラス）　八〇　二、〇〇　二、五〇　四、〇〇
同　其他　四〇　一、〇〇　一、四〇　一、〇〇
横須賀市　一等地（新規）　二七　四〇　六〇　一、〇〇
乙號地　横濱市　二等地（舊一二等地）二七　五〇　八〇　一、二〇
同　三等地　四〇　六〇　一、〇〇　一、五〇
同　四等地（舊四五等地）六〇　一、〇〇　一、五〇　二、〇〇
同　五等地（舊六等地）　八〇　一、二〇　二、〇〇　三、〇〇
同　遊廓地（建物ノ用途如何ニカ、ハラス）　一、五〇　二、〇〇　三、五〇　四、五〇
横須賀市　五〇　七〇　一、二〇　一、八〇
横濱市及横須賀市内乙號地域ニ對スル注意
上記乙號地域ニ對シテハ『單ニ住宅ノミニ使用スル建物及付屬倉庫ニ對スル特別料率』ヲ適用スベカラサルモノトス

◎第四區ノ内神奈川縣、靜岡縣

神奈川縣横濱市（別表）
横頭賀市（別表）　四〇　六〇　一、〇〇　一、四〇
田浦町及三崎町　三五　五〇　八〇　一、〇〇
其他　一等地　二五　三〇　四〇　六〇
靜岡縣　靜岡市　一等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇
同　二等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇
其他　三五　五〇　八〇　一、〇〇

◎第五區　石川縣、富山縣、福井縣（若狹國ヲ除ク）（一ヶ年百圓ニ付）

石川縣　加賀國　金澤市　一等地　二〇　二五　三〇　五〇
同　二等地　三〇　四〇　五〇　七〇
同　三等地　四〇　五〇　七〇　一、〇〇
其他　四五　六〇　九〇　一、三〇
富山縣　富山市及高岡市　一等地　二五　三〇　四〇　六〇
同　二等地　三五　四五　六〇　八〇
同　三等地　四五　六〇　八〇　一、一〇
其他　一等地　二五　三〇　四〇　六〇
福井縣　越前國　福井市　一等地　三〇　四〇　六〇　一、〇〇
同　二等地　四〇　六〇　一、〇〇　一、四〇
同　坂井郡及敦賀郡　三五　五〇　八〇　一、二〇
同　其他　四五　七〇　一、二五　一、八〇
（注意一）　建物構造ノ級別、割增、割引ニ關スル規定ハ總テ變更セス
（注意二）　最底料率　（第一級及第二級）（第三級及第四級）（一ヶ年、百圓ニ付）
職業割增ヲ徵セサル場合　一五　一五
職業割增ヲ徵スル場合　三五　四五
（以下各區同シ）

◎第六區　愛知縣、三重縣、岐阜縣

愛知縣　名古屋市　一等地　一五　二〇　二五　三〇
同　二等地　二〇　二五　三〇　四〇
同　三等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇
同　四等地　四五　七〇　一、二五　二、〇〇
其他　一等地　二〇　三〇　四〇　六〇
三重縣　宇治山田市　一等地　二〇　二五　三〇　四〇
同　二等地　二五　三〇　四〇　六〇

南牟婁郡及北牟婁郡　三五　五〇　八〇　一、二〇
其他　二〇　二五　三〇　四〇
岐阜縣　飛彈國及郡上郡　三五　五〇　八〇　一、二〇
其他　二〇　二五　三〇　四〇
岐阜市　一等地　二〇　二五　三〇　四〇
同　二等地　二〇　二五　三〇　四〇

◎第七區　京都府、滋賀縣、若狹國　（一ヶ年百圓ニ付）

京都府　京都市　一等地　一五　二〇　二五　三〇
同　二等地　二〇　二五　三〇　四〇
同　三等地　三〇　四〇　六〇　九〇
同　四等地　五〇　八〇　一、五〇　二、五〇
熊野郡、竹野郡餘部及新舞鶴　二五　三〇　四〇　六〇
丹波國及丹後國　二〇　二五　三〇　五〇
其他　二〇　二五　三〇　四〇
滋賀縣　二〇　二五　三〇　四〇
若狹國　三五　五〇　八〇　一、〇〇

◎第八區　大阪府、和歌山縣、奈良縣、香川縣、高知縣、德島縣（一ヶ年百圓ニ付）

大阪府　大阪市及接續町村　一等地　二〇　二五　三〇　四〇　五〇
同　二等地　二五　三〇　四〇　五〇　七〇
同　三等地　三〇　四〇　五〇　八〇　一、二〇
同　四等地　三五　五〇　八〇　一、二〇　一、五〇
同　五等地　八〇　一、五〇　二、五〇　四、〇〇　四、〇〇
同　千日前ー但高津線電車線路以南新金比羅以北（東西裏通
片側ヲ含ム）　二、〇〇　三、〇〇　五、〇〇　五、〇〇
同　新世界ー但通天閣前通以南、ルナパーク裏通以北、震町
電車線路以東、公園西境界道路以西（同）　二、〇〇　三、〇〇　五、〇〇　五、〇〇
同　飛田　一、一〇　一、二〇　二、〇〇　三、五〇　三、五〇
其他　一等地　二〇　二五　三〇　四〇
和歌山縣　東牟婁郡（新宮町ヲ除ク）及串本　四五　七〇　一、二五　一、八〇
串本町ノ内富二橋村　二〇　二五　三〇　四〇
新宮町　一等地（二等地ヲ除キタル部分）　四〇　六〇　一、〇〇　一、四〇
同　二等地（熊野地、川原及遊廓地）　四五　七〇　一、二五　一、八〇
其他　二〇　二五　三〇　四〇
奈良縣　二〇　二五　三〇　三五
香川縣　二〇　二五　三〇　四〇
高知縣　高知市　二五　三〇　四〇　六〇
其他　二五　三〇　四〇　七〇
德島縣　德島市（齊津村及沖洲村ヲ除ク）二五　三〇　四〇　五〇
其他　二五　三〇　四〇　六〇

◎第九區　兵庫縣　（一ヶ年、百圓ニ付）

神戸市　一等地　二〇　二五　三〇　三五
同　二等地　二五　三〇　四〇　五〇
同　三等地　三〇　四〇　五〇　七〇
同　四等地　三五　五〇　八〇　一、二〇
同　五等地　五〇　八〇　一、五〇　二、五〇

同　舊須摩町申上記二及三等地ニ屬セサル地域　二〇　二五　三〇　四〇

但馬國及丹波國　二〇　二五　三〇　五〇

其　他　二〇　二五　三〇　四〇

◎第一〇區　廣島縣、岡山縣、鳥取縣、島根郡、愛媛縣　一ヶ年百圓ニ付

廣島縣　吳市及尾道市　二五　三〇　四〇　六〇

其　他　二〇　二五　三〇　四〇

岡山縣　二〇　二五　三〇　四〇

鳥取縣　二五　三〇　四〇　六〇

島根縣　二五　三〇　四〇　六〇

愛媛縣　二〇　二五　三〇　五〇

◎第一一區　九州（福岡佐賀熊本大分長崎宮崎鹿兒島ノ七縣）山口縣、沖繩縣　（一ヶ年百圓ニ付）

福岡縣　福岡市　一等地　二五　三〇　四〇　六〇

同　二等地　三〇　四〇　六〇　八〇

同　三等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇

若松市　一等地　三〇　四〇　六〇　八〇

同　二等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇

門司市　大里町　二五　三〇　四〇　六〇

同　其　他　三〇　四〇　六〇　八〇

八幡市、大牟田市、戶畑市、三川町及嘉穗、鞍手及田川ノ四郡　三〇　三五　四〇　六〇

其　他　二五　三〇　四〇　六〇

佐賀縣　二五　三〇　四〇　六〇

熊本縣　熊本市及飽託郡　二五　三〇　四〇　六〇

阿蘇郡及天草郡　二五　三〇　四〇　六〇

其　他　二〇　二五　三〇　四〇

大分縣　長崎縣　長崎市　一等地　二五　三〇　四〇　六〇

同　二等地　三〇　四〇　六〇　八〇

佐世保市　二五　三〇　四〇　六〇

南松浦郡、壹岐國及對馬國　三〇　三五　五〇　八〇

其　他　二五　三〇　四〇　六〇

宮崎縣　都城市、西諸縣郡、北諸縣郡及西臼杵郡（三田村ヲ含ム）　三五　五〇　八〇　一、〇〇

其　他　三〇　四〇　六〇　八〇

鹿兒島縣　鹿兒島市　一等地　三五　四五　八〇　一、〇〇

同　二等地　四〇　五五　九五　一、二五

同　三等地　四五　七五　一、二五　一、五五

同　四等地　五五　九〇　一、六五　二、二五

同　五等地　六〇　一、〇〇　二、〇〇　三、〇〇

大島郡及熊毛郡　其　他　四〇　六〇　一、〇〇　一、四〇

山口縣　下關市　一等地　二五　三〇　四〇　六〇

同　二等地　三〇　四〇　六〇　八〇

同　三等地　三五　五〇　八〇　一、〇〇

宇部市　一等地（宇部鐵道線路及明神川以東北ノ地域）　二〇　二五　三〇　四〇

同　二等地（同上以西南ノ地域）　二五　三〇　四〇　六〇

彥島及厚狹郡ノ內小野田町　三〇　四〇　六〇　八〇

其　他　二〇　二五　三〇　四〇

沖繩縣　那覇市　一等地　四五　七五　一、二五　一、五五

同　二等地　五五　九〇　一、六五　二、二五

同　三等地　六〇　一、〇〇　二、〇〇　三、〇〇

其　他　四〇　六〇　一、〇〇　一、四〇

（注意）此割增ハ十二ヶ月未滿ノ期間ニ對シ日割計算ニヨリテ之ヲ徵スルコトヲ得

（三）特別料率

（イ）空地割引

此規定ハ第四級構造ノ長屋造建物ニ對シテハ戶數ノ多少ニ拘ラス總テ之レヲ適用セス

（1）左記ノ空地ヲ有スル建物及其收容動產ニ對シ　ハ左記ノ割引ヲ行フコトヲ得

北海道、樺太、東北六縣（宮城福島岩手山形秋田青森）石川、富山、福井（除若狹）及新潟ノ四縣

（甲）周圍二十間以上又ハ三方二十間以上　六割引

（乙）周圍十間以上又ハ三方二十間以上　三割引

前記以外ノ各府縣

（甲）周圍十間以上又ハ三方二十間以上　五割引

（乙）周圍五間以上又ハ三方十間以上　二割引

（2）單ニ住宅ニノミ使用スル建物及附屬倉庫ニ對シ下記ノ場合ニ於テ左ノ特別料率ヲ適用スルコトヲ得

一、東京府（但東京市及接續五郡內乙號地域ヲ除ク）及神奈川縣（但橫濱市及橫須賀市內乙號地域ヲ除ク）ニ所在スルモノ

一ヶ年百圓ニ付	一ヶ年保險金百圓ニ付附加料金
第一級及第三級及第二級第四級	十錢
、一五　、二五	十錢
、二〇　、三五	十錢
、二五　、五〇	十錢
、二〇　、三五	十錢

周圍五間以上又ハ三方十間以上ノ空地ヲ有スルトキ……

周圍三間以上又ハ三方五間以上ノ空地ヲ有スルトキ……

一、東京市及接續五郡（但乙號地域ヲ除ク）ノ二三及四等地及橫濱市（但乙號地域ヲ除ク）ノ二

第一級及第二級構造　三十錢

第三級及第四級構造　五十錢

及三等地ニ所在スルモノ周圍二間以上又ハ三ヶ三間以上ノ空地ヲ有スルトキ……

一、東京市接續五郡內乙號地域ノ一及二等地ニ所在スルモノ周圍五間以上又ハ三方十間以上ノ空地ヲ有スルトキ……

注意

(一)最低料率

空地割引ニ據ルトキト雖モ(ホ)最低料率ヨリ下ルコトヲ得ス

(二)空地間隔ノ計算

當該建物又ハ其附屬建物ノ最近個所(軒ヲ有スル建物ニ在リテハ其軒先)ヨリ他ノ建物ノ最近箇所マテノ距離ヲ計ルモノトス

(三)同一構內建物

同一構內ニ在ル數個ノ建物ニシテ全部同一人ノ占有(所有ノ如何ヲ問ハス)ニ屬スルトキハ是等ノ建物ハ一團トシテ之レヲ一個危險ト見做シ、是等一團ニ屬スル建物相互間ノ距離如何ニ係ハラス此ノ一團ト之レニ屬セサル建物トノ空地間隔ニ據リテ空地割引ヲ行フコトヲ得

(四)空地割引ヲ行フ契約ニ對シテハ左記空地條項ヲ特定スヘシ

「本契約期間中ハ本契約ノ目的タル建物ハ最近ノ建物ヨリ周圍……間以上又ハ三方……間以上空地ヲ以テ離隔セラルヘキコトヲ保險契約者(又ハ被保險者)ニ於テ確保スルモノナリ」

東京市及接續五郡域別

(大正十五年十二月一日訂正)

麴町區(全部( )は大震災燒失地にして乙號に該當す、不燒失地は甲號地)

一等地　一番町自一至四自五六至六〇(其他)祝田町全部、隼町自一七至三七)、西日比谷町全部、道三町大手門より呉服橋に至る電車線路以南(右同北)、大手町一、二丁目大手門——呉服橋電路以南(右同北)、霞ケ關一、二丁目全部、上二番町其他(自一至三自二〇至二七自四一至四九)、上六番町(全部)、四番町全部、竹平町全部、代官町全部、寶田町全部、外櫻田町全部、永田町一丁目全部、永田町二丁目其他(自一至四自五八至八〇)、裏霞ケ關全部、內山下町全部、內幸町二丁目、八重洲町一、二丁目全部、山元町(一、二丁目)富士見町一丁目(自二二至二七)、富士見町自二丁目至六丁目全部、五番町(自四至一九)、麴町自一丁目至四丁目(全部)、麴町五丁目(自一至二自一六至二〇)、永樂町一、二丁目自大手門至呉服橋電路以南(右同北)、三年町全部　三番町自一至二〇自四三至五六)、紀尾井町其他、有樂町一丁目一、二番地、有樂町二丁目一番地、有樂町三丁目三井集會所及愛國生命構內、下二番町全部、日比谷公園全部、平河町自一丁目至四丁目(全部)、平河町六丁目、元千代田町全部、元衞町全部、元園町一丁目(全部)、元園町二丁目(其他)、元平河町(全部)、錢瓶町(全部)

二等地　飯田河岸自一號至九號、隼町自一至一六、土手三番町全部、中六番町全部、內幸町一丁目、山元町三丁目、富士見町其他、五番町自一至三、麴町五丁目自一二至一五、麴町自六丁目至十丁目全部、下六番町全部、平河町五丁目、元園町二丁目自一一至一四

三等地　飯田河岸(自一〇號至三二號)、飯田町一丁目牛ケ淵公園一廊其他)、飯田町二丁目九段下より飯田町に至る電車線路以西(右同東)、飯田町三丁目一及自一〇至三三(其他)飯田町自四丁目至六丁目(全部)、俎河岸(全部)、三番町其他、紀尾井町六番地、有樂町一丁目(三、五番地)、有樂町二丁目二、三ノ內高架線以西(右以東)、有樂町三丁目(其他)

▲神田區

一等地　紅梅河岸(全部)、駿河臺袋町(全部)、駿河臺東紅梅町(全部)、駿河臺西紅梅町(全部)、駿河臺北甲賀町(全部)、駿河臺鈴木町(全部)、

二等地　駿河臺南甲賀町(其他)、

三等地　和泉町(全部)、佐久間町自一丁目至四丁目(其他)、佐久間河岸(和泉橋美倉橋間)、平河町(全部)、

四等地　花房町(全部)、花田町(全部)、花岡町(全部)、旅籠町一、二、三丁目(全部)、同明町(全部)、龜住町(全部)、金澤町(全部)、田代町(全部)、臺所町(全部)、仲町一、二丁目(全部)、山本町(全部)、松富町(全部)、松住町(全部)、五軒町(全部)、相生町(全部)、榮町(全部)、佐久間町自一丁目至四丁目(一丁目)、佐久間河岸(其他)、宮本町(全部)、昌平河岸(全部)、元佐久間町(全部)、末廣町(全部)、

五等地　岩本町(全部)、岩井河岸(全部)、今川小路自一丁目至三丁目(全部)、蠟燭町(全部)橋本町自一丁目至三丁目(全部)、西今川町(全部)、西福田町(全部)、西小川町一、二丁目(全部)、鵜町自一丁目至三丁目(全部)、通神保町(全部)、通新石町(全部)、富松町(全部)富山町(全部)、豊島町(全部)、千代田町(全部)、塗師町(全部)、小川町(全部)、表神保町(全部)、表猿樂町(全部)、鍛冶町(全部)、鎌倉町(全部)、鎌倉河岸(全部)、上白壁町(全部)、堅大工町(全部)、多町一、二丁目(全部)、連雀町(全部)、鍋町(全部)、仲猿樂町(全部)、永富町(全部)、裏猿樂町(全部)、鞍地河岸(全部)、黑門町(全部)、柳原河岸(全部)、柳町(全部)、八名川町(全部)、大和町(全部)、松田町(全部)、松枝町(全部)、松永町(全部)、松下町(全部)、小出河岸(全部)、小柳町(全部)、紺屋町(全部)、江川町(全部)餌鳥町(全部)、旭町(全部)、淡路町一、二丁目(全部)、佐柄木町(全部)、材木町(全部)、猿樂町自一丁目至三丁目(全部)、雉子町(全部)、久右衞門町(全部)、北乘物町(全部)、北神保町(全部)、南乘物町(全部)、美倉町(全部)、三河町自一丁目至四丁目(全部)、三崎町自一丁目至三丁目(全部)、三崎河岸(全部)皆川町(全部)、美土代町自一丁目至四丁目(全部)、南神保町(全部)、新石町(全部)、新銀町(全部)、下白壁町(全部)、東今川町(全部)平永町(全部)、一ツ橋通町(全部)、東松下町(全部)、東紺屋町(全部)、東福田町(全部)、東龍閑町(全部)、元柳原町(全部)、元久右衞門一、二丁目(全部)、元岩井町(全部)、關口町(全部)、駿河臺南甲賀町(八及一八)、須田町(全部)、

▲日本橋區

一等地　箔屋町(全部)、西河岸(全部)、西河岸町(全部)、本町自一丁目至四丁目(自一丁目至二丁目)、本革屋町(全部)、本兩替町(全部)、本石町自一丁目至四丁目(自一丁目至二丁目)、本銀町自一丁目至四丁目(自一丁目至二丁目)、本材木町一、二丁目(全部)、通自一丁目至四丁目(全部)、金吹町(全部)、川瀨石町(全部)、上槇町(全部)、四日市河岸(全部)、萬町(全部)、室町一、二、三丁目(自六至一一自六至一三自一至七)、裏河岸(全部)、榑正町(全部)、呉服町(全部)、青物町(全部)、左內町(全部)、材木河岸(全部)、北鞘町(全部)、十軒店町(自一番地至三番地)、下槇町(全部)、品川町(全部)、品川町裏河岸(全部)、新右衞門町(全部)、城邊河岸(全部)檜物町(全部)、平松町(全部)、元大工町(全部)、元四日市町(全部)、駿河町(全部)、數寄屋町(全部)、

二等地　岩代町(全部)、岩附町(全部)、伊勢町(全部)、長谷川町(全部)、箱崎町自一丁目至四丁目(全部)、馬喰町自一丁目至四丁目(自一丁目至三丁目)、西綠河岸(全部)、西萬河岸(全部)、本町自一丁目至四丁目(自三丁目至四丁目)、堀留町自一丁目至三丁目(全部)

堀江町自一丁目至四丁目(全部)、木石町自一丁目至四丁目(自三丁目至四丁目)、本銀町自一丁目至四丁目(自三丁目至四丁目)、富澤町(全部)、通油町(全部)、通塩町(全部)、酒旅籠町(全部)、大傳馬町一、二丁目(全部)、大傳馬壹町(全部)、茅場河岸(全部)、兜町(全部)、楓河岸(全部)、蠣殻河岸(全部)、鎧井町(全部)、横山町自一丁目至三丁目(全部)、鎧河岸(全部)、芳町(全部)、吉川町(全部)、田所町(全部)、橘町自一丁目至四丁目(全部)、高砂町(全部)、中洲河岸(全部)、室町一、二三丁目(其他)、村松町(自一至一〇)、彌生町(全部)、柳原河岸(全部)、葺屋町(全部)、米河岸(全部)、小舟河岸(全部)、小舟町自一丁目至三丁目(全部)、小網町自一丁目至四丁目(全部)、小網仲町(全部)、小傳馬町自一丁目至三丁目(全部)、小傳馬上町(全部)、榮久河岸(全部)、鐵砲町(全部)、堺町(全部)、坂本町(全部)、北新堀河岸(全部)、北新堀町(全部)、行德河岸(全部)、南茅場町(全部)、三代町(全部)、十軒店町(其他)、新大阪町(全部)、新材木町(全部)、新乘物町(全部)、新葭町(全部)、新和泉町(全部)、新柳町(全部)、新柳河岸(全部)、東綠河岸(全部)、東堀河岸(全部)、久松町(自一至一三)、元濱町(全部)、元大阪町(全部)、元柳町(全部)、元柳河岸(全部)、瀬戸物町(全部)、末廣河岸(全部)、

三等地　濱町自一丁目至三丁目(全部)、馬喰町自一丁目至四丁目(自三丁目至四丁目)、本小田原町(全部)、南金六町(全部)、南紺屋町(全部)、本船町(全部)、若松町(全部)、蠣島町(全部)、南鞘町(全部)、南槇町(全部)、南銀冶町(全部)、南大工町(全部)、新肴町(全部)、白魚河岸(一及四十七號)、城邊河岸(全部)、日吉町(全部)、元數寄屋町自一丁目至四丁目(全部)、炭町(全部)、鈴木町(全部)、

二等地　稻荷河岸(全部)、濱町(全部)、富島町(全部)、大川端町(全部)、四日市町(全部)、築地自一丁目至四丁目(全部)、北新河岸(全部)、南新堀河岸(全部)、南新堀町一、二丁目(全部)、鹽町(全部)、

三等地　入舟町自一丁目至六丁目(全部)、八丁堀水谷町(全部)、八丁堀仲町(全部)、本八丁堀自一丁目至五丁目(全部)、本港町(全部)、小田原河岸(全部)、岡崎町一、二丁目(全部)、龜島河岸(全部)、上柳原町(全部)、川口町(全部)、楓河岸(全部)、高代町(全部)、靈岸島町(全部)、長崎町一、二丁目(全部)、長澤町(全部)、永島町(全部)、采女町(全部)、松島町自一丁目至三丁目(全部)、船松町(全部)、船松河岸(全部)、木挽町自一丁目至十丁目(全部)、越前堀河岸(全部)、越前堀町一、二丁目(全部)、幸町(全部)、北櫻川河岸(全部)、金六町(全部)、南新河岸(全部)、南水谷町(全部)、弓町(全部)、南傳馬町自一丁目至三丁目(全部)、南金六町(全部)、南紺屋町(全部)、本小田原町(全部)、南鞘町(全部)、南槇町(全部)、南銀冶町(全部)、南大工町(全部)、新肴町(全部)、白魚河岸(一及四十七號)、城邊河岸(全部)、日吉町(全部)、元數寄屋町自一丁目至四丁目(全部)、炭町(全部)、鈴木町(全部)、

▲京橋區

一等地　出雲町(全部)、因幡町(全部)、八官町(全部)、西豐玉河岸(全部)、西紺屋町(全部)、本材木河岸(全部)、本材木町三丁目(全部)、常盤町(全部)、尾張町一、二丁目(全部)、尾張町新地(全部)、桶町(全部)、加賀町(全部)、竹川町(全部)、疊町(全部)、竹河岸(全部)、宗十郎町(全部)、中橋廣小路町(全部)、和泉町(全部)、具足町(全部)、山下町(全部)、鎗屋町(全部)、柳町(全部)、丸屋町(全部)、五郎兵衛町(全部)、明石町(全部)、石河岸(全部)、三十間堀町(全部)、銀座自一丁目至四丁目(全部)、北紺屋町(全部)、北槇町(全部)、弓町(全部)、南傳馬町自一丁目至三丁目(全部)、南金六町(全部)、南紺屋町(全部)、本小田原町(全部)、南鞘町(全部)、南槇町(全部)、南銀冶町(全部)、南大工町(全部)、新肴町(全部)、白魚河岸(一及四十七號)、城邊河岸(全部)、日吉町(全部)、元數寄屋町自一丁目至四丁目(全部)、炭町(全部)、鈴木町(全部)、

部)、南飯田河岸(全部)、南八丁堀自一丁目至三丁目(全部)、南本鄉町(全部)、南飯田町(全部)、南小田原町自一丁目至四丁目(全部)、南櫻河岸(全部)　湊河岸(全部)、白魚河岸(其他)、銀町一、二丁目(全部)、勝鬨河岸(全部)、新船松町(全部)、新榮町自一丁目至五丁目(全部)、新湊町自一丁目至五丁目(全部)、新富町自一丁目至七丁目(全部)、新富河岸(全部)、東豐玉河岸(全部)、東湊町一、二丁目(全部)、日比谷河岸(全部)、日比谷町(全部)、元島町(全部)、

四等地　佃町(全部)、

五等地　月島通(自一丁目至十一丁目)、月島東河岸通(自一丁目至十一丁目)、月島西河岸通(自一丁目至十一丁目)、月島東仲通り(自一丁目至十一丁目)、月島西仲通(自一丁目至十一丁目)、新佃島東町一、二丁目(全部)、新佃島西町自一丁目至三丁目(全部)、

▲芝　區

一等地　高輪西臺町全部、三田綱町全部、下高輪町全部、芝公園地(自四至七、九、一三、一四、二五)其他、

二等地　伊皿子町全部、二本榎町一、二丁目全部、二本榎本町全部、二本榎西町、西久保城山町全部、西久保八幡町全部、西久保神谷町一八番地、西久保葺手町自一七至二七、高輪南町全部、高輪北町全部、高輪臺町全部、田村町(全部)、中門前町自一丁目至三丁目(全部)、宇田川町(全部)、宇田川橫町(全部)、源助町(全部)、衆房町(全部)、二葉町(全部)、琴平町(其他)、愛宕下町自一丁目至四丁目(全部)、櫻田備前町(全部)、櫻田伏見町(全部)、櫻田本鄉町(其他)、櫻田和泉町(全部)、櫻田鍛冶町(全部)、櫻田久保町(全部)、櫻田善右衛門町(全部)、北金杉河岸(全部)、三田四國町全部、三田小山町其他、三田豐岡町全部、三田同明町全部、南佐久間町一、二丁目(全部)、南金杉河岸(全部)、三島町(全部)、宮本町(全部)、湊町(全部)、汐留一、二丁目(全部)、白金三光町自一丁目至二五〇、三田猿町自一至二五、芝口河岸(全部)、芝口自一丁目至三丁目　全部)、神明町(全部)、新幸町(全部)、新錢座町(全部)、新堀町(自一至一〇、一四其他)、柴井町(全部)、七軒町(全部)、新網町(全部)、日蔭町一、二丁目(全部)、

五等地　本芝自一丁目至四丁目全部、本芝入橫町全部、本芝下町全部、本芝材木町全部、西應寺町全部、

▲麻布區　(燒失地なし)

一等地　市兵衛町一丁目全部、本村町其他、鳥居坂町全部、富士見町其他、東鳥居坂町全部、

森岡町全部、

二等地　市兵衛町二丁目全部、飯倉町自一丁目至六丁目其他、飯倉片町全部、一本松町全部六本木町全部、西町全部、本村町自五二至一〇二、自一一八崖下至一五三、我善坊町全部霞町其他、永坂町全部、仲ノ町全部、狸穴町全部、富士見町自六至九崖下自三五崖下至五三、箪笥町其他、材木町全部、櫻田町全部、三軒家町全部、北日ケ窪町全部、三河臺町全部宮村町自九至五七、自六七至八一、新龍土町全部、廣尾町全部、

三等地　飯倉町自一丁目至六丁目、五丁目、今井町全部、龍土町全部、薪河岸全部、竹谷町全部、谷町全部、簞笥町全部、山元町自二七至四〇、赤羽河岸全部、北新門前町全部、宮村町自一至八自五八至六六、南日ケ窪町全部宮下町全部、新門前河岸全部、新堀町全部、新網町一、二丁目全部、東町全部、森本町自一丁目至三丁目全部、

四等地　霞町自一〇至一六、田島町全部、山元町其他、箪笥町自三三至七六、網代町全部、坂下町全部、新廣尾町自一丁目至四丁目全部、

▲赤坂區

一等地　表町自一丁目至四丁目其他、臺町全部靈南坂町自一二至一八（其他）、榎坂町自一至三、葵町其他（三番地）、新坂町其他、氷川町

自四七至五二、元赤坂町全部、

二等地　丹後町其他、仲ノ町全部、福吉町全部榎坂町其他、青山横田原町全部、青山南町自一丁目至六丁目全部、青山北町自一丁目至六丁目全部、青山六軒町全部、青　高樹町全部新坂町自七〇至七九及八一、氷川町其他、檜町全部、一ツ木町自五二至六四自八〇至九一

三等地　表町自一丁目至四丁目一丁目二丁目、丹後町自一一至一五自二一至二八自四六至六二自八三至一〇六、田町自一丁目至七丁目一丁目全部（自二丁目至七丁目）、溜池町（全部）傳馬町自一丁目至三丁目全部、新町一丁目全部、新町二丁目（全部）、新町三丁目（自一至六、一三、一四、自二一至二八）其他、新町四、五丁目全部、一ツ木町其他、

▲四谷區（燒失地なし）

一等地　仲町自一丁目至三丁目、三丁目

二等地　市ケ谷本村町全部、西信濃町全部、大番町全部、屋敷町全部、霞ケ岳町全部、仲町其他、內藤町及舊新宿一丁目ノ內一一二、八七番地他、右京町全部　舟町全部愛住町全部、坂町全部、左門町全部、北伊賀町全部、南寺町全部、新堀江町全部、鹽町自一丁目、東信濃町全部、平永町全部、須賀町全部、忍町全部、簞笥町全部、

內藤町舊新宿一丁目八七、永住町全部、麹町自十一丁目十三丁目全部、傳馬町自一丁目至三丁目全部、傳馬町新一丁目全部、寺町全部三光町舊北裏町ノ內一二七、一二八及自一四七至一五六右改正番地自一至五四、南伊賀町全部、南町全部　鹽町其他、七軒町全部、

四等地　花園町舊北裏町自六五至一二六、右改正番地自四二至一一一、片町全部、荒木町全部、新宿一丁目自四七至九一、

五等地　谷町一、二丁目全部、新宿一丁目自一至四六、新宿二丁目（全部）、新宿三丁目舊三丁目及添地全部、右改正番地自一至五三、

六等地　花園町舊北裏町自二三至六四右改正番地自一至四一、內藤町舊新宿一丁目一一、一二、旭町舊南町全部、

▲牛込區（燒失地ナシ）

一等地　市ケ谷河田町全部、市ケ谷仲ノ町全部中町全部、北町全部、南町全部、

二等地　市ケ谷船河原町全部、市ケ谷八幡町全部、同本村町全部、同加賀町一、二丁目全部同甲良町全部、同佐土原町自一丁目至三丁目全部、同田町自一丁目至三丁目全部、同谷町其他、同臺町全部、同鷹匠町其他、同佐內町其他、同長延寺町其他、拂方町全部、原町自一丁目至三丁目全部、二十騎町全部、西五軒町全部、箪笥町全部、若松町全部、若宮町自

一一至一一五自二二五至四二、神樂河岸全部、余丁町全部、築土八幡全部、納戸町全部、矢來町全部、袋町全部、北山伏町全部、喜久井町全部、南山伏町全部、南町全部、白銀町全部、東五軒町全部、

三等地　市ケ谷富久町全部、同　壬寺町全部、同山伏町全部、同柳町全部、同岩戸町全部、馬場下町全部、寺町全部、戶山町全部、若宮町其他、早稻田町全部　早稻田南町全部、神樂町自一丁目至三丁目全部、上宮比町全部横寺町全部、高田町全部、簞笥町全部、津久土町全部、築地町全部、中里町全部、榎町全部、天神町全部、揚場町全部、赤城元町全部赤城下町全部、細工町全部、肴町全部、新小川町自一丁目至三丁目全部、下宮比町全部、東榎町全部、水道町其他、

四等地　市ケ谷谷町自九八至一九、同鷹匠町自八至一〇、同佐內町自二九至三八、同長延寺町自一至六、改代町全部、水道町自一至二五、

五等地　早稻田鶴巻町全部、山吹町全部、

▲小石川區

一等地　小日向臺町自一丁目至三丁目全部、小石川町全部、

二等地　市兵衛河岸全部、林町全部、原町全部白山前町全部、白山御殿町其他、西青柳町全部、西富坂町全部、西江戶川町全部、同心町全部、戶崎町自一至六自三四至五〇自六四至六六、大原町全部、表町全部、大塚上町全部同窪町全部、同仲町全部、同辻町全部、同坂下町自一五至一二四、鶯籠町全部、上富坂町全部、大門町全部、第六天町全部、同豐川町全部、竹早町全部、雜司ケ谷町全部、中町全部、小日向水道町全部、丸山町全部、櫻木町全部、三軒町全部、江戶川町其他、關口臺町全部、關口駒井町全部、水道端町一、二丁目全部、

三等地　西原一、二丁目全部、西丸町自二至一一自一九至三〇、大塚坂下町其他、大塚町全部、中富坂町全部、江戶川町（自一至四自二七至三九）、新諏訪町全部、宮下町（全部）、諏訪町四八、四九自五八至六〇（其他）、

四等地　初音町全部、西丸町其他、西古川町全部、戶崎町其他、掃除町（八千代町）全部、柳町全部、松ケ枝町全部、餌差町全部、指ケ谷町其他、下富坂町全部、東古川町全部、關口水道町全部、

五等地　白山御殿町自一至一〇五、小日向町全部、久堅町其他、氷川下町全部、

▲本郷區

一等地　向ケ岡彌生町全部、駒込西片町全部、駒込曙町其他、本富士町一番地、

二等地　根津西須賀町全部、同須賀町自七至一〇自二三至二七、丸山新町全部、同福山町全部、駒込曙町一、二、四、五、同富士前町全部、同林町全部、同東片町全部、同蓬萊町全部、同上富士前町全部、同千駄木町自一至二二自三七至六〇、湯島切通町全部、本富士町二、三番地、

三等地　春木町自一丁目至三丁目（全部）、西竹町（全部）、本郷一丁目（全部）、本郷二丁目自一四至二〇自三六至四二（其他）、同三丁目自一〇至三一（自一至六）、同自四丁目至六丁目全部、龍岡町全部、妻戀町（全部）、根津宮永町全部、眞砂町全部、駒込淺嘉町全部、駒込動坂町全部、同片町全部、同吉祥寺町全部、同追分町全部、同看町全部、同神明町全部、金助町（全部）、湯島自一丁目至六丁目（全部）湯島三組町全部、湯島天神町一丁目（全部）同天神町二丁目全部、同天神町三丁目（全部）同同明町（全部）、同切通坂町自二一至五三、同新花町（全部）、同梅園町一番地（其他）、同兩門町全部、弓町一、二丁目自一至

五自一九至二四）其他及二丁目、東竹町（全部）、森川町全部、元町一、二丁目（全部）、
四等地　本郷三丁目自七至九、豪町全部、田町全部、根津須賀町其他、駒込坂下町全部、駒込菊坂町全部、湯島切通坂町自一至二一、
五等地　根津清水町全部、根津八重垣町全部、同藍染町全部、同片町全部、

▲下谷區

二等地　茅町一、二丁目全部、上野花園町全部、同公園地全部、同櫻木町全部、谷中町全部、谷中天王寺町全部、谷中清水町全部、
三等地　谷中坂町全部、谷中三崎町全部、谷中眞島町全部、谷中上三崎南町全部、谷中上三崎北町全部、谷中茶屋町全部、谷中初音町自一丁目至四丁目自一丁目至三丁目、坂本裏町全部、坂本町一丁目自一七至三〇、坂本町三丁目自一一至三一、下根岸町全部、善養寺町全部、
四等地　池ノ端仲町（全部）、同朋町（全部）、長者町一、二丁目（全部）、練塀町（高架線以西）、仲御徒士町自一丁目至三丁目（高架線以西）、上野廣小路（全部）、同北大門町（全部）、上野元黒門町（全部）、上野三橋町（全部）、上野町一、二丁目（全部）、谷中初音町自一丁目至四丁目（全部）、谷中三崎町（全部）、黒船町（全部）、福壽河岸（全部）、

條町（全部）、坂本町一丁目其他、坂本町二丁目其他、坂本町三丁目其他、坂本町四丁目其他、坂町（全部）、下谷町一、二丁目（高架線以西）、東黒門町（全部）、二長町（全部）、竹町（全部）、御徒士町自一丁目至三丁目（其他）、仲御徒士町自一丁目至三丁目（其他）、車坂町（全部）、南稻荷町（全部）、下谷町一、二丁目（其他）、
六等地　入谷町（全部）、豊住町全部、龍泉寺町（全部）、上車坂町（全部）、金杉上町（其他）、金杉下町（全部）、上野山下町（全部）、山伏町（全部）、萬年町一、二丁目（全部）、坂本町四丁目（自八至二〇）、北稻荷町（全部）、三ノ輪町（全部）、新坂本町（全部）

▲淺草區

四等地　橋場町自一四至四五、
五等地　旅籠町（全部）、八幡町（全部）、西三筋町（全部）、西仲町（全部）、御藏前片町（全部）、上平右衛門町（全部）、代地河原町（全部）、田原町自一丁目至二丁目（全部）、永住町（全部）、黒船町（全部）、福壽河岸（全部）、柳原町自一丁目至三丁目（全部）、柳島元町（全部）、同横川町（全部）、同梅森町（全部）、松坂町一、二丁目（全部）、松井町自一丁目至三丁目（全部）、松代町自一丁目至三丁目（全部）、玄森河岸（全部）、藤代町（全部）、小梅瓦町（全部）、相生町自一丁目至五丁目（全部）、荒井町（全部）、北二葉町（全部）、北堅川河岸（全部）、南堅川河岸（全部）、南二葉町（全部）、新小梅町（全部）、清水町（全部）、東横川河岸（全部）、東五間堀河岸（全部）、新小梅町（全部）、清水町（全部）、元町（全部）、

▲深川區

三等地　今川町（全部）、代河岸（全部）、西永町（全部）、堀川町（全部）、豊住町（全部）、同元町（全部）、同八軒町（全部）、同横川町（全部）、同業平町（全部）、同原庭町（全部）、長岡町（全部）、長崎町（全部）、永倉町（全部）、向島小梅町（全部）、同須崎町（其他）、同請地町（自一至三四自九九至一〇九）、同押上町（全部）、同中ノ郷町（其他）、堤堀河岸（全部）、

龍山瓦町（全部）、象潟町（全部）、新畑町（全部）、新谷町（全部）、聖天町（全部）、聖天横町（全部）、柴崎町（全部）、元吉町（全部）、千束町自一丁目至三丁目（全部）、

▲本所區

三等地　向島須崎町自一三二至一五二自一六一至一八三自二〇二至二四三自二四六至二四七自二五七至二九七自三〇五至三三九、
四等地　向島請地町、東武線西北其他、向島中ノ郷町自七三至八六、
五等地　入江町（全部）、石原町（全部）、番場町（全部）、林町自一丁目至三丁目（全部）、花町（全部）、西五間堀河岸（全部）、西横川河岸（全部）、德右衛門河岸（全部）、千歳町（全部）、千歳河岸（全部）、尾上河岸（全部）、表町（全部）、押上町（全部）、若宮町（全部）、鐘澤町一、二丁目（全部）、茅場町自一丁目至三丁目（全部）、吉田町（全部）、吉岡町（全部）、横川町（全部）、大手町自一、二丁目（全部）、外手町（全部）、中ノ郷竹町（全部）、同瓦町（全部）、同元町（全部）、同八軒町（全部）、同横川町（全部）、同業平町（全部）、同原庭町（全部）、長岡町（全部）、長崎町（全部）、永倉町（全部）、向島小梅町（全部）、同須崎町（其他）、同請地町（自一至三四自九九至一〇九）、同押上町（全部）、同中ノ郷町（其他）、堤堀河岸（全部）、

藥師前河岸（全部）、柳原町自一丁目至三丁目（全部）、柳島町（全部）、柳島元町（全部）、同横川町（全部）、同梅森町（全部）、松坂町一、二丁目（全部）、松井町自一丁目至三丁目（全部）、松代町自一丁目至三丁目（全部）、玄森河岸（全部）、藤代町（全部）、小梅瓦町（全部）、相生町自一丁目至五丁目（全部）、荒井町（全部）、北二葉町（全部）、北堅川河岸（全部）、南堅川河岸（全部）、南二葉町（全部）、新小梅町（全部）、清水町（全部）、東横川河岸（全部）、東五間堀河岸（全部）、新小梅町（全部）、清水町（全部）、元町（全部）、

▲深川區

三等地　今川町（全部）、代河岸（全部）、西永代町（全部）、西永町（全部）、堀川町（全部）、豊住町（全部）、同元町（全部）、同八軒町（全部）、同横川町（全部）、同業平町（全部）、同原庭町（全部）、長岡町（全部）、長崎町（全部）、永倉町（全部）、向島小梅町（全部）、同須崎町（其他）、同請地町（自一至三四自九九至一〇九）、同押上町（全部）、同中ノ郷町（其他）、堤堀河岸（全部）、大和町（全部）、山本町（全部）、松賀町河岸（全部）、松賀町（全部）、小松河岸（全部）、小松町（全部）、永代河岸（全部）、油堀河岸（全部）、材木町（全部）、佐賀地一、二丁目（全部）、佐賀町河岸（全部）、北仙臺堀河岸（自二一至四〇）木場町（自四至一一自一五至二七）三好町（全部）、南仙臺堀河岸（全部）、茂森町（全部）、島田町（全部）、島崎町（全部）、島田河岸（全部）、鹽崎町全部、東永代河岸（全部）、東永代町（全部）、久永町（全部）、久永河岸（全部）

五等地　一色河岸（全部）、一色町（全部）、仲藝崎町（全部）、伊澤河岸（全部）、伊澤町（全部）、入舟河岸（全部）、入舟町（全部）、石島町（全部）、濱邊河岸（全部）、蛤町一、二丁目（全部）、西亥ノ堀河岸（其他）、西元河岸（全部）

西平野町（全部）、西大工町（全部）、西元町（全部）、西森下町（全部）、西町河岸（全部）、西町（全部）、西六間堀町（全部）、西六間堀河岸（全部）、西平井町（全部）、牡丹町（全部）、本村町（全部）、辨天前河岸（全部）、平久町一、二丁目（全部）、通濱町（全部）、常盤町一、二丁目（全部）、富吉町（全部）、富岡門前町（全部）、富川町河岸（全部）、富川町（全部）、近江河岸（全部）、扇橋町一、二丁目（一丁目）、

小名木河岸(全部)、澳ノ河岸(全部)、大島河岸(全部)、大島町(全部)、御船藏前町(全部)、龜住町(全部)、加賀河岸(全部)、數矢河岸(全部)、上大島町(全部)、數矢町(全部)、靈岸町(全部)、佃町(全部)、仲大工町(全部)、中島町(全部)、裏大工町(全部)、海邊町(全部)、黑江町(全部)、黑江河岸(全部)、熊井町(全部)、八名川町(全部)、松村河岸(全部)、松村町(全部)、萬年河岸(全部)、萬年町一、二町目(全部)、深川公園地(全部)、福住河岸(全部)、福住町(全部)、古石場町(全部)、越中島町(全部)、相川町(全部)、安宅町(全部)、安宅河岸(全部)、晒河岸(全部)、猿江河岸(全部)、猿江町(全部)、猿江裏町(全部)、清住河岸(全部)、清住町(全部)、北仙臺堀河岸(其他)、木場町(其他)、南五間堀河岸(全部)、芝浜河川(全部)、新安宅町(全部)、平富町一、二丁目(全部)、東門前河岸(全部)、東六間堀河岸(全部)、東町河岸(全部)、東森下町(全部)、東元町(全部)、東町(全部)、東扇橋町(全部)、東平井町(全部)、東大工町(全部)、門前河岸(全部)、門前仲町(全部)、門前山本町(全部)、門前東仲町(全部)、元加賀町(全部)、諸町(全部)、千田町(全部)、州崎町(全部)、

▲遊廓地

吉原(淺草區)　新吉原揚屋町、五十間町、同京町一、二丁目、角町、江戸町一、二丁目、

州崎(深川區)　洲崎辨天町一、二丁目、

新宿　二丁目自五〇至五五(四谷區)

千住町(南足立郡)

東京市接續五郡

【全部(　)內は大震災による燒失地】

▲崖原郡　(燒失地なし)

二等地　北品川宿御殿山其他、一本木全部、小關自七一〇至七五四、入新井町不入斗自一四五九至一五一〇、新井宿全部、大井町大井北西及目四三六四至六六一五、

三等地　品川町新宿裏町自六八至七〇、北品川宿裏町京濱電車西自九七至九九自一五六至一四六至一五五、百反、北三ツ木全部、南品川四六至一五五、百反、北三ツ木全部、三嶽、三ツ木鎗ヶ崎、南三ツ木、西廣町、苗木原、權現臺、淺間臺全部、大崎町廣町八一至一二〇、東淺間其他、大崎子ノ神下、本村附川通、田中、本村附、三島下、川通、西ノ谷、森ヶ崎、島久保、池ノ谷、清水久保、中丸、上ノ谷、六軒茶屋、永峰通、天久保、千代崎、長者丸、今里、下大崎臺町裏、篠の谷、平岡、霞ヶ崎、霞ヶ崎下、坂下、袖ヶ崎、谷在家、袖ヶ崎下、池の下、道場谷、白金猿町全部、居木橋畑道高臺自一四七至二二〇、入新井町不入斗其他、大森町大森其他、大井町大井其他、平塚町戸越、小山、中延、上蛇窪、下蛇窪、目黑町上目黑、中目黑、下目黑、三田、世田ヶ谷町若林、三宿、下北澤、世田ヶ谷、池尻、太子堂、代田、經堂在家、松澤村赤堤、上北澤、松原、裸貝村裸文谷、貝、玉川村等々力、尾山、奥澤、用賀、賴田、野良田、上野毛、下野毛、駒澤村上馬引澤、下馬引澤、野澤、深澤、世田ヶ谷新町、弦卷、馬込村、矢口村、今泉、蓮沼、道塚、小林、安方、原古市場、矢口、下丸子、池上村下池上、石川雪ヶ谷、上池上、市野倉、桐ヶ谷、堤方、德寺、久ヶ原、道々橋、蒲田町北蒲田、御園、女塚、蒲田新宿、六鄕村八幡原、町屋、古川雜色、高畑、調布村下沼部、嶺、鵜の木、上沼部全部、

四等地　北品川御殿山自二五八至二七九、袖ヶ崎全部、小關其他、利田新田、南品川獵師町南品川宿四丁目、五丁目、六丁目、七丁目、後地、馬場全部、裏五丁目自四二二至四二五自四五六至四七八、東廣町全部、二日五日市町廣町其他、大崎町下大崎五反田、野守、谷山、松葉、大境、本村附峯下　峯原、池の台、

野崎、桐ヶ谷向原、原、宮の上、谷の中、幡ヶ谷上、幡ヶ谷下、第六天、宮の下、小平、塵頭窪、谷戸窪、根ガラミ、龜の甲、花ヶ谷下、花ヶ谷、谷戸、居木橋八重垣全部、畑通其他、寺田、宮前、松の木、辻田、本村、百反全部、大森町大森目一至四七九自二六三三至三〇九二自五七二五至七四五自六四六八至六四七一及六四九二、大井町大井自三四六七至三六四八、羽田町羽田獵師町、鈴木新田羽田、萩中、麹谷全部、

五等地　北品川馬場其他、南品川宿一丁目、二丁目、三丁目全部　二日五日市町東淺間臺自一七二至一九三自二八九至三〇〇自三〇二至三二四、

六等地　品川町新宿一丁目、二丁目、三丁目全部、新宿裏町其他、北品川宿八ツ山、本宿全部、裏町其他、山ノ下全部、

▲北豐島郡

三等地　日暮里町日暮里自一至三五自八一九至八二二自一〇三二至一一二四、尾久町上尾久王子電路北、下尾久王子電路北、船方王子電路北、瀧野川町瀧の川全部、上中里其他、中里其他、田端其他、西ヶ原其他、板橋町瀧野川自五二七七至二六一八、金井窪、中丸、池袋、巢鴨町巢鴨一丁目、二丁目、三丁目、四丁目全部、巢鴨自九八四一、五三八、上駒込大塚辻町全部(癈兵院構內)、駒込染井、駒込妙義坂下、西巢鴨町巢鴨庚申塚、新田全部、宮仲自二〇三〇至二〇五七自二二一四至二四二〇自二四九三至二八〇〇自二八〇三至二八二九自二八三五至二八三七、新田堀の內其他、元長崎、長崎町長崎、長崎町(北西)、元長崎、飛地、旭出町、高田千登世町、豐川町、老松町、若葉町、巢鴨代地、小石川狐塚全部、雜司ヶ谷其他、田高其他、岩淵本宿、下、赤羽、袋、岩淵町稻附、神谷、志村、大泉村、石神井村、下練馬村、中新井村、上練馬村、赤塚村、上板橋村全部、四等地　王子町王子、豐島、堀の內、船方、上池袋其他(線路西北)、瀧野川町上中里自二二五至二二八自二八八至二九三自五七二至二三〇至二三四自二四〇至五五二、中里自五二六至八八八、田端自八二六至二二九、高田町雜司ヶ谷自一二五二至一四八〇、板橋町下板橋全部、瀧野川其他、巢鴨町巢鴨自一五三九至一八八一、西巢鴨町宮仲其他(線路南)、向原全部、新田堀の內自三至七の線路南及七八、池袋自一至二八自二八八至二九三自五七二九至二三六自五八五、五九二、六二九自六三三至六三六、高田町雜司ヶ谷自一一二至二六〇、田高自一至二一七自三四七至一〇五五自二三七九至二四〇二、

五等地　南千住町南自一至三四自七三至一二一

▲豐多摩郡　(燒失地ナシ)

二等地　代々幡町代々木其他、千駄ヶ谷町原宿

菅谷自一二二至一三五、大門自七二七至　七六一、砂尾自一二四至一二六七、砂尾堤先自四五五至四九一、日暮里町日暮里其他、谷中本全部、元金杉自一三四至三〇五、尾久町上尾久王子電路南、下尾久王子電路南、船方王子電路南、

六等地　南千住町南其他、菅谷其他、若宮、堰頭全部、諏訪面(自五六二至五六三)其他、大門其他、千塚全部、河原崎(自八七九至八八五自九〇七至九二五)其他、中原全部、大田全部、砂尾其他、元下谷通新町全部、三之輪道久塚(全部)、河原崎(自一一三至一一八自二一六至二二三)其他、箕里三三七及三四五線路南、三五三、自三七四至三七七、三八九其他、地方橋場內沼(全部)、玄蕃沼(全部)、堤根(自二一四至二三六)其他、砂尾堤先其他汐入全部、石橋(二二四六、二二五一)其他、眞先(全部)、元宿(全部)、元千束西(全部)、元三河島江川端、石橋、辻元全部、正庭(全部)、日暮里町元金杉(自一六三五至一六六三自一七四九至二〇四八)其他、三河島町三河島(自二六六〇至二七三六自二七七一至二八二三)其他、町屋全部、三の輪、千住南全部、

竹の下全部、北原宿其他、南原宿全部、石田其他、灰毛丸全部、穩田赤羽根全部、穩田自一七至五三、前田自一一八至一三三、中澁谷長谷戸海江田山、鉢山全部、南平台、大山、神山、深町、下澁谷笄開谷、豐分、羽根澤、常盤松、永川裏全部、伊勢山自六一四至六一九

三等地　戸塚町下戸塚、源兵衛、諏訪、戸塚落合村上落合、下落合、葛ヶ谷、中野町中野、本郷、雜色全部、代々幡町代々木自一至八四自八五至二〇七自二八一至二九一自三一三至三二八、幡ヶ谷全部、千駄ヶ谷町內藤田甫其他、水の口全部、向山、宮下、大橋、八幡前全部、新屋敷其他、下夕道、小西、大西全部新田其他、新町裏全部、新町、火除全部、厩通其他、穩田大原全部、源氏山全部、淀橋町角筈自九三至四五三自六六三至七三二、柏木其他、澁谷町青山北町七丁目、青山南町七丁目、宮益町、澁谷下廣尾、澁谷廣尾、上澁谷中澁谷堀の內、並木、並木町、大和田全部、長谷戸其他、豊澤、大向、新地、居村、伊藤前全部、伊勢山其他、猿樂全部、代官山、鎗ヶ崎、向山、欠塚、伊達跡全部、東大久保其他、西大久、保大久保百人町、野方町下沼袋新井、江古田、上鷺宮、上高田、上沼袋、下鷺宮、和田堀ノ內村堀の內、和泉、和田、永福寺、杉並町阿佐ヶ谷、馬橋、成宗、田端、高圓寺、天沼、井荻村　井草、下荻窪、上荻窪、下井草、高井戸村上高井戸、下高井戸、久我山、中高井戸、大宮前新田、松庵全部、

四等地　千駄ヶ谷町北原宿自一二三至一三六、石田自二二一至二四六、千駄ヶ谷內藤田甫自三一四至三一七、北の脇、町內、中村、南前全部、新屋敷自五七四至五七六自五八八至五九五自六一三至六二八自六四九至六五八及六六六自六七八至七一四自七一八至七二三及七二七、七二九、新田自八五三至八五六、厩通自九八〇至一〇〇三、穩田其他、前田其他、淀橋町角筈自一至九二自四五四至六六二自七三三至九〇四、柏木自八八至二八九、澁谷町麻布廣尾、澁谷上廣尾全部、上澁谷二三の澁谷川以西及目二四至九九自一二二至一二五、大和田下、道玄坂、神泉谷、宇田川、田子免、四反町、長谷戸、伊達前、廣尾耕地全部、東大久保自二五至一六六自四八九至五四六、

五等地　澁谷神原、下澁谷廣尾向、町田、豊澤全部、

▲南足立郡（全部燒失地ナシ）

三等地　西新井村本木、興野、西新井、江北村沼田、堀の內、宮城、小臺、鹿野新田、鹿濱谷在家、加々皿沼、高野、舍人村、舍人、古千谷、伊與村、淵江村、梅島村、綾瀨村、東淵江村、花畑村全部、

四等地　千住町中組、一丁目、二丁目、三丁目四丁目、五丁目全部、

▲南葛飾郡（全部燒大地ナシ）

三等地　隅田町隅田三歲新川向、三歲、大堤、二ツ塚、堀切境、新川端、谷起、高森島、寺島境、堤外、梅若、關谷、古川敷、綾瀨向、新川向、善左衛門、本の下、高森島、綾瀨川若宮綾瀨川、大道北、大道南、砂町又兵衛新田、荻新田、治兵衛新田、太郎兵衛新田、中田新田、大塚新田、龜高、久左衛門新田、四十丁全部、本砂町其他、平井新田、小松川町西小松川町、逆井、東小松川、西船堀、中平井、下平井、松江村西一の江、一の江村東一の江、新堀、一の江新田、谷河田、船堀村本船堀、西宇喜田の內、葛西村桑川、西宇喜田東宇喜田、長の島、堀口、下今井の內、二の江の內、瑞穗村上今井、下今井、二の江、下鎌田、當代島、前野、鹿本村松本、本一色、興の宮、鹿骨、上一色、篠崎村下篠崎、上鎌田、笹ヶ崎、伊勢屋、小岩井村下小岩、上小岩、中小岩、伊豫田、小岩田、金町村金町、柴又、水元村上小合、下小合、小合新田、猿ヶ又、飯塚、奥戸村佃田、上小松、下小松、奥戸新田、奥戸、曲金、鎌倉新田、諏訪野、平井村上平井、木田村川端、寶木塚、篠原、

四ツ木、澁江、梅田、中原、淡野須、立石、原、龜青村龜有、砂原、青戸、南綾瀨村下千葉、堀切、小谷野、柳原、小菅、上千葉全部

四等地　寺島町寺島馬場、北玉の井、本玉の井長浦、北居村、南居村、前沼、中堰、新田、深瀨入、札道向、堤外、中の鄕殿田、隅田寺島境、若宮大道向、大畑西、請地葭沼、沼田大畑前、須崎殿田、吾嬬町請地、小村井、葛西川、龜戸、須崎、寺島、上木下川、大畑、木の下、下木下川全部、龜戸町一丁目其他、二丁目其他、三丁目其他、四丁目、五丁目、六丁目、七丁目、八丁目、九丁目、大島町三丁目、四丁目、五丁目、六丁目、七丁目、八丁目全部、

五等地　砂町八右衛門新田全部、本砂町自八八四至一六〇九、永代新田全部、龜戸町一丁目自一至一三自三〇至三六自六八至七四自九六至一一〇及一二六、一三四、二丁目自四七至四八自七〇至七二及七七、自八四至八六自八九至九〇自九三至一〇〇及一二六自一三九至一四〇自一四七至一五四及一五六、三丁目自二一至二四自三五至三八自四一至四二、自五四至一五五自一五七至一六四自一六八至二四〇自二四三至二四四及二四六、大島町一丁目二丁目全部、

六等地　龜戸町三丁目自三九至四〇、自四三至五四、

內國火災保險會社一覽

◎明治火災保險會社

所在地　東京市麴町區永樂町一ノ一

設　社　明治二四年一月

資本金　百萬圓（全額拂込濟）

◎共同火災保險株式會社

所在地　大阪市北區曾根崎上二ノ九六

設　立　明治三九年六月七日

資本金　一千萬圓（內拂込二百五十萬圓）

◎日本火災保險株式會社

所在地　東京市京橋區銀座一ノ一二

設　立　明治二五年四月

資本金　千萬圓（內拂込四百萬圓）

◎日本共立火災保險株式會社（舊名浪速火災保險）

所在地　東京市京橋區南紺屋町二六

支　店　大阪市東區大川町淀屋橋南詰

設　立　明治四二年

資本金　五百萬圓（內拂込百三十萬圓）

◎千代田火災保險株式會社

所在地　東京京橋南傳馬二ノ一八

設　立　大正二年七月八日

資本金　一千萬圓（內拂込二百五十萬圓）

◎福壽火災保險株式會社

所在地　名古屋市西區本町五ノ五

設　立　明治四四年一月

資本金　二百萬圓（內拂込五十萬圓）

◎豊國火災保險株式會社

所在地　大阪市北區曾根崎新地三ノ五三

設　立　明治四五年二月十五日

資本金　三百萬圓（內拂込七十五萬圓）

◎中央火災傷害保險株式會社

所在地　東京市麴町區八重州町一ノ一

設　立　明治四四年六月二十八日

資本金　五百萬圓（內拂込百二十五萬圓）

◎大阪海上火災保險株式會社

所在地　大阪市西區川口町一〇

設　立　明治二六年十月三一日

國產

特許

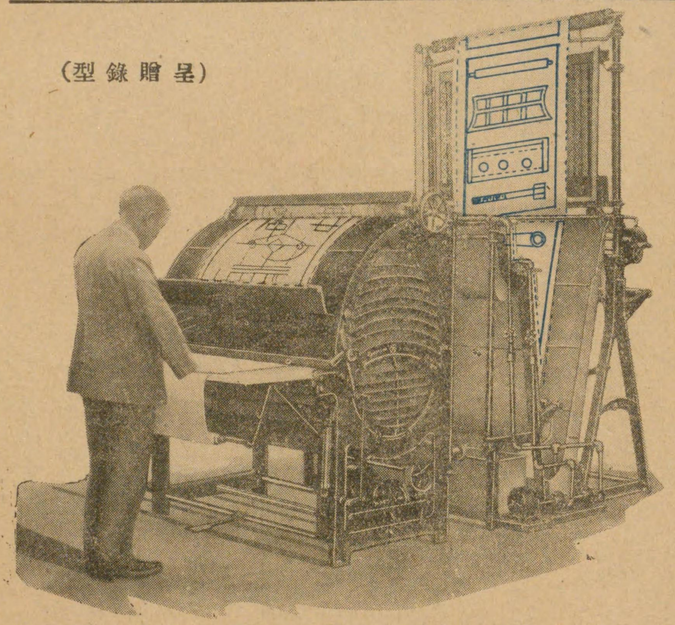
丸星青寫眞機械

燒付、水洗、乾燥、連續裝置

燒付能力 每時百二十枚(450尺)以上 **電力消費量** (連續運轉)11.98KVA

各官廳、大會社ノ必需品トシテ愛用セラレ名實共斯界ニ冠タリ、然モ價格底廉、作業簡易ニシテ能率ノ威大ナル事遙ニ外國品ヲ凌駕ス

(呈贈錄型)



藥光感、紙光感眞寫青製丸星

感光度正確　色澤鮮明
紙質强靭　價格底廉　(見本型錄呈贈)

鐵道省遞信省御用

製造發賣元　丸星商店

東京市赤坂區新町三ノ七　電話青山一三四三番

資本金　千萬圓內(拂込二百七十九萬圓)

◎帝國火災保險株式會社

所在地　東京市麹町永樂町一ノ一丸の內ビル五階

設　立　明治四五年一月十五日

資本金　千萬圓(內拂込五十萬圓)

◎東京海上火災保險株式會社

所在地　東京市麹町區永樂町一ノ一郵船ビル

設　立　明治一一年一二月一二日

資本金　三千萬圓(全額拂込濟)

◎神戶海上保險株式會社

所在地　神戶市明石町十九

設　立　明治四〇年五月(創立資本金五百萬圓)

資本金　一千五百萬圓(內拂込三七五萬圓)

◎帝國海上運送保險株式會社

所在地　本社東京市麹町區永樂町二ノ一〇

設　立　明治二六年九月(創立資本金三百萬圓)

資本金　千萬圓(內拂込二百五十萬圓)

◎扶桑海上火災保險株式會社

所在地　東京市麹町區永樂町一ノ一

設　立　大正六年一二月二一日

資本金　五百萬圓(內拂込二二五萬圓)

◎日淸火災海上保險株式會社

所在地　大阪市西區土佐堀裏町三五

設　立　明治四四年一二月

資本金　二百萬圓(內拂込五〇萬圓)

◎東京火災保險株式會社

所在地　東京市麹町區永樂町二ノ一〇

設　立　明治二十年七月

資本金　一千萬圓(內拂込濟二五〇萬圓)

◎橫濱火災海上保險株式會社

所在地　橫濱市本町五〇ノ七〇

設　立　明治三〇年七月二六日

資本金　千二百五十萬圓(內拂込三一二萬圓)

陸屋根裝置は完成す

特長

▼耐震▼耐久
▼耐火▼耐寒
▼耐水▼耐熱

一、本裝置はアスファルト及ラピリー並に特許マノール防水劑應用のコンクリート・ブロック型を併用せし完全二重裝置であります

一、施工は當社專門工事部に於て永久責任保證を附し御請負仕候間何卒御下命願上候

一、御一報次第標本及カタログ御送附申上候

實用新案 矢中式陸屋根

營業種目

專賣特許	セメント防水劑	マノール
セメント急硬劑	急結	マノール
專賣特許	無色防水耐酸塗料	エキストラ
專賣特許	コンクリート塗料	アーロー
水性塗料	室內裝飾用	ミツヤペンキ
專賣特許	織物用	ミツヤ防水布
實用新案	防火防水	矢中式陸屋根
實用新案	壁下地用	マノール防火板
實用新案	防火防水保溫	マノール防火壁

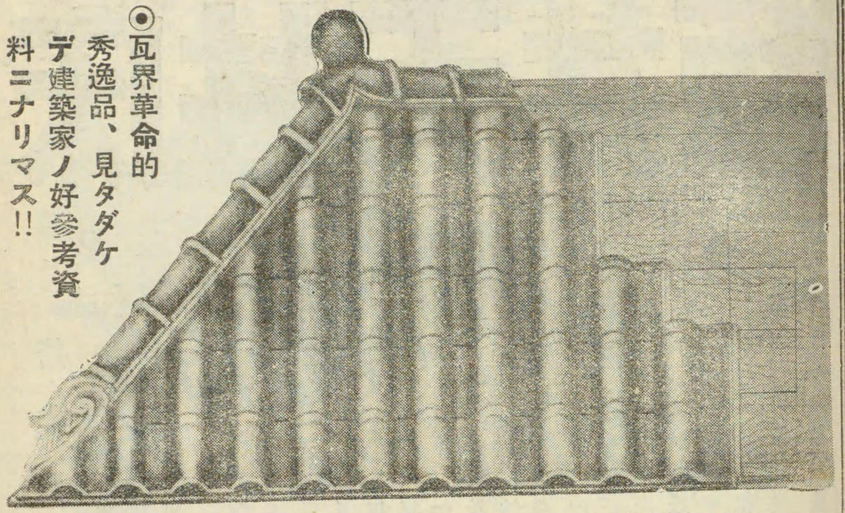
製造發賣元

東京府下平塚町下蛇窪五三五
（省線大井驛下車）

油脂化工社

電話高輪㊕長五四五一番
振替東京 七〇四五〇番

◉瓦界革命的
秀逸品、見タダケデ建築家ノ好參考資料ニナリマス!!



スペイン形瓦ニテ葺キタル圖ヲ示ス

×ノ咬ミ合セトニ御注意乞フ　是エドワード瓦ノ最モ重ヲ用ヒシ點耐水耐震
專賣特許ノ所以ナリ

ヱドワード會社製

金屬瓦
金屬天井

御報現品參上
カタログ進呈

一、耐震　組立方式耐震性米國專賣特許品
一、耐水　瓦ト瓦上下喰合セ左右咬合セトナリ絶對ニ雨水ノタメ腐蝕或ハ雨水ノ漏洩スルコトナシ
一、體裁　日本瓦式、西洋瓦式等數種優美高尚
一、價格　宣傳ノタメ輸入原價（トタン屋根ト略同樣）提供
一、施工　組立式ナレバ素人ニテモ容易ニ葺クコトヲ得

（ヱドワード會社製品模樣優美鮮明ハ本品ノ誇リ）
（耐震、耐火、衛生的、價格絶體安價、在庫豐富）

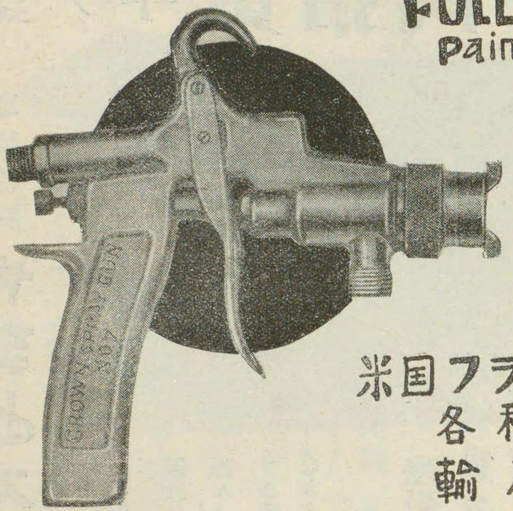
米國ヱドワード會社
金屬瓦天井板發賣元

東京麻布區新堀町十一番地

奥村商店

電話大手三八八三番

FULLER'S
paints & varnishes
CROW
SPRAY GUN



米国フラー会社
各種塗料
輸入販売
米国クラウンスプレーガン
米国ブルンナー製
塗装機械
塗工部　塗工引受

合資 紀 屋 会社

京橋 5811
5911
土佐堀 444

本店　東京京橋区本八丁堀岡谷ビル
出張所　大阪中ノ島(北区)五ヽ三七

床柱天井板

營業課目

唐木、銘木之部
床柱、床框、落棚、違棚、床板、地板、棚板、書院、床廻と其の附屬せる製品、雜作材料、指物用材一式、

天井板之部
内地杉杢、柾、春日杉杢、薩摩杉杢、源平杢、神代杉、茶神代杉杢、秋田杉柾、米杉杢及柾、紅檜杢、洗出仕上り品、裏板各種、

丸太之部
杉磨丸太、面側柱、吉野丸太、北山丸太類、赤松柱、香節、花林柱及京都竹種々、小丸太類各種、晒竹、黒竹、栗竹、支那竹、はぎ、寒竹類、

挽立材之部
内地杉、尾州檜、米檜、米杉、米松、米栂、臺檜、(長押、竿椽、廻椽、鴨居、縁甲)其他、

其他
透欄間、彫刻欄間、天然欄間、ヘギ板、名粟、軸掛、埋樫、ベニヤ板類各種、

右ノ他種々取揃有之候間御一覽賜度候
(御申越次第カタログ進呈)

市内無料配達

合資會社 瀬山商店

本店　東京市淺草區御藏前片町二番地
電話淺草四六九七番
陳列場　東京市淺草區須賀町十六番地
電話長一七五〇番
振替東京四四四七九番

壹ヶ年 貳拾萬坪 製造

専賣特許

やまとスレート

○原料と製造法

優良なるセメントに適當なる石綿を混んじ一定の型にて強壓を加へ製造するもの故時日を經るに從ひ堅牢となります

特長

寒耐 吸水ゝ殆んどなき故嚴寒の地に於ても凍破する事ありません

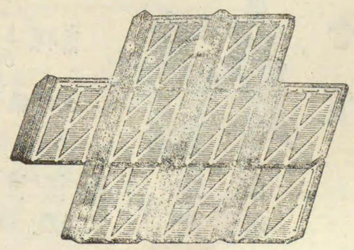
耐火 強靱優長なる石綿を使用してあるからです

耐震 輕量坪當り約貳八貫位にして各釘止めであります

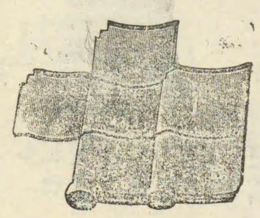
美觀 一定の型にて強壓を加へて製したるもの故ゆがみ、狂ひ等ありません

品種 白（灰色）黒（ネヅミ）赤（ブドー綠其他何色にても御注文に應じます

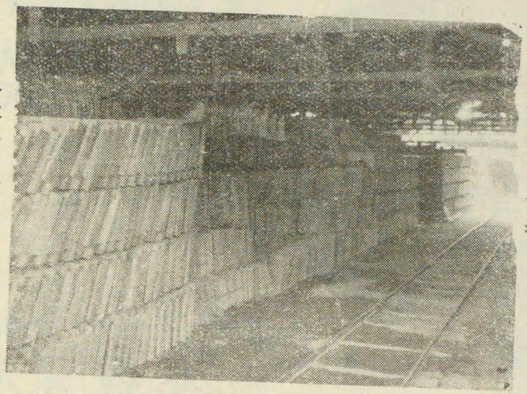
（御一報下されば參上御說明御見積申上ます）



（スレートやまと）



（石綿瓦やまと）



本社龜戸工場内

製品の一部

實用新案第九二六三六號

やまとタイル

◎特長

堅牢 「セメント」に抗火石を混じたるものを强壓を加へて製したるもの故日を經るに從ひ堅牢となります

輕量 裏面に凹を作つてある故に經量に出來て居ます

美觀 表面滑かで色も白・黒・赤・ブドー其他種々あります

空氣室があるので熱の傳導を防ぎます

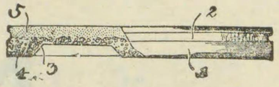
故に

陸屋根には勿論道路床敷にも極めて適しまする

價格は

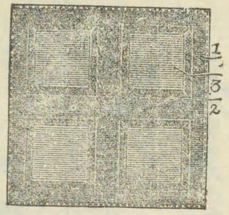
在來品に比し非常に低廉であります

第一圖



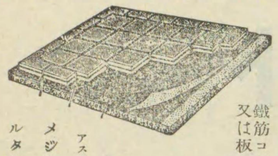
側面

第二圖



（裏面）

第三圖



施工法

鐵筋コンクリート又は板

ルーフキング

アスファルトモルタル

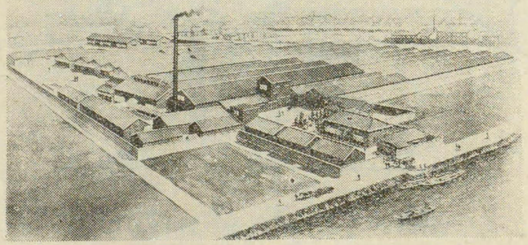
メジはセメントモルタル付

見本品・カタログ御一報下されば御送り申上ます

やまとスレート
やまと石綿瓦
やまとタイル
製造販賣

出張所 大阪 仙臺

——本社工場全景——



櫻印便利瓦
アスファルトタム
販賣

陸屋根工事及葺上一式請負

東京市日本橋區大傳馬町壹丁目

工場 東京龜戸

やまと工業株式會社

電話浪花三一六二・三一九三番

TOCH BROTHERS, NEW YORK.

トックセメント
トッコリッス

分也。型錄、見本、價格等は要求次第送附す
配合量は**ポートランドセメント**の僅か**ニプロ**にて充
結果、完全に立證されたるもの也、
劑にして既に數十年の嚴密なる試驗と使用の
及び**セメントモルタル**建築物の理想的防水配合
一名「**德セメント**」と稱し、**コンクリート**、**スタッコ**
錆止劑として製造されつゝあるもの多し。
されど**トッコリッス**の如く、完全なるもの他に
類無し。

トッコリッスは**ポートランドセメント**原料の錆止
ペイントにして鐵材の yellow pust の上に其ま
ゝ塗布し得るのみならず噴霧機にても使用し得、
期の光明丹錆止などに比し數倍の効力あり。

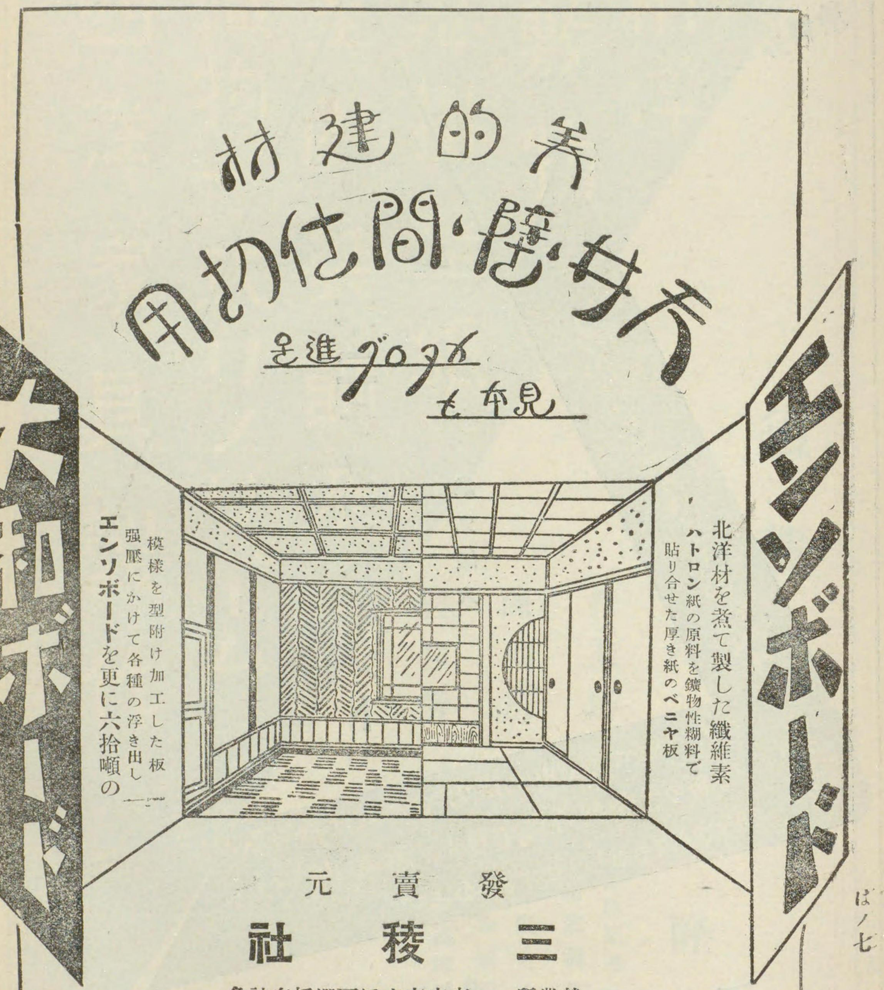
元入輸

シイベルヘグナー商會塗料部

東京市 丸ノ内仲通十二號館六 大阪市 東區今橋三丁目鴻池ビルデング

大和ボード

エンソボード


材建的美
用切仕間・隱・母方
足進グロタカ
も本見

北洋材を煮て製した纖維素
ハトロン紙の原料を鑛物性糊料で
貼り合せた厚き紙のベニヤ板

模樣を型附け加工した板
強壓にかけて各種の浮き出し
エンソボードを更に六拾噸の

元賣發

三稜社

營業所……東京市京橋區櫻橋南詰角
電話京橋六八一三番
工場……東京市外下田端一四九四
代理店……横濱市本町六丁目七十七番地

塗工界の大改革
塗料界の大發明

登録商標

不二チタンペイント

口線

鐵丸罐入

塗がとすわが強い上に伸がきんとと白鉛ペイントの約二倍

キメが細かで輕く油との混り具合がよく仕事が仕易い
塗面の色合が奇麗で日光：悪丸斯に
曝されても褪色せず持がよい

京橋區南金六町十五
電話銀座 三九〇 三三 七三 六七

不二塗料株式會社

大阪出張所
大阪市東區瓦町四の十五
電話本局五五一九

和洋敷物
窓掛壁紙
室内裝飾及織物一式リノリューム
西洋家具製作

須賀商店

須賀隆

營業所　東京市京橋區築地一丁目五番地　電話京橋三六五三番

陳列所　東京市京橋區金六町二番地　電話京橋四七八四番

製作所　東京市京橋區築地一丁目五番地

混凝土製造業
工場製作

製品種目

特許	第三四九三八號	道路用敷石
同	第四五一八八號	コンクリートスリーパー
同	第六〇一三六號	耐震家屋
同	第六七九一八號	鐵筋整理足代兼
佛國政府特許	第五三四六一九號	道路用敷石 コンクリート型枠
北氷合衆國政府特許	第一四五六二五九號	同
實用新案	第四六四一三號	コンクリート柱製造裝置
同	第四八三四六號	コンクリート柱ノ根固裝置
同	第四九八二五號	同
同	第六二三九八號	組立コンクリート煙突
同	第六三二一七號	塀柱根固裝置
同	第六四九五九號	歩道敷石
同	第六六五二三號	コンクリート建築ニ於ケル梁材取着裝置
同	第六六六八二號	コンクリート管經手
同	第六七八八四號	コンクリート樋

伊藤式コンクリート製造所

同	第六八九七號	鐵筋「コンクリート」製組立「タンク」
同	第六九一三九號	鐵筋コンクリート護岸壁
同	第六九五九二號	軌條枕裝置
同	第七〇六五二號	容器
同	第七一四六三號	鐵筋コンクリート送電柱
同	第七一四六六號	混凝土壁
同	第七二四八九號	壁體用コンクリートブロツク
同	第八八一八六號	護岸用ブロツク
同	第八九一三一號	コンクリート組立便所
同	第八九一三三號	下水用コンクリート樋
同	第九六一五三號	停車場乘降床コンクリート擁壁
同	第九七三一七號	准防火家屋
特許	第二〇三四二號	埋設鐵筋コンクリート管
同	第二三四一二號	同
同	第二三六〇四號	コンクリート製管機械
同	第二四一三七號	コンクリート電柱製造裝置
同	第二四五九七號	道路用敷石
同	第二九五一七號	鐵筋コンクリート軌條枕
實用新案	第四三八三〇號	鐵筋コンクリート電柱

記上るたし成完ミリよに究研の來年數十が吉爲藤伊主所
む薦に賢諸家築建木土て敢を品製トーリクンコ筋鐵の種各

伊藤式コンクリート製造所

東京市芝區月見町二丁目一番地
電話高輪二四〇九番

スチール・サッシュ
スチール・ドアー
スチール・シャッター

專門製作販賣

TRADE MARK

合資會社

石坂商店

石坂新太郎
電話高輪(44)六八八八番

東京北品川小關六三一番地
(省線大崎驛北口下車)

大阪出張所
大阪市此花區朝日橋通り一ノ二四
電話土佐堀一二七二番

名古屋出張所
名古屋市中區東瓦町一三三
電話東六二四四番

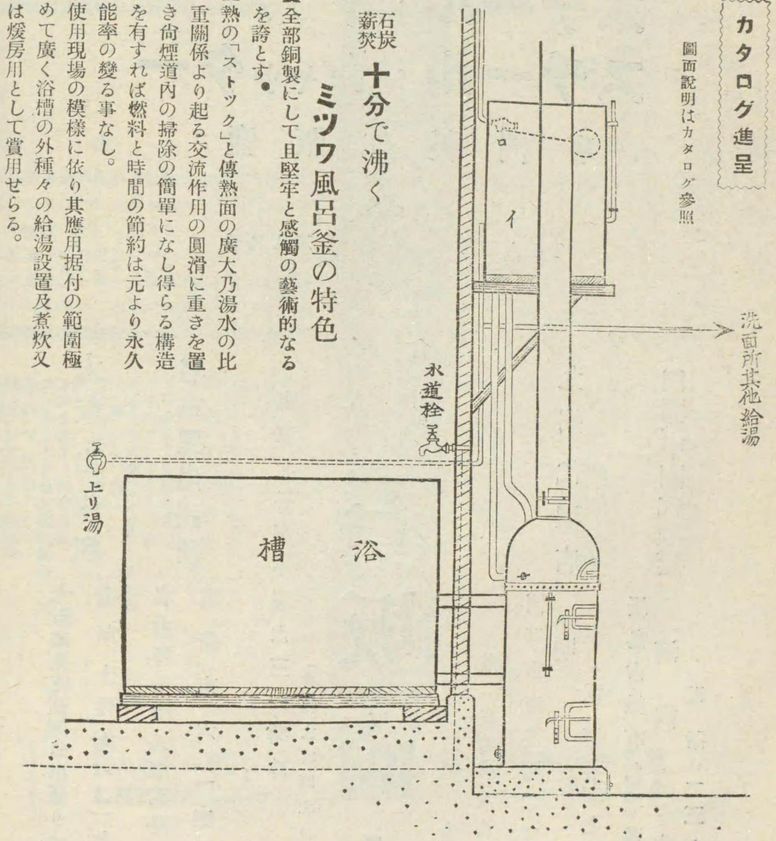
九州代理店
門司市東本町二丁目
明正社
電話三七八番

四國、中國代理店
廣島市幟町九七番地
河内商事部
電話一三七五番

紅

溝口式ミツワ風呂釜
ミツワ携帯風呂
各種浴槽洗面器

カタログ進呈
圖面說明はカタログ參照



簡易焚房裝置
浴場設計並工事
水道衞生工事

石炭
薪焚 十分で沸く

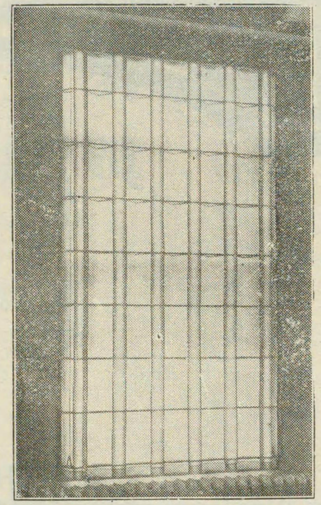
ミツワ風呂釜の特色

▲全部銅製にして且堅牢と感觸の藝術的なるを誇とす。
▲熱の「ストック」と傳熱面の廣大乃湯水の比重關係より起る交流作用の圓滑に重きを置き尚煙道内の掃除の簡單になし得らる構造を有すれば燃料と時間の節約は元より永久能率の變る事なし。
▲使用現場の模樣に依り其應用据付の範圍極めて廣く浴槽の外種々の給湯設置及煮炊又は煖房用として實用せらる。

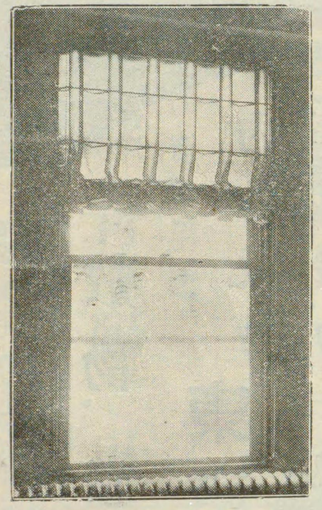
三紅商會
東京市芝區源助町二十番地
電話銀座三六五二番
振替東京六六七五番

日米專賣特許
小原式通風日除
體裁優美
使用簡便
實用衞生

全部卸シタ圖



半開ノ圖



一、「ホロ」日除ハ建築ノ體裁ヲ害シ恐ロシイ類燒ノ原因トナリマス。
一、「ブラインド」ハ風ニ煽ラレテ日ガ射シ込ミマス。
一、板日除ハ取扱不便デ斜ノ日ガ入リマス。
一、通風日除ハ窓掛ホロ日除板日除ノ二重取付ノ必要ガアリマセン。
一、事務所、工場、學校、病院、劇場ノ窓ニハ缺ク可カラザル實用品デアリマス。

主ナル御買上先

那須御用邸	日本銀行
大倉土木頭取邸	東洋ビルディング
徳川侯爵邸	第一相互館
麻生日銀理事邸	勸業銀行
大谷郵船專務邸	東京府廳
野村東電理事邸	内務省社會局
田中理學博士邸	帝國大學
吳海軍工廠	銀座ビルディング
第一東洋軒	百十三銀行
小林邸 ステーションホテル	不動貯金銀行
大藏省營繕營財局	片倉ビルディング
横濱正金銀行東京支店	
三協土木建築事務所	
電氣學校、大阪芝川商店	

小原式通風日除一手製作販賣所
東京市京橋第一相互館三〇九號室
豐光洋行
法學士 豐住堅吉
電話京橋(56)二一一八七一

高級品及格安品新柄各種澤山取揃御光來待上居候

敷物、窓掛、壁紙

内外敷物　東京銀座

室内裝飾
家具用　織物

壁紙類一式

睦屋商店

店主　富澤半四郎

東京市京橋區銀座壹丁目
電話　京橋(56)四九二番
振替口座東京二〇九二八番

新裝カタログ出來！御申込次第御郵送可仕候

東洋一ノ設備

迅速！安價！親切！

已に定評があります

青寫眞
感光紙
感光液

専業

諸官省御用達

合資會社　青陽社

東京市牛込區鶴巻町四四〇
電話　牛込　二四四六番
振替　東京　六七〇四八番

東京帝國大學工學博士　俵國一先生序
横濱高等工業學校教授　河合匡先生著

金屬材料

菊版洋裝箱入　定價　九圓五十錢
千餘頁　送料　二十四錢

著者が曩に「機械工場用金屬材料」を著述し好評嘖々たりしが、大震災のため絶版の處、新に稿を起し力著せられたるは本書にして、特に著者の多年歐米諸國に留學し一層の研究に研究を重ねられし多大なる資料と尚彼我の學理參照實際的實驗研究の深遠博學なる蘊蓄を傾注し、新研究圖表及學理並寫眞等を網羅す、以て實際的價値を存ぜし工業界の一大寶典書なり。工場は勿論機械建築物等金屬使用の各種工業の生命書なり、專門技術者實務者の座右に供す可き必須の良書なり。

（内容見本申込次第進呈す）

東京小石川區丸山町一番地

大日本工業學會

振替東京六一八〇番

本校の特色

本邦隨一の夜間工業專門學府
卒業生は官立高工以上の待遇
本校講師は工科大學に劣らず
近く新設の工學部へ連絡あり

日本大學高等工學校

東京市神田區駿河臺

◆學　科—土木科、建築科、機械科（每年各科百五十名募集）◆專攻科の設けあり

◆入學資格—中學校、師範學校、實業學校卒業者　◆學則請求は郵券二錢を要す

◆入學試驗—每年五月中旬（新學年開始は九月）◆電話大手五五四五番

◆授業時間—午後五時半始め、九時半終り◆新校舍は舊ニコライ堂と對立

工手學校

東京市外淀橋町字角筈日本中學校內

（元京橋區築地南小田原町）

電話四谷八二六番・五八五八番

◆學則略記

一、學　制　豫科一年（二期）本科一年半（三期）高等科一年
本科八學科（土木、機械、電工、建築、造船、採鑛、冶金、應用化學）
高等科四學科（土木、機械、電工、建築）
十二月中旬ヨリ一月中旬迄、七月中旬ヨリ八月中旬迄
高等科ハ七月中旬ヨリ八月中旬迄
定員參千五百人。

一、入學期　入學手數料（入學申込時拂）本科、豫科貳圓「高等科金參圓、授業料一ケ月分本科四圓、豫科三圓五十錢、高等科五圓
校費（每學期ノ始）夜間授業ヲ受クル者金二圓五十錢、晝間授業ヲ受クル者金一圓五十錢

一、收容人員　明治二十一年二月（同種學校並ニ夜間學校ノ首祖）

一、學　費　各種工業ニ從事スル技術者ヲ養生スルヲ目的トシ經費ノ不利ヲモ顧ミズ八學科ヲ具備スルハ他ニ類例ナシ

一、創　立　卒業回數七十五回、人員一萬七千五百人

一、特　色　現在各種工業ニ從事シ活躍シツヽアリ已ニ大イニ成功セル者多シ

一、卒業生數　大正十二年九月一日關東大震火災ニ遭ヒ校舍設備擧ゲテ烏有ニ歸ス、乃チ市外淀橋町字角筈ニ千六百餘坪ヲ購ヒ、本館鐵筋コンクリート造リ延坪約二千六百餘坪、其他化學實習室冶金實習室等大校舍ヲ建築シ更ニ學制ヲ改革シ大イニ面目ヲ一新シ時勢ノ要求ニ應ゼン事ヲ圖レリ

一、復興計畫

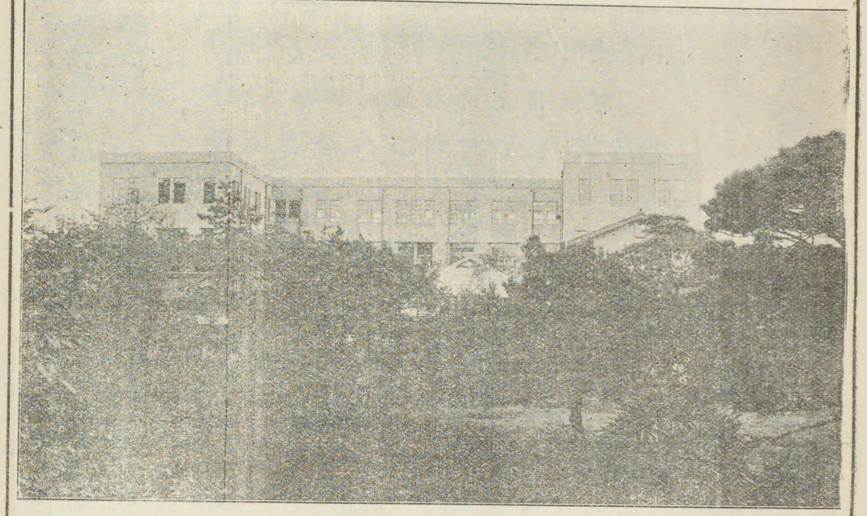
管理員

理事	工學博士	高松豊吉	理事
管理長	工學博士	根岸政一	工學博士
理事	工學博士	日下部辨二郎	工學博士
校長	工學博士	古市公威	工學博士
理事	工學博士	山川義太郎	工學博士
會計主任	工學博士	俵國一	工學博士
理事	工學博士	曾禰達藏	工學博士
同	工學博士	中村達太郎	工學博士
同	工學博士	草間偉	工學博士
同	工學博士	山內不二雄	工學博士
同	工學博士	草間偉	工學博士
同	工學博士	鈴木都賀三郎	工學博士
同	工學博士	中村幸之助	工學博士
同	工學博士	內田祥三	工學博士

理事	工學博士	斯波忠三郎	理事
同	工學博士	加茂正雄	工學博士
同	工學博士	末廣恭二	工學博士
同	工學博士	的場中	工學博士
同	工學博士	鴨居武	工學博士
同	工學博士	山本幸男	工學博士
同	工學博士	眞野文二	工學博士
監事	工學博士	淺野應輔	工學博士
同	工學博士	近藤仙太郎	工學博士
高等科教務主理	土木學科	工學博士	高津清
	機械學科	工學博士	內田祥三
本科教務主理	土木學科	工學博士	山本武藏
	機械學科	工學博士	平林武
	電工學科	工學博士	宮崎虎一
	建築學科	工學博士	田中芳雄
	電工學科	工學博士	工學博士
	建築學科	工學博士	工學博士
	應用化學科	工學博士	工學博士

財團法人協調會

東京工業專修學校



◉夜間授業

年限・入學資格

部別	別科	特色
初等工業部（二年・尋常卒業程度）	機械、電氣	◉學校長 工學博士 中村幸之助
中等工業部（二年・中學二年修了程度）	築建、應用化學	○一流の講師を網羅す。
高等工業部豫科（一年・中等四年修了程度）		○學資低廉なり。
高等工業部（二年・中學卒業程度）		○高等部豫科修了者に中等教員、高等工業部卒業者に實業教員の受驗資格あり。

◉學年始は四月　初等部、高等部豫科に限り九月補欠募集す。

東京市麻布區新堀町七（三ノ橋　際）電話高輪六九三〇番

早稲田大學附屬

早稲田工手學校

創立者　故侯爵　大隈重信
現總長　法學博士　高田早苗
校長　理學博士　德永重康
創立年月　明治四十四年三月

本校教育方針

一、學理の教授と共に實驗實習に重きを置き之が爲めに大學の設備を全部使用す。又最も完備せる製圖教室を有す。

一、品性の陶冶を重んじ模範國民の養成を期す。

◎學　科……機械科、電工科、採鑛冶金科、建築科、土木科

◎入學資格……豫科壹期尋常小學校卒業滿十四歳以上無試驗
豫科貳期中學貳年修了程度
本科壹期中學卒業程度

◎修業年限……豫科一年半（三期）本科一年（二期）高等科半年（一期）

◎新學期……年二回、二月十六日及九月一日始業

◎授業時間……午後六時……九時

女子も詮衡の上許可す

東京牛込區早稲田大學内

攻玉社高等工學校

學科目　土木工學科　建築工學科
修業年限　三ヶ年
入學試驗期日　毎年四月一日
◎本校ハ東洋唯一ノ高等工業程度ノ夜間實業學校ニシテ卒業後就職ニ不安ナシ

社長　近藤基樹
理事長　山口銳之助
校長　丹羽鋤彦
主事　大沼文哉

所在地　東京市外大崎町
電話高輪六三七〇

攻玉社工學校

學科目　土木工學科　建築工學科
入學期　毎年二月、九月
豫科　中學二年修業程度　無試驗
本科　中學卒業程度無試驗

校長　大沼文哉

所在地　東京市外大崎町
電話高輪六三七〇

◎近時土木、建築兩方面ノ發達ニ伴ヒ卒業生ノ需要多ク就職ニ不安ナシ

建築資料叢書

内見謄
容本呈

本叢書は、最も手輕な一般的參考書として絶大の歡迎を博し、日に月に會員數の增加を見つゝあります。

書目と執筆者

1 鐵骨構造　工學士　尾崎久助
○2 鐵筋混凝土構造　工學士　矢崎高儀
○3 混凝土工事の實際　工學士　伊部貞吉
○4 耐火材料の研究　工學士　鴨志田雄吉
○5 石綿工業と其建築用途　內田泰司
○6 近代の歐洲建築　工學士　瀧山米太郎
7 日本近世建築史　大內秀一郎
8 町家と民家　早大教授　今和次郎
9 事務所の平面計畫　早工學士　木村幸一郎
10 銀行の平面計畫　藏田周忠
11 商店の平面計畫　早工學士　十代田三郎
12 映畫館の平面計畫　建築士　加藤秋
13 住宅の平面計畫　工學博士　佐藤功一
14 集合住宅の平面計畫　工學士　新名種夫
15 店頭意匠　工學士　吉田享二
16 新住宅の設備　工學博士　大熊喜邦
17 家具と裝飾　東京高等工藝教授　木檜恕一
○18 建築と照明　早工學士　門倉則之
19 臺所と浴室　工學博士　佐藤功一
20 數寄屋建築　工學博士　大熊喜邦
○21 庭園と住宅　M.L.D　戶野琢磨
22 木造家屋切組圖解　農學士　藤根大庭
23 木工藝と其要材　小泉吉兵衛
24 仕樣と豫算　須藤眞金

○印は既刊

本書の頒布は會員組織の形式を採つて居りますが、之れは御購入者の御利益の爲めで、堅くるしい期限制のものではありません。好む所の冊數を選んで、いつでも御入會出來る樣工夫した便法であります。
各冊の定價は不同ですが、壹圓から貳圓までの間で、毎月それの特價を定めて會費とします。確定會費は現品送附の際振替用紙に明記致します。

振替東京二一八二四
電話四谷四四六二
洪洋社

新刊發賣
（工業書目進呈）
郵券二錢封入申込あれ

帝大教授 工學博士 佐野利器氏序
藏前工務所長 石津三次郎氏著

解說市街地建築物法
昭和改版 第十四版

關係法令全集

挿圖、圖表、各種表百廿余　紙數六百頁余

標準的解說書として絶大の好評を博したる本書は改版又改版今や又面目を一新して茲に其第十四版を發賣す乞ふ更に一本を備へられん事を

正價 貳圓五十錢
送料 十錢

東京神田表神保町三番地
工學書院
工業書籍專賣振替東京一三九〇二番

建築技術者の要求は激甚となりました青年諸君は先づ此方面へ進まるゝこと成功の早途です一日遲れゝばそれだけの損であります。この廣告を見たら速刻に入會せられんことをお薦め致します。此講義錄は從來企だてられしものと其趣きを異にし最新要求の科目が澤山のります故相當實力ある人も尚入會せらるゝ要あるを信じます。

新式速成の通信教授
建築講義錄

▲卒業　卒業は二ケ年で御勉強次第で工手學校以上の實力を得られます。（入會隨意）
▲會費　會費は一ケ月壹圓貳拾錢入會金五拾錢六ケ月前納七圓　壹ケ年前納拾參圓の割引法が設けられてあります。

申込所　東京市京橋區桶町廿一番地　**建築世界社建築講習會**　振替口座東京一一二四〇番

（會則御入用の方は郵券二錢送られたし）

工學博士 大熊喜邦
工學博士 内藤多仲　監修
執筆講師 工學士 技師 貳拾五名

工學博士伊東忠太先生序　金子清吉著

最新 **和洋住宅間取圖案**

四六倍判形天金函入頗る美本　全一冊　正價金五圓八拾錢　內地送料金廿七錢・滿鮮、台、樺金五拾五錢

本書は大小の日本住宅及西洋住宅の間取圖案五十種に詳細說明を附し最近の一邸に要する概算建築費を附記したる好參考書なり。便

金子清吉先生著　四六倍判全一冊

新刊 **寸法入 床棚圖集**　正價金貳圓　送料拾八錢

著者が多年設計施工せる內最も實用向きにして賴用自在なるもの三十種を撰み筆返をも附記し委く寸法を記入せるを以て專門家にも又素人諸君にも頗る便なり。

工學士岡田信一郎先生序　繁野繁造著

市街地建築物法に依る　瀟洒なる **小住宅圖案**

◎菊判洋裝全一冊◎正價壹圓八拾錢・送料拾八錢

和洋住宅の正面圖、平面圖、敷地配置圖、建築申請屆書式實例を附したる建築申請屆の好參考書なり。

土木、建築、電氣、機械、製圖、機關、化學、鑛業、海事

工業書目　郵券二錢送附　次第送呈仕候

◎工業書籍の外何書にても前金御註文次第確實迅速に取次送本可仕候

東京市京橋區松屋町三丁目十番地
發行所 **建築書房**
振替東京六七二五番

東京高等工學校長　手島精一先生序
東京帝國大學工科大學教授　工學博士　中村達太郎先生校閱
東京高等工業學校助教授　齋藤兵次郎氏著

日本建築 **規矩術**　上製參圓五十錢　並製二圓　送料各十八錢

東京高等工業學校教授　滋賀重列先生序
東京高等工業學校助教授　齋藤兵次郎氏著

日本家屋構造　上製五圓也　並製四圓也　送料各廿七錢

工學博士　會禰達藏先生序
東京高等工業學校建築科々長　前田松韻先生序
東京高等工業學校助教授　齋藤龜吉氏著

神社建築構造法　定價三圓五十錢　送料十八錢

東京高等工業學校助教授　齋藤龜吉氏著

破風造構造法　定價二圓也　送料十八錢

建築普及會編

實用速成 **建築製圖講義**　一冊八十四錢　六冊四圓四十七錢　定價二圓　送料十八錢

床棚書院

發行所　信友堂書店
東京市外中澁谷六百二十六番地
振替東京二四九七八番

伊太利、米國、佛蘭西
白耳義、土耳古産

大理石

（各種建築用、裝飾用、配電板用）

△原礦並ニ加工品何レニテモ貴需ニ應ジ可申候
△珍ラシキ現品見本數十種並ニ長サ七尺幅四尺ニ亘ル壯麗極ル各種磨キ上ゲ大判大理石ヲ歐米各地所在三井物産株式會社支店ヨリ取寄セ左記吉田第一工場ニテ常ニ陳列貴覽ニ供シ居リ候間何卒御ス暇ノ節御來駕被下御批評賜度願上候

輸入者　三井物産株式會社營業部
　　東京市日本橋本町二丁目

加工並販賣者　吉田大理石工場
　　第一工場並ニ事務所　東京市芝區高輪臺町四〇
　　電話麻布高輪六八三番
　　第二工場　東京府下大崎町居木橋七九三
　　電話高輪二〇二五番

第四編　學藝會

建築關係學校

大學

東京帝國大學工學部建築科　東京市本鄉區元富士町に所在し、建築課科長佐野利器氏、其沿革は明治十八年東京大學工藝學部と工部大學を合併したるに其基を置き、明治十九年勅令第三號帝國大學令の公布に依り帝國大學内工科大學となり、大正七年勅令第十二號を以て帝國大學令改正せられ同年現在の工學部となり、其の學部を十一學科に分ち建築科は其一である。而して建築科は明治六年工學部に造家學科を置かれた所に端を發し、同九年英人コンドル氏を聘して洋式建築の養成の任に當らしめ同十二年十一月に第一回卒業生を產み爾後現在に及んだのである。其設備は陳列室其他講義の說明、計畫製圖の參考及實驗の用に供する爲め須要の標本模型並に器械を整備して有る。參考として建築科の講義並に擔任講師左の如し。

（備考講師並敎授擔任の分丈掲載ス）

以下同じ

建築計畫工博塚本靖氏、建築史同伊東忠太氏、建築構造（第二）同佐野利器氏、東洋建築史同關野貞氏、建築構造（第一）內田祥三氏、彫塑術新海作太郎氏、建築施工法同山下壽郎氏、庭園學大江新太郎氏、建築材料工博中村達太郎氏、自在畫同石井萬吉氏、建築學第一講座分擔同伊豫田實氏、建築學第一講義製圖同武藤清氏、建築學製圖同二見秀雄氏、建築學助敎岸田日出刀氏である。

□京都帝國大學工學部建築科　京都市上京區吉田町に所在し、建築科長工學博士武田五一氏、其沿革は明治三十年九月理工科大學を開設し、大正三年七月理工科大學を分離し新に工科大學を開設し、同八年二月帝國大學令改正に依り工科大學は工學部と改稱、同九年九月建築科を設置した。

□早稻田大學理工學部建築學科　東京府荏原郡戶塚町大字下戶塚六四七に所在し、建築科長工學博士內藤多仲氏、其沿革は明治四十一年二月理工科新設、同四十二年二月建築學科豫科開始同四十三年九月建築科本科授業開始、大正九年四月大學令に依り早稻田大學理工科を早稻田大學理工學部と改稱、同八年三年九月及四月高等豫科第五部修了者中第一種生を理工學部第一學年に入學許可した。建築學科の設備は製圖敎室特別敎室各一棟、標本室は意匠部構造部の二室、又東洋建築と西洋建築との二種に分ち模型標本を備ふ、大正十四年に於ける入學者四十五名、現在學生數は一三三名同聽講生七名である。

專門學校

□東京高等工業學校建築科　東京府荏原郡碑衾村大字衾大岡山所在、校長吉武榮之進氏建築科長前田松韻氏。其沿革は明治十四年五月東京職工學校の名を以て淺草藏前に創設せられ、同二十三年附屬職工徒弟學校を置く。同年三月東京工業學校と改稱。同二十七年六月工業敎員養成所を設け本校長の監理とす。同三十三年三月工業敎員養成所に附屬工業補習學校を設く、同三十四年五月東京高等工業學校と改稱。同三十五年三月工業敎員養成所を本校の附設工業敎員養成所附屬工業補習學校を本校の附屬に改む。大正十年三月附屬工業補習學校廢止、同十三年三月附屬職工徒弟學校廢止、同年四月本校の位置を荏原郡碑衾村大字衾大岡山に變更した。

□名古屋高等工業學校建築科　名古屋市中區御器所町所在、校長工學博士森彥三氏、建築科長土屋純一氏である。其沿革は明治三十八年三月の創立になり、建築外四科を設置して建築科は

修業年限三ケ年、同四十一年八月研究生及選科生の規程を設けた。

□横濱高等工業學校建築科　（電一三五〇）横濱市大岡町所在、校長は鈴木達治氏、建築科長中村順平氏、大正九年四月開校し大正十二年の大震火災に罹り校舍及設備の大部分を烏有に歸したが、銳意復興に努力し災後一ヶ年を經すして復舊の功を擧げた。大正十四年三月建築科を新設す。建築科外三科を設置し、修業三ケ年である。

□神戸高等工業學校建築科　（電本局四三）神戸市水筥通一丁目所在、校長廣田精一氏、建築科長古宇田實氏、其沿革は大正六年八月兵庫縣知事より設置を申請し兵庫縣及神戸市より金九萬八千圓の創立費寄附を申出たるに依り寺内内閣時代岡田文部大臣之を許可した。同十年十二月九日勅令を以て官制を公布せられ、同十一年四月第一回入學生を收容し授業を開始した。建築科の外に電氣機械科の二科あり、修業年限三ケ年である。

□福井高等工業學校建築科　福井縣吉田郡西藤島村所在、校長關盛治氏建築科長坂部保治氏、大正十二年十二月十日勅令第五百一號を以て文部省直轄諸學校官制を改正して福井高等工業學校設置の件を公布せられ大正十三年四月より授業を開始した。建築科外四科を設置す修業年限三ケ年、選科二ケ年である。

□東京美術學校建築科　東京市下谷區上野公園西四軒寺跡所在、校長正木直彦氏建築科主任岡田信一郎氏、其沿革は明治二十年十月勅令第五十一號を以て設置せられ同二十二年二月授業開始大正三年九月文部省令第二十八號を以て本校各科の規程を定め此省令に依り豫備科は各科に分屬せられ圖案科は第一部工藝圖案、第二部建築裝飾に分つ、大正十二年五月文部省令第二十五號を以て建築科を置く。

□南滿洲工業專門學校建築科　南滿洲大連市伏見町所在、校長今景彥氏建設工學科長岡大路氏建築分科主任鈴木順三氏、明治四十四年五月南滿洲鐵道株式會社が南滿洲工業學校と命名して創立、大正十一年四月南滿洲工業專門學校と改稱し組織を改む。入學資格は中學校を卒業したる者專門學校入學者規程に依り試驗檢定に合格したる者、若くは文部大臣に於て之と同等以上の學力ありと認定せられた者である。修業年限三年とし專門學校令に依る徵兵猶豫の特典あり。猶ほ寄宿舍の設備もある。

□京城高等工業學校建築科　朝鮮京城東崇洞所在、校長工學博士三山喜三郎氏、建築科長小河弘道氏。創立大正五年四月京城工業專門學校と稱し同十一年四月朝鮮敎育令の改正に伴ひ組織を改め京城高等工業學校と稱す。入學資格は中學校卒業、修業年限三箇年である。

□私立攻玉社高等工業學校　東京府荏原郡大崎町桐ケ谷所在、校長工學博士丹羽鋤彥氏、修業年限三ケ年、入學資格中學校卒業程度。

□日本大學高等工學校　東京市神田區駿河臺北甲賀町十二所在、校長工學博士佐野利器氏、土木科々長工學博士茂庭忠次郎氏、建築科々長工學士笠原敏郎氏、機械科々長工學博士竹村勘吾氏にして修業年限二箇年、入學資格中學校卒業程度、尙專攻科の設けあり。

□東京工業專修學校　東京市麻布區新堀町七所在、校長工學博士中村幸之助氏、財團法人組織である。科別は建築、機械、電氣、應用化學、修業年限三ケ年、入學資格中學卒業。

中等學校

□北海道廳立札幌工業學校　北海道札幌市南十四條西十二丁目所在、校長橋本竹之助氏、大正五年十月文部大臣より設置許可。同月北海道廳令第六號を以て學則發布、同六年四月授業開始同九年二月組織變更前校名の北海道廳立札幌工藝學校を北海道廳立札幌工業學校と改稱同三月土木建築科を增設した。修業年限三箇年、入格資格は高等小學校卒業程度である。

□北海道廳立函館工業學校　北海道函館市新川町所在、校長瀧澤一馬氏、建築科長志賀龜之助氏である、大正十年三月函館區立として設立、同十一年三月北海道廳に移管した。修業年限三箇年で入學資格は高等小學校卒業程度である。

□北海道廳立苫小牧工業學校　北海道膽振國勇拂郡苫小牧町所在、校長は畑江翔氏、土木建築科長增田長人氏、大正十二年三月設立、同年四月苫小牧公立高等小學校內にて授業開始、同十三年一月現校舍へ移轉した。修業年限三箇年で入學資格は高等小學校卒業程度。

□東京府立實科工業學校　東京市本所區林町二丁目所在、校長津田信良氏、建築科長伊藤谷藏氏、家具科長塗工科長中根武氏、明治三十三年二月設立、職工學校と稱し建築科、家具科其他に四分科を置き修業年限を三箇年とした。大正五年四月左官科、塗工科其他二分科を增設、同九年四月實科工業學校と改稱、同十四年四月學則を改正し建築科の修業年限五箇年其他は三箇年である。入學資格高等小學校卒業程度である

□藏前工業專修學校　東京市芝區三田四國町に所在し、校長工學博士吉武榮之進氏、財團法人の組織で入學資格は初等工業部尋常小學校卒業程度、中等工業部は高等小學校卒業程度、高等工業部豫科は中學校四學年修業程度で、修業年限は初等工業部中等工業部高等工業部は各二箇年、高等工業部豫科は一ヶ年である。

□京都市立第一工業學校　京都市上京區烏丸通

氏である、大正十年三月函館區立として設立、同十一年三月北海道廳に移管した。修業年限三箇年で入學資格は高等小學校卒業程度である。

□北海道廳立苫小牧工業學校　北海道膽振國勇拂郡苫小牧町所在、校長は畑江翔氏、土木建築科長增田長人氏、大正十二年三月設立、同年四月苫小牧公立高等小學校內にて授業開始、同十三年一月現校舍へ移轉した。修業年限三箇年で入學資格は高等小學校卒業程度。

□東京府立實科工業學校　東京市本所區林町二丁目所在、校長津田信良氏、建築科長伊藤谷藏氏、家具科長塗工科長中根武氏、明治三十三年二月設立、職工學校と稱し建築科、家具科其他に四分科を置き修業年限を三箇年とした。大正五年四月左官科、塗工科其他二分科を增設、同九年四月實科工業學校と改稱、同十四年四月學則を改正し建築科の修業年限五箇年其他は三箇年である。入學資格高等小學校卒業程度である

□藏前工業專修學校　東京市芝區三田四國町に所在し、校長工學博士吉武榮之進氏、財團法人の組織で入學資格は初等工業部尋常小學校卒業程度、中等工業部は高等小學校卒業程度、高等工業部豫科は中學校四學年修業程度で、修業年限は初等工業部中等工業部高等工業部は各二箇年、高等工業部豫科は一ヶ年である。

□京都市立第一工業學校　京都市上京區烏丸通高丘治季氏、明治二十七年十月創立京都市立染織學校と稱し同年十一月假校舍で授業を開始、同二十八年四月釜座通櫟木町上ル新校舍に移轉同時に建築科を設置、修業年限三箇年とし入學資格を高等小學校卒業程度としたが大正四年四月圖案科を增設し且つ家具科を建築科より分立同十年四月修業年限を五箇年とし入學資格を小學校卒業程度と改めた。建築科外四科を設置す猶ほ本校內に縣立工業補習學校並に職業補導講習所を併設して居る。

□岩手縣立工業學校　岩手縣盛岡市內丸所在、校長高橋清章氏、建築科外二科設置す。明治三十年創立、岩手縣實業學校と稱し同三十一年五月授業開始、同三十四年工業學校規程に基き組織變更同年六月岩手縣立工業學校と改稱した。修業年限三ケ年、入學資格高等小學卒業程度。

□栃木縣立宇都宮工業學校　宇都宮市西原町所在、校長安美貿氏、建築科長岩井多喜一郎氏、大正十二年創立、建築、木工、土木の三科を設置し、同十三年學則を改め五年制度とした。入學資格は小學校卒業程度である。

□奈良縣立吉野工業學校　奈良縣吉野郡吉野村大字飯貝所在、校長本橋重治氏、明治三十七年四月創立吉野郡立吉野實業學校と稱し、大正七年四月組織變更同時に校名を奈良吉野工業學校有する者である。建築科外三科を設置す。

□神奈川縣立工業學校　橫濱市神奈川町平尾前二七〇〇所在、校長秋山岩吉氏、建築部長家具部長仙波昇作氏である。明治四十四年五月開校同時に建築科を設置、修業年限三箇年とし入學資格を高等小學校卒業程度としたが大正四年四月圖案科を增設し且つ家具科を建築科より分立同十年四月修業年限を五箇年とし入學資格を小學校卒業程度と改めた。建築科外四科を設置す猶ほ本校內に縣立工業補習學校並に職業補導講習所を併設して居る。

□岩手縣立工業學校　岩手縣盛岡市內丸所在、校長高橋清章氏、建築科外二科設置す。明治三十年創立、岩手縣實業學校と稱し同三十一年五月授業開始、同三十四年工業學校規程に基き組織變更同年六月岩手縣立工業學校と改稱した。修業年限三ケ年、入學資格高等小學卒業程度。

□栃木縣立宇都宮工業學校　宇都宮市西原町所在、校長安美貿氏、建築科長岩井多喜一郎氏、大正十二年創立、建築、木工、土木の三科を設置し、同十三年學則を改め五年制度とした。入學資格は小學校卒業程度である。

□奈良縣立吉野工業學校　奈良縣吉野郡吉野村大字飯貝所在、校長本橋重治氏、明治三十七年四月創立吉野郡立吉野實業學校と稱し、大正七年四月組織變更同時に校名を奈良吉野工業學校

と改稱、同十一年四月縣營移管豫科本科の區別を廢し五箇年制度の工業學校とし建築、工藝の二科を存す。入學資格小學校卒業程度。

□名古屋市立工藝學校　東區布池町所在、校長深見久七氏、木工科主任香取五郎氏である。大正六年二月の創立に係り木工科圖案科金工科を置く、大正十年修業年限三年を五年に變更す。

□名古屋工業學校　東區御器所町所在、校長林聖叡氏、大正九年四月創立學科は土木、建築、機械、電工の四科にして各第一部(晝間)第二部(夜間)を設け更に第二部は前期(四月入學)後期(十月入學)の二とす、修業年限第一部は四ヶ年第二部は二ヶ年とす、聽講生の備あり一科又は數ヶ目を選び聽講することが出來る。

□靜岡縣立濱松工業學校　濱松市北將島町所在校長山本又六氏、建築科長大井宗一氏、大正七年開校し同十三年四月より修業年限二ヶ年の建築科を增設す。

□市立甲府工藝學校　甲府市工町に所在し、校長秋山秀夫氏、建築科長溝口松雄氏である。大正六年四月舊徒弟學校令により設置、指物挽物の二科を置く、同七年四月新に漆工科を加設、同十年四月漆工科を塗工科と改稱し別に建築科を加設した、入學資格は高等小學校卒業程度である。建築科外三科を設置す、修業年限四ヶ年入學資格は高等小學卒業程度である。

□和歌山縣立工業學校　和歌山市撞木町所在、校長竹森良一氏、建築科長小川幸三氏、大正三年設立、同年建築科指物科を設置、同四年應用化學科を加設、指物科を家具科と改稱す、修業年限三ヶ年、入學資格高等小學卒業程度である尙特設として夜間敎授の專修科がある。自十月至十二月の三ヶ月を一期として四期修了す。

□德島縣立工業學校　德島市前川町所在、校長は老田化應鐵氏、建築科長川口辰治郎氏、明治三十七年四月開校、高等小學校卒業程度を以て入學資格としたが大正十一年四月入學資格を尋常小學卒業程度とし本科の修業年限を五ヶ年に延長し附設職工徒弟學校を廢止して修業二ヶ年の專修科家具科を設置した。科目は本科の染織科、建築科と專修科家具家とである。

□香川縣立工藝學校　高松市西濱新町所在、校長山本正三郎氏、明治三十一年創立、本科修業年限を五ヶ年として入學資格を小學校卒業程度とす。彫金、鑄金、鎚金、家具、彫刻、蒔繪、漆、設築の八科に分れる。尙附設として建築製圖、彫刻科の專修科生を每年二期に募集し夜間敎授す。

□愛媛縣松山工業學校　松山市南味酒町所在、校長牟田口英亮氏、明治四十二年創立、科目は土木科、建築科、家具科の三科で修業年限三ヶ年にして入學資格は高等小學程度である。

□宮城縣立仙臺工業學校　仙臺市北一番丁所在校長は橫澤多利吉氏、建築科長太田連氏、明治二十九年八月創立、建築科、家具科、機械科、土木科を置く、修業年限は五ヶ年。入學資格小學校卒業程度、尙時修科の設置あり修業年限二ヶ年。

□靑森縣立工業學校　弘前市馬屋町所在、校長は大竹巽氏、建築科長平賀榮藏氏、明治四十三年設立、大正十四年一月組織を變更し晝間小學卒業者を收容して修業年限を五ヶ年とす、敎科目は建築、機械、木材工藝、土木の四科にして尙附設として建築、家具兩部の選科、研究科がある。

□山形縣立米澤工業學校　米澤市南堀端町所在校長は川邊申松氏、建築科長馬哲三氏、明治三十年四月市立として開校同三十一年四月縣立となる、同三十五年度より建築科、機械科新設、大正九年二月山形縣立米澤工業學校と改稱。染織、建築、機械の三科より成る。修業年限五年、入學資格小學卒業程度、外に工商補習學校を附設す。

□富山縣市立工業學校　富山市梅澤町所在、校長村春樹氏、建築科の外に家具科を置く、修業年限四ヶ年、入學資格小學卒業程度である。

□石川縣立工業學校　金澤市中本多町に所在し校長は靑木外吉氏、木工科主任梨本正太郎氏である。明治二十年七月創立、金澤工業學校と稱し同三十四年五月石川縣立工業學校と改稱、大正十三年四月より修業年限五年とし機械、漆工色染、圖案繪畫、窯業、木工の五科である。

□島根縣立工業學校修道館　松江市大正町所在校長橋元喜藏氏、建築科長安東忠士氏、明治四十年開校、翌四十一年四月縣立に變更、大正十年四月選科(修業一ヶ年)を加設す。修業年限三ヶ年、入學資格高等小學卒業程度、建築科の外二科を設置す。

□岡山縣立岡山工藝學校　岡山市東古松に所在し、校長浦上時次郎氏、木工科長は福田淡氏である。大正三年設立、科目は木工、金工、塗工の三科である。

□廣島縣立廣島工業學校　廣島市千田町沖一ノ割所在、校長は勢家純藏氏、建築科長玉井隆五郎氏、明治三十年八月廣島縣職工學校設置、大正五年二月校名を廣島縣立廣島工業學校と改稱した、科目は電氣、機械、建築の三科にして修業年限四ヶ年、入學資格高等小學卒業程度である。尙附設廣島縣立補習學校の設備がある。

□廣島縣立二十日市工業學校　廣島縣佐伯郡二十日市町所在、校長佐々木章夫氏、建築科、家具科を設置し、修業年限三ヶ年、入學資格高等小學卒業程度である。尙附設として修業年限二ヶ年の塗料掘物兩選修科がある。

□福岡縣立福岡工業學校　福岡市東港町所在、校長は藤川勝丸氏、建築科長今村新吉氏、明治二十九年開校、三十五年採鑛科を加設し同三十六年に修業年限三ヶ年を四ヶ年に延長し、大正二年に專修科を設け、同十四年に專修科を廢止す。科目は染織、機械、採鑛、應用化學、建築科長宇都眞吾氏、大正八年五月設立認可を受く。

□福岡縣立浮羽工業學校　浮羽郡田主丸町所在校長及建築科主任は渡邊安藏氏である。明治三十九年設立、同四十年六月竹工科設置、同四十五年竹工科廢止。大正六年四月塗物專修科設置同十年三月同科廢止、同十二年四月縣へ移管。

□大分縣立工業學校　大分市勢家町所在、校長高木秀太郎氏、建築科長田代長吉氏、明治三十五年二月別府町及濱脇町組合立として設立認可、同四十三年四月大分縣立別府工業徒弟學校と改稱、大正四年四月大分縣立工業徒弟學校と改稱、同七年四月甲種程度として、機械科、電氣科、建築科設置、同十二年四月鶴崎町に分校を置き之に建築科家具科を設置し乙種程度により經營してゐる。

□宮崎縣立宮崎工業學校　(電五五九)宮崎市上別府所在、校長中村速一氏、建築科長鹿島透氏明治三十七年十二月宮崎郡立職業學校として創立認可、大正十年三月縣立工業講習所となり同十二年五月に宮崎縣立工業學校創立認可を受けた。建築、家具、塗工の三科がある。

□鹿兒島縣立加治木工業學校　鹿兒島縣姶良郡加治木町所在、校長秋山信太郎氏、建築、家具の二科あり修業年限三ヶ年、入學資格は高等小學校卒業程度である。

□鹿兒島縣立工業學校　鹿兒島市草牟田町所在校長竹內次夫氏、建築科長宇都眞吾氏、大正八年五月設立認可を受く。

□鹿兒島縣立薩南工業學校　鹿兒島縣川邊郡知覽村　分校同郡枕崎町所在、校長鈴木壽貫氏、建築科長村永永江氏、明治四十二年九月知覽村立工業徒弟學校設立、大正十四年四月更に薩南工業學校と改稱し、郡制廢止と共に縣立となる。

□沖繩縣立工業學校　首里當藏町所在、校長渡邊喜三氏である。明治三十五年四月首里區立工業徒弟學校設立、同十年六月縣立工業學校と改稱した。建築科、家具科、漆工科の三科で各本科に選科と研究科とを置く。

□臺北洲立臺北工業學校　臺北市大安二甲一八五所在、校長高井利五郎氏、建築科長新井英次郎氏、大正三年六月臺灣總督府工業講習所官制公布、同七年九月同所內に臺灣總督府工業學校開始、同八年四月工業講習所は臺灣公立臺北工業學校と改稱した、同十年四月臺灣總督府工業學校は臺北州立臺北第一工業學校、公立臺北

工業學校は臺北州第二工業學校と改稱し、十二年四月に右二校を現稱の下に統一合併した。機械、土木、應用化學、電氣、建築の五科で修業年限は五ヶ年、入學資格小學校卒業程度である。各科專修科三ヶ年。

□神戸工業高等專修學校　神戸市水笠通一丁目所在、校長廣田精一氏、建築科外三科を併置して居る。入學資格は中學校第二學年修業程度若しくは之と同等以上の學力を有する者、修業年限三ヶ年である。

□三重縣津市立工業學校　三重縣津市愛宕町所在、校長清水德松氏、市の設立に係り大正六年四月創立、建築科、木材工藝科の二科を有し、修業年限は本科三ヶ年、研究科二ヶ年、入學資格は高等小學校卒業程度である。

□福岡縣立大牟田工藝學校　福岡縣大牟田市明治町所在、建築科外二科を有し大正十一年六月の創立、修業年限は本科三年、入學資格は尋常小學校卒業程度である。

□熊本縣立工業學校　熊本市大江町所在、明治三十五年五月設立、校長竹村得太郎氏、建築科は本科と專修科に分つ、入學資格は小學校卒業程度。

□熊本市立商工學校　熊本縣熊本市新町所在、明治三十三年四月の設立に係り工學部を建築科木材工藝科、塗工科の三科に分ち、修業年限は本科三年研究科二年、入學資格は尋常小學校卒業程度である。

□私立工手學校　東京市外淀橋町字角筈所在、校長は工學博士根岸政一氏である。明治二十一年創立、同三十一年財團法人に組織を改め、本科は土木、機械、電工、建築、造船、採鑛、冶金應用化學の八科で豫科を設け修業年限は始め本科一ケ年豫科半ケ年であつたが現制は本科一ケ年半豫科一ケ年とした。大正二年九月電工學科に修業年限一ケ年の高等科を設け更に大正十一年九月土木、機械、建築の三學科に高等科を增設した。

□私立早稲田大學附屬早稲田工手學校　東京市牛込區早稲田町所在、校長理學博士德永重康氏、建築科主任工學博士內藤多仲氏、明治四十四年三月創立、大正十一年三月規定變更、修業年限を三年とし之を豫科三期、本科二期、高等科一期としてゐる。早稲田大學の建物全部を共用し電氣工學實驗場、機械工學實驗場、採鑛冶金科實驗場、機械工學科實習工場其他の設備がある。

□攻玉社工學校　東京府荏原郡大崎町大字桐ケ谷字小平四七七所在　校長大沼文哉氏、文久三年葵亥年舊鳥羽藩士故近藤眞琴氏の創立になり爾來度々組織を改正し明治三十四年十二月工學校と改稱し土木科中に建築の一科を加へ進んで大正九年九月現在の組織に改め新に建築科を設け修業年限を豫科六ヶ月本科一年六ヶ月とした入學資格は豫科中學第二年修了の者若しは之と同等以上の學力を有する者、本科初級は中學第四學年修了の者若くは之と同等以上の學力を有するものである。

□東京工學校　東京市本鄉區眞砂町一八所在、校長工學博士加茂正雄氏、建築科長久野節氏である。入學資格尋常小學校卒業程度で修業年限は二箇年である。

□私立岩倉鐵道學校　東京市下谷區上車坂町五七所在、校長山田英太郎氏、造家科の外に四科を設置す、財團法人の組織で明治三十年の創立である。入學資格は中學校二學年修業程度若しくはそれと同等以上の學力を有する者で卒業年限は二ケ年半である。

□私立日本鐵道學校　東京市赤阪區南町六丁目東京農業大學內所在、校長荒川五郎氏、建築科の外に三科を設置す、修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度。

□私立關西工學專修學校　（電北一二五八）大阪市北區樋之口町所在、校長工學博士片岡安氏、建築科長池田實氏、修業年限晝間部三ケ年半、夜間部二ケ年半である。入學資格は中學校二學年修業程度の學力ある者としてある。

□私立關西商工學校　大阪市西淀川區大仁町所在校長工學博士平賀義美氏、建築科長池田實氏明治三十五年十月の創立である。修業年限は二ケ年、入學資格は滿十四歲以上の男子で相當の學力ある者は無試驗入學を許す。建築科外六科を設置す。

□私立東京工科學校　東京市神田區錦町三ノ一○所在、校長梅小路定行氏、建築科の外に五科を設置す、入學資格小學校卒業程度である。

□中央工學校　東京市神田區仲猿樂町所在、校長は林練作氏で修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度である。

□東京建築學校　東京市神田區三崎町水道橋際にあり、校長秋元春朝氏、修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度である。

□私立目白工學校　東京府下目白下落合四三七所在、校長柏原文太郎氏、修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度である。

□私立東京商工學校　東京市神田區淡路町一ノ一所在、校長山下谷次氏、建築科の外五科を併置す、修業年限二ケ年半、外に高等科半ケ年、入學資格小學校卒業程度。

□私立法政大學工業學校　東京市麹町區富士見町四ノ一二所在、校長法學博士松室致氏、建築科の外に土木科を設置す、修業年限四ケ年、入學資格小學校卒業程度である。

□私立日本大學商工學校　東京市本所區橫網町所在、校長加納金助氏、建築科長高橋眞太郎氏夜間授業にして修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度である。

□私立保善工業學校　（電霊五四九五）東京市本所區橫網町にあり、校主安田善次郎氏、修業年限二ケ年半、入學資格小學校卒業程度。

建築協會

◎社團法人建築學會　東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話牛込五一六〇番）

（會長）塚本　靖、（名譽會長）曾禰達藏、中村達太郎、（副會長）大熊喜邦、中條精一郎、（常議員）今井兼次、（主計）小川清次郎、尾山貫一、北澤五郎、（主記）小林政一、下元連、橘敎順、（編輯）瀧澤眞弓、高松政雄、田中實、內藤多仲（主記）野田俊彥、舟橋喜一、（主計）柳井平八、（編輯）渡邊洋、

會員數、會員、（各譽員）一名、（正員）年一八圓一三五三名、（特別員）年一二圓、一〇九名、（終身贊成員）一時金五〇〇圓、六三名、（贊成員）年九圓、四三三二名

沿革　明治十九年七月造家學會、三十年七月建築學會と創立改稱、三十八年社團法人設定

事業　調査研究、會報、雜誌（建築と社會）及圖書の刊行並發賣、住宅改善に關する調査研究

◎日本建築士會　東京市丸ノ內海上ビルヂング七階、（大阪支部）大阪市北區中島二丁目江商ビルヂイング日本建築協會內

（會員數、會費（會員）年十八圓四一一名、（名譽會員）六九名（地方會員）九圓一九三名、（終身贊助員）三〇〇圓以上寄附したるもの五三名（特別贊助員）年一二圓三一名、（普通贊助員）年九圓四五九名、計一二一六名

沿革　大正六年三月三十日關西建築協會として創立、八年一月二十日日本建築協會と改稱

創立以來の會長、理事長（會頭）工博片岡安、（副會頭）片岡安、宗兵藏、（理事長）片岡安、葛野壯一郎、橫濱勉、池田實、松本禹象、（監事）橫濱勉、園部文雄、渡邊洪基、曾禰達藏、橫河民輔、辰野金吾

事業　建築雜誌刊行、講演及講習會開催、標準仕樣の創案、建築材料規格統一、帝都復興に關する建築上の諸問題に關し研究調査、建築上の災害の防止、建築法規の研究

◎日本建築協會　大阪市北區中ノ島二丁目二十五番地、江商ビルヂング內、電話本局四九二番（理事）片岡安、宗兵藏、松本禹象、（監事）橫濱勉、園部文雄

會員數、會費（會員）年十八圓四一一名、（名譽會員）六九名（地方會員）九圓一九三名、（終身贊助員）三〇〇圓以上寄附したるもの五三名（特別贊助員）年一二圓三一名、（普通贊助員）年九圓四五九名、計一二一六名

沿革　大正六年三月三十日關西建築協會として創立、八年一月二十日日本建築協會と改稱

創立以來の會長、理事長（會頭）工博片岡安、（副會頭）片岡安、宗兵藏、（理事長）片岡安、葛野壯一郎、橫濱勉、池田實、松本禹象、（監事）橫濱勉、園部文雄

事業　調査研究、會報、雜誌（建築と社會）及圖書の刊行並發賣、住宅改善に關する調査研究

◎日本建築士會　東京市丸ノ內海上ビルヂング七階、（大阪支部）大阪市北區中島二丁目江商ビルヂイング日本建築協會內

（理事長）長野宇平治、（庶務理事）堀越三郎、高松政雄、（會計理事）門政吉、中島外吉
創立以來の理事長　工博長野宇平治、中條精一郎、櫻井小太郎
會員數、會費　（正員）年三〇圓一一〇名、（客員）年五圓二五名
沿革　大正三年六月建築士懇話會創立、同六年一月日本建築士會創立
事業　建築士法制定、建築士報酬規約制定、標準請負契約規定作成
◎建築業協會　東京市京橋區南紺屋町一一
（會長）工博横河民輔、（常務理事）清水釘吉、（理事）大林義雄、大倉粂馬、竹中藤右衛門、安藤德之助
會費　（特別會員）入會金二〇〇圓以上、（正會員）入會金三〇〇圓
事業　建築業界の改善向上經費年額、約一〇、〇〇〇圓、機關雜誌建築業協會月報（非賣）
◎社團法人朝鮮建築會　朝鮮京城府黃金町二丁目日本生命ビルヂング三階三〇二號
（會長）岩井長三郎、（副會長）池田賢太郎、中村誠、（理事）岩槻善之、富野繁一、渡邊定一郎、小河弘道、小倉辰造、中島猛矣、安井鎭平、赤木周三、山形靜智、笹慶一、富士岡重一、藤井專之助、藤島亥治郎、後藤虎雄、駒田德三郎、荒井初太郎、佐藤虎次郎、（常務幹事）久保寶光
會員數、會費　（名譽會員）一九名、（特別維持會員）一時金三〇〇圓四五名、（特別維持會員）年六〇圓六五名、（正會員）年九圓三九三名（准會員）年六圓二三名
沿革　大正十一年三月八日創立、同四月五日事務所を京城府黃金東拓階上第十五號室に設く、二十五日雜誌「朝鮮と建築」を發行、十二年八月事務所現在の所に移轉、十三年三月會則を改正更に十一月會則を改正し社團法人の許可を受く
創立以來の會長、理事長　（副會長）岩井長三郎、中村與資平、（理事長）中村誠、（會長）岩井長三郎、（副會長）池田賢太郎、中村誠
事業　建築一般の調査研究及重要事項の決議並其實行促進會誌其他の刊行、講演、講習、展覽會の開設、紹會應答
◎社團法人滿洲建築協會　大連市紀伊町八十五番地、（奉天支部）奉天橋立町五番地
（會長）小野木孝治、（副會長）岡大路、（主事）青木菊次郎、伊藤清造、植木茂、臼井健三、太田宗太郎、籠田定憲、川崎流三、狩谷忠麿、佐伯貫一、鈴木正雄、高岡又一郎、辰巳銀二、長谷川辰次郎、平澤儀平、三田昇之助、宗像主一、村田治郎、保田虎太郎、横井謙介、和田喜藏、高宮元三郎
會員數、會費　（名譽會員）一名、（贊助會員）一圓二六名、（正會員）一圓五一八名、（准會員）五〇錢一四九名
沿革　大正九年十一月二日滿鐵建築茶菓會を基礎とし全滿建築關係業者に依つて創設、十二年九月社團法人組織とす、大正十二年十二月現在の地に會館建築す、（工費五、〇〇〇圓）
創立以來の會長　松村重光、小野木孝治（現在）
事業　建築一般の調査研究及重要事項の實行、會誌、圖書の出版、講習講演（滿洲協會）、展覽會等の開催、紹介及質議應答
◎建築資料協會　東京丸ノ內東京商工奬勵館內
（會長）內田嘉吉、（副會長）兒玉孝纘、（幹事長）早崎繪壽、（幹事）淺野物產株式會社山口萬次郎
三稜社中村恒、三菱商事株式會社田谷芳邦、油脂化工社矢中龍太郎、（書記長）岡田由之助
會員數、會費　（特別會員）五七名、（正會員）年三〇圓一八八名
沿革　大正十三年十一月創立
事業　建築資料の調査研究並講演講話、共同型錄雜誌等の刊行、取引上に於ける非違の警戒及矯正
◎國際建築協會　東京市日本橋區三代町三（支部）名古屋、大阪、神戶、四國、旅順、臺灣、北海道
役員　（理事長）渡邊洋、（常任）渡邊虎一、大澤一郎、山本外三郎、今川鎭夫、今井兼二、櫻井省吾、廣瀨恭、八島知、高橋中錄、田中浩、長谷川郁、吉武巖、中村新次、永野三郎、（監事）竹內米吉、緒方一三
創立以來の會長　渡邊虎一
會員數　（維持會員）一六〇名、（會員）六〇〇餘名
沿革　大正十三年十月創立、主として早稻田大學建築科及同大學附屬工手學校建築科の有志とによつて組織さる。
事業　雜誌發行、圖書出版、講習會開催
機關雜誌　國際建築時論（月刊一日發行定價六〇錢）
◎名古屋工業會　名古屋市中區御器所町、名古屋高等工業學校內
（會長）森彥三、（副會長）荒川郁藏、（理事長）柴田祐一郎、（理事）上村義夫、權藤要吉、河原外喜男、大島德右衛門、棟方武次、太田元亮、佐竹菊次郎、吉田隼三、松田昌平
會費　（正會員）五圓、（贊助會員）寄附金額は五十圓以上とす。
名稱、目的、事務所　本會を名古屋工業會と稱す。本會は會員相互の親睦を圖り、併せて工業の發展に資するを以て目的とす。本會は本部を名古屋に置き各地樞要の個所に支部を設く支部の區劃は細則による。
事業　本會は會報及會員名簿を刊行す、其刊行方法は細則に據るものとす。本會は前二條の外臨機左の事項を行ふ。
一、工業の發展に資すべき人材の養成、二、工業の發展の爲必要なる究研調査及功績の表彰。

工業試驗並研究所

東京工業試驗所　東京府下代々幡町にある。明治三十三年六月に設立された。組織は第一部から第五部に至るに分たれ、一般化學分析に關する事項、セメント、煉瓦、瓦、內張材料に建築材料、鋼鐵材其他諸材料の強弱試驗を事業とする。東京工業試驗所報告を研究事項完了の都度發行してゐる。
大阪工業試驗所　大阪市西淀川區大仁町にある。大正七年五月に創立された。組織は第一部から第五部までに分たれ、一般化學分析、塗料耐酸試驗、その他に關する物耐火物製品、材料强弱試驗、その他に關する事項等を事業としてゐる。大阪工業試驗所報告を不定期に刊行してゐる。
東北帝國大學金屬材料研究所　大正四年設立以來漸次擴張す。元來研究所費の一部を民間の寄附金でしたのを、現在では國庫より支出されてゐる。所員は帝國大學教授及助教授を以てして冶金部、製鋼部、鑄物部を設けてある。そして鋼鐵その他金屬合金に關する學理及應用の研究を事業とする「理科報告」「金屬の研究」等の定期刊物にその報告をのせてゐる。
朝鮮總督府中央研究所　京城府東崇洞にあり、大正五年四月に設立された。工業原料及製品の分析檢定、耐酸耐火の製造試驗、其他化學工業に關する試驗事項を其事業としてゐる。
臺灣總督府中央研究所　臺北市幸町にあり、農業部、林業部、工業部、衞生部に分れ、工業部では化學工業に關する一般事項を研究事業としてゐる。
北海道工業試驗場　札幌郡琵琶似村にあり、陶磁器製造試驗、建築用材製造試驗、耐寒性瓦の製造試驗、其他等の工業試驗を事業としてゐる。
兵庫縣工業試驗場　神戶市下山手通四丁目にあり、大正六年五月創立され分析化學試驗及工業化學試驗を施行する。尙兵庫縣美嚢郡三木町に三木分場を設け、同分場では金物に關する一般試驗作業及び指導をする。兵庫縣工業試驗場業務成績報告、同技術報告を刊行してゐる。
群馬縣工業試驗場　前橋市岩神町にあり、耐酸

耐火製造試驗、セメント檢定其他化學工業に關する一般の試驗を事業とする。

三重縣工業試驗場　津市下部田偕樂公園前にあり、耐酸耐火製品に關する一般試驗、化學工業品の分析並に試驗鑑定、その他を事業とする。刊行物として三重工業試驗場業務功程がある。

靜岡縣靜岡工業試驗場　安倍郡豐田村にあり、明治三十九年三月に設立された。組織を五部に分ち、木工部では木工に關する試驗及研究、實地の指導並に傳習、原料及製品等の分析試驗及鑑定、製作技術に關する質疑應答等を事業としてゐる。毎年報告書を刊行してゐる。

岐阜縣陶磁器試驗場　土岐郡多治見町にあり、耐酸耐火の原料及材料品の分析試驗鑑定、窯及煙究工場の設計、其他質疑應答、講習講話及實地指導を事業としてゐる。

岩手縣工業試驗場　盛岡市內丸にあり、明治七年に創立された。組織を五分に分ち、其中金工部、木工部では、鐵及銅器、鑄物、指物及木工製作等に關する試驗研究、化學工業の調査並研究補助、其他質疑應答等を以つて事項とする、要覽、業務工程報告等の刊行物があり。

山形縣米澤工業試驗場　米澤市屋代町にあり、大正八年に創立された、一般工藝品に關する製作技術試驗、原料及製品の分析、試驗鑑定及檢定等を事業とする。

石川縣工業試驗場　金澤市長土堀五番町にあり大正八年十二月に竣成された。化學工業部では一般化學工業品に關する試驗及研究並に檢定調査其他實地指導を事業とする。業務概要、試驗場要覽、業務功程等の刊行物であり。

鳥取縣工業試驗場　鳥取市西町にあり、大正十三年五月の創立である。同所內の窯業試驗場では窯業に關する一般の試驗及分析、鑑定並に實地指導をする、業務及試驗報告の年刊がある。

山口縣工業試驗場　吉敷郡山口町にあり、家具の製作、挽物細工、其他に關する分析鑑定を事業としてゐる。

大分縣工業試驗場　大分市舞鶴町にあり、明治四十三年に創立、組織を應用化學部の外二部に分ち、同部では一般化學工業に關する分析、試驗、鑑定、講習講話、實地指導、及原料の調査等、工場の設計相談、その他必要な事項を行つてゐる、業務報告、參考資料等の刊行物がある。

大阪市立工業研究所　大阪市北郡北扇町にあり大正五年に恩賜金の積立金を基に創立され、組織は第一部より第三部に分れ、第一部の電氣化學分析、第二部の化學工藝品、其他化學工業、第三部の機械能率、材料强弱等の各試驗研究をする。尙一般工業に關する試驗研究の依囑並に質疑に應じ、工業研究希望者に設備を利用させる特點がある。業務年報、研究報告等の刊行物があり。

財團法人理化學研究所　東京市本鄕區上富士前町三一番地にあり、大正六年三月に設立された法人組織で、純正科學である物理學及化學の研究、理化學の應用方面の研究及その半工業試驗其他を事業としてゐる。定期刊行物として理化學研究所彙報、不定期發刊物として Scient Papers of the Institute of Phyrical and Chemical Researeh. 製作品型錄等を刊行してゐる。

旭硝子株式會社試驗所　東京市牛込區喜久井町一七番地にあり、大正七年十二月に創立された。硝子に關する研究、膠質化學、諸原料の分析、其他一般の無機有機化學の研究を事業としてゐる、試驗所報告の不定期刊行物がある。

古河電氣工業株式會社理化學研究所塗料部　東京府荏原郡平塚村にある、各種塗料、ワニス、油類の試驗研究を事業としてゐる。

大阪舍密工業株式會社試驗室及研究室　大阪市此花區川岸町十四番地にあり、原料並に製品に對する試驗、化學工業に屬する各種工業品の研究を事業としてゐる。

附記　以上列記した以外に、林業試驗場、鐵道省、復興局の諸官衙直屬の研究所並に試驗所があるが一般の需要に供せざるを以て玆に省略した。

學事及會合

大正十五年三月各大學及專問學校卒業論文及計畫

東京帝國大學

Natural Hiseory Muslum	大關實
新聞社	小野薫
Eight story general hospital	小川昌三
貸アトリエ附美術館	奥山忠七
Design for an Athletie Club	奥田讓
學生倶樂部	喜多利德
百貨店	日下部東一郎
東京帝國大學の學生及卒業生用の艇庫	楠富士太郎
ラジオ放送局	久良知丑次郎
或る溫泉のアパートメントハウス	竹田弘
博物館	齋藤常之
愛隣病院	角田重喜千
Heilanstaltfur Geisthraten	清水一
アパートメントホテル	名古屋德次
百貨店	下斗米將介
小劇場	平山嵩
公衆浴場	庄司浩三郎
市街地に於けるホテル	藤田金一郎
Cinema Studio	山本一夫
造船所と機械工場	用瀨巖
下の關停車場	古館均一
劇場	本田貞二郎
郡山小都市に於ける集會官廳の設計	諸富鐵雄

京都帝國大學

札幌停車場改築案	伊藤和夫
水族館	出佐文一
國民劇場	早川與助
倶樂部ホテル	林茂吉
十和田湖公園建築設備	東畑謙三
共同住宅館	神阪三郎
樂堂	田中吉太郎
活動寫眞館の新案	竹田延朗
中央卸賣市場	福田勇雄
郊外電車終點驛	三浦潔
基督教青年會館	野田清三
サナトリユーム	金本房一
海濱ホテル	織部常生

早稻田大學

建築土館	伊藤純一
ホテル	稻垣孝友
停車場	西野貫
寺	村山二一郎
事務所建築	松坂英夫
刑務所	佐々木兵部
シネマスタヂオ	西鄕鐵雄
事務所建築	木村三郎
自働車屋	衣川正俊
農科大學	三田克彥
溫泉ホテル	宮田正昭
發電所	下村眞治郎
ホテル	弘中隆一
クルブ	平岡正夫
屠殺場	內田自作
事務所建築	小瀨木壽一郎
事務所建築	山村光次
事務所建築	飯田俊之
大使館	大木正吾
セツトルメントハウス	淺井喜八
	伊藤義次

東京高等工業學校

フリーメーメンとしての一九會禊道場中村秀一	猪瀨幸太郎
東京高等工業學校	板倉珪
山間のテンプル	道家鯉一
丘上の公會堂	大澤常松
國際競技場	岡野金作
公會堂	萩原良治
停車場の試案	

藝術協會　河田亮路
上野停車場　不明
メモヤルコンサートホール　滕沼次郎
公會堂　吉野源豐
納骨堂　高橋宣二
綜合藝術發表集會精進する人々のために　武田陸郎

神戸高等工業學校

自由市の裁判所　山先勇
山の中腹に立つ禮拜堂　松本豐七郎
中央市場設計圖　小西正夫
美術館　足立進一郎
ホテルを持つ娯樂場　新井猶一郎
公衆浴場　芹澤勝敬
田園都市の議事堂　玉炳宇
會館　黃英
圖書館　顧恒
體育會館　谷風
音樂協會　申克明
溫湯浴泳場　古賀正夫
セントラルマーケットホール　西森稜威穗
某會館　堀口甚吉
會堂　梅原寅吉郎
大國民館　榊原助太郎
市民會館　三浦尙史
娯樂を主とする公衆浴場　鈴木忠五郎
不明　清水秀山
　井上新平

名古屋高等工業學校

寧良朝美術研究者に捧ぐ　井口津久壽
記念塔設計圖　飯味忠三郎
新聞社設計圖　長谷川晋作
美術家倶樂部　長谷川正
名古屋工業會館創案　小川龍夫
アガデミー設計試案　岡田義雄
溫泉地の公衆浴場　河島利征
Avilla　加藤元一
音樂堂設計圖　高橋鎌次郎
海濱ホテル設計圖　田中勝
映畫撮影所試作　多々良恭輔
アトリエ試案　染木正夫
圖書館の設計圖　薗田守行
教會設計圖　村田一雄
縣廳舍設計圖　汲川彌太郎

京城高等工業學校

中央市場　田中輝生
市役所　外川廣一
基督教青年會寄宿舍　鶴田勝
運動倶樂部及附屬競技場スタンド　手谷富美雄
郊外住宅　和田信雄
城崎溫泉ホテル　渡邊久雄
百貨店　池田博
レストラント　矢澤弘一
建築專門學校　吉龍信二

川田榮藏
土屋清
五島三代治
保科正路
今永正輔
井上忠太郎
木田德太郎
近藤光雄
河野半七
小林武夫
草部庄治
小林論一
松本俊一
宮野守
森義弘
中西忠雄
岡田幸一
小野司一
佐藤秀夫
澤田其枝天
高木一雄
高田忠良
竹中久雄

藝術奉仕協會への試案　山本董雄
停車場設計圖　間瀨忠平
三朝ホテル試案　小谷初
乘馬倶樂部設計圖　小林峰男
或る湖畔に立つ倶樂部　寺澤林吉
Study for a Church　淺野清
美術協會設計圖　清水要
某政黨本部設計圖　樋口久松

京都高等工藝學校圖案科

商店建築正面設計　今井重季
住宅及其內部設計　尾野菊義
裝飾書　大田原治藏
居間及食堂應接室設計　土田政男
住宅及其應接室活動寫眞館及其椅子類の設計　林瀨稔
商店建築正面及內部裝飾設計　山口英二
各種家具設計　山谷賴三
ポスター各種圖案　松原立人
陶器皿及各種ポスター圖案　越山豐一
住宅及其細部設計　照井汀
浴場設計　淺井三郎
ポスター各種設計　水谷正雄
舞台裝置「生キテイル小平次」　峯親吉
ポスターステインドガラスある構想島田藤四郎　清水幾藏
住宅及其細部設計

橫山又三郎
發電所と其の勞働者住宅　竹內只雄
劇場　宇宿四郎
停車場　山田國雄
乘馬クラブ　松井清衛
小學校　北尾眞太郎
產業奬勵館　金衛七
市民館　朴東鎭
民衆娯樂部　澁谷靜夫

東京美術學校建築科

藤田嚴
或る工場地に建つ演劇研究場　山下進

東京帝國大學卒業論文

南滿洲工業專門學校

大澤熊吉
ホテル　木村義雄
遊泳場　菊地秀雄
運動倶樂部　佐藤岩人
裁判所　坂本金吾
ステームシツムターミナル　炭田守夫
郊外ホテル　田中國益
歌劇場　野尻榮
商品陳列館
郊外住宅外の計畫と其の中の或る教會堂の設計　林幹太郎
都市計畫に就て　前田利八
江戸に於ける町家消長　村瀨忠左衛門
建築契約　山崎純郎
音響學に就て
社會建築汎論
精神病院の研究に就て
百貨店に就て
建築の藝術的側面に就て
意匠裝飾に於ける光學的効果
病院建築に就て
復式講造に就て

京城高等工業學校

羽坂直光
海濱倶樂部　李科漢
貸事務所　吉岡忠就
ターミナルステーション　吉田達夫

寧樂前期建築　大關實
偏光に依る校應力測定(前編)　小野薰
偏光に依る校應力測定　小川昌三
美術品陳列場に就て　奥山忠七
Flat Slab Construction に就て　奥田讓
都市計畫に就て　喜多利德
江戸に於ける町家消長　日下部東一郎
建築契約　楠富士太郎
音響學に就て　久良知丑次郎
社會建築汎論　齋藤常三
精神病院の研究に就て　清水一
百貨店に就て　下斗米將介
建築の藝術的側面に就て　庄司浩三郎
意匠裝飾に於ける光學的効果　竹田弘
病院建築に就て　角田重喜千
復式講造に就て　名古屋德次

振動に就て　米山嵩
機能主義より建築史論構造力學より樣式論　藤田金一郎
停車場の計畫に就て　古館均一
演劇現論より研究せる劇場建築の本質　本田貞一郎
昇降機に就て　諸富鐵雄
晝光照明に就て　山本一夫
工場に就て　用瀬巖

大正十四年度早稻田大學卒業論文

【大正十五年三月卒業したるもの】

Country club house に就いて　伊藤純一
現代都市の交通問題研究　稻垣孝友
都市問題より見たる田園都市　內田自作
鐵筋コンクリートの施工に就いて　木村三郎
映畫攝影所の建築設備　西鄉鐵雄
刑務所建築と改良策　佐々木兵部
禪宗を通して見たる我鎌倉及室町期の建築學校に就いて　松坂英夫
都市の過現未
日本民族の信仰と建築的學意織の變遷　宮田正昭
機能主義より建築史論構造力學より樣式論　藤田金一郎
停車場の計畫に就て　古館均一
演劇現論より研究せる劇場建築の本質　本田貞一郎
昇降機に就て　諸富鐵雄
晝光照明に就て　山本一夫
工場に就て　用瀬巖
近代劇が劇場建築に及ぼせる影響とその將來　山瀨木壽一郎
住宅に就いて　山村光次
觀覽席の斷面的設計に關する研究　下村眞次郎
人爲的災害とその建築に及ぼす影響　西野貫
Hruse の眞と美に就いて　弘中隆一
フラウトスラブ構造論　衣川正俊
北海道の住家　村山二二郎
都市住宅と共同住宅館に就いて　平岡正夫
Elevator の効率研究　淺井喜八
飯田俊之
大木正吾

早稻大學昭和二年三月卒業生計畫

計　製糖工場　井上半次
計　祭場を有する納骨堂　飯田須賀期
計　無線電話放送局　猪瀨政雄
計　白木屋改築案　一木恒彥
計　新聞社　土橋長俊
計　Public Bath　年光巴
計　公衆浴場　加納動
計　百貨店　川野嘉文
計　市場　金子元敏
計　女學校　田町喜多見
計　デパウトメント　竹花末春
計　公設市場　竹本清太郎
計　小學校建築　曾村福夫
計　勞働者宿泊所　中村盛彌
計　更生住宅館　工藤雅樂吉
計　ホテル　熊城愼三
計　ホテル　山田直枝
計　アスレティワクラブ　山岸光吉
計　新聞社　松岡武
計　小學校　松本仁之助
計　水泳倶樂部　松本節夫
計　新聞社　古屋要
計　醸造工場　藤井幸次
計　停車場　小松正義
計　庭球クラブ　小松祐男
計　映畫研究所　綾井九州彥
計　佛教青年會館　酒井勉
計　ホテル　木村幸次郎
計　火葬場　森清治
計　勞働者共同宿泊所　森本多三郎
計　株式取引所　角喜友
計　小學校　石井勇
計　Stalian　今井猛雄
計　Department stabe　德屋勇三
計　Racking hause　仁科章夫
計　モータービル　若栗修
計　Dairy Barn　渡邊彌太郎
計　Heatrical schinl　中山克巳
計　Terminal Warehause　柳良治
計　Bath　山田正
計　Garage　松野二男
計　Athletic Club　守玄一
計　Cald starage　齋藤保
計　Brewery　平野鄉男
計　Department store　須藤淳助
計　Aprtment house　松本寬治

學會協會動靜

建築學會

講演會　大正十四年四月十二日(午前中雨天)午前九時より十二時迄通俗講演會、午後一時より五時迄學術講演會
一、會場大阪中ノ島大阪公會堂大講堂　一、演題及講演者、開會の辭　司會者　會長　橫河民輔君、社會に於ける建築家の地位主記　伊藤文四郎君、建築の活路　正員　伊東忠太君、都市計畫と建築藝術　正員　古宇田實君、帝都復興帝都復興の現狀　復興局技師　正員　伊部貞吉君、共同建築の問題　警視廳建築課長　正員　竹內六藏君、雲崗石窟の年代と其樣式の起源に就いて(幻燈使用)　東京帝大學教授　工學博士　關野貞君、未定　東京帝國大學助教授　正員　長谷川輝雄君、未定　文學博士　笹川臨風君、閉會の辭　副會長　正員　工學博士　大熊喜邦君
講演會　大正十五年三月十五日(自午後六時至同九時)
一、會場神田區錦町三丁目學士會事務所　一、司會者松井清足君　一、話題　鐵熔鑛爐の廢物と都市の建築材料に就て　製鐵所技師　理學士　谷宗雄君
一、聽講者約五十名
大正十五年七月八日(自午後六時至同九時半)
一、會場神田區錦町三丁目學士會事務所　一、司會者　小林主記　一、話題　歐米最近の建築に關する電氣設備に就て　工學博士　伊藤奎二君、一、聽講者約百名
大正十五年九月十六日(自午後六時至午後九時半)
一、會場麹町區有樂町帝國鐵道協會　一、司會者　小林主記　一、話題　瑞西とジュネーブと國際聯盟　外務事務官　法學士　御厨信市君、國際聯盟の實情　國際聯盟東京支局主任法學士　青木節一君、國際聯盟會館建築設計競技募集の規定に就て　正員　工學博士　長野宇平治君、一、聽講者百二十名
通常會及談話會　一、本年度中四回の通常會及二回の談話會を開きたり、其演題並に講演者左の如し
四十年の回顧　名譽會長　正員　工學博士　曾彌達藏君、
講演會　四月十日(土曜日)午後零時半より同五時半迄
一、會場帝國ホテル演藝場　一、演題及講演者
開會の辭　會長　正員　工學博士　橫河民輔君、建築學會

の如し。

中流階級としての「アパートメントハウス」の經濟的考察　北海道帝國大學教授　法學博士　森本厚吉君

社會學より見たる都市計畫　日本大學教授　文部省實業學務局囑託　正員　福田重義君、

圓谷弘君、歐米漫遊所感　正員　工學士

英國に於ける建築施行上に關する精算大要　英國大使館營繕精算技師　ジョウジウ、イトソン君、通譯　正員　富永襄吉君、但馬地震に就て　東京帝國大學教授　正員　伊藤文四郎君

理學博士　今村明恒君、城崎に於ける建築の震害に就て　准員　伊豫田貢君、復興建築會社に就て　正員　工學博士　佐野利器君、

第七回講習會　本講習會は大正十四年十月一日より十六日迄十三日間に亘り東京帝國大學工學部新館大講堂に於て開催せり其概要左の如し

課目及講師　建築の色彩に就て（アーキテクチユラル、クロマトグラフイ）（五時間）　工學博士　武田五一君、耐震構造總論（二時間）　工學博士　內田祥三君、「フレーム」による耐震構造計算實例（十九時間）　工學士　大澤邦吉君、鋼鐵の電氣溶接、工學博士　孕石元照君（但右講義は講師病氣に付き其概要の印刷物を配布並に同研究所を見學せしのみにて講義は中止せり）

建築材料（八時間）　工學博士　吉田享二君、建築請負契約に關する法律概論（六時間）　法學士　出浦清恪君、

聽講者總數三百四十二名、內會員三百三十三名、會員外に九名、又會員を種別すれば正員五十五名、特別員四名、贊成員三名、准員二百七十名

地方別にすれば在京者二百四十九名、地方より出席者二十一名、

見學　大正十四年四月十三日

一、觀覽場所　A組（大阪方面）　自午前八時　至午後四時三十分　B組（京都方面）　自午前九時　至午後六時　京都住友ビルヂング建築場、大林製材所、木津川製作所、參加者百餘名、C組（奈良方面）　自午前七時　至午後六時　法隆寺及東大寺、參加者十六名。

宮城拜觀及見學

一、第一日　四月十一日（日曜日）　第一組、東京帝國大學見學、午前九時同大學正門集合、理學部地震學教室、工學部建築學教室、東京帝國大學大講堂、同圖書館建築場其他同構內建物見學、倚建築構造耐火試驗其他の實驗ある筈。

第二組、帝都復興情況見學、午前九時神田橋復興局集合、諸計畫圖其他展覽、駿河臺及濱町方面區劃整理狀況、隅田川架橋工事場、小學校建築等見學。

二、第二日　四月十二日（月曜日）　宮城拜觀（出願の手續中）及新議院建築場並に假議院見學午前八時半宮城坂下門前集合、新議院は總理大臣官邸前通用門より假議院は貴族院通用門より入場のこと、午後二時終了の豫定。

滿洲建築協會

滿洲建築協會の大正十五年度に於ける進展は以前からの連續であつて大した變化はなかつた。外見的に言へば雜誌が菊版から四六二倍版になつたのが發展と言へよう。殖民地に於て直面する問題は、日本人が安住し得る場所の建築である。從つて住宅建築改善方面に本年も亦盡力する所が多かつた。

一、敎化事業　東洋建築吏及び塗工法の講習會を開催。由來關東洲には一種の建築士條令があり、是に伴ふ主任技術者の檢定試驗が每年行はれてゐる關係上、建築史の如き講習を必要とするのである。一方近來塗工方面の智識普及を要求する聲高きにより、此の講習をなし、更に十一月號の雜誌一冊を塗工法一般に充てたのである。

二、煉瓦規格調査委員會　一月八日附を以て滿鐵技術委員會より、商工省の告示に係る煉瓦規格に關し、滿鐵及び滿洲に於ける從來の煉瓦規格との相違點に對し其の對策的方針を照會せられたるを以て、委員會を設けて協議し一月二十二日回答。是を簡單に言へば、滿洲に於ける煉瓦は商工省告示に準據するを適當と認めたので

ある。

三、懸賞設計圖案募集（別項參照）

四、講演會（別項參照）

五、出版　三月初め撫順新設市街店舖住宅圖案帖を出版した。本帖は大正十四年三月に行つた懸賞募集の圖案の中、優秀作五十點を集めたもので、應募者へ進呈して努力に對する謝禮としたのであつた。此の撫順當局の方法は範とすべきものであると信ずる。六月には一般住宅を建てる人々の手引きとして雜誌の抜き版りを發行した。（兩者共に絕版）

講演會　八月二十三日午後三時半より、大連市彌生町市立高等女學校に於て、滿洲建築協會主催の講演會、京都帝國大學助敎授、坂靜雄氏。八月上旬滿鐵會社の招聘に依り大連及沿線一圓の建築情況視察の爲め來滿せられたる京都帝國大學建築學助敎授工學士坂靜雄氏は二十一日滿線の視察を終了歸連せられたるを以て、二十三日午後三時半より市內彌生町市立高等女學校內に於て「コンクリート及其の材料」に關する約二時間に亘る講演あり、聽講者約四十名大いに盛會する處あり。同日午後六時半よりヤマトホテル屋上に於て同氏慰勞の爲め有志の晩餐會を催したり。

講演會　大正十四年八月二十三日夜、安東に於て滿洲建築協會主催にて演題「奉天北陵調査の概要」「南滿洲工業專門學校敎授岡大路氏。

上記三氏は豫定に從ひ、二十二日向安、二十三日夜同地の役員內田、清水、大悟法の諸氏を始め三十餘名の會員集合、本協會の事業經營其他に就きて意見の交換をなし、岡副會長より北陵調査の概要につき講演せられ一同歡談の裡に散會せり。

講習會　大正十四年三月五日より十八日に至る十四日間に亘り、滿洲建築協會第四回建築講習會を開催、科目及講師、東洋建築史　南滿洲工業專門學校助敎授　伊藤清造氏、一般塗工法　南滿洲工業專門學校附屬職業敎育部主任　福岡庄一郎氏、聽講者兩科を通じて六十餘名。

會長副會長選擧理事會務の分掌　四月十二日（月曜日）午後四時半より本協會事務所內に於て理事會開催、新年度に於ける會長副會長の選擧（月曜日）午後四時半より本協會事務所內に於て理事會開催、新年度に於ける會長副會長の選擧に關し、滿鐵及び滿洲に於ける從來の煉瓦規格との相異の點に對し其の對策的方針に就き照會ありたるを以て、本協會は玆に小野木會長の指命により、青木菊治郎、植木茂、鈴木正雄、岡大路、小黑隆太郎、鈴木順三、三田謙次郎、三田昇之助、橫井謙介、保田虎太郎、小林多吉の十二名を委員として委員會を開設し、一月二十日午後四時より右委員會を開催、協議の結果全會一致を以て二十二日左記之通り滿鐵技術委員會に對し回答したり。

宗像主一、保田虎太郎、臨時議決　副會長一名を二名とする事を本協會の爲めに得策と認め、之を理事會の意志として評議員會に諮り、その協贊を經たる後臨時總會或は其他適宜の方法を以つて、定款の一部を變更し、然る後會副長一名の追選をなす事。

出版　（一）撫順新設市街店舖住宅圖案帖　大正十五年三月一日發行、定價三圓五十錢（但シ絕版）本帖は大正十四年三月行ひたる懸賞設計の當選作及び佳作五十點を印刷したるもの。（二）「家を建てたい人々の爲めに」大正十五年六月十五日、定價一圓五十錢、是は滿洲建築協會雜誌第六卷第六號を抜版りして一冊の本となせるもの。（絕版）

煉瓦規格調査委員會　大正十五年一月八日附を以て滿鐵技術委員會より本協會に對し、過般商工省の告示に係る煉瓦規格に關し、滿鐵及び滿洲に於ける從來の煉瓦規格との相異の點に對し其の對策的方針に就き照會ありたるを以て、本協會は玆に小野木會長の指命により、青木菊治郎、植木茂、鈴木正雄、岡大路、小黑隆太郎、鈴木順三、三田謙次郎、三田昇之助、橫井謙介、保田虎太郎、小林多吉の十二名を委員として委員會を開設し、一月二十日午後四時より右委員會を開催、協議の結果全會一致を以て二十二日左記之通り滿鐵技術委員會に對し回答したり。

左記

大正十五年一月二十二日

社團法人滿洲建築協會長

小野木孝治

南滿洲鐵道株式會社技術委員會委員長

貝瀬謹吾殿

一、煉瓦規格に關する當協會の意見回答の件

大正十五年一月八日附技委第一六六號を以て御照會に接しました商工省告示第十二號に依る普通煉瓦同第十四號に依る耐火煉瓦等に關する規格に對し現在當協會の意見は左記の通りでありますから爰に御回答申上ます。

左記

一、商工省の告示にかゝる諸規格及び之に伴ふ事項は工業品規格統一調査會の性質に徴して國家が諸工業品の全國的統一を實現しようとするものであるから滿洲に於ても亦之に準據することにより其の趣旨の徹底するようにすべきものであると信すること。

二、從來滿洲に於て使用する煉瓦は一般に內地規格の延長的利用であつて特に滿洲に於ける規格たるべき根本的の研究調査によるものでなく且近年滿鐵會社及び當協會に於て調査の結果發表せられたる諸規格は單に米突法の實施に伴ひ從來の規格稱呼に對する近似數的のものを設定したるに過ぎないものであるから此の場合特に之れに準據し難き理由を發見し得ざること。

三、滿洲に於ても諸規格の統一を行ふべきことは從來當協會に於て其の必要を認め來りたる折柄當協會は寧ろ此機會に於て進んで該規格に從ふことの當然且便利なることを認むること。

四、製造業者側に於ける規格變更に依りて被る不利益又は不便等は特に深き考慮を用ふるの必要なきものと認むるのみならず其他の場合に於ける不便等も亦之に對する一致を圖るに困難なる理由と認められざること。

五、官廳方面に於ても亦當然該規格に準據せらるべきものと認め此の場合滿鐵會社に於ても一致の方針を採らるべきことを希望すること

以上。

懸賞設計　撫順炭礦殉職者追悼碑設計圖案懸賞募集規程

第一條　滿洲建築協會は南滿洲鐵道株式會社撫順炭礦の委囑に依り本規程格に基き撫順炭鑛殉職者追悼碑に關する設計圖を募集す。

第二條　所要圖面及び書類左の如し。

一、平面圖　縮尺五十分の一　一

二、正面圖　縮尺五十分の一　一

三、斷面圖　縮尺五十分の一　一

四、主要なる部分の詳細圖　縮尺二十分の一　一

五、透視圖　縮尺任意　一

六、說明書　一

第三條　各圖面及び書類の作成は左の各項に準據することを要す。

一、圖面は總てケント又はワツトマンの全紙を用うること。

二、透視圖を除く外圖各面の仕上は墨入とし陰影は薄墨を以てし色彩を施さゞること。

三、透視圖の仕上は任意とす。

四、寸法は米突法に依ること。

五、文字は總て邦文(漢字)を用ひ外國語は片假名を以て明瞭に記入すること但し數字はアラビヤ文字を用う。

六、書入は直接其の位置になすべきこと。

七、說明書には位置、構造仕上、使用材料其の他の要點を明記すること。

第四條　圖面及び書類には總て署名に代ふるに暗號を以てし別に應募者の暗號及住所氏名を明記せる紙片を該暗號のみを表記せる第二號封筒(小形)に封入し更に當選其他の通知を受け又は圖面の返還を受くべき者の住所氏名を明記したる紙片と共に該暗號のみを表記せる第一號封筒(大形)に封入したるものを添附すべし。

第五條　應募設計圖案及び書類は添附封筒と共に一括して堅牢なる容器に納め嚴封を施し表面には宛名及應募者の暗號及應募設計圖案たることを表示する文字のみを記載すべし。

第六條　應募設計圖案は大正十五年三月十日迄に到着する樣大連市紀伊町八十五番地滿洲建築協會宛に提出すべし。

第七條　應募に關する費用は總て應募者の負擔とす。

第八條　應募設計圖案は左記審査員之を審査す

青木菊次郎

植木茂

小野木孝治

岡大路

鈴木順三

原正五郎

横井謙介

第九條　審査の結果左記の等級に從ひ當選者を定め當該賞金を贈呈す。

一等　一名　金二百圓

二等　一名　金一百圓

三等　二名　各金五十圓

選外佳作　二名　各金二十圓

第十條　審査に關與するものは應集に應し又は他の應募者に對し幇助を與ふることを得す。

第十一條　左の各號一のに該當するものに對しては審査をなさす。

一、他人の意匠を剽竊せりと認めたるもの。

二、不正の手段方法に依る設計なりと認めたるもの。

三、其他本規程竝設計要旨及應募心得に違反せりと認めたるもの。

第十二條　審査に對しては說明を求め又は異議を申立つることを得す。

第十三條　審査の結果は適宜の方法に依り大正十五年三月十五日之を發表す。

第十四條　賞金は當選者發表後七日以內に之を交付す。

第十五條　應募者は豫め左の事項を承認したるものとす。

一、當選したる圖案と雖も其の實施により適宜の取捨變更なす場合あるべきこと。

二、應募圖案は當選者發表後暗號の儘之を公衆の展覽に供する場合あるべきこと。

以上

大正十五年一月二十二日

社團法人滿洲建築協會

撫順炭礦殉職者追悼碑設計要旨及應募心得

一、本追悼碑は撫順炭礦開礦以來職に殉したる日支從事員を合祀せるものゝ現在露天堀剝土區域內にあるを移轉せんとするに際し新に建設せんとするものなり。

二、工費總額を一萬二千圓以內とす。

但し地均及庭園築造等の工費を除く。

三、碑前には每年盂蘭盆に際し追悼會を營む爲一千平方米內外の廣場を要するものとす。

四、本碑建設豫定地は別紙平面圖に示されたる永安臺東公園內の丘上にして圖中Aには高さ十五米花崗石造の忠魂碑ありBには鑛滓煉瓦造上水濾過場建築物有り周圍は濶葉樹の植林をなせり。

五、建設豫定地竝通路は設計の都合に依り多少の變更を妨けす。

六、建設豫定地及附近の情況は別紙圖面(標高に注意)に付き充分なる考察を拂ふことを要す。

七、碑の大さ、碑銘題字等は任意とす。

八、暗號は成る可く文字を利用し取扱上不便を感する如き復雜なるものを避くることを要す

九、應募に關する質疑は書面又は其の他の方法を以て本協會に照合せらるべきものとす。

十、應募者にして住所氏名を變更したる時は其の都度書面を以て本協會に通知すべきものとす但し其の封筒には宛名の外暗號及び「應募者通知」の五字を記載することを要す。

以上

大正十五年一月二十二日

社團法人滿洲建築協會

撫順追悼碑當選者　去一月二十二日の發表に係

る撫順炭礦の委囑に依る同地炭礦殉職者追悼碑設計圖案懸賞募集は三月十日締切翌十一日午前十時より審査に著手し、同日午後五時三十分終了したるが、應募總點數五十一、當選者左の如し。

一等　大連　共同建築事務所　相賀兼介、二等　長春　地方事務所工務課　淺田繁男、三等　大連　共同建築事務所　相賀兼介、南薩男、同　長春　地方事務所工務課　淺田繁男　選外佳作　大連　長川谷組　五十嵐重吉、同　工務事務所　渡邊惣一郎

建築設計圖案懸賞競技

神奈川縣廳舍建築設計圖案懸賞募集規程

第一條　神奈川縣廳は本規程により神奈川縣廳舍の建築設計圖案を募集す。

第二條　審査の上當選者には左の等級別により賞金を交附す。

一等賞一名金五千圓、二等賞二名各金參千圓
三等賞三名各金貳千圓、等外佳作若干名各金壹千圓

第三條　應募設計圖案は左記期限迄に到達する樣橫濱市岡野町神奈川縣廳內縣廳舍建築事務所宛に提出すべし。大正拾五年六月拾日正午

第四條　應募設計圖案は左記事項を具備することを要す。

配置圖　縮尺三百分の一、各階平面圖　同二百分の一、立面圖(二面以上)　同二百分の一　斷面圖(縱橫主要部分斷面二面)　同同、主要部詳細部　同二十分の一、透視圖　ワットマン全紙大、說明書　半紙判大、

第五條　圖面及書類の作成は左の方法に據るべし。

一、各圖面は總て製圖原紙に墨を以つて書き寸法は日本尺に依り記入すべし。二、圖面中の文字は邦文を以つて明瞭に記載すべし、但寸法に限りアラビヤ數字を用ふることを得。三、圖面には陰影を附することを妨げず、但し透視圖の外は着色することを得ず。四、圖面に記入すべき各室の名稱坪數等は直接其の位置に記載すべからず。五、配置圖に於ける建物平面は單に外線のみとし庭園及道路等を現すことを要す。六、透視圖に於ける畫面(ピクチユアプレーン)は建物の南隅と一致し且建物の東南正面と三十五度の角度を保たしめ其視點は建物の同一隅より二百五十尺の距離にして其の水平線は地盤面上高十二尺の位置にあるものとす。七、說明書には設計要旨及材料構造の概略を簡明に記載すべし。

第六條　圖面及書類には總て署名に代ふるに每葉暗號を記載し別に暗號のみを表記せる甲封筒內には應募者の住所職業氏名を明記せる紙片を封入し乙封筒內には還附を受くべきもの、住所氏名を明記せる紙片を封入して之を添附すべし暗號は文字に限る。甲乙封筒は神奈川縣より之を交附す。

第七條　設計圖面及書類は一括して堅牢なる容器に納め嚴封を施し表面には宛名應募者の暗號及應募設計圖案たることのみを表示すべし。

第八條　應募に關する費用は應募者の負擔とす

第九條　應募したる設計圖案は左記の審査委員之を審査す、審査の結果に對しては說明を求め又は異議を申立つることを得ず。

工學博士　片岡安、工學博士　佐野利器、工學博士　大熊喜邦、工學博士　佐藤功一、工學博士　內田祥三、工學士　岡田信一郎、神奈川縣內務部長　小柳牧衞

第十條　審査は大正十五年六月三十日迄に結了するものとす。

第十一條　審査の結果は官報を以つて發表し且つ當選者に通知す。

第十二條　審査に關與するものは募集に加り又は應募者に幇助を與ふることを得ず。

第十三條　左の各號の一に該當するものは之を審査せず。

一、他人の意匠を剽竊せりと認めたるもの。
二、本規程に違背せりと認めたるもの。

第十四條　當選設計圖案に付應募者の有する一切の權利は當選と同時に神奈川縣に歸屬す。

第十五條　當選せざる設計圖案は神奈川縣の費用を以つて之を還附す。

第十六條　應募者は左に揭ぐる事項を承諾したるものとす。

一、當選したる設計圖案と雖も實施の場合には之を取捨變更することあるべし。二、應募設計圖案は審査終了後暗號の儘公衆の展覽に供することあるべし。三、應募設計圖案の保管及還附に關し十分の注意をなすと雖も萬一損害を生じたる場合には神奈川は其の責に任ぜず。

神奈川縣廳舍建築設計懸賞當選者發表

三月發表せられた神奈川縣廳舍建築設計圖案の懸賞については植民地よりの應募者もあり、締切の六月十日正午迄には其應募總數三百九十八通に達したが審査の結果次の如く當選者の決定を見た。

當選者　一等(賞金五千圓)一人　東京市技手　小尾嘉郎、二等(賞金各三千圓)二人　一席　大連市小野木橫井共同建築事務所　相賀兼介、二席　建築業　中村哲、三等(賞金各二千圓)三人　一席　大倉土木株式會社　土浦龜城、二席　東京市技手　泰井武、三席　大野功二、等外佳作(賞金各一千圓)三人　一席　大森組本店　今井亮桂川弘、二席　住友合資會社　大原芳知、三席　宮內省內匠寮　永井孝直、

ジユネーヴ國際聯盟會館建築設計競技綱領並に規定(譯文)

緒　言

國際聯盟は第五回及第六回總會並に一九二六年三月の臨時總會の決議に基き聯盟會館建築設計の競技を行ふ。

聯盟は本會館が聯盟の事業に必要なる總ての機關に對し最も現代的にして實用的なる設備を提供し併せて二十世紀に於ける平和的理想をその樣式並に外觀に表象するが如く設計せられんが爲め本懸賞を建築家に提供したるなり。

本會館の建築せらるゝ敷地は雄大なり、最も高き所はローザンヌ街道(Route da Lausanne)に接し芝生及並木を有する緩かなる斜面をなしてジユネーヴ湖畔に達す湖岸延長四百米以上にして敷地には一本の小徑(將來取り擴げ得らる)ありて湖畔の散策に適し前面にモンブラン峯を望み風景絶佳なり。

聯盟會館はかゝる雄大絶美なる環境に建築せらるるものとす。

國際聯盟の組織の概要

懸賞の對象たる建築物はジユネーヴに在る國際聯盟の總ての機關を容るゝものとす。

國際問題を討議するに最も相應しきかの靜寂なる境地に於て之等諸機關をして容易に且つ心靜かにその事業を執行し會合商議するを得しむるやう考慮するを要す。

之等の諸機關は次の如し。

(A)總會　總會は主として公會大會議室を用ふ聯盟國全部の代表者定期に會合し出席者頗る多し、(B)理事會　總會より遙かに小規模の機關にして目下十名によつて構成さる、年數回會合す、會議は公開たることあり或は秘密會たることあり、(C)事務局　常設的機關として國際聯盟の一切の事務を綜括し各種の會議の處置をなし國際的委員會の代表者國際的新聞通信記者其他聯盟の事業に興味を有する一切の人々に應接す、(D)國際勞働總會(附屬書第九號參照)聯盟總會以外の時期に於て定期に催され上記A項記載の會議室に開會す。

この建物の如何なる部分も聯盟の事業に從事し若くは協力し又はその會合に出席する一切の人々に解放さるるものなるも、然し秩序を保ち混雜を防ぐ爲めに各國の代表及び事務局職員の入

口は新聞通信記者及び公衆の入口とは別に之を設け困難なく夫れ〴〵の受持場所に達し得るやう設備するを要す。

敷地（圖面參照略す）

Aの印を附したる敷地は聯盟會館を建築する地域にして總面積六六、四〇六平方米突に及び西はローザンヌ街道に面し東はジュネーヴ湖に接し南はモンルポー公園に北はバルトン氏地所（B印の部分）に界す、バルトン氏地所は右の敷地と國際勞働事務局との間に位し之亦湖に接す此の地所は後日聯盟の所有となるべくその曉は國際聯盟の地域はモンルポー公園より國際勞動事務局の敷地までに亘つて纏りたる地所となり聯盟將來の發展に對して充分の餘地を提供するを得べし。現代に於てはバルトン氏地所には建物を建造することを得ず又何れの時この地が聯盟の手に入るや豫想し得ず、隨つて今日は敷地Aにのみ建造しバルトン氏地所に侵入せざるものとす。尤も應募者に注意を促したき事は、いつかの日にはこの地所が手に入るものなれば目下A敷地に建造せんとする聯盟會館もAB兩敷地に適合するやうに今日より位置を定むべく他日B敷地に增築が行はるゝことあるも本建築物は依然國際聯盟の卓越したる建築物たるに變りなきやう設計せらるることを要す。一般の地形傾斜土質並に排水に關する細目等を示す、敷地圖面は應募者に配布す。

敷地への道路

馬車自動車自轉車及び電車に依る訪問者はローザンヌ街道の入口より出入するを正規とす。重要なる會議の際は代表者の自動車はモンロポー公園より出入することを得べし。敷地には現在の植込を出來得る限り利用して公園を作り得べし。

方位

建物の方位は應募者の注意とす。然し冬季北東より吹く猛烈なる寒風と湖水を隔てゝモンブラン峯を望む美觀とは考慮するを要す。

地質及其礎

應募者は自己の判斷に依り地質に最も適合すと思はるゝ基礎工事方法を提案すべし、その爲めボーリングの結果を示す土地の地質學的斷面圖を應募者に供す。其礎が堅固なる地盤に達せざる場合には應募者は鐵筋コンクリート床の如きものを用ふることを得、この場合には地盤の平均制限重量は一平方センチメートルにつき約〇七五キログラムの壓力とす。

建築物

聯盟會館は二個の主要部分より成るこの二部分は廻廊又は柱廊によつて聯絡する別々の建物とするか若くは控室廻廊及び出口を有する單一の建物とすべし。

右の二部分は主として次の如く使用す。

一は主要なる總會會議室數個の理事會室並に附屬室（總會會議室は國際勞働總會にも使用するが故にこの建物は右總會中聯盟事務局の事務が妨げられざる樣設計せらるべきものとす）他の一は事務局

土地の傾斜を顧慮し第一に右兩部分は種々の雜務を執行する爲めの地下室を設くべし、第二に兩部分の地階は出來得る限り同一水準に在らしむべし。但し第二の條件は任意とす、應募者は實用價値と美觀とに最も適合すると思はるゝ方法により自由に地階及び其他の各階の水準を定むべし、暖房照明電動力通風音響給水排水は建物の兩部分に對し一個の系統を用ふべし、ローザンヌ街道はジュネーヴ州の國道の一にして自動車の往來頗る頻繁なれば塵埃を避くる爲め建物は少くとも十五メートル街道より退きて建造せらるべきものとす。

事務局の說明

國際聯盟の常設機關たる事務局は事務總長の統卒の下に四八〇名の職員を以つて構成せらる。

事務局の任務は總會理事會及び委員會の會合を世話す、事務局は之等の會合の準備事務を執り準備的調査をなし之等各種の機關の決議を執行す。事務局は數個の部局並に內部行政の各課に分る、主要なる部局は次の如し。

（A）事務總長及び事務次長室　事務總長は事務局全體の指揮に任ず、之を輔佐するに一名の代理總長と二名又は三名の事務次長とあり、事務次長の中一名は內部行政の任に當る。（B）國際事務局部　この部は聯盟規約第二十四條に基き聯盟の指揮下に屬せしめられたる總ての國際事務局と聯盟との關係を掌る、同時に又學藝協力國際委員會の事務局たり。（C）政治部　この部は國際聯盟が取扱ふべき國際的政治問題を研究する所なり。（D）法律顧問室　聯盟の取扱ふ一切の問題の法律的方面に關し意見を述ぶる所にして又條約の登錄及び公表を掌る。（E）行政委員會及少數民族問題部　ザール地方ダンチツヒ自由市等に關する行政問題を處理し少數民族保護の國際制度を有する國に於ける同問題を取扱ふ。（F）軍備縮少部　この部は安全保障及軍備縮少、兵器の國際的賣買並に兵器の私造の監視軍事年鑑の出版等の任に當る。（G）經濟財政部　この部は經濟委員會及び財政委員會の事務局を構成す、右兩委員會は財政及經濟に關する總ての問題について理事會及び總會の專門的諸問題に關たる役目を有す、この部は更に經濟財政問題に關し定期刊行物を發行す。（H）保健部　この部は公衆衞生問題について理事會及び總會に專門的意見を具申する所の保健委員會に對してその事務局となる、その任務は諸國の保健事業の間に聯絡關係を密接ならしめ之等の問題に關する情報を集中し公衆衞生に關する國際協定の締結を促進するにあり。（I）情報部　新聞通信社との聯絡を保ち記者の爲めに宣傳する各種團體との接觸を計り、聯盟に關する輿論の狀況を絕えず事務局に周知せしむるをその任務とす。（J）委任統治部　聯盟には委任統治受任國の年報を審査する爲めに委任統治委員會なるものあり、この部は右委員會の事務局をなす、委任統治地域の問題に關し理事會及總會より要求せらるゝ準備的事務を執る、（K）社會問題及阿片賣買部　兒童の保護及福利、婦人兒童の賣買禁遏猥褻刊行物の取締、阿片の不正賣買の禁止等重要なる社會問題を取扱ふ部なり。（L）交通通過部　この部は交通通過諸問題委員會の事務局たる任務を有し、交通問題に關する國際會議を準備し、之等會議によつて締結されたる條約の實施事務を掌る。（M）會計部　會計監督は財務行政の指揮に任じ豫算を編成し內部の管理及び出納事務の監視を掌る。（N）ラテン・アメリカ局　この部は安全保障及軍備縮少、兵器の國際的賣買並に兵器の私造の監視軍事年鑑の出版等の任に當る。（G）經濟財政部　この部は經濟委員會及び財政委員會の事務局を構成す、右兩委員會は財政及經濟に關する總ての問題について理事會及び總會の專門的諸問題に關する意見を述ぶる所にして又條約の登錄及び公表を掌る。（E）行政委員會及少數民族問題部　ザール地方ダンチツヒ自由市等に關する行政問題を處理し少數民族保護の國際制度を有する國に於ける同問題を取扱ふ。（F）軍備縮少部

(B)外套預所　男子百人分、女子二百五十乃至三百人分。(C)化粧室便所等。地階（括弧内の數字は應募者に配布したる細目表の數字を示す）

(A)配布室(21)。(B)内部事務室、郵便電信執務室、銀行等(17)

二　階

(A)事務總長室(1)、(B)代理總長室(2)、(C)内部行政管掌の事務次長の數室(3)、(D)國際事務局部長たる事務次長の數室(4)、(E)政治部長たる事務次長の數室(5)、(C)ラテン、アメリカ局(15)（若くは三階に）

其他の各階

(A)法律顧問の數室(6)、(B)行政委員會及少數民族問題部(7)、(C)軍備縮少部(8)、(D)經濟財政部(9)、(E)保健部(10)、(F)情報部(11)、(G)委任統治部(12)、(H)社會部(13)、(I)交通部(14)、(J)會計部(16)、(K)總務課(17及17)、(L)議事錄●編纂●出版●販賣課(18)、(M)通譯及翻譯課(19)、(N)記錄課(20)、(O)圖書館(22)、(P)速記タイピスト溜り(23)、(Q)謄寫課(24)、(R)職員用室(25)、(S)食堂(26)、(T)監査官及技術官(28)、「注意」——各階には少外套預所、化粧室等を充分に設くることを要す。

各部局の間はエレヴエター、貨物用昇降機、眞空輸送管等によつて迅速に聯絡することを要す

總會議場と事務局の各部との間に於ても亦然り事務局の急を要する配布及傳令事務（例へば文書及パンフレットの發送文書の受付）には出來得る限り本玄關と異る入口又は前庭を用ふることとすべし。暖房及び電氣裝置の從事員も之と同樣の入口又は前庭を使用すべし。

委員會室(27)

委員會室は廿一を要す。その中六室は總會議場の建物内の豫定位置に設け他の五室は次の四項の中の何れかに依つて設置すべし。

(A)五室全部を事務局の地階に置くか、(B)事務局及總會議場の間の地階に置くか、(C)二室を事務局と總會議場の間の地階に三室を事務局の地階に、(D)二室を事務局の地階に置く。

總會會議室、理事會室、並附屬室の說明

總會會議室の說明

總會會議室(42)は多くの聽衆を容れ得るやうに設計すべし。その形狀は應募者の任意とす。地階に設くることを要す。總會會議室の音響設備は出來得る限り完全を期すべし、議場は廣くとり換氣照明を完全にすべし。會議室の目的よりしてそのプロポーションには特に注意すべし。會議室は次の如く設備するを要す。

中央の部分は階段的に、或は傾斜的に設備し四百名の代表者席を設くべし。代表者は二名宛樂に机に座し得るやうに配置すべし（スケッチ參照）。代表者の議席を瞰下し彼等に直面して總會議長、事務總長及び一名の通譯の高座を設くべし。右の三席の兩側に事務局員（名側に十名宛机に向つて着席す）の席を設け彼等をして議長及事務總長と聯絡を執り得るやうにすべし。議長の背後には四個乃至五個の席を設く。（但し机は不要）

議長席の直下には演說及投票の爲めのプラットフオームを設く必要ある場合には演說者に近く委員會代表及び通譯着席す。

（總會が各委員會の報告を審議しつゝある場合には委員會代表者にテーブルを供與すべし。尙ほ通譯の數は四五名にしてテーブルを供與すべし。尙通譯の數は四五名にしてテーブルに向つて着席す）プラットフオームは代表者席より容易に達せらるゝやう設備し代表者をして演說又は投票の際二重の階段によつて昇降し得るやうに設備すべし。右のプラットフオームの脚下に拔き書を作る者及び議事を報告する者約十名のテーブル又は机を置く。尙ほ彼等をして議長席の背後を通りて總會會議室の外側の室(48)に容易に出入し得るやうに設備すべし。

Aプラットフオーム(42)——このプラットフオームは代表者席の最高位と同位たらしむべし。プラットフオームは之を三分し(a)議長席に向つて對象の位置にある四部分、その中議長席に最も近き二部分は事務局員の爲めに使用す（各側に五十名）他の二部分は代表者の隨員の席とす（各側に百五十名）總て机を備ふ。(b)議長及び事務總長の友人の爲めに設けられたる二つの圍ひ。(c)外交官席（前記各部分より高處に設け少なくとも二百名を容るゝものとす）。

B新記聞者席(42)上記プラットフオームの上に設け、新聞記者(六〇〇)をして心持よく執筆し且つ會議中容易に室に出入し得る樣設備すべし。(C)公衆席(42)公衆席は約千名を容る。新聞記者席の上に設くべし。公衆をして困難を感ぜずに討議を傾聽し得るやうにすべし。公衆席は廣く便利なる廊下に通ずるものとす。

總會會議室に直接隣接せる附屬室——代表者が自由に且つ靜かに低徊し、且隨員新聞記者等と會談し得る廊下又はロツビー(41)を必要とす。

總會會議室に附屬する他の諸室は次の如し。

廣き議長私室(43)議長席との間を自由に往復し得るものとす。事務總長私室(44)、事務局用の廣き私室(45)、議長及事務總長の隨員の控室數個(46)、演壇の下にて執務する議事報告者及書記の使用する事務所(48)、便所、化粧台、個人用手洗等(47)、以上の他に尙ほ次の各室を設くべし。

地　階

委員會室——各二百平方メートルの廣さを有する長方形の大委員會室二個(50)各室に公衆用ギヤラリーを設け、又代表者用入口以外に公衆用入口を備ふべし。ギヤラリーの座席は少くとも百名(50)分を設くることを要す。

電信室——廊下又はロツビーの端に電信室（49を設くべし）

二　階

理事會——理事會の爲めに使用する部分は湖に面したる側たらざるべからず。次の三室を要す（一）理事會の公開會議用室(51)（この室は長方形とし三方に少くとも百二十名を容るゝ公衆用ギヤラリーを設く）（二）議長室(53)（三）理事會の秘密會用室(52)

委員會室——公衆の席を有する委員會室一個(54)

新聞記者室——新聞記者ギヤラリーに近接して電話室十五を設くべし(55)。その大さはテーブルと電話機とを入るゝ丈けの餘裕あり、且つ通風を充分にして長時間の話にも不快を感ぜしめざることを要す。尙外部との壁は音響を遮るやうに設備すべし。次に電信室(56)、無線電信室(57)廣き執筆室(58)小事務室數個(59)（若し出來得れば二十個、各室の廣さ約二十平方メートル）

三　階

公衆席を有する委員會室三個、若し出來得れば湖に面するを可とす(60 61 62)大事務室(63)小事務室數個(64)

四　階

食堂(65)湖水に面するを要す。總會の事務に從事する人々をして容易に達し得らるやうに設備すべし。食堂には調理室、食器置場、洗面所等(66)の附屬室を設く。

地下室

雜用室——此階には、代表者入口(29)其他の入口(33 34 35)外套預所(31 35 37)及び數多の洗面所便所(34)等の他に公衆控室(32)各種の階段（30 34 36 39）及び昇降機を設くべし。この階は總會中必要なる書類の物置(38)として用ひらるゝ數室を用意すべし。

玄關ホール等——尙附言したき事は各國代表者の入口を入りたる所に大ホールを設くることなり。右ホールに隣接して外套室(31)を設けその他代表者に便利を與ふる設備をなすべし。建物のこの部分に當る所には人及貨物輸送の昇降機を備へ又廣き階段を設くべし。

附屬建物

建物の周圍をあけ、諸車の待ち合せに便する爲めに應募者はA敷地に於てローザンヌ街道に近

き場所に附屬建物を設計すべし。この建物には自動車二十五台、自轉車約百台を容るゝギヤレーヂを設備すべし。

右ギヤレーヂは五十平方メートルの運轉手控室と、監督係りの居所及び自動車約七十五台を容るゝ差し掛け屋根又はギヤラリーを設くべし。この附屬建物は出來得る限り小さくして本建築物及其周圍の風致を害せざるやう設計せらるべし。

建築費

建築費は、建築家への謝禮を含み、絕對に總額千三百萬スキスフランを超ゆべからず。この額は一切の設備（暖房、電燈、湯水、昇降機、通風等）を包含するものとす。

第二部　應募者に配布する書類

應募者に配付する書類

聯盟加入國政府は本說明書を一定數無代價にて受くることを得、夫れ以上の部數を望む者は一部二十スキスフランにてジュネーヴ聯盟事務局に申込むべし。

配布さるゝ書類は次の如し。

一、ジュネーヴ市全圖、聯盟の新所有地の位置を示す。二、一メートルに對し二ミリメートルの割にて作成せる敷地平面圖二A同上附屬圖。三、地質斷面圖及ボーリング詳細圖。四、寫眞十葉。五、所要室表。六、机の配置方法を示すスケツチ。七、價格表を備へたる見積書見本。

入、スキス技術家建築家協會員の使用する建築工事費表。九、聯盟組織說明書。一〇、應募者の提出すべき(a)綱領及び(b)設計圖の發送期日表。注意——新會館の敷地に現存する建物及び不用樹木は取拂はるゝものと認めて設計すべし。

第三部　應募者より提出すべき設計圖面及書類

(a)建物及庭園を含む配置圖——縮尺五百分の一、(b)地階及他の諸階（地下室及ギヤレーヂを含む）の平面圖——縮尺二百分の一、(c)立面圖(三方)縮尺二百分の一、(d)湖に面する立面圖——縮尺百分の一、(e)縱橫四斷面圖——縮尺二百分の一、(f)總會會議室詳細圖、平面圖一、斷面圖二——縮尺五十分の一、(g)透視圖二、中一は鳥瞰圖、(h)應募者に配布したる價格表及見積書見本に基いて作成されたる見積書(i)設計の概要及構造、煖房裝置並に換氣法說明書(タイプライターにて)

國際聯盟に於ては英佛兩公用語を使用する規則なるも、設計の出處を發見し難からしむる爲、應募者は設計圖案に於ては佛語以外の語を使用すべからず。簡單なる說明書きは、應募者の便宜を慮り英佛何れかの語を以つて記載することを得るものとす。英語にて書かれたる簡單なる說明書は聯盟事務局に於て佛譯し之を以て本文に代ふ。右は審査員に提出すべき一切の書類を同一語ならしめんが爲めなり。

注意　圖面はストレツチヤー又は厚いボール紙に糊張りすべし。圖面はインデイアン、インクを以て畫き又はボーシエを施すべし。斷面圖及立面圖は線仕上げ、又は單彩仕上げとす。透視圖の仕上げは應募者の隨意とす。單位は總てメートル法による。

第四部　應募規定

本懸賞募集は一九二七年一月二十五日の期限の下に、當時聯盟の加入國たる國の臣民たる建築家の爲めに實施するものとす。

應募建築家又は建築事務所は一個以上の圖案を提出するを得ず、又募集綱領並規定に於て要求せられざるスケッチ又は圖面を送付することを得ず、圖案が不完全なる場合、又は審査員がその圖案を實施する費用が豫定額を超過すと認むる場合、若くは又仕樣書きの條件に適合せざる場合には不合格とす。

應募者は(a)審査員に提出せるその圖案が自作にして且つ自己の筆又はその直接の監督の下に製圖せられたるものなることを宣言し之に署名すべし。(b)應募者は施工監督の建築士たる資格證明を提出すべし。右(a)の宣言には、應募者の氏名稱號及び住所を明記すべし。本宣言書(b)の證明書を共に一枚の封筒に嚴封し表面には圖案の作者又は合格者の用ふる番號及びDeclaration なる語以外の文字を記載すべからず。上記の符號番號は六桁より八桁までの數字を用ふることを要す。右番號は同時に各圖面の右手下及圖案に添付する見積書及び說明書の右手下に記載すべし。署名又は特殊の記號をなすべからず。見積書及說明書は同一の封筒に容れ、表面に Estimate and Description なる語及符號番號を記載すべし。

この番號は封筒又は圖案に於て長さ四センチメートルに幅一センチメートルにより以上の面積を占むべからず。

圖案及宣言書　證明書見積書並に說明書は總て同一の包裝に容れ荷札には明確に Preliticctural Competition なる文字を記載しジュネーヴ國際聯盟事務總長宛送附すべし。

小包には運送會社名の外原作者の記載をなすべからず。この會社の商標スタンプ又は封緘以外他の識別し得べき記號を附すべからず。小包は應募者に配布したる發送期日表に從つて發送すべし。

聯盟事務局に到着したる圖案には小包の外部に登錄番號を附す。

小包開封の時包裝内の各圖面及紙片に同一の登錄番號を記入す。右番號はゴム糊を刷きたる四方形の紙片に印刷し之を符號番號の上に貼付す。國際聯盟の使用人、正副審査員の協働會又は使用人は應募することを得ず。之等の人々は應募者に援助を與ふることを得ず。

尙ほ次の圖案は受理せず。

(a)期日表に定められたる期日に到着せざる場合。(b)應募者を鑑別し得る如き姓名、記號若くは直接間接に出所を指示する記載をなせる圖案又は小包又は封筒を送付したる場合。(c)圖案を額緣に入れ又は硝子張りとしたる場合、次の圖案は應募資格なきものとす。

(a)添付の宣言書に誤りある場合、(b)應募者がその本人なることを明にし又は直接間接に審査員の決定を牽制せんと努めたる場合。

本懸賞が國際的なる性質を有すること、應募者の質問に答ふる時日なきこととの爲め本綱領及規定に含まるるもの以外書類又は說明を與ふることの難し。應募者は本綱領及規定の條件を承諾したるものと認めらる。本綱領及規定に關する事項について應募者と交涉をなす任は聯盟を代表して聯盟事務總長之に當る。

第五節　賞金、選外賞、設計圖案の審査

審査員の審査の結果最優等と認めたる圖案に對し、十六萬五千スキスフランの賞金を呈す、賞金及び選外賞は次の如し。

一等賞……三〇・〇〇〇スキスフラン、二等賞……A二五・〇〇〇同、二等賞B……二五・〇〇〇同、三等賞……二〇・〇〇〇同、四等及五等賞(各)一五・〇〇〇同、六等及七等賞(各)五・〇〇〇同

尙ほ審査員は當選外の作品にして優秀なるものに對し各二・五〇〇スキスフランを超えざる範圍内に於て、選外報酬を與ふることを得。その總額は二五・〇〇〇スキスフランとす。

右懸賞當選等級の何れかに該當するものなき時は當外賞金は更に選外賞の形に於て分配せらるべし。一等二等及三等に當選したる圖案の圖面見積書及說明書は國際聯盟の所有に歸するものとす。聯盟は當選賞及選外賞を得たる圖案を發表するの權利を保留す。

案の實施、その展覽

設計圖案の實施——聯盟は當選の主席を占め聯盟によつて受理せられたる圖案の原作者に對しその圖案に變更を加ふべきことを要求し得。

聯盟が右圖案を實施せず、又はその實施の細目案の作成せらるゝ前に原作者との交涉繼續を中止する事を決定したる場合には、右原作者は賠

賞金として五〇•〇〇〇スキスフランを受くべし。

報酬――建物を建築する爲めに選ばれたる建築家に支拂はるべき報酬は、建築物及右建築物に設計を要求せらるゝことあるべき家具の總費用の百分の五とす。右報酬は應募者に配布したる瑞西技術家建築家協會の工事費表に定むる所に從ひ建築家によつて施工せらるゝ一切の工事を包含す。

圖案の展覽――當選賞及選外賞の授與せられたる後一切の應募圖案を二週間以上公衆の展覽に供す。當選者の氏名は當外圖案に記載せらる。選外佳作を得たる應募者の氏名はその請求あるに非れば公表せず。展覽終りたる時は賞金を得ざる圖案に添付されたる嚴封の封筒は事務總長の代理者の手に秘密裡に開封せらる。

上記の展覽によつて多少遲延することありと雖も一、二、三等賞以外の圖案は總て展覽の終りたる後聯盟の費用を以て原作者に返還せらるべし。

第六節　審査員の構成及その義務

審査員は左の九名とす。

M. H. P. Borlago（ベーグ）、Sir j burnef（ロンドン）、M. Charles Gato（コドリッド）、Mr. joseph Hoffmann（ウキーン）、M. Victor Horta（ブラツセル委員長）、M. Charles Lemarespuier（パリ）、M. Karl Moser（チューリツヒ）、M. Attilio Muggiu（ボロニア）、M. Lvar Tenglom（ストツクホルム）

審査員審議に參與し得ざる事情ある時は同國籍の補缺審査員をして之に代らしむ。

補缺審査員は左の如し。

M. W. Kromhant（レンリム•アロンハイム）

M. H. S. Goodhart-Rendel（ロンドン）、M. Pascual Beavo（マドリッド）、M. Eugene Stehinhof（ウキーン）、M. Franz de Vestel（ブラツセル）、M. Gabriel Herand（パリ）、M. Camille Martin（シュネーヴ）、M. G. B. Milani（ローマ）、M. Erik Lallenstedt（ストツクホルム）

審査員の事務の實行は聯盟事務總長之を準備す即ち事務總長はこの目的の爲め聯盟事務局職員を審査員に貸與するものとす。

審査員の義務は次の如し。

(a)募集綱領を起案すること。(b)圖案を審査し所定の條件に最も適し且つ美術的及實用的見地より最も滿足すべきものと認むる圖案を選擇すること。(c)賞金及選外賞金の振當をなすこと。(d)應募の結果に基き實施すべき圖案を決定すること。(e)事務總長より聯盟各國政府に送附すべき報告を作成すること。(f)應募者の氏名が外部に洩れざる方法を講ずること。

倘ほ審査員は小委員會を設けて應募締切後小包の開封に當らしむる小包開封後小委員會は見積書及說明書を容れたる封筒を開封し各委員はその中の總ての紙片に頭文字を附す。小委員會は最後の賞金が支拂はるるまで原作者の氏名を容れたる封筒を封緘のまゝ保存し、又圖案が鍵にて閉鎖さるゝ室に運び込まるるまで親しく監視の任に當る。右室内には審査員に關係ある者及事務總長によつて審査員に貸與せられたる事務局職員の外は出入するを得ず。

審査員は自由にその日程を準備し又事業の滿足なる遂行に必要なりと思考する一切の處置をなす權利を有す。

審査員の決定は最終的とす。

一九二六年四月七日　ジュネーヴに於て

各建築物工事概要

假議院建築工事概要

建物坪數　一階　三千三百五十四坪餘、二階二千九百五十坪五合餘、合計六千三百四坪五合餘、外に殘存建物を修理使用せるもの八百八十三坪三合餘を加へ總延坪七千百八十七坪九合餘間取　舊建物の基礎を成るべく利用するの目的を以て從來の間取に據りしも出來得る限り簡單にして便利なる樣改善を加へたり。階數及高さ階數は從前の通り二層とせるも其の軒高さは建築法規の關係上一般に之を低くめ議場を除くの外は總て三十尺以下とせり。構造の大要　急速を要する假建築なるを以て骨組は木造とし外壁は防濕紙を下張とせる鐵網「モルタル」塗とし帶黃色洗出し及び粗面塗仕上を施し屋根は鐵錆色石綿「スレート」葺とす。屋内壁面及天井は火氣を扱ふ場所は金剛板其の他は石膏製「ボート」張とし主要なる室は壁紙張、便殿及玉座は裂地壁代其の他は「エバー」及「ペンキ」塗とす。議場は特に上張を「カンバス」張「エバー」塗とせり。建物を五區劃に分ち十個所の防火壁を設け其の通路には自動捲上げ防火扉を付せり。議場　議場は席數增加の關係上貴衆兩院共に後方に擴張し建築中の本議院と同樣なる階段造り通路は緩勾配の斜面とし天井は「キャラコ」張床は茶褐色大和織を敷込み議席裂地には濃緑色を採擇せり、議場上部は採光の爲め特に鐵網入硝子屋根とせり。議場大さ　貴族院　玉座五坪百六十四坪餘（七十尺、八十三尺二寸）衆議院　百五十九坪餘（七十尺、八十三尺二寸）

議席　貴族院　四百十八席、衆議院　四百六十四席、新聞記者席　貴族院　七十九席、衆議院　九十席、傍聽席　貴族院　九十二坪六、衆議院　九十二坪六。敷物窓掛　議場敷物は大和織主要なる室は絨緞敷とし其の他は總て「リノリウム」敷とす、中央部及議場周圍廊下通路は「マット」敷込とし窓には日除を付し主要なる室には窓掛を設備す。諸設備　煖房は熱空氣式及直接蒸氣煖房法を併用し、且議場には機械的排氣法を講ぜり、其の外電燈、電話、電鈴、避雷針、火災報知器、電氣時計、登退廳表示器電熱器、給水給湯、排水、消火栓等の設備を施行す。外觀　急速を要するものなるを以て成るべく單純なる近世式を採擇せり。施工　極めて急速に建築すべきものなるを以て全部を第一區乃至第五區の五部分に區分し、左の請負者に分割請負はしめたり。第一區、中央部、合資會社清水組、第二區、貴族院議場部、株式會社大林組、第三區、衆議院議場部、大倉土木株式會社第四區、貴族院後部、株式會社安藤組、第五區衆議院後部、株式會社松村組、附屬家新築及修繕工事　諸設備工事並家具裝飾工事請負者左の如し。燒失跡片付工事（九月二十二日着手二十八日終了）株式會社安藤組、附屬家新築及修繕工事及假事務所新築工事、合名會社竹中工務店煖房換氣工事　内田商事株式會社、株式會社前田鐵工所、合資會社東亞鐵工所、合資會社大阪電氣商會、大阪煖房商會、高砂煖房工事株式會社、新潟鐵工所。電鈴工事　東京電鈴株式會社東京電氣株式會社、增山爲太郎、株式會社北川電氣企業社。電鈴工事　株式會社電友社。電氣時計工事　株式會社阿部式電氣時計製作所。電話工事　沖電氣株式會社、日本電氣株式會社。電動機工事　明治電氣株式會社、日立製作所。信號ランプ（議場）　沖電氣株式會社。火災報知機工事　東京報知機株式會社。リノリウム敷工事　東洋リノリウム株式會社。便殿及玉座裝飾貴族院議場敷物窓掛　株式會社高島屋呉服店。貴族院各室敷物窓掛　須賀隆。衆議院議場敷物窓掛　富澤半四郎。同各室敷物窓掛　株式會社三越呉服店。議場内造付家具　旭家具株式會社宮澤節一。帽子掛傘立工事　鳥羽重男。議場内外交官傍聽席椅子　合資會社壽商店。防火設備須賀藤五郎。瓦斯設備工事　東京瓦斯株式會社水道工事　東京市水道局。樹木植付工事　是立保。設計事務　大正十四年九月十八日設計に着手し同月二十六日出來書夜設計に從事せる延人員約五百人にして工事着手後實大圖等の作製に從事せる延人員約六百人を要したり。工期及職工者　大正十四年九月二十九日起工、同十月二十一日上棟式を行ひ本館建物は十二月五日竣工殘工事は大部分十二月二十日竣成す。十二月三日迄の從事職工數次の如し。

建築工事　一二〇、〇六二人。煖房換氣工事三、三三四八。電氣工事、二、八六三八。經費工事費大約左の如し。建築工事　八二七、四九

四圓餘、家具裝飾工事　二四七、三二八圓餘、諸設備工事　三一五、二六一圓餘、修繕其他工事　四一、六六七圓餘、燒跡片付　一〇、四二二圓餘、雜工事及雜費　四九、七二一圓餘、合計　一、四九一、八八三圓餘。備考　官有木材鐵材の代價、殘工事費及事務費等未清算に屬するものは右の經費額中に計上せず。

明德館新築工事概要

本建物は海拔一四七米二、布引圓山（砂山とも稱す）の山頂にあり、神戸川崎男爵家の建設にかゝり、六英堂と隣接して扇港を一眸に見るの勝地にあり、建築概要左の如し。圓山敷地面積一、三〇〇坪、建築坪數　一階　一〇〇坪、內譯　聽衆席　七二、五〇坪、演臺　一〇、一二坪餘、控室　五、六八坪餘、控室　四、九三坪餘、豫備室　一、五〇坪、豫備室　一、五〇坪　廊下　三、七五坪、地中室　三一、六二坪、內譯　豫備室　二、二五坪、廊下　三、〇〇坪便所　手洗場　二、二五坪、同　七、〇〇坪、同　七、〇〇坪、物置　一〇、一二坪、建築樣式　東洋式、建築工程　自大正十三年九月至大正十四年八月、建築場高さ　棟高　三六、四尺　軒高　一九、九尺、天井高（聽衆室）一九、〇尺、構造　木造平家建、屋根銅板葺、一部地中室を有し外廻り、下家は煉瓦壁人造石塗、床はセメントアスファルトブロックを敷込む、他は防水層の上豆砂利撒きとす。建具、外部窓、出入口枠、扉はトラスコン、スチールドーア及スチールサッシを使用し、ベンキ塗仕上之れに日米硝子會社製二四オンス及一部網入硝子を嵌込む內部窓、出入口腰唐戸大部分米檜材を使用しスティン、ラック仕上、之れに日米硝子並一分を嵌込む。壁體外部防水劑入、日の出砂モルタル塗仕上とす。內部昇降口腰壁、柱腰一般及階段手摺腰壁萬成擬石研出し、廊下及各室腰羽目及出入口枠材はタンギール、スティン、ラック仕上、廻緣迄着色、天井一般白色漆喰塗仕上とす。但し唱歌室及屋內體操場腰羽目以上天井一式コルク粒塗仕上。床　昇降口着色セメント、ブロック敷、各室及廊下檜板張、其他防水モルタル塗仕上とす但し裁縫室杉板張コルク、糸立敷とす。舖裝屋外運動場タークレー舖裝とす。附屬設備概要電氣　電燈數一七〇箇所二〇キロワット、電力は六馬力を設備す、配線方法は露出工事、特に白色塗料を施したる第四種絶緣線を特殊クリートにて支持し、一部「コンヂツト、チューブ」及「サービスカツプ」を用ひたり、屋上電燈配線は「ケーブル線」を以て混凝土內に埋設す、電力供給者は東京市電氣局にして電燈百ボルト電動力二百ボルトにて引込みたり、主要分電盤に積算電力計を設備す、スキツチは東京電氣會社製、コンセントは米國ブライアンド會社製、照明器具は特に製作す、理科室發電機一馬力三相「アウトブツト」直流一〇ボルト五〇「アンペーア」變壓器交流一次電壓二〇〇ボルト、二次電壓「一〇〇—五〇—三〇—二〇—一〇—八—四—二」ボルトとす。蓄電池容量、六ボルト「一二〇」アンペーア。直流及交流は切換開閉器を以て自由に各實驗臺に送電す、配線は全部穩蔽工事とし、手工室動力一馬力とす。電話—外線一箇所室內電話六箇所にして、交換臺を小使室に設く。電氣時鐘——內庭に一箇電鈴十六箇所を設く。小便器は特製竪形式大便器は城口式とす、汚水淨化槽は城口式にして、分離槽共二、一〇一立方尺、總ての汚水を處理す、各便所に徑三吋半の排氣管を設く、尙各階共通のダストシユート二箇所を設けたり。瓦斯　理科、手工衛生、小使、裁縫、各室に實驗用熱用として設く。工事請負者、本工事　清水組、煖房工事　日本煖房商會、電氣工事　旭組電氣商會、衛生工事　城口研究所、瓦斯工事　東京瓦斯會社、設計監督　東京市建築局學校建築課。

株式會社森村銀行本店改築工事概要

本建物は大正十二年九月の大震火災に際して、火災の爲め被害を蒙りたる舊建物を改築せるものにして、基礎及鐵骨の大部分は在來のものを使用し、後方の部分の階數を減し、四階建となし强度計算に關しては專ら工學博士內藤多仲氏を勞し、現行市街地建築物法に則り設計せり、高さ及階數本館は軒高六十六尺地階付五階建後方の部分は地階付四階及平家建とす。坪數　總延坪　六百五十四坪九合七勺、內譯　地階　一四二、坪八九、　一階　一五一、七五、二階　七七、三四、三階　一一八、九八、四階　一一八、九八、五階　四五、〇三、各階に左の室を配置す。地階　上食堂、行員食堂、小使室、湯沸場

演臺木造を除く外「コンクリート」モルタル塗聽衆室天井及壁は「エンソー」と稱する紙張とし、其他は羽目張及白漆喰塗、設備　便所は洗滌式とし給水は布引雄瀧より導き煖房燈火、湯沸等は電力により活動寫眞設備を爲し置く。收容人員　三〇〇人、設計及監督者　森本長太郎工事請負者　合資會社竹中工務店。

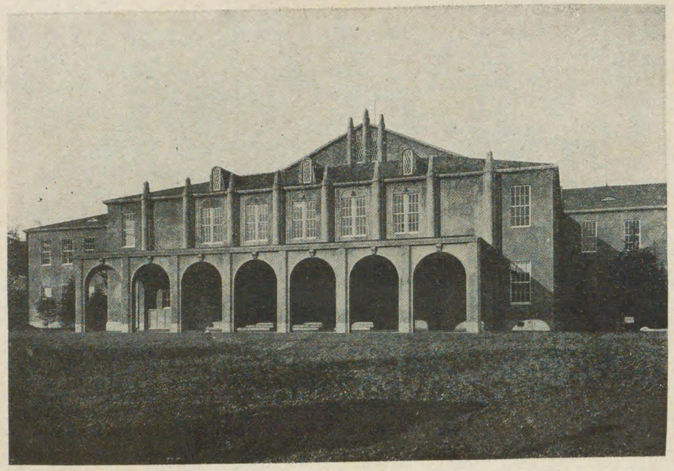
東京市療養所增築工事概要

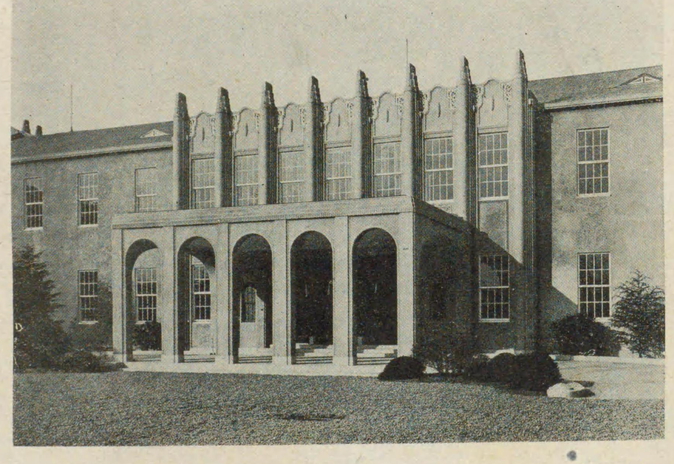
本工事は病床三百五十を容る丶病舍と、患者慰安室とを主體として、此等相互と舊病舍とを連絡する渡廊下及機關室と此等の附帶設備を含むものなり。所在　東京府豐多摩郡野方町字江古田、起工　大正十四年一月六日、竣工　大正十五年三月三十一日、建坪及延坪　病舍（三棟）、（建）八七六、三九、（延）二四五〇、二二、渡廊下一三五、七五、慰安室　建　二三一、五〇、（延）二六八、七五、機關室　一一九　八〇、構造　鐵筋コンクリート造、外部仕上　モルタル塗、腰人造石洗出。內部仕上　天井、壁、漆喰塗、大連ドロマイド塗、腰ペンキ塗。床　リノリユーム敷、タイル張、モルタル塗、コルク敷薄緣敷等。工費　建築費　七十一萬二千七百二十八圓餘、附帶設備費　十七萬三千圓、設計監督　東京市建築局營繕課、施工　松村組。

東京市立錦華尋常小學校復興建築工事概要

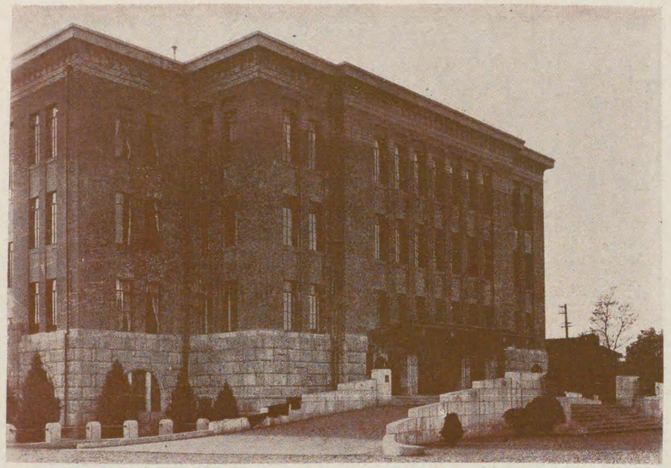
位置　東京市神田區猿樂町一丁目六番地、敷地面積　一、四六三坪一三、建坪　四九五坪一〇　延坪　一、二九七坪六九八、地階　五六坪四八　一階　四九五坪一〇、二階　三六四坪七一、三階　三六四坪七一、屋上　一六六九八、建築高さ　本館は地盤面より屋上パラペツト上端迄、一三米三〇、屋內體操場は地盤面より軒上端迄、六米九四、建築深さ　地盤面より地階基礎下端迄、四米一一、工事行程　起工　大正十四年八月五日、地鎭祭　同八月二十一日、上棟式　大正十五年二月十一日、竣工　同五月三十一日、期間　三〇〇日間、使用延人員　三〇、九五三人、本工事　二八、七一二人、暖房工事　七九三人、給水衛生工事　九八九人、電氣工事　四〇一人、瓦斯工事　五八人、構造及仕上梗概、基礎　地質は軟質粘土層にして、地耐力平均七五噸なり。栗石二七糎、捨混凝土七糎上、七七糎の總スラブを作る。地階防水層の上押混凝土を平均二七糎とす。軸部、校舍主體、柱、梁床版及壁體（一部間仕切壁を除く）全部鐵筋混凝土造とす、屋內體操上、柱梁は鐵骨造、壁體及屋根は鐵筋混凝土造とす。屋上　運動場スラブ防水層の上にシンダー、コンクリート打ち、ロ

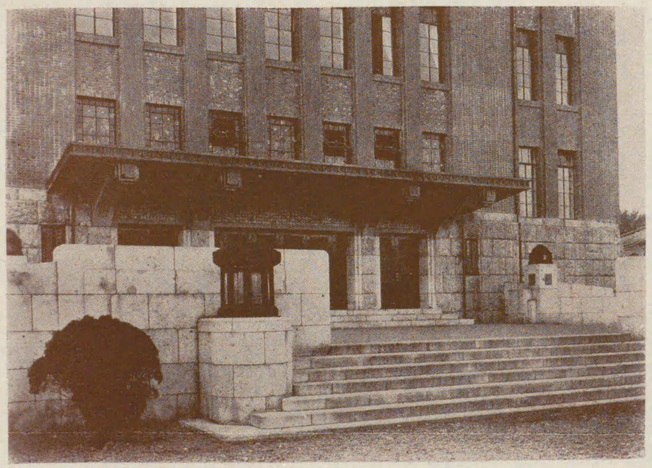
更衣室、洗面所、倉庫、煖房機罐室、石炭庫、ポンプ室、蓄電池室、汚水淨化槽。一階　金庫文庫、寶庫、營業室、公衆室、重役室、支配人室、表應接室、奥應接室、洗面所、便所、浴室二階　書庫、宿直室、應接室、倉庫、洗面所、便所。三階　頭取室、大會議室、小會議室、事務室、應接室(三)、電話交換室、洗面所、便所四階　事務室(四)、應接室(二)、倉庫(二)、洗面所、便所。五階　娯樂室、昇降機々械室、水槽室、換氣室。工事日數　大正十三年十二月廿五日起工、大正十五年八月三十一日竣工。構造概要　本館は總て鐵骨鐵筋「コンクリート」構造、後方平家建の部分は鐵筋「コンクリート」構造とす。外部　本建築の外部は日本趣味を加味したる新樣式により設計され、主なる部分の壁面は花崗石を水磨きとして貼付け、各窓廻り造作は鐵板下地の上に銅板張りとし之れに電鑄彫刻及「ブロンズ」製鑄物彫刻を取り付け柱頭並に長押角金物は電鑄彫刻を使用し總て眞鍮古び色付けとし以て市街地建築物表面裝飾としての一異彩を放たしむ、其他の壁面は擬石洗出し仕上とす。各窓及出入口は和製鋼鐵製建具及「シャツター」或は鐵扉を設備す。猶支配人室窓は更に英國「チャツプ」金庫製造會社製「ステロリリートドアー」を設置す、正面鐵扉は鐵柵と共に罹災前唯一の記念品にして舊建物に使用されしものを「メタリコン」仕上として使用す。內部　營業室及公衆室は天井を「プラスター」塗及石膏仕上とし壁面に伊國產大理石を貼付け、床を營業室の部分は英國製「コルクリノリユーム」敷き、公衆室の部分は米國製「モザイツクタイル」敷きとす。支配人室は腰羽目に伊國產大理石を使用し其他は營業室に準ず、營業室、重役室、支配人室及階段室廻りの扉は總て和製「スチールドアー」を使用し、更に支配人室及奥應接室と他の室との出入口には鋼鐵製「シャツター」或は鐵扉を設備す。三階各室は天井を「プラスター」塗仕上とし、壁面を壁紙張りとし床を英國製「コルクリノリユーム」敷きとす。其他の各室は天井壁面を「プラスター」塗とし床を娯樂室の部分は「インシユライト」マスチツリフロアリング」とし、其他の部分は「マルソイド」下地の上和製「リノリユーム」を駒倉式に依り「アスフアルト」を以て敷き均す。地階各室腰羽目洗面所便所其他の腰羽目及床面には伊奈製陶株式會社製「タイル」及「モザイツクタイル」を使用す。各要部　金庫文庫、寶庫、扉及內部設備は總て英國「シャツブ」金庫製會社製とす。勘定臺甲板及腰羽目は花崗石水磨きとし、同所甲板上窓の部分は總て眞鍮製銀色鑛金とし硝子は「ベルキー」製十粍厚面取とす。玄關風除け仕切り及表應接室仕切りは鐵製とし硝子は「ベルキー」製十粍厚面取とす。昇降機は米國「オチスエレベーター」會社製全自働式とす。消火設備　各階に消火栓函一箇宛を設け各函內の「スキツチ」に依り地階消火用水井戸に連結せる消火栓「ポンプ」を自動的に起動せしめ尙「ガソリン」機關を併置し停電の時豫備に備ふ、更に消防署自働車「ポンプ」より建物正面に設置せる「サイヤーミーズコンネクシヨン」を通じ館內消火栓に送水し得るの設備をなせり。煖房設備　重力循還式溫水煖房裝置にして溫水罐は米國「ウイリアムエツチベージボイラー」會社製とす。換氣設備　營業室、上食堂、食堂及湯沸場には排氣孔を設け電動排氣裝置に依り換氣をなさしむ。電燈設備　電線は「シエラーダリー・コンヂツトチユーヴ」內に挿入隱蔽式配線とす。各階に配電盤を置き各室其他必要に應じ手元「スキツチ」を置き點滅に便ならしむ。營業室は廻廊及獨立柱より間接照明をなし、別に各机上には「スタンド」を勘定臺甲板上窓の部分には照明設備をなす。其他の各室は半間接照明を採用す。豫備燈設備　營業室地階要所及裏階段室には豫備燈設備をなし、五十「ヴルト、七十アンペアー」蓄電池により主電燈の停電せし場合には自動的に切替へ點火せしめ得るの設備をなす。電話設備　獨國「シーメンス」會社製五十廻線用自動交換機及



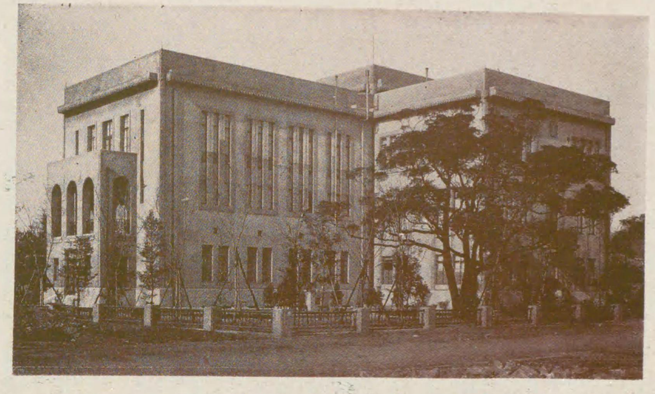


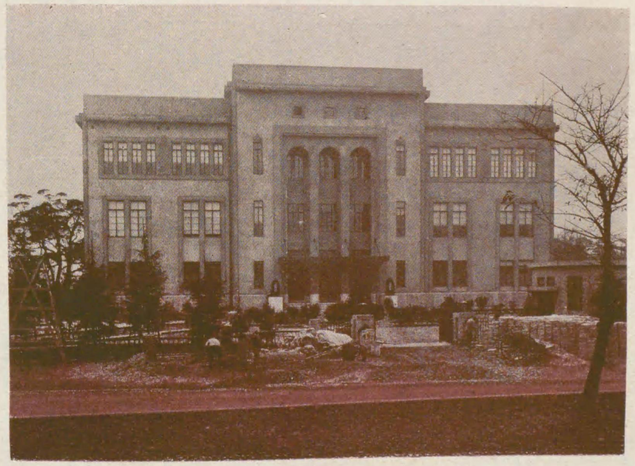
大藏省管財局營繕課　設計施工　帝國議會假議事堂（衆議院）（貴族院）



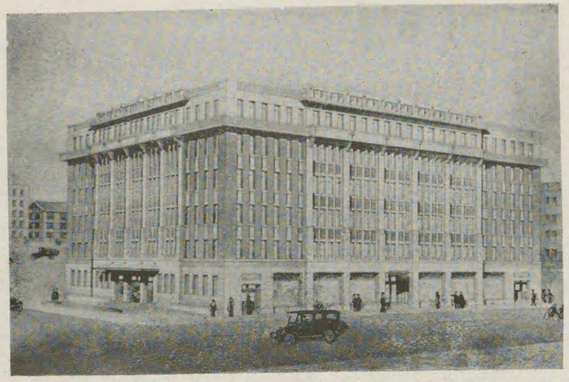


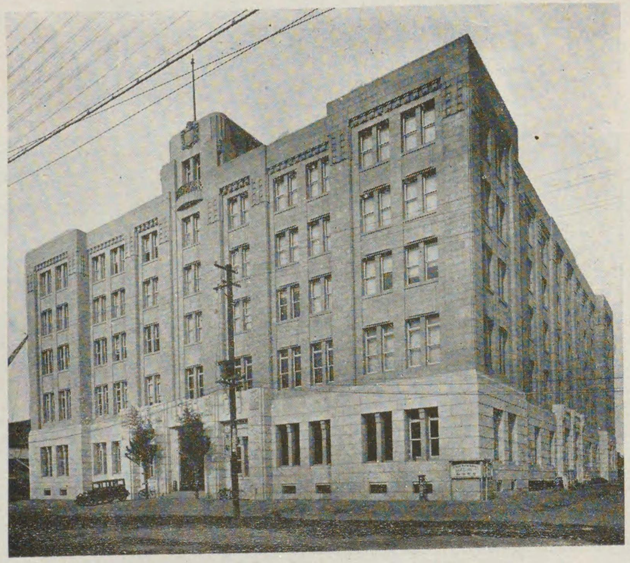
日本青年館　　設計　工學士　木村榮二郎氏　工務部長　小林政一氏
顧問工博　佐野利器氏



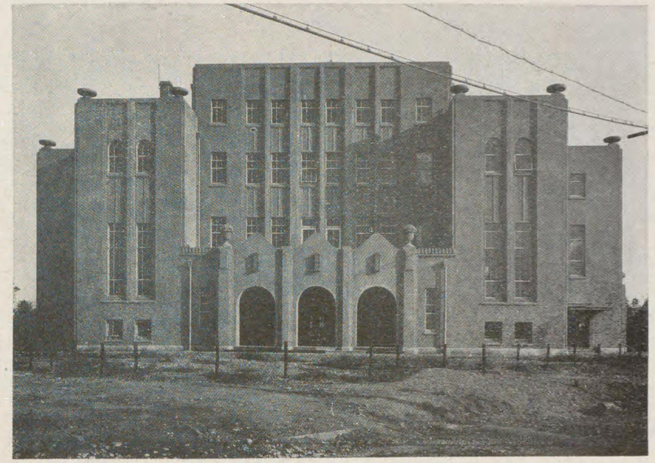


帝國學士院　　設計　大藏省營繕課

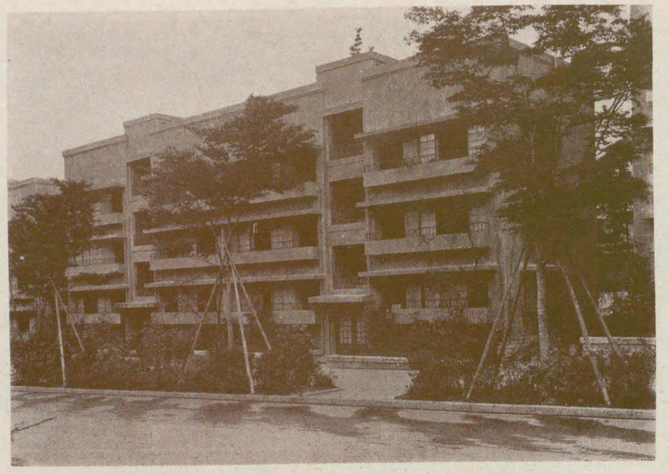


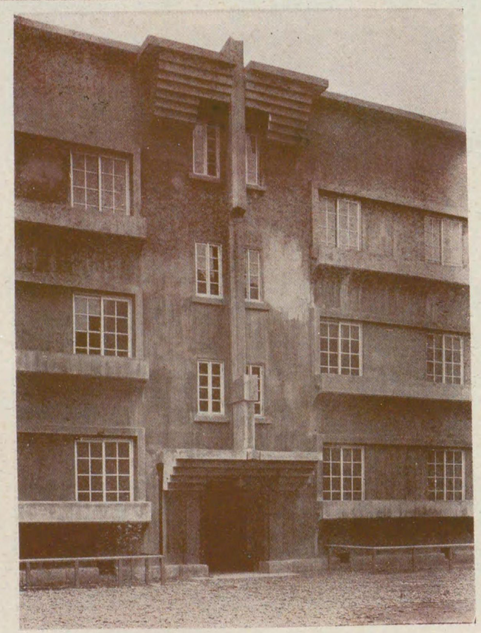


京都ビルデイング配景圖　　設計監督　　小川陽吉氏
東洋拓殖ビルデイング　　設計監督　工學士　木子七郎氏

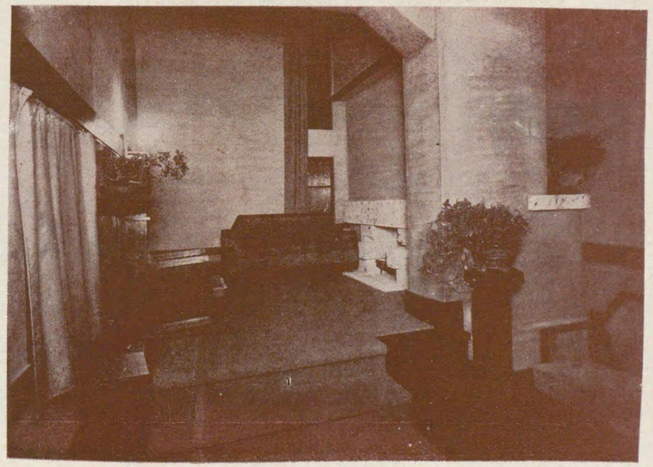


本所公會堂　　設計　　工學士　森山松之助建築事務所

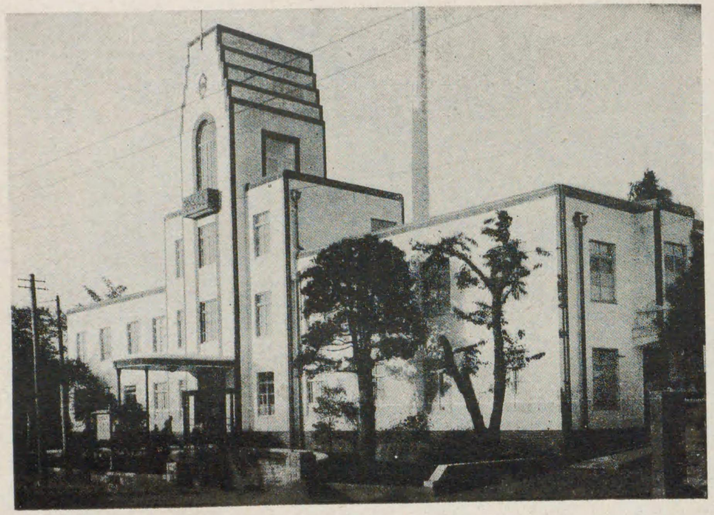




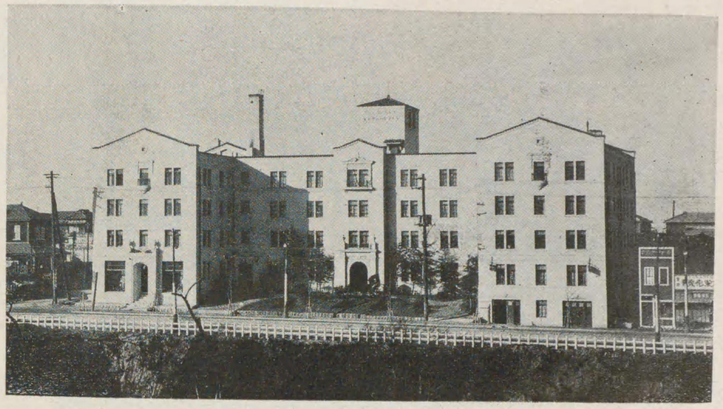
青山アパートメント　設計監督　同潤會建築課
東京市營アパートメント　設　計　東京市營繕課

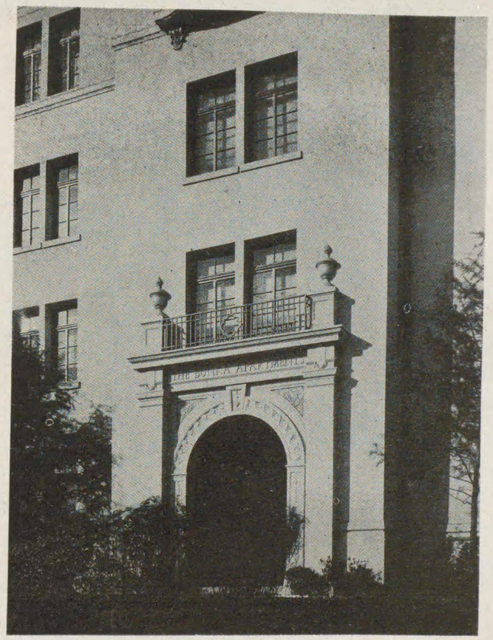


帝大キリスト教青年會館　設計　工學士　遠藤新建築創作所



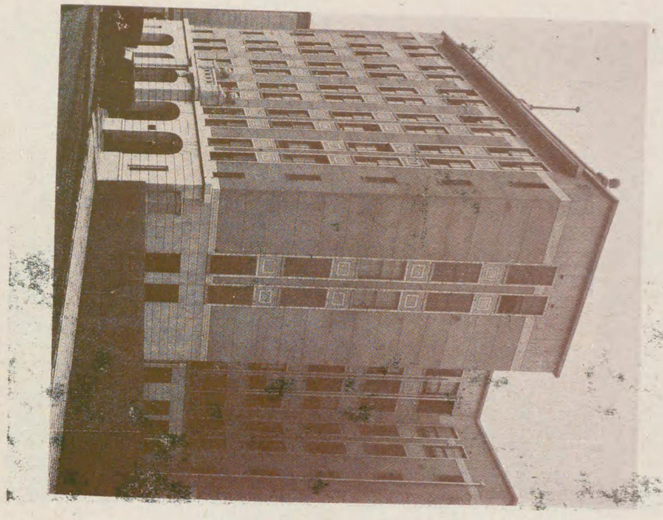
九段病院　設計　工學士　岡田信一郎氏
國民新聞社　設計　工學士　岡田信一郎氏



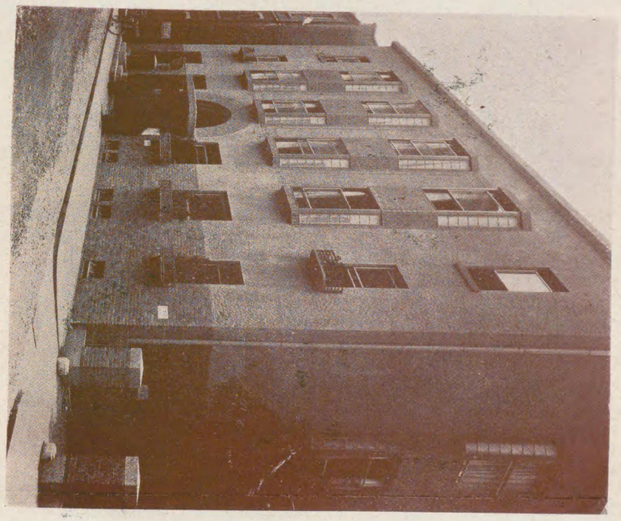


文化アパートメント　設計　ヴオーリズ建築事務所

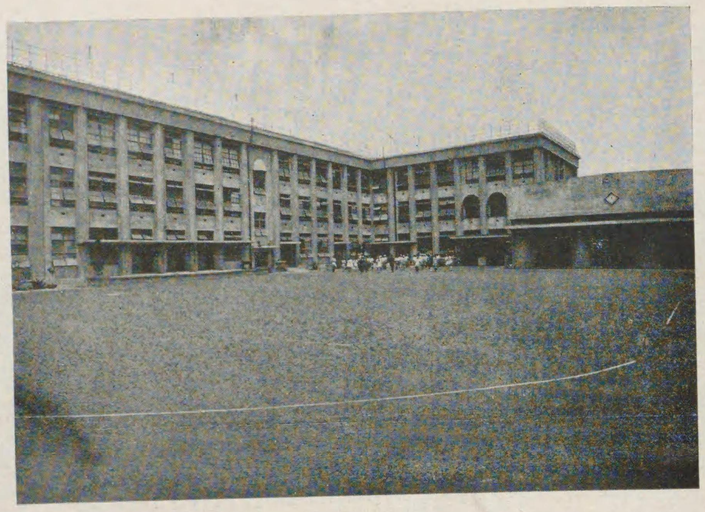
早川邸　設計　清水組



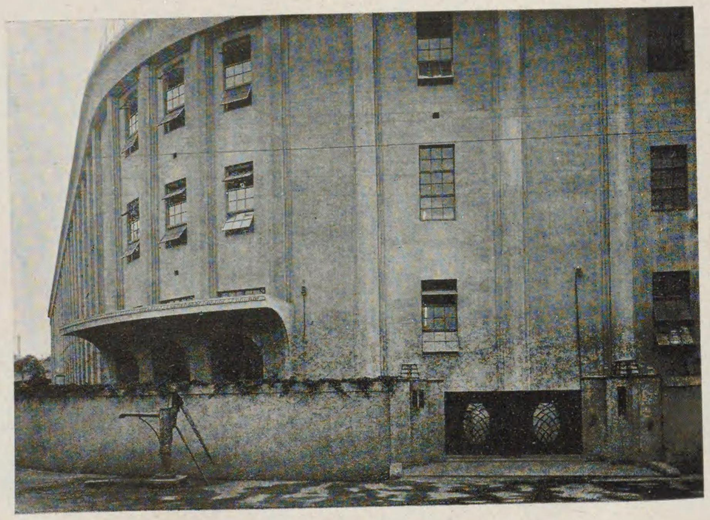
三菱仲十八號館　設計　三菱地所部



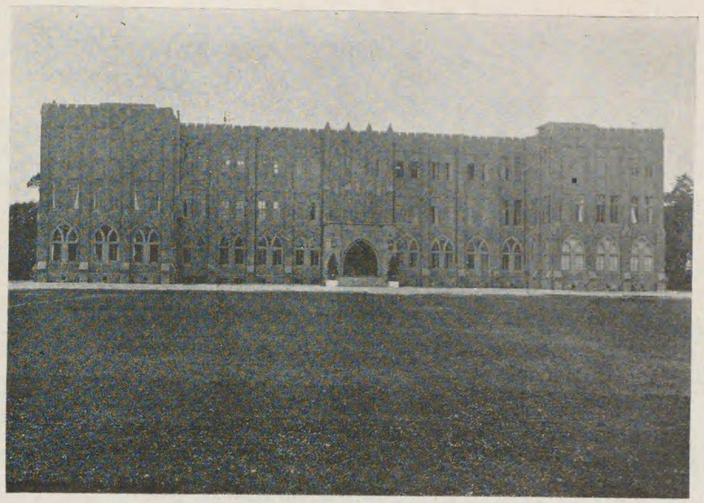
三菱仲八號館寄宿舍食堂　設計　三菱地所部



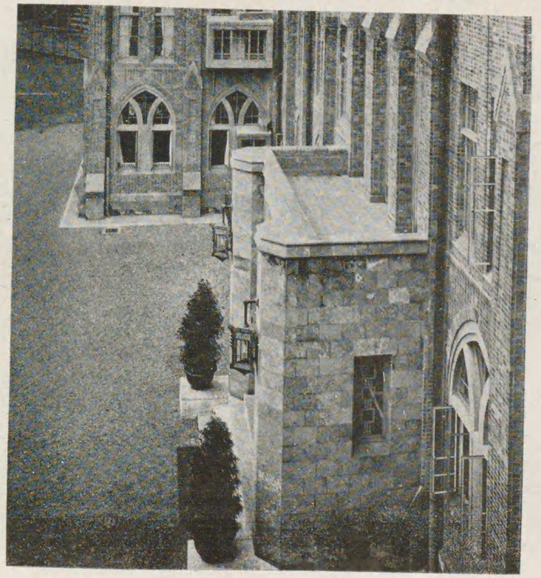
東京市立神田錦華小學校　設計監督



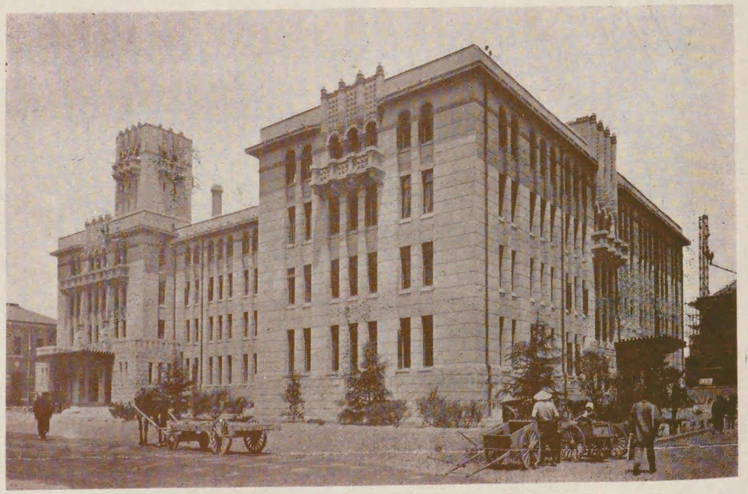
東京市營繕課學校建設係



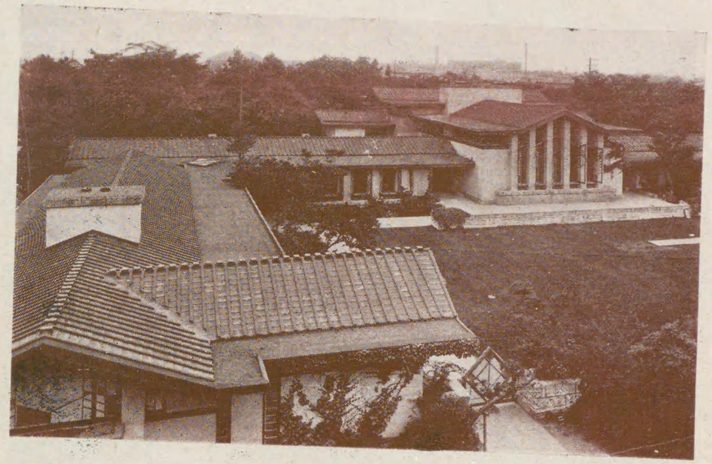
學習院特別教室校舍　設計監督

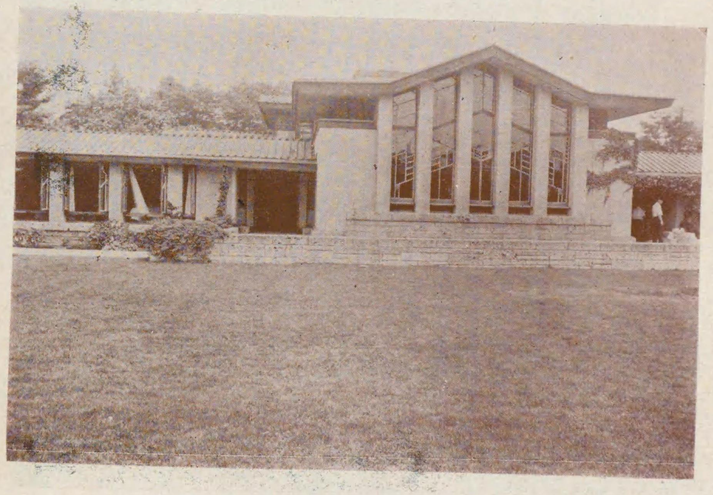


宮內省內匠寮建築課

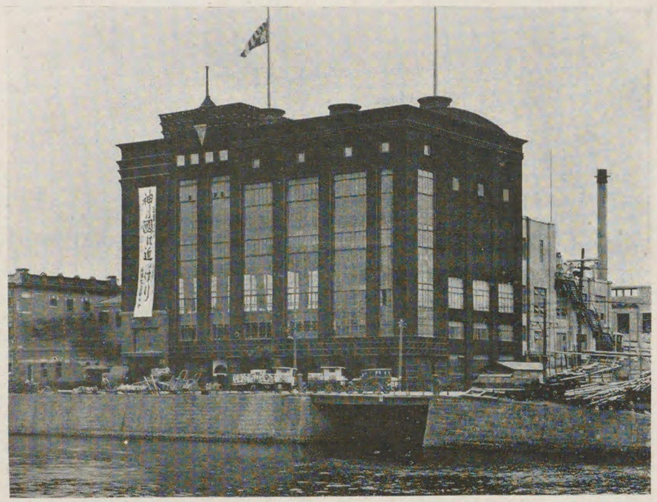


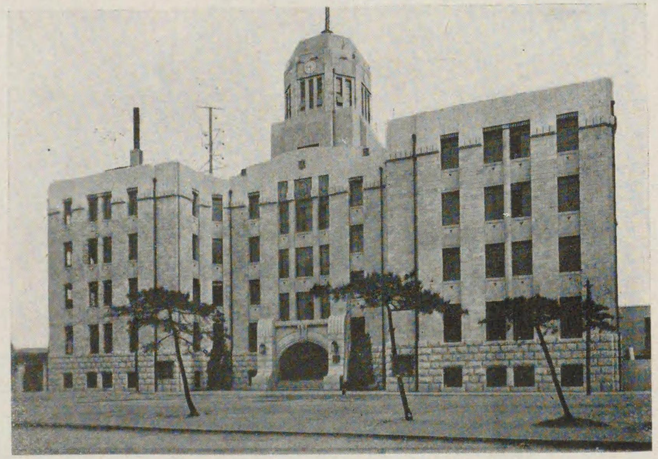
氏 薫本 岡
氏 吾金 林平
課 繕 營
課 築建府 大阪府
府 都 京
計 設
計 設
舍 廳 府 阪
舍 廳 府 都 京



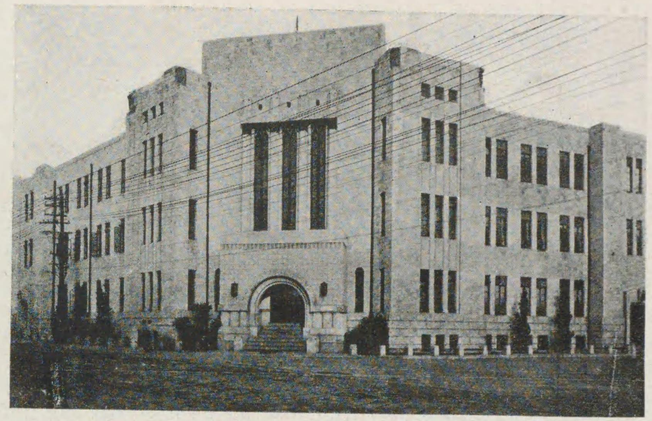


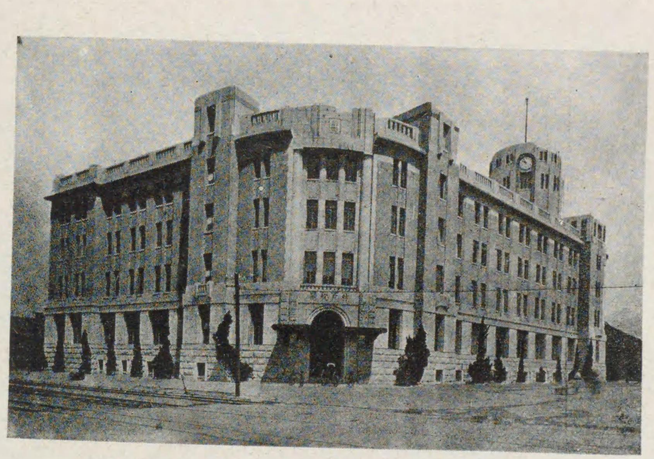
氏 トイラドイロクンラフ
氏 新 藤 遠 士學工
督監計設 園 學 由 自





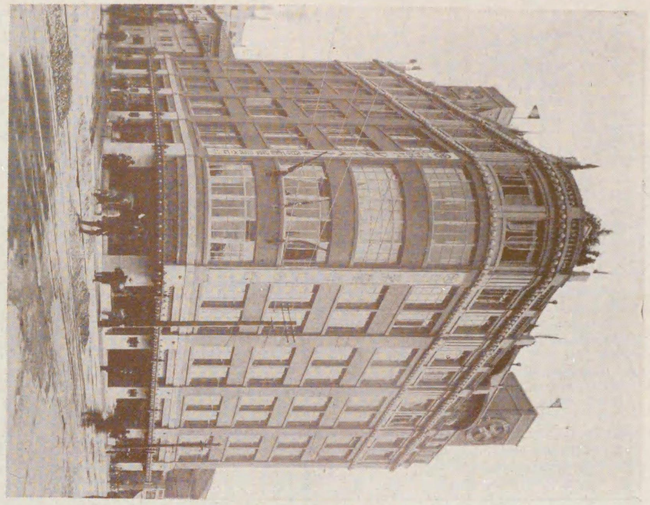
大阪朝日會館　設計　竹中工務店設計部
神戸港灣事務所集會場　設計　兵庫縣營繕課





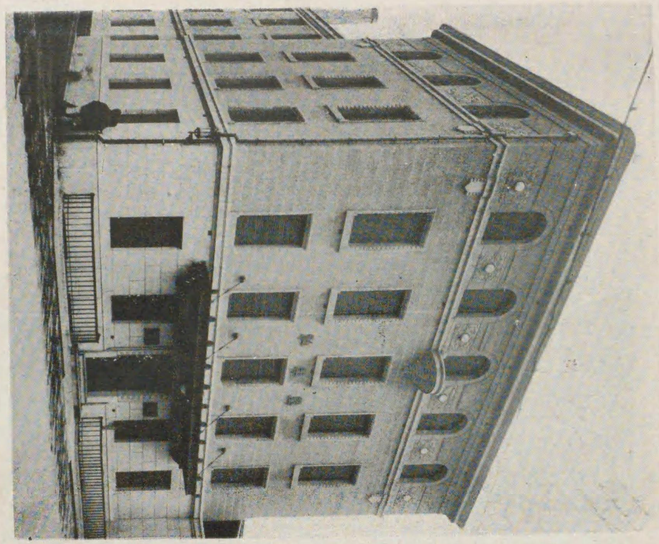
神戸三ノ宮警察署　設計　兵庫縣營繕課
神戸稅關　設計　大藏省管財局神戸支局

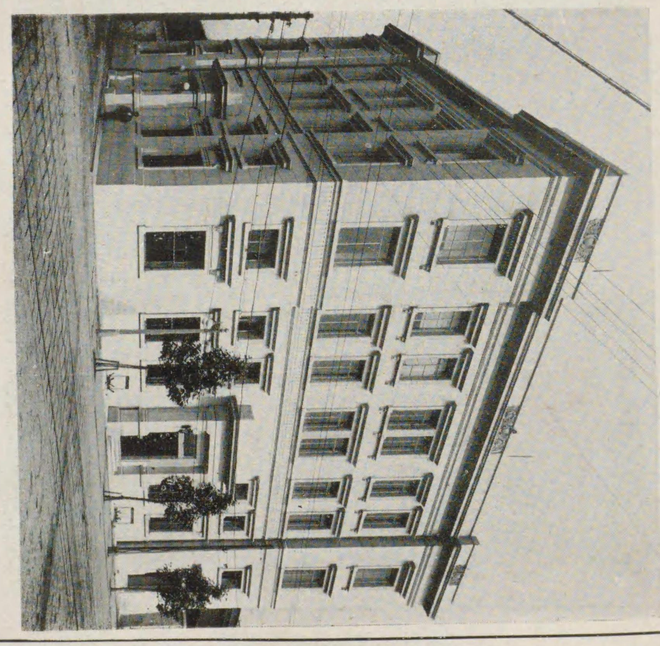
大阪ビルデイング　設計　渡邊節建築事務所
新京阪電車會社本舘　設計　渡邊節建築事務所



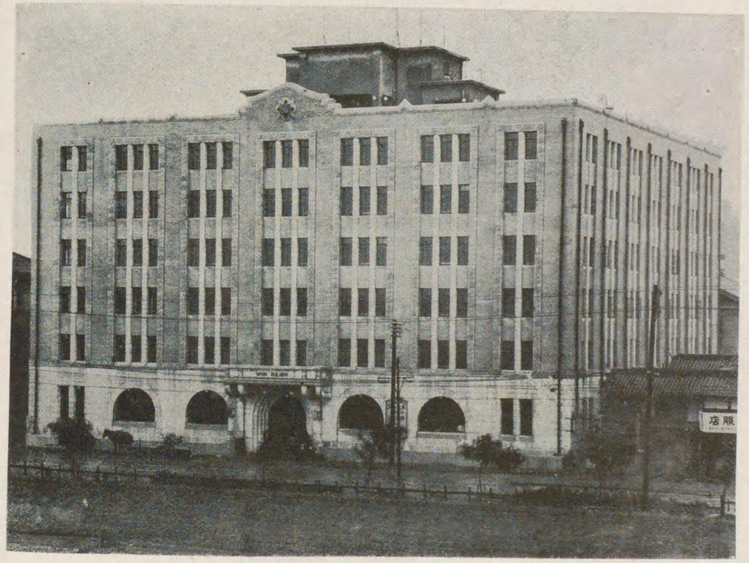
神戸大丸呉服店支店　設計　ゲオーリス建築事務所
三ノ宮郵便局　設計　逓信省営繕課

萬年耐水粧　設計　宗建築事務所

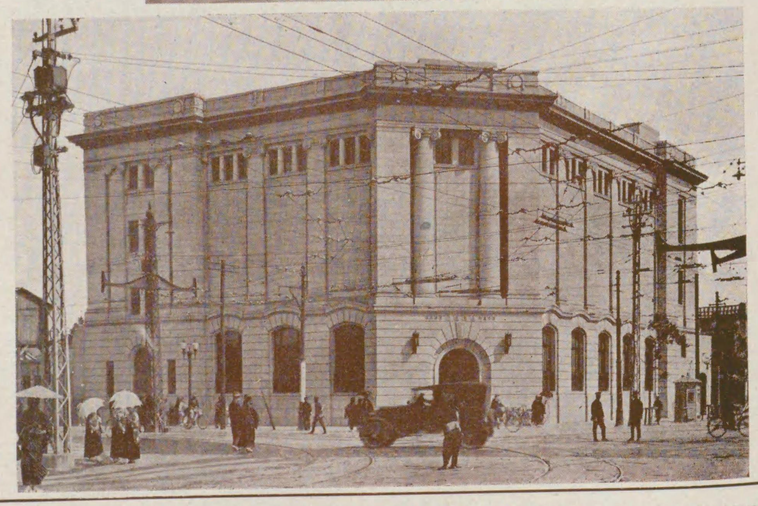




川崎銀行大阪支店　施工者　橋本組

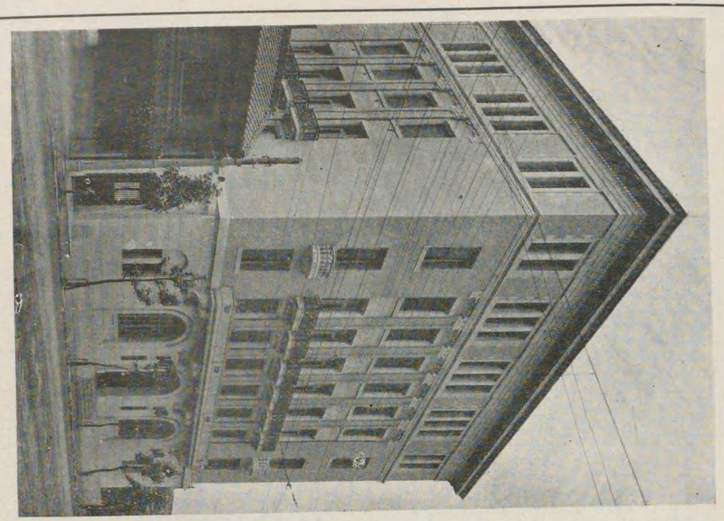


大阪軌道株式會社　設計監督　大林組設計部
大阪江商ビルデイング　設　計　設樂建築事務所

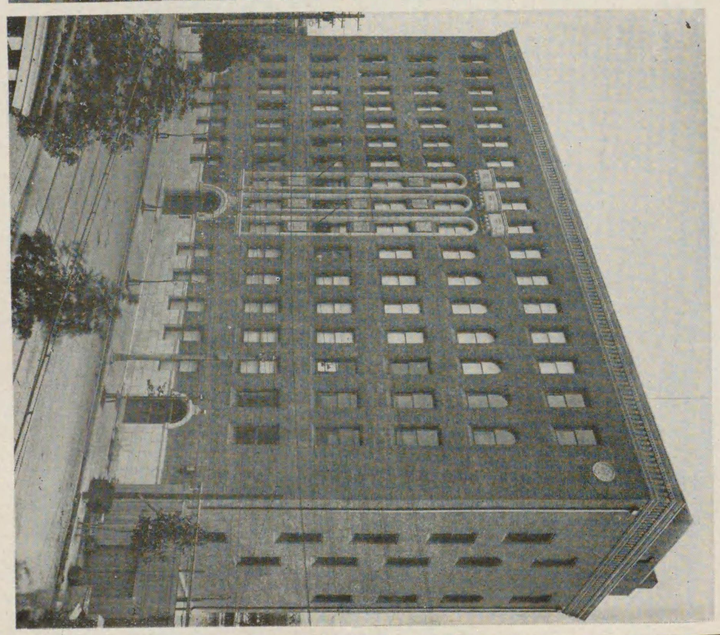


菊水レストラント　設計　上田工務店
三菱銀行京都支店　設計　三菱地所部

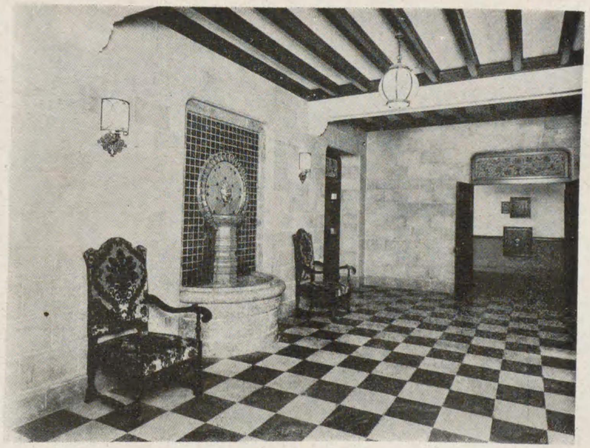
大阪貯蓄銀行本田支店　設計　竹中工務店設計部
不動貯金銀行大阪支店　設計　關根建築事務所



有田ドラック、ビルデイング　設計　片岡建築事務所



大林組本店ビルデイング　設計　大林組設計部

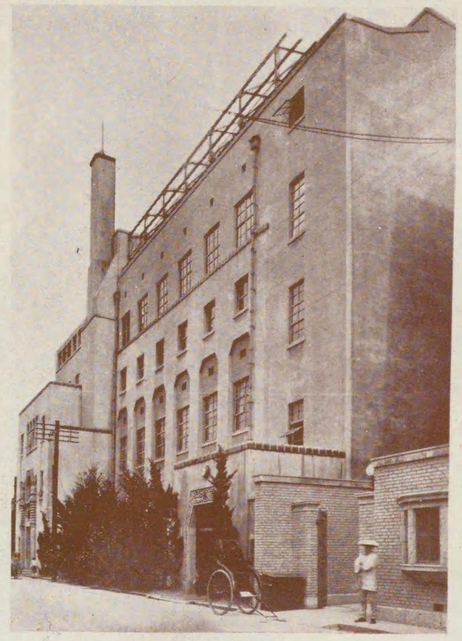


大阪倶樂部　設計　工學士　安井武雄氏

神戸市立第一高等女學校　設計監督　神戸市營繕課

神戸市立高等小學校　設計監督　神戸市營繕課

大阪市立市岡中學校　設計監督　大阪市營繕課

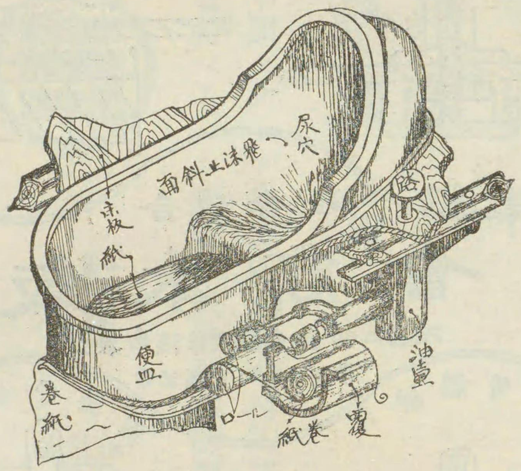


大阪市立汎愛小學校　設計監督　大阪市營繕課

◎在來便所は國の恥

◎惡病の因は冷と蠅

臭蛆飛汚寒汚
氣蠅沫糞風感
以上七ツの欠點を
完全に解決



在來の洗淨式に優り如何なる便所へも簡單に取付く

カタログ進呈

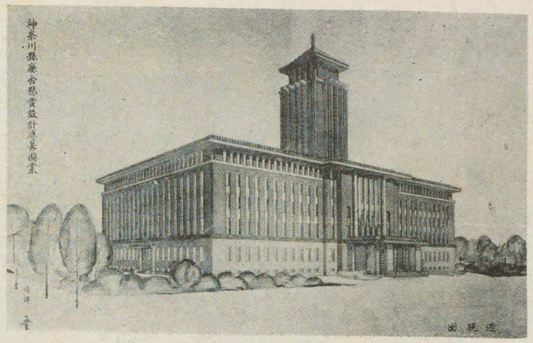
求全國代理店

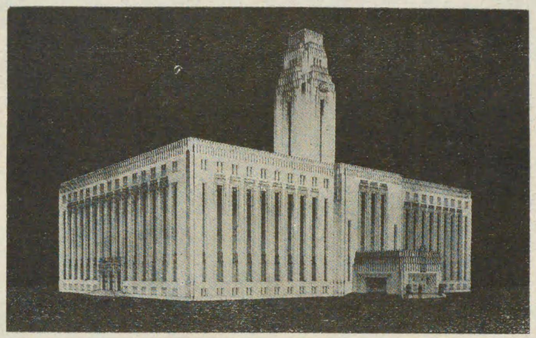
巻紙式一式　三十二圓
（巻紙一人當年二十錢）

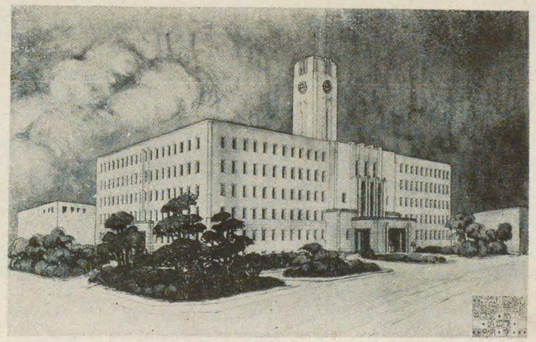
三勺水洗式　五十七圓
（一人當り水量年一斗）

外山研究所

東京市京橋區南小田原町二ノ十二
電話京橋六三二九　振替東京六三四五四番



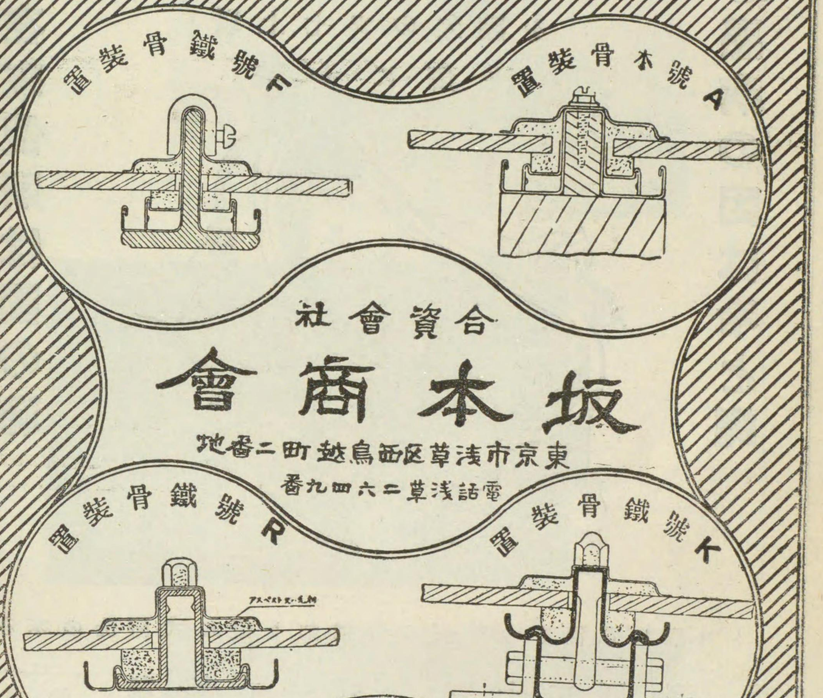




案圖選當計設賞懸舍廳縣川奈神

東京市技手	小尾嘉郎	壹等當選
	相賀兼助	貳等當選壹席
	中村哲	二等當選二席

坂本式カライト裝置



合資會社

坂本商會

東京市淺草區西鳥越町二番地

電話淺草二六四九番

取扱店

東京市京橋區第一相互館內
堀江寛營業所
電話京橋二四三番

東京市日本橋區大傳馬塩町二番地
鶴谷商店
電話大手二九〇九番

名古屋市中區牧野町字出御前
八千代工業所
電話西一〇七七番

大阪市西區薩摩堀南之町壱番地
坂本商會出張所
電話新町四三五九番

門司市內濱町壱丁目
合資會社 常盤商會
電話長三四五番

佛申込次第カタログ進呈

營業品目

建築材料
各種塗料
雜貨貿易

宇部セメント製造株式會社特約店
東亞ペイント製造株式會社特約店

若宮商店

東京市麹町區內幸町一ノ三幸ビル七三號
電話銀座(57)一〇八七番

営業項目

水道、衛生
排水、喞筒
暖房、溫水
汚水淨化裝置

各種工事設計施工

西山號

原田一郎商店

營業所　東京上澁谷町廿三番地
電話青山長七八八番
振替口座東京六七四一五番

陳列所　東京青山宮益坂下

御用工事施行概略

梨本宮富士御別邸
上海東亞同文書院
李王世子殿下御邸
高砂館ビルヂング
山階宮御邸

明治神宮外苑野球場
德川公爵邸
聖德紀念繪畵館
島津公爵邸
中央大學

岩崎男爵邸
新宿御苑葬場殿
大倉男爵邸
電氣俱樂部
帝國ホテル

富士軍用水道
霞浦飛行場
濟生會各病院
第一師團、近衛師團
第一、二衛戍病院其他

天氣も人工で左右出來る
時期が來た

營業課目

各種製造工業に於て作業上最も適當なる空氣狀態を來さしむる
空氣の温濕調度整法
(AIR CONDTIONING)
應用に關する事業一般の

研究

協議―設計―材料供給並に工事請負に應ず
濕潤―乾燥―脫濕
煖房―換氣
空氣洗滌及び淨清
オゾーン發生裝置
一般建築物の夏期冷室
濕潤空氣を以てする新式乾燥裝置
冷却　加熱
一式

高砂煖房工事株式會社

東京市京橋區五郎兵衛町十番地
電話京橋（56）5261837

合資會社

大阪電氣商會
大阪煖房商會

營業科目

△電氣、蒸氣、瓦斯
△水力、電燈、電力
△電話、煖房、通風
△給水、給湯、衛生工事
△其他諸機械
△右諸項ノ設計
△監督工事請負
△並ニ製造販賣

本店

大阪市西區江戸堀南通壹丁目
電話土佐堀長五四四番一四四六番

名古屋支店

名古屋市中區南大津町二丁目
電話本局長一三六二番七〇九六番

東京支店

東京市京橋區西紺屋町五
電話京橋(56)九〇八番六九八〇番

內田商事株式會社煖房部

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地
電話丸ノ內(23)一五〇一番
煖房部專用　電話長丸ノ內(23)一七二〇番

設計。工事請負。材料販賣

營業種目

暖房　排塵　換氣
衛生　除水　塵埃
給湯　給水　道水
製氷冷房　冷藏　消毒
蒸氣炊爨蒸氣
スプリンクラー
バキュームクリーナー
文書及金錢空氣輸送
其他一般機械設備

大和工業株式會社

（ノモルセ同合ノ會商益兩京東ト所務事工房媛原萩坂大）

本店　大坂市北區曾根崎上四丁目三十三番地
電話局北一〇一七八番　六二九一番
電略『オサカダイワ』

支店　東京市京橋區南傳馬町三丁目五番地
第一相互館一二六號
電話局京橋三二三七番
電略『トウケイダイワ』

煖房
冷藏
水道
衛生
工事
設計
請負

合資會社

日本煖房商會

東京市京橋區南槇町一番地
電話京橋(56)二〇二三番

放熱器

ト

煖房工事

各種放熱器
製造販賣
煖房、冷藏
通風、給湯
給水、乾燥
其他衛生諸
裝置設計並
ニ工事請負

合資會社

東亞鐵工所

本社　大阪市此花區西九條濱通一〇
電話土佐堀一一三七番

出張所　東京市麹町區町丸之内(ビルヂング)八七五區
電話丸ノ内(23)一七九六番

各種放熱器
煖房用汽罐
製造販賣並ニ
其裝置工事請負

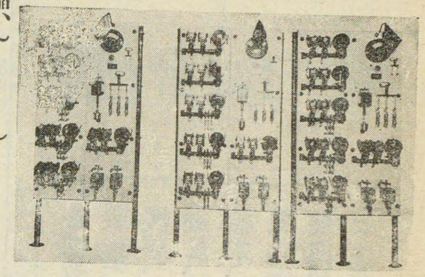
株式會社

齋藤製作所

本社　東京府下大井町五四三
電話高輪特長五九番・二七九九番

福岡工場　福岡市人參町
大坂出張所　大阪市北區兎我野町一一四
大連出張所　大連市西公園町一七九

鐵道省納入
電動機自働起動裝置



揚水、壓縮、扣水、眞空、ポンプ
エレベーター、リフト　モーター用
水門自働開閉裝置
特許自働スヰッチ及自働起動器
モーター安全器用自働スヰッチ及自働起動器
水面自働信號警報裝置
モーター保護安全裝置。電氣的自働水位計
氣壓式給水ヘ氣自働補給裝置
其他電氣自働裝置一般設計製作
高低壓配電盤各種電氣機械器具一般

東京市京橋區南小田原町一ノ六

東邦製作所

電話京橋一二八五番
振替東京四六五六六番
電信略號（トホセ）又ハ（トホ）

專門製作品

營業科目

暖房用放熱器各種
暖房用溫水罐
暖房工事設計請負
鑄物諸機械

東京府下隅田町一六二九一番地

株式會社 **前田鐵工所**

電話長墨田二〇五三番

◎防火宣傳◎

阿部式**ステイールサッシュ**製作
阿部式**ステイールドーアー**製作
自働捲上防火**シヤッター**製作

鐵骨建築及附屬金物一式
鐵塔橋梁其他構造物一式
エレベーターリフテイング一式
鐵扉鐵柵類一式

合資會社 **阿部鐵工所**

大阪市西淀川區浦江町三五四
電話土佐堀（長）一八一四番 三〇〇一一番 八〇〇八四番
振替口座大阪八四〇五一番

建築タイル窯元
宮内省御用達

淡陶株式會社

本社工場　兵庫縣三原郡北阿萬村
電話本庄一〇番
福良工場　同　三原郡福良町
電話福良一九番
大阪支店　大阪市西區阿波座中通壹丁目
電話四五二番・二四八三番
東京支店　東京市日本橋區濱町二丁目
電話浪花六三〇五番

境川文庫の青寫眞感光紙を
御使用下さい!!!

手塗りに比して燒付が三倍以上も捗り、熟練を要せずして深藍色に白線の極めて鮮鋭なプリントを得られそして費用は手塗りよりも却つて廉價であります。

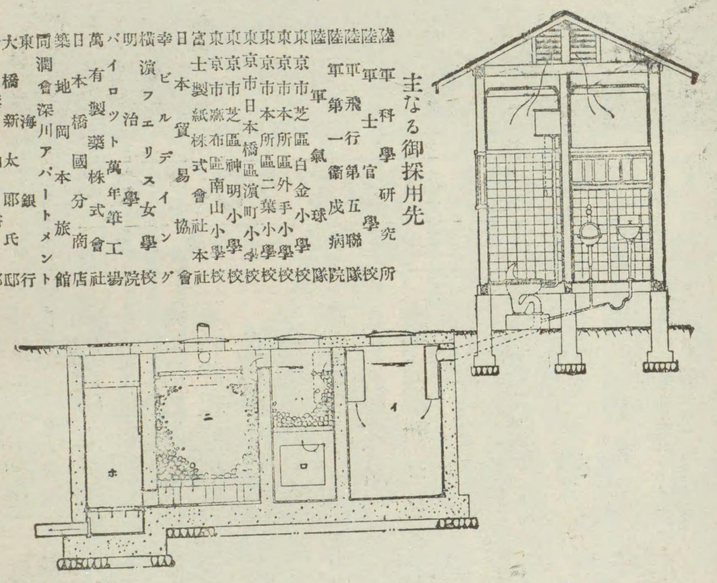
青寫眞の燒付は（二尺×六尺 79cm×180cm）の大さ迄致します

大阪市港區境川町電車交叉點の角

境川文庫

電話西貳〇四八番
振替大阪一五六〇四番

最も進歩せる
田中式汚水淨化裝置



主なる御採用先

陸軍科學研究所	東京市芝區白金小學校	日本製紙株式會社	大清橋
陸軍平射病院	東京市本所區外手小學校	東京市日本橋區濱町小學校	東京電氣軌道株式會社
陸軍飛行第一聯隊	東京市芝區神明小學校	日本貿易協會	日本醫師共濟會
陸軍衛戍病院	東京市日本橋區濱町小學校	幸ビルデイング	島津製作所
陸軍第五聯隊	東京市本所區二葉小學校	横濱エリス女學校	萬有製藥株式會社
陸軍第一聯隊	東京市芝區神明小學校	パイロット萬年筆	日本橋區役所
陸軍士官學校	東京市芝區白金小學校	明治工業學校	東京成電氣鐵道會社
陸軍平射病院	東京市本所區外手小學校	有限會社	東京新橋運輸事務所
陸軍第一聯隊	東京市芝區神明小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍衛戍病院	東京市日本橋區濱町小學校	日本製藥株式會社	東京新橋運輸事務所
陸軍第五聯隊	東京市本所區二葉小學校	國分商店	東京新橋運輸事務所
陸軍士官學校	東京市芝區白金小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍科學研究所	東京市芝區神明小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍平射病院	東京市日本橋區濱町小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍第一聯隊	東京市本所區二葉小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍衛戍病院	東京市芝區白金小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍第五聯隊	東京市芝區神明小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍士官學校	東京市日本橋區濱町小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所
陸軍科學研究所	東京市本所區二葉小學校	日本橋區役所	東京新橋運輸事務所

本式の特長

一、從來淨化裝置の實際上に於て最も困難とせられ居たる酸化作用を完全に行はしむる爲に特殊の構造を有する事

二、淨化裝置の普及につれ最も問題視さる消毒作用を的確になさしむる特殊の裝置を有する事

三、鐵筋コンクリート構造なる爲耐震的なる事

弊所は及ばずながら絶えざる研究の下に改良考案をなし設置場所の狀況及び使用目的に從つて夫々適當なる樣設計をして居りますから何卒御安心の上御採用願ひます。

田中式汚水淨化裝置
波田式メタン瓦斯發生裝置
東京市京橋區常盤町貳番地
（京橋日活館前）

田中工業所

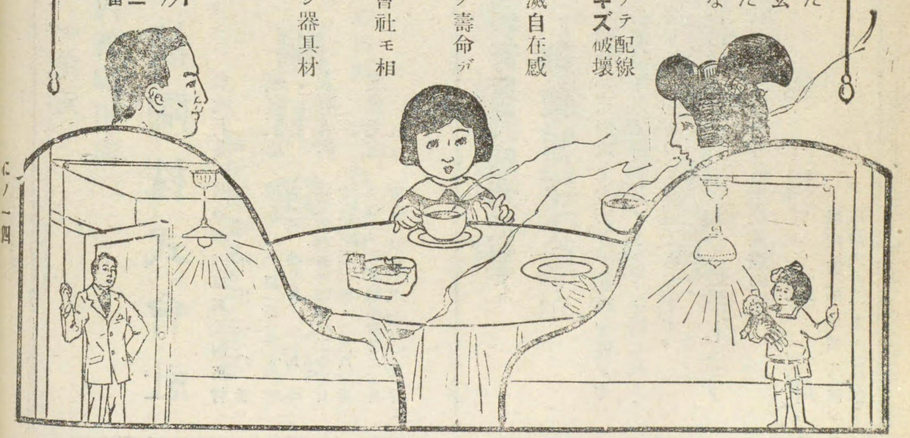
電話京橋一二一五番

電燈界の權威

特許高柳式
電燈點滅器

設計者負擔に謹告す

カタログ進呈



取付ケ簡易　壁ヤ柱ニ無關係ニシテ天井ニ取付ケテ配線代用ハ紐ヲ以テ其用途ヲナス故ニ**キズ**破壞ノ憂ナシ

安全　直接電氣ノ器具ニ觸レズ紐ニテ點滅自在感電ノ怖レハ絶對ニナシ

電球長保　點滅ニ電球ヲ振動サセヌタメ電球ノ壽命ヲ二倍以上保ツ

經濟　便利ニ點滅ガ出來テ需用家モ電燈會社モ相互ニ電力ノ經濟トナル

價格廉　從來ノ「**スヰツチ**」取付ケニ比較シ器具材料工賃ガ半額デ設備ガ出來得

製造販賣元

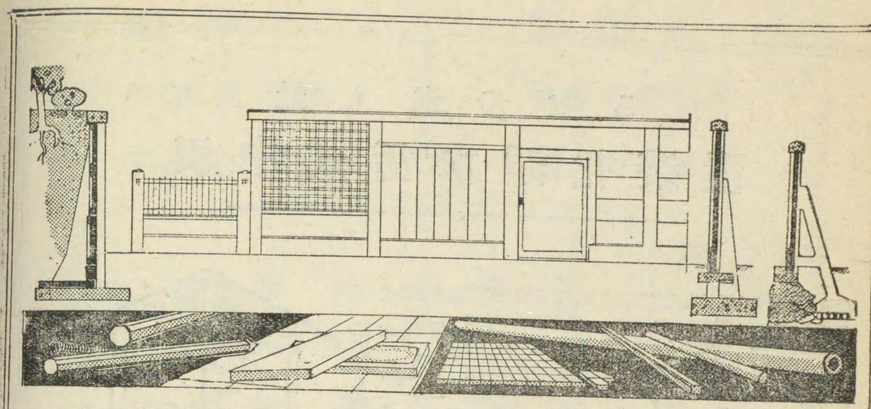
高柳電氣工業所

東京市芝區愛宕町二ノ二
電話銀座三三三一番

S·J·ARNHEIM

SAFES
SAFE-DEPOSITS
VAULT-DOORS
STRONG-ROOMS

SOLE AGENT FOR JAPAN: K Z S G·K·KENZAISHA
TOKYO ★ OSAKA



東京フエロコンクリート工業所
工場 東京府荏原郡蒲田驛前

震災によりて眞價を發揮し白熱的歡迎を受けつゝある

◆特許組立式鐵筋 コンクリート」塀
◆特許組立式土留壁 石垣に代る理想的土留)
◆特許竹狀式電柱 接續電柱
◆特許組立式車庫並に倉庫、工場

此の際特に一ケ月期限請合竣工出來る倉庫工場建築準備成る御通知次第說明書持參す

◆鐵筋「コンクリート」基礎杭其他一般「コンクリート」製作品
◆一般鐵筋「コンクリート」工事設計施工

東京フエロ、コンクリート工業所

場所 東京府下蒲田驛前
電話蒲田貳六壹番

出張所 麻布區宮村町十番地の二號
電話青山一九六九番

建材社の金庫室扉

——世界的に定評のある獨逸アルンハイム裝甲鐵板會社の製品——

——耐熱耐破壞耐熔解の特製鑄鋼鐵板と、同社創意の特殊構造——

——右の外各種金庫寶庫書類庫保管金庫類御用命次第社員參上——

其他ノ取扱品目

煖房通風給湯裝置設計施工
伊太利スチーグラー昇降機
リシンとクンストスタイン
壁床タイルモザイクテラコッタ
建築用諸機械諸材料類一式

合資會社 建材社

本社 東京市日本橋區檜物町十二番地 電話日本橋(24)三五〇一番 三五〇二番 三五〇三番

出張所 大阪市西區江戸堀上通一ノ廿五 江戸堀ビルデイング四階 電話土佐堀二七八六

私設電話三十六個を設備し自動交換により內外に通話をなし得る樣設備す。電氣時計設備　旭有電池式親時計一個を支配人室に置き、各階要所に子時計十三個を設置す。給水設備　電動機直結「タービンポンプ」に依り屋上清水「タンク」に給水す。衞生設備　便所は總て水洗式とし汚水は淨化槽に依り淨化し下水に放流す、尙洗面器浴槽流場等には給水給湯の設備をなす、各器具は東洋陶器株式會社製品とし各「カラン」類は米國「ヤンソン」製作所製品を使用す。設計及施工　合資會社淸水組、設計者　田中實、現場監督者　松田畔造、工事擔當者　川上廣司製圖者　田口戌光。

朝日會館建築工事概要

建坪及び延坪　建坪　二五九坪〇四九、延坪一四七七坪五八。內譯　地下室　二五九坪〇四九、一階　二五九坪〇四九、二階　二五四坪七七五、三階　二五八坪一一三、四階　二九七坪〇九二、五階　一二一坪二五三、六階　二八坪二四九。建物の高　中央最高軒高一〇〇尺。外觀に就て　近世ドイツ式にて建物全體をめぐる單一でそして高雅な黑と金との「リズム」其中に平調を破る大きな「グラス」面其全體の感じは會館の使命をそのまゝに表現せり。外部玄關入口廻り「テラコツク」(伊奈製)を使用し他の壁面は黑色人造石洗出し、大窓額緣は京都泰山製金色「タイル」を使用軒蛇腹は金箔塗とす。構造の大樣　柱梁「トラス」は鐵骨構造、床壁は鐵筋「コンクリート」造屋根は鐵の上に「ハーイリツプコンクリート」打とす。基礎　地盤線下十八尺掘下げ田中式「コンクリートパイル」打の上割栗石敷込「コンクリート」打とす。床仕上げ　鐵筋「コンクリート」床上に「モルタル」にて班直しの上各階「タイル」又は「リノリユーム」敷とす。內部壁及天井仕上げ　地階天井大連「ドロマイド」仕上げ壁「モルタル」仕上げ。一階　玄關天井大連「ドロマイド」仕上げ、壁洋光石張其他の諸室は二階共何れも大連「ドロマイド」仕上とす。三階　天井大連「ドロマイド」壁の上「キルク」をふきつけ仕上げ、腰壁日華石交り人造石洗出しとす。四階廊下天井砂入り「ドロマイド」塗り、壁石交り「ドロマイド」仕上とす、腰五尺通「タイル」張仕上とす、觀覽席天井「キルク」及砂交り大運「ドロマイド」仕上げ、壁新聞紙型張りの上「ペンキ」塗腰英國「レキシン」革張りとす。階段　各階鐵筋「コンクリート」製段板蹴込板共「タイル」張り人造石仕上げ、手摺は鑄鐵製手摺鹽地製とす。窓及入口　外部窓出入口何れも鐵製兩開一部廻轉付、玄關入口及び舞臺外部入口「シヤツター」取付とす。電氣時計、電話電鈴報鈴設備　電氣時計三階四階エレベーター上部に設置す。電話各階各室玄關切符賣場、四階廊下に公衆電話、電鈴は電氣室其他に開幕報鈴は三、四階に取付けたり。エレベーター　日本エレベーター製二臺取付く。避雷針　本館屋上に二臺取付く。電燈及動力設備　電力は大阪市電氣局より地中線により供給を受け、四階變電所にて三〇KVA三臺の變壓器により二五〇〇「ボオルト」より七〇五「ボオルト」に變電一盤及び舞臺照明に使用す。暖房設備　眞空式低壓蒸氣暖房裝置を用ひ直接暖房裝置とせり。四階公演場　高さ其他に就て、天井高さ三四尺舞臺高さ三尺五寸、小「プロセニアム」高さ二一尺五寸、大同二六尺五寸、舞臺間に六間、小舞臺奧行三間半、大同同五間、舞臺天井高さ三四尺。坪數及收容人數に就て　四階一三八坪九〇(坪數)一〇三六人(收容人數)、五階一二一坪二五三(坪數)五五四人(收容人數)、總計一五九〇名。內部樣式に就て　埃及式太く重々しき柱左右高く舞踊と音樂を表はせし薄肉彫ゆるやかな三色の光は物靜かさと落着きを見せてゐる。舞臺裝置　舞臺を使用し得る最大の範圍を取る「クツペルホクゾント」葡萄棚、樂屋、映寫幕電氣室、大道具室、講演者控室等を取る。舞舞照明及各席照明　山本電氣商會の施行にかゝり舞臺照明は「ボーダーライト」五列を取付け得

尙「ボーダーライト」に替り得る一個五〇〇「リツト」迄使用し得る反射器數十個を設け自由に適當なる箇所に吊下げるものとす。尙客席左右の中二階舞臺左右柱裏に「スポットライト」室を設け七五「アンペア」の「スポット」六臺を使用せしめ共に三〇「キロリツト」變燭器二臺により變燭せしむ、客席の照明は露出器具を避け中央明り取り窓及左右天井樋より採光せしむ大天井明り取り窓一ヶ所毎に一色五〇〇「ワット」電球二四個を設置し「ギャラリー」明取窓には二〇〇「ワット」電球六個を設置し左右樋内部には四〇「ワット」電球三〇〇個を設置せり全部三〇「キロワット」用變燭機を用ひ照明度を自由に加減せしむ。尙全部三色に變色せしめ得る裝置をなし舞臺調色につれ觀覽席も適當なる配色をなさしむ。館内採光活動寫眞用として一五「キロワット」の直流電動發電機を常備す會館周圍の雜音を防止する爲めと館内の氣分を表はす爲天窓のみを取れり。音響　最も愼重に留意し音響の吸收反響につき苦心せり。壁には紙型腰は皮張り天井は「ドロマイドキルク」入として其の完全を期せり。なほ紙型と革張との間には本社特製の亞鉛凸版張とせり。客席と舞臺との關係　客席床（三越家具部）に十分の勾配を付し觀者を十分に舞臺を見得る樣設備せり。非常時に於ける設備　昇降は二個の「エレベーター」幅八尺の大階段をもつてしなほ非常及常時用として會堂より直接街路に通ずる鐵骨鐵筋「コンクリート」造大階段二組を設備せり。暖房　暖房裝置を採用し舊館三階の屋上に機械室を新設し空氣加熱器、空氣洗滌器、送風器等を設備し新鮮なる空氣を取入れ加熱しなほ塵埃を除くため空氣洗滌器により洗滌したる後之を會堂内に吹き出し室内の濕度を適當に保つと同時に衛生的な空氣狀態を持續し得る裝置とす。冷房裝置　前記暖房裝置を夏季は冷房裝置を使用す、地下四〇〇尺の井戸より吸ひ上げたる冷水をもつて空氣を冷却洗滌しこれを會館内に吹き出さしめ溫度を下げしむ。

工程、起工　大正十四年三月二十五日、竣工　大正十五年十月九日、主なる材料、鐵材（松尾）一、一〇〇噸、セメント（小野田）九、四〇〇樽、防水劑ロータス、三、二〇〇封度、スチールサツシュ、一〇、〇〇〇平方尺タール、六〇、〇〇〇板、大連ドロマイド、一、二〇〇袋、使用人數　四五、九九五人。

工事擔當者、設計施工　合名會社竹中工務店、設計主任　松下甚三郎、構造計算　青柳貞世、現場主任　瀧邦一。

帝國學士院新館建建工事概要

規模、敷地坪數　一、〇〇〇坪、本館建坪　二〇二坪（附屬門衛所一一坪）、地下室及屋上階共に五層にして各階坪數左の如し。

地下室　七三坪、一階及二階　各二〇二坪、三階　一三四坪、屋上階　五四坪二五、合計　六六五坪二五、本館延長　東西と南北と各一八間

本館高さ　中央部五六尺、兩翼及背部　四九尺

構造　本館構造は鐵筋「コンクリート」造にして屋根は「コンクリートスラツブ」上に防水層を施し砂利敷とし外壁は腰廻り萬成産花崗石、上部日の出石貼付及「モルタル」塗仕上とし附屬家は鐵筋「コンクリート」ブロツク造、外部「モルタル」塗仕上とす。

室内仕上、床　大會議室は樫材「フローリングブロック」張通路へ絨緞敷賓室及院長室絨緞敷其他の主要室は「コルク」下敷の上は「リノリユーム」敷、事務室其他は「リノリユーム」敷、廣間廊下等「リグノイド」塗、玄關便所は「モザイツクタイル」敷とす。壁　貴賓室院長室には樫材高羽目を貼付け其他の主要室は壁紙張、玄關及廣間の腰廻り大理石貼付、手洗所便所は一部「タイル」張、事務室其他漆喰塗壁の上水性「ペンキ」塗とす。天井　貴賓室は格天井にして格縁木製格間漆喰塗其他各室は漆喰仕上水性「ペンキ」塗とす。窓及入口　玄關より廣間への入口及寢室と便所内との入口を除き全部鋼鐵製にして主要各室窓には窓掛を取付く。

諸設備、暖房　會議室は電氣暖房法により各席に電熱器及「スウイツチ」を備へ着席の儘點滅し得る裝置とす、其他の各室は瓦斯暖房法を用ひ「ストーブ」の位置には排氣筒を設く。給水　上水道供給の水を自働電動「ポンプ」にて屋上階の水槽へ送り夫より炊事室、便所其他へ給水し屋外に消火栓及撒水栓各一個宛を備ふ。避雷　屋上へ寶針六臺及「パラペット」上部へ銅帶を廻し二ヶ所の導線によりて接地裝置をなす。電鈴　關係各室間に電鈴設備をなす。便所　水洗式とし汚水は淨化槽にて處置し自動「ポンプ」により下水管へ放流す。書庫　鋼鐵製書架を取付け、中間に一部硝子張鐵板床を設けて上下二層となし通路の一部に閲書臺を備ふ。

工事設計及施工　營繕財管局　本工事は當初文部省建築課に於て設計起工し大正十四年四月營繕管財局へ移管せられ多少の設計變更をなせり。工事　大正十三年十二月起工、十五年九月竣工。工費及工事請負人、工費豫算　三四四、三三〇圓〇〇、內譯工費請負人、工事名、工費請負人、本館　二四七、二四二圓一七、戸田利兵衞、門衞所及柵　一五、七二〇、〇〇　外山榮太郎、瓦斯　四、八九九、二五　東京瓦斯株式會社、電氣配線　八、一七八、四八　東京電氣株式會社、電燈器具　三、八四八、四〇　柏木元吉、電熱器具　一、八三六、〇〇　日本電熱器具製造株式會社、避雷設備　一、〇四五、〇〇　沖電氣社、電鈴電話　二、三六八、一四　株式會社電友社、水道　二、七七三、六二　東京市水道局、衛生設備　六、二二〇、〇〇　齊藤久敏、汚水淨化槽　三、三三〇、〇〇　城口權三、窓掛敷物　七、九九五、〇〇　西川甚五郎、家具、一〇、八〇〇、〇〇　福田善五郎、尙以上の外書庫、庭園及敷地内舖裝等の設備は今後着手の分に屬す。

中央大學校舍新築工事概要

位置　東京市神田區駿河臺南甲賀町六、七、八番地。敷地面積　一千八百二十六坪、建坪　七百五十坪二、延坪　二千七百九十五六八坪九、一階　七五〇、二、二階　七三〇、屋階　一五、九。

構造及仕上概要、軒高　地盤面上より「パラペツト」上端まで、校庭面にて四十七尺、講堂軒高　同上、「ドライエリヤ」床面より四十八尺五寸、最高棟高　地盤面上より塔屋棟迄五十一尺、各階高　一般教室十二尺五寸、大講堂　十六尺、基礎　栗石入胴突地形上に鐵筋「コンクリート」造「スラブ」及梁、建築體積　配合一、二、四、鐵筋「コンクリート」造、外部仕上　正面出入口及左右角屋は萬成産花崗石彫刻貼付、其他總體褐色人造石洗出仕上とす。內部仕上　正面玄關內部腰廻り「クンストスタイン」貼り、床花崗石敷、事務室其他一部內部腰羽目板張り、上部壁及天井漆喰塗、床「樫材フローリングタイル」敷き及「リグーイド」塗り。廊下其他床人造石磨出し塗り及「セメントタイル」敷とす、階段鐵筋「コンクリート」造り、人造石磨出塗り手摺チーク材踏面に「アラムダム」を貼付く。防火設備　外部窓は全部「スチールサツシュ」とし「ワイヤードグラス」を用ふ。廊下の要所十一箇所に綱製防火扉を設け各階主要階段附近に七箇所の消火水栓を設備す。暖房設備　地階に煖房汽罐室を設け、モナーク型低壓蒸氣煖房汽罐二臺（各相當放熱面積六、〇〇〇平方尺）を据付け、各室共外氣溫度華氏三十度なる時に平均六十度の溫度を保たしむべき容量を有する設備とす。給水設備　三吋鑄鐵管を以て市水道より分岐取入れ、水洗式便所八ヶ所「ドリンキングフアウンテン」七ヶ所、消火栓七ヶ所、流場三ヶ所、浴室一ヶ所、並に館房汽罐等に給水す。右の內消火栓用としては、別に專用の配管を爲し、之に非常時用として直結電動ポンプを設備す。衞生工事　便所は總て水洗式にして、西原式汚水淨化裝置を設備し、汚水淨化の上市設下水道に放流す。電氣設備　外線を地階電氣室に引込み、分電盤に送電し、所要の箇所に分岐配線す、同配

線工事は總て「シエラダクトコンヂツトチユーブ」を用ひ隱蔽式とす。瓦斯設備　湯沸室、食堂、炊事場、實驗室等に瓦斯供給設備を爲す。

工事行程、地鎭祭　大正十五年一月十六日、起工　同年一月二十三日、竣工　同年八月三十日

期間　二百二十日間、使用延人員　四三、九九七人、本工事　四一、八六二人、給水工事　五六〇人、電氣工事　一、〇〇三人、

工事關係者　設計並に工事監督　工學博士阿部美樹志、成松勇、淺井次三郎、高橋東滅。

工事請負者　本工事並給水衛生電氣工事　大倉土木株式會社、セメント供給　淺野セメント株式會社、スチールサツシュ供給　東京建鐵株式會社、煖房工事　內田商事株式會社、瓦斯工事　東京瓦斯株式會社。

淺草公園仲見世工事概要

位置　東京市淺草區淺草公園內、棟數　中二階建　拾參棟、總建坪　二百九十七坪一合、軒高　十五尺七寸(地盤面上より軒桁上ば迄)、總高　二十尺七寸(地盤面上より屋根棟瓦上ば迄)、起工　大正十四年六月五日、竣工　大正十四年十月三十一日、工事延日數　百四十九日、建築樣式　德川時代の古壯建築樣式に近代的手法を加味したるもの。

構造の概要　基礎　地盤下四尺堀り下げ割栗石搗き固め鐵筋「コンクリート」地形を爲す。柱外壁、小屋梁、二階梁、鐵筋「コンクリート」造二階床は木造とす。屋根庇共鐵骨造に「ダイヤモンドリブラス」張り豆砂利「コンクリート」打の上銅板瓦棒葺とす。壁仕上　モルタル塗の上外部は米國製ペイント「コンクリート」二回塗仕上とす。窓及出入口　表通り木製銅板張上げ下げ戶、裏側出入口　鐵製防火窓は「スティールサツシュ」ワイヤーグラス嵌込とす。鐵材見え掛り全部「ベンキ」塗とす。設計　東京市建築局營繕課、工事請負　富樫組。

官幣大社朝鮮神宮御造營工事概要

朝鮮神宮造營は大正七年度より大正十四年度に至る八箇年繼續事業にして　總工費百五十六萬四千八百五十二圓なり。大正八年七月祭神を天照皇太神明治天皇の二柱とし、社號を朝鮮神社と稱し、社格を官幣大社に列せられたるが、大正十四年六月社號を朝鮮神宮と改稱の旨仰出されたり。大正九年五月二十七日地鎭祭、同年十一月二十七日御用濟修祓兼行遙拜祭、同十年六月十日仮始祭、同十三年四月三日上棟祭、同十四年十月十一日新殿祭、同月十五日鎭座祭を執行せられたり。

社地の位置及面積　朝鮮京畿府京城府南山に在り、境內地は中腹を平均して西北に面し、其面積約八千二百坪、周圍十一萬坪は內苑とし、其の外方約十萬坪を外苑とす。社殿其の配置　玉垣內を上中下三段とし、玉垣外は上中下三箇所の廣場を設け、市街よりの連絡は表石段及東西の二參道に依る。正殿　神明造向拜附桁行二十四尺、深間十八尺、建坪十七坪、軒高二十二尺九寸、石壇上に建ち、屋根銅鈑葺、木部各小口及千木、葛緒木、甲板、障泥板の鼻等は金鑛飾金具付、床下に慶尙南道東萊郡產黑色砂利を敷く。神庫　校倉造、桁行十尺、梁間九尺、建坪二坪五合、軒高十五尺四寸五分、屋根其の他飾金具等正殿に倣ふ。祝詞舍　桁行十八尺五寸、梁間十二尺、建坪六坪一合八勺、軒高十六尺五寸、吹拂、床は石敷其の他前同樣なり。瑞垣門　桁行十九尺六寸、梁間十一尺、建坪五坪九合八勺、軒高十七尺五寸、壁板張共の他前同樣なり。拜殿　桁行四十八尺、梁間三十尺、建坪四十尺、軒高二十一尺九寸、吹拂、床は「コンクリート」叩上に咸鏡南道利原郡產白色豆砂利敷其の他前同樣なり　神饌所　桁行二十四尺、梁間十八尺、建坪十二尺、軒高十四尺、角柱建にして葛緒木を存せず、其の他前記に準ず。神符守札授與所　一桁行十九尺二寸、桁間十四尺四寸、建坪七坪六合八勺、軒高十二尺五寸、構造其他神饌所に準ず。手水舍　桁行十三尺、梁間

十一尺、建坪三坪九合七勺、軒高十一尺九寸五分、圓柱建、吹拂にして、其の他前記に準ず。水鉢は花崗石長六尺八寸、巾四尺八寸、高二尺三寸なり。祭器庫　桁行二十五尺二寸五分、梁間十九尺五分向相付、建坪十五坪一合一勺、軒高十六尺五寸八分、校倉造に象りたる耐火構造にして、壁煉瓦造橫筋目入着色「モルタル」塗、屋根鐵筋「コンクリート」造、上屋根は木造前記に準ず、千木を有せず。瑞垣　延長八十七間二分、高上棟峠迄十尺、二腰屋根銅鈑葺、石控柱附なり。勅使殿　建坪四十九坪一合三勺、主屋の軒高十五尺八寸五分にして、勅使の間、廣間、隨員室、衣紋室、潔齊所等を具ふ。外部腰は花崗板石張、屋根入母屋造瓦葺、車寄は唐破風造瓦葺、煖房設備は瓦斯裝置と爲す。社務所　建坪百三十三坪七合三勺にして、宮司室、社務室、應接室、宿直室、小使室、參籠室、潔齊所、炊事場等を具へ、構造等勅使殿に準ず。煖房設備は溫水裝置とし、參籠室の如き臨時に使用するものは瓦斯裝置と爲したり。參集所　桁行六十尺、梁間二十四尺、建坪四十坪、軒高十尺七寸、上の廣場より舞臺造とし、東柱石築屋根切妻造、瓦葺、床下に公衆便所を設く。園丁詰所　桁行五十一尺、梁間十二尺、建坪十七坪、軒高十尺一寸、屋根は切妻造瓦葺なり。警察官出張所　桁行二十一尺、梁間十二坪、建坪七坪、軒高平均十一尺(地盤に高低あり)、腰亂石積、屋根切妻造瓦葺なり。休憩所南山亭　桁行五十四尺、梁間二十一尺、建坪三十五坪六合二勺なり。廣敷及土間の休憩室各一を具へ、賣店、調理場等の設あり。屋根は入母屋造瓦葺なり。大鳥居　高さ三十七尺二寸、柱內法二十六尺四寸、柱直徑三尺六寸、鐵筋「コンクリート」造、表面は白勝花崗石擬石塗小叩仕上なり。第一鳥居　高さ二十八尺、柱內法二十一尺六寸、柱直徑二尺七寸、花崗石造なり。第二鳥居　高二十一尺六寸、柱內法十五尺九寸、柱直徑二尺一寸花崗石造なり。第三鳥居　高十八尺一寸、柱內法十三尺二寸、柱直徑一尺八寸花崗石造なり。第一燈籠　一對高十五尺二寸、花崗石造なり。第二燈籠　一對高十七尺花崗石造なり。瑞垣門下燈籠　一對高十尺宰は花崗石造なり。上中下の段玉垣上部木造、屋根銅板葺なり。笠石附花崗石造なり。延長三百十七間にして、笠石附花崗石造なり。上及中の廣場其の他荒垣　延長百六十九間六分六厘、笠石附花崗石造なり。瑞垣門下に至るもの及之より分岐して神饌所、神符守札授與所及手水舍に至るものにして、延長五十六間九二、花崗板石敷なり。瑞垣內は咸鏡南道利原郡產白玉石敷其の他の玉垣內及上中の廣場は川砂利敷なり。石垣及石階段　境內周圍には石垣を築き、其の坪數七坪、軒高平均十一尺(地盤に高低あり)、腰亂石積、屋根切妻造瓦葺なり。休憩所南山亭　桁行五十四尺、梁間二十一尺、建坪三十五坪六合二勺なり。祭器庫　桁行二十五尺二寸五分、梁間十九尺五分向相付、建坪十五坪一合一勺、軒高十六尺五寸八分、校倉造に象りたる耐火構造にして、壁煉瓦造橫筋目入着色「モルタル」塗、屋根鐵筋「コンクリート」造、上屋根は木造前記に準ず、千木を有せず。瑞垣　延長八十七間二分、高上棟峠迄十尺、二腰屋根銅鈑葺、石控柱附なり。勅使殿　建坪四十九坪一合三勺、主屋の軒高十五尺八寸五分にして、勅使の間、廣間、隨員室、衣紋室、潔齊所等を具ふ。外部腰は花崗板石張、屋根入母屋造瓦葺、車寄は唐破風造瓦葺、煖房設備は瓦斯裝置と爲す。社務所　建坪百三十三坪七合三勺にして、宮司室、社務室、應接室、宿直室、小使室、參籠室、潔齊所、炊事場等を具へ、構造等勅使殿に準ず。煖房設備は溫水裝置とし、參籠室の如き臨時に使用するものは瓦斯裝置と爲したり。參集所　桁行六十尺、梁間二十四尺、建坪四十坪、軒高十尺七寸、上の廣場より舞臺造とし、東柱石築屋根切妻造、瓦葺、床下に公衆便所を設く。園丁詰所　桁行五十一尺、梁間十二尺、建坪十七坪、軒高十尺一寸、屋根は切妻造瓦葺なり。警察官出張所　桁行二十一尺、梁間十二坪、建坪七坪、軒高平均十一尺(地盤に高低あり)、腰亂石積、屋根切妻造瓦葺なり。休憩所南山亭　桁行五十四尺、梁間二十一尺、建坪三十五坪六合二勺なり。祭器庫　桁行二十五尺二寸五分、梁間十九尺五分向相付、建坪十五坪一合一勺、軒高十六尺五寸八分、校倉造に象りたる耐火構造にして、壁煉瓦造橫筋目入着色「モルタル」塗、屋根鐵筋「コンクリート」造、上屋根は木造前記に準ず、千木を有せず。瑞垣　延長八十七間二分、高上棟峠迄十尺、二腰屋根銅鈑葺、石控柱附なり。勅使殿　建坪四十九坪一合三勺、主屋の軒高十五尺八寸五分にして、勅使の間、廣間、隨員室、衣紋室、潔齊所等を具ふ。外部腰は花崗板石張、屋根入母屋造瓦葺、車寄は唐破風造瓦葺、煖房設備は瓦斯裝置と爲す。社務所　建坪百三十三坪七合三勺にして、宮司室、社務室、應接室、宿直室、小使室、參籠室、潔齊所、炊事場等を具へ、構造等勅使殿に準ず。煖房設備は溫水裝置とし、參籠室の如き臨時に使用するものは瓦斯裝置と爲したり。參集所　桁行六十尺、梁間二十四尺、建坪四十坪、軒高十尺七寸、上の廣場より舞臺造とし、東柱石築屋根切妻造、瓦葺、床下に公衆便所を設く。園丁詰所　桁行五十一尺、梁間十二尺、建坪十七坪、軒高十尺一寸、屋根は切妻造瓦葺なり。警察官出張所　桁行二十一尺、梁間十二坪、建坪

約二千面坪なり。各段及廣場間には石階段を設けたり。表參道大階段　下の廣場及中の廣間に花崗石階段を設く、階段の巾四間兩側に各巾二間の芝生斜面地あり、總段數三百八十四なり。社號標　高二十一尺五寸、花崗石造にして、齋藤朝鮮總督の筆になる「官幣大社朝鮮神宮」の文字を刻す。制札臺　柱間眞々七尺二寸六分、軒高地盤より九尺五寸、石壇上に建つ、屋根銅板葺、石壇上周圍に木柵を附す。下乘札　高十尺四寸五分、臺は花崗石造、上部木造にして、上の廣場及三の鳥居下に各一基あり。馬繫所　五頭用鐵筋「コンクリート」造なり。東參道　延長五百八十九間、巾四間にして、倭城臺より中の廣場に至るものなり。西參道　延長四百三十八間、巾三間にして、下の廣場より南方を迂回し中の廣場に至るものなり。上水道　下の廣場に喞筒室を設け、二十馬力電動機直結の「タービンポンプ」に依り京城府營水道の上水を正殿後方山上貯水池(容量三千五百立方尺)に揚げ境內の用水全部を供給し、給水栓十箇所消火栓五箇所を存す。電燈　屋外燈籠　構內燈及警戒燈用にして、引込線は總て地下電纜に依り、電力は京城電氣會社より供給を受く。電話及電鈴電話は京城南道利原郡產白玉石敷其の他の玉垣內及上中の廣場は川砂利敷なり。石垣及石階段　境內周圍には石垣を築き、其の坪數

六分、上の廣場より後方內苑全部を警戒用として圍繞するものにして、柱鐵筋「コンクリート」刺附鐵條線張高六尺なり。殿內御飾付祭器具其の他　此等の主要なるものは正殿內の御神寶裝飾及各所用簾等とす。主要工事用材料　木材は正殿に木曾御料林檜材、正殿以外の玉垣內諸建物に臺灣產扁柏材、勅使殿及社務所の一部に之等の殘材、其他には朝鮮產木材を使用したり。石材はは主として花崗石にして、京城府東大門外採石場產なり。工事の設計及施工　御造營工事の設計及施工は朝鮮總督府內務局建築課にして工事顧問として東大教授伊藤忠太氏を囑託し御神寶裝飾に關しては內務省造神宮技師井上清氏に依囑せり。

東京帝國大學新築諸建築物

東京帝國大學醫學部附屬納骨堂、所在　下谷區上野谷中墓地、面積　約一五坪(地下層共)、構造　鉄筋コンクリート造、仕上　外——日の出石、人造石塗、內——煉瓦、漆喰、モルタル等　設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　大林組、工事期間　大正一四年一〇月起工、同一四年三月竣工。

東京帝國大學醫學部附屬醫院耳鼻咽喉及整形外科病室

所在　東京帝國大學構內、面積　建坪五四一坪延坪　一二三九坪、構造　鐵筋コンクリート造三層建、仕上　外——貼瓦、內——主として漆喰、人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課工事請負　大倉組、工事期間　大正一三年八月起工、同一四年三月竣工。

東京帝國大學醫學部藥學科教室西館

所在　東京帝國大學構內、面積　建坪一五四坪延坪四四〇坪、構造　鐵筋コンクリート三層建仕上　外——貼瓦、內——主として漆喰、人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　松村組、工事期間　大正一三年八月起工、同一四年三月竣工。

東京帝國大學醫學部附屬醫院外來患者夜間應急診療所

所在　東京帝國大學構內、面積　建坪二六坪、延坪四三坪、構造　コンクリート二層建、仕上外——貼瓦、內——主として漆喰、人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　大阪橋本組、工事期間　大正一四年七月起工、同一五年一月竣工。

東東帝國大學醫學部附屬醫院賄所

所在　東京帝國大學醫學構內、面積　建坪二〇一坪、延坪二四七坪、構造　鐵筋コンクリート造平家建一部二層、仕上　外——モルタル塗、內——主として漆喰、人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課、工事　戶田組、工事期間　大正一二年一二月起工、同一三年七月竣工。

東京帝國大學工學部應用化學教室

所在　東京帝國大學構內、面積　建坪四二九坪六、延坪一四一七坪七合、構造　鐵筋コンクリート造四層建、仕上　外——貼瓦、內——漆喰人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　大林組、工事期間　大正一三年四月起工、同一五年五月竣工。

東京天文臺子午環室

所在　府下北多摩郡三鷹村東京天文臺構內、面積　建坪三九坪四九五、構造　軸部鐵筋コンクリート造、屋根鐵骨、仕上　外壁面モルタル塗內壁面漆喰塗、屋根銅鈑張り特殊設備、觀測室屋根は中央部にて切斷し得る構造とし室內より天體を觀望するを得。設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　竹內組、工事期間　大正一二年七月起工、同一三年五月竣工。

東京帝國大學理學部物理學教室

所在　東京帝國大學構內、面積建坪　一九七坪

延坪七九八坪、構造　鐵骨鐵筋コンクリート造四層建、仕上　外——貼瓦、內——主として漆喰人造石等、設計監督　東京帝國大學營繕課、工事請負　大林組其他、工事期間　大正一三年六月起工、同一四年六月竣工。

財團法人大橋圖書館新築工事概要

位置　東京市麴町區飯田町一丁目五番地、敷地三七八坪五〇〇、建坪　二〇六坪九五〇、總延坪　八八六坪一二九。

內譯　A本館　地階　一三六坪五七七、一階一三五坪二三〇、二階　一三一坪七七〇、三階一三一坪七七〇、屋階　四〇坪〇六〇、B書庫地下、一、二、三、四五階共各四一坪二五〇、C附屬家　地階　二〇坪七五〇、一階　二一坪七二二、二階　二〇坪七五〇。起工　大正十四年五月、竣工　大正十五年五月。高さ及階數本館軒高五十四尺九寸、最高部迄六十三尺三寸地階付三階建にして一部に屋階を設く。書庫は軒高五十尺、地階付五階建　附屬家は軒高二十七尺、地階付二階建とす。構造　全部鐵筋コンクリート造、外部仕上　本館腰廻、庇、鐵柵親柱、門柱等は日之出石を使用し壁面は貼付煉瓦仕上とす。本館背面の一部、書庫及附屬家は「モルタル」塗仕上とす。內部仕上　本館　廣間階段室は床人造石研出し、腰羽目化粧タイル張、壁天上白漆喰塗、各階閱覽室は床「リノリユウム」敷、腰羽目米松「ワニス」塗、壁「コルク」塗付、天上白漆喰塗、館長室應接室會議室は床「リノリウム」敷、腰羽目榊「ワニス」塗、壁紙張、天井白漆喰塗とす。書庫　各階共床緣子板張、壁天井白喰塗とし、鐵製書棚を据付く。附屬家　壁天井白漆喰塗、床は「モルタル」塗、板張、疊敷等とす。地下室は全部床及腰「モルタル」塗、壁天井白漆喰塗とす。防火設備　窓は全部「スチールサツシユ」とし、本館の隣家に接する部分の窓、書庫窓及正面玄關入口には捲上「シャツター」を設け、各階書庫入口、附屬家入口には鐵製防火扉を付す。其他外部よりの入口には全部鐵製腰唐戶を使用す。煖房設備　地階煖房室に米國「ビヤース」會社製水罐一臺を据付け、强制循環式に依り各室に溫水煖房をなす。リフト設備　本館裏階段室に荷物用一基、書庫內に書籍用二基を設く、書籍用リフトは手動一基、電動一基とし、手動のものは昇降籠二個とし交互に上下せしめ、平衡重錘を設けず、電動のものは自動式とし、各階に於て押ボタンにより昇降或は停止せしむるものとす。電氣設備　照明用　扇風機用及動力用に備へ停電時を考慮して豫備燈設備をなす。外線を地階電氣室に引込み、是より本館附屬家に設けたる分電盤に送電し、所要の個所に分岐配線す、同配線工事は總て「シエラダクト、コンヂツト、チユーブ」を用ひ隱蔽式とす。電話設備　加人電話設置場所を宿直室とし事務室館長室に設置せる共電式卓上電話機に接續せしめ隨時切換へ得るものとす。給水設備　市水道より「ポンプ」により「プレツシユアー・タンク」內に導入し、是より各便所、洗面所、手洗所、溫水罐等に給水す、消火栓は本館各階廣間內に設け、便所給水管より分岐給水す。衛生設備　便所は總て洗滌式とし、汚水は館外に設けたる汚水淨化槽にて淨化したる後市設下水は放流す。瓦斯設備　本館、湯沸室、賣店、附屬家食堂臺所に熱用栓各一ケ所を設備す。避針煙突上に一基、陸屋部「パラベツト」上に五基を設備す。設計　清水組設計部、主任技師　海野浩太郎、施工　清水組工事部。

本所公會堂建築工事概要

位置　東京市本所區橫網町二丁目七番地、建坪二八六坪五五〇、總延坪　八二〇坪四六五。

內譯　一階　二八六坪五五〇、二階　二七三坪八〇〇、中二階　二一坪三七五、三階　二一七坪四九〇、四階　二一坪二五〇。高さ　正面四階軒高五十七尺、左右兩翼四十七尺四寸、裏庭園廻り四十四尺九寸、講堂軒先五十五尺四寸床高　一階は地盤より一尺九寸上り、二階床は

一階床より十七尺上り、三階床は二階床より十二尺上り、四階床は三階床より十一尺上り。配置、一階、玄關、廣間、食堂、配膳室、料理場、機關室、事務室、帽子外套預場、下足預場、椅子倉庫、守衛詰所、宿直室、公會堂受付切符賣場、便所等。二階　集會堂、講演者休憩室、喫煙室、活動寫眞映寫室、便所等。中二階　豫備室、小使室、階段室。三階　聽衆席、喫煙室、豫備室、四階　會議室。構造　鐵骨鐵筋混凝土造、基礎　附近一帶地質軟弱にして地下四五尺より十二三尺まで不平均乍ら砂層を有し、以下七十尺位まで泥土なれば之れを、總體鐵筋混凝土床梁式とし、地盤より割栗石下端まば六尺下りとす。最大荷重は平方尺一千五百封度とす。骨格　講堂周圍柱、三階傍聽席床梁、天井小屋組は鐵骨構造とし、其他は凡て鐵筋混凝土造とす。屋根　陸屋根は鐵筋混凝土造とし「アスファルトコンパウンド」防水設備を施し、中央丸屋根は「メタルラス」張り、輕量混凝土打ち、外裝を「テキサコールーフィング」を以てす。外部仕上　外壁は腰廻り多胡石を使用し、上部は凡て日華石粉入り人造石洗出し塗仕上げとす。內部仕上　總體白漆喰塗仕上又はペンキ塗とし、集會室內は塗面パネル鏡板及演壇後部は「セロテツクス」張り、表面「コルク」粉吹き付け仕上とし、腰羽目は木製ペンキ塗仕上とす

玄關廣間及階段室、腰羽目は日の出石張り仕上げ、床は演壇及講演者休憩室木造とし、其他は「リグノイド」人造石タイル、人造石洗出し仕上及タイル張り仕上とす。設備　電氣　外線を位置。早稻田大學學園內鶴巢町通りに面して建つ。起工　大正十三年四月二十日、竣工　大正十四年十月三十日、建築樣式　實實、豪放、端正なる現代の樣式に東洋の印象を加味したるもの。總工費　四十二萬一千八百圓、建坪　三百四十坪、間口十八間、奥行十九間、總延坪　一千一百八十三坪六合八勺　九才。

本館　一階　二五九、九七三坪、二階　二四四、一七三坪、地下室　二五六、四七三坪、屋上塔屋、一五、八五坪、計　七七六、四六九坪。

書庫（地下室共五階建）　各階共　八一、〇〇坪

屋上塔屋　二、二二坪、計　四〇七、二二坪。

內譯　本館一階　大廣間　四一坪、五〇、豫備室四五、二二二、事務室　二七、七二、外套室二、八三、應接室　八、五六一、館長室　六、一一、學生入口廣間　一四、〇〇、同廊下　一二、八三、研究室　八、七五、學生手洗所　三、〇一、學生便所　四、四九、小使便所　二、二五　職員便所　四、〇〇、同化粧室　三、五四〇、同手洗所　四、六二五、學生入口側受付室四、〇八〇、職員入口廣間　九、三三〇　研究室　二七、〇八〇、職員側廊下　一二、〇二〇

早稻田大學新圖書館建築工事概要

早稻田大學新圖書館は御大典紀念事業の中心計畫として實現せられたるものなり。

正面大階段室　一五、二二三、事務室階段室二、二五〇、學生階段室　一、五五二、小計一五九、九七三。

二階　大閱覽室　一三一、〇〇〇（長一〇八尺天井高三四尺巾四四尺座席數三〇八）、目錄室八六、三四〇、貸出室　一三、〇〇〇、休憩室一二、八三三、小計　二四四、一七三。

地下室　學生食堂　三〇、二二〇、職員食堂一五、〇五〇、製本室　一二、四四〇、學生出入口廣間　八　五二〇、中央廣間　六八、九一〇、豫備室　一二、八三〇、煖房汽罐室　二二、六一〇、小使及宿直室　一七、五〇〇、物置二七、七六〇、下足及雨具室　一七、五〇〇、セプテングタンク　一六、五二〇、物置及石炭庫　六、六二三、小計　二五六、四七三。

屋上塔屋　歩廊　三、一〇〇、學生階段塔室八、七五〇、聯員階段塔室　四、〇〇〇、小計一五、八五〇、本館合計　七七六、四六九。

書庫（地下室）特別書庫　一二、五〇〇、普通書庫　五八、五〇〇、小計　八一、〇〇〇。

同一階　普通書庫　八一、〇〇〇、同自一階至四階普通書庫各　八一、〇〇〇、屋上塔屋　一二二二〇、書庫合計　四〇七　二二五、總延坪合計　一一八三、六八九。註　新聞雜誌閱覽室は舊書庫を改造し出入を容易にし學生は單時間を利用して閱讀し得る樣計畫せり。

建物の高さ　本館正面閱覽室側地盤面より軒蛇腹上端迄五十二尺、脊面書庫側地盤面よりパラペット上端迄三十五尺五寸、學生出入口側塔屋地盤面より軒蛇腹上端迄四十二尺五寸。建物の深さ　正面側地盤面より基礎下端迄七尺五寸、構造大要　本館は鐵筋コンクリート造にして地下室共三階建なり、書庫はスティール、スタック、システムを採用し鐵骨鐵筋コンクリート造五階建なり。基礎及壁體　本館閱覽室側は地盤面より十尺五寸堀下げ松丸太長十二尺ものを打ち込みたり。其他は地盤面より七尺五寸以上堀下げ土丹層に達す。書庫側は地盤面より六尺掘下げ砂利層に達す。壁體は本館側鐵筋コンクリート造とし特に耐震的手法を考慮し建物縱横に各二條の耐震壁を設け、各室間仕切は全部鐵筋コンクリートとし閱覽室內部の壁及天井は鐵骨ラス張りとす。書庫の壁體は鐵骨鐵筋コンクリートを以て築造し特に屋上は將來の擴張に應ず可く構造せり。尙建物西南隅地下室に設置せる特別書庫は鐵筋コンクリート壁に中空煉瓦を積み防濕防熱に役立たしめ且つ天井は二重張りとす外壁は本館及書庫共に深奥なる白色に近き粗面塗り仕上げとなせり。床及屋根　本館各階床及屋根は鐵筋コンクリートを以て構成す、但し閱覽室屋根は鐵骨小屋組ハイリブ張り鐵筋入りコンクリートを以て構成しアスベスタス、モルタイト塗り瓦棒葺銅板張りとす。書庫　鐵骨鐵筋コンクリート造り、陸屋根の部分は本館書庫共にアスファルト二層マルソイド二層を張り、その表面豆砂利を以て敷詰めたり。各廣間手洗所を除いては各室リノリウム敷とし大廣間及學生職員兩出入口廣間は人造タイル、人造磨き出し及リノマイトにて大形模樣入りに仕上げ正面大廣間大階段は白人造石磨出しとせり。內部造作本館壁天井及柱共色付及白漆喰塗り、大廣間並大階段室壁面は砂壁仕上げとす。大廣間格天井梁は濃青色ドロマイド塗り、天井パネルは白色ドロマイド及暗褐色防火セメント塗り仕上げなり。尙石膏裝飾を適當に配す。玄關大廣間の六圓柱の柱頭部は植物形態を便化せる石膏製彫刻を附し柱幹部は白色ドロマイド塗なり。目錄室壁付柱には石膏裝飾を以て直線模樣を表出せり。大閱覽室壁及天井共に砂漆喰仕上げなり。大階段室正面曲面を描く壁間に支持さるゝ直徑十五尺の圓形額緣（將來壁畫を描く可き場所）は黑色漆塗り、同じく大階段室手摺り笠石は黑大理石を使用したり。階段手摺、換氣孔及旋熱器前飾り等には各種の模樣入り金物を嵌入せり。各室適當なる窓にはスティンドグラス及色硝子を使用す。貸出室及閱覽室其の他各室本部はラック塗り仕上げとす。防火上必要なる部分は凡て鐵製とし地下室窓及硝子屋根にはワイアグラスを以て構成しアスベスタス、モルタ